

茨城県教育財団文化財調査報告第311集

田 島 遺 跡

(三 面 寺 地 区)

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書3

下 巻

平成21年3月

国 土 交 通 省
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第311集

た じま
田 島 遺 跡
（ さん めん じ 寺 地 区 ）

一般国道6号千代田石岡バイパス
（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）
事業地内埋蔵文化財調査報告書3

下 巻

平成21年3月

国 土 交 通 省
財団法人茨城県教育財団

目 次

- 下 巻 -

(2) 土坑	245
(3) 井戸跡	246
4 中世の遺構と遺物	248
(1) 掘立柱建物跡	248
(2) 方形竪穴遺構	252
(3) 地下式坑	266
(4) 火葬土坑	277
(5) 粘土貼土坑	279
(6) 墓坑	282
(7) 土坑	285
(8) 井戸跡	305
(9) 堀跡	311
(10) 溝跡	313
5 その他の遺構と遺物	317
(1) 竪穴住居跡	317
(2) 掘立柱建物跡	321
(3) 土坑	324
(4) 溝跡	342
(5) 遺構外出土遺物	345
第4節 まとめ	353
付 章 田島遺跡(三面寺地区)から出土した炭化材の樹種について	361
写真図版	
抄録	
付図	

(2) 土坑

第214号土坑 (第216図)

位置 調査区南西部のL15f3区, 標高9.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.44m, 短径0.96mの不整楕円形で, 長径方向はN - 67° - Eである。深さは10cmで, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。粘土ブロックや炭化物を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 粘土ブロック多量, 炭化物・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片7点(坏3, 高台付椀2, 甕2), 須恵器片1点(坏)が出土している。416は底面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。性格は不明である。

第295号土坑 (第216・217図)

位置 調査区中央部のJ13g0区, 標高8.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.08m, 短径0.64mの楕円形で, 長径方向はN - 40° - Eである。深さは16cmで, 壁は緩やかに立ち上がっている。

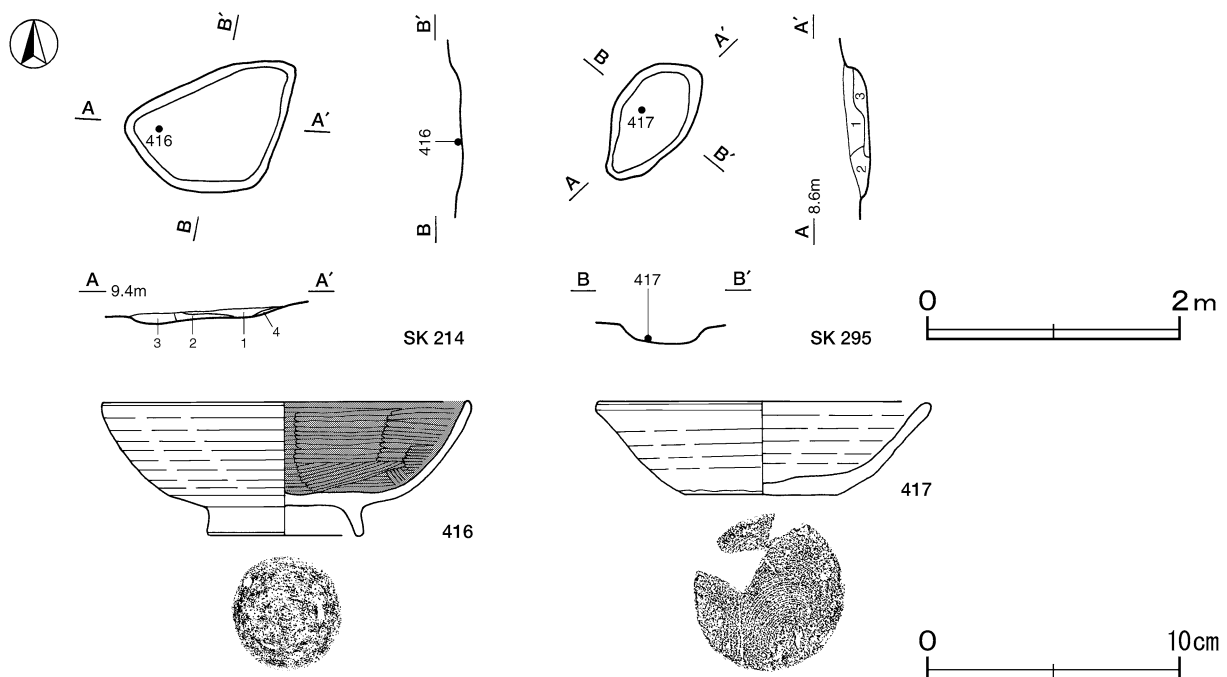
覆土 3層に分層できる。焼土ブロックや炭化物を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

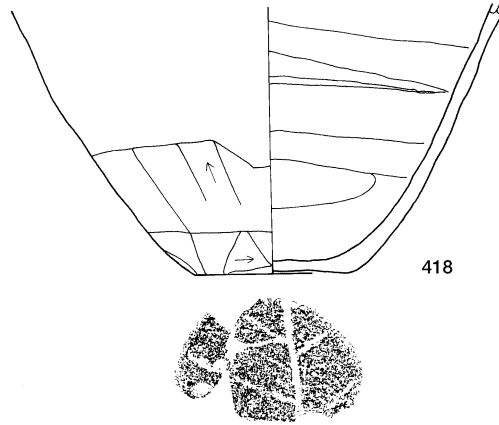
- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 焼土ブロック・炭化物少量 | |

遺物出土状況 土師器片27点(坏1, 甕26)が出土している。417は覆土下層, 418は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第216図 第214・295号土坑・出土遺物実測図



第217図 第295号土坑出土遺物実測図

第214号土坑出土遺物観察表（第216図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
416	土師器	高台付椀	14.4	5.3	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後 高台貼り付け	底面	70% PL32

第295号土坑出土遺物観察表（第216・217図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
417	土師器	坏	13.0	3.7	6.0	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	底部回転糸切り	覆土下層	80% PL28
418	土師器	甕	-	(10.6)	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端縦位・横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中	20%

表8 土坑一覧表

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
				長径・軸 × 短径・軸 (m)	深さ (cm)						
214	L 15f3	N - 67° - E	不整楕円形	1.44 × 0.96	10	平坦	緩斜	人為	土師器	10世紀前葉	
295	J 13g0	N - 40° - E	楕円形	1.08 × 0.64	16	平坦	緩斜	人為	土師器	10世紀前葉	

(3) 井戸跡

第1号井戸跡（第218図）

位置 調査区中央部のK14e0区で、標高9.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.20m，短軸1.10mの円形である。確認面から円筒状に掘り下げられているが，深さ1.29mほどで崩落のおそれがあることから，下部の調査を断念した。

覆土 5層に分層できる。不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，粘土ブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片10点（坏2，甕8），須恵器片12点（坏2，高台付坏2，甕8），鉄滓1点が覆土中から出土している。

所見 形状から素掘りの井戸とみられる。重複関係や出土土器から平安時代に廃絶したと考えられる。

第2号井戸跡（第218図）

位置 調査区中央部のK15d5区で、標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長径1.78m，短径1.46mの楕円形で，長径方向はN - 26° - Wである。確認面から0.7mまでは傾斜をもっているが，それより下部は径0.8mほどの円筒状に掘り込まれている。1.21mまで掘り下げたが，湧水のため下部の調査を断念した。

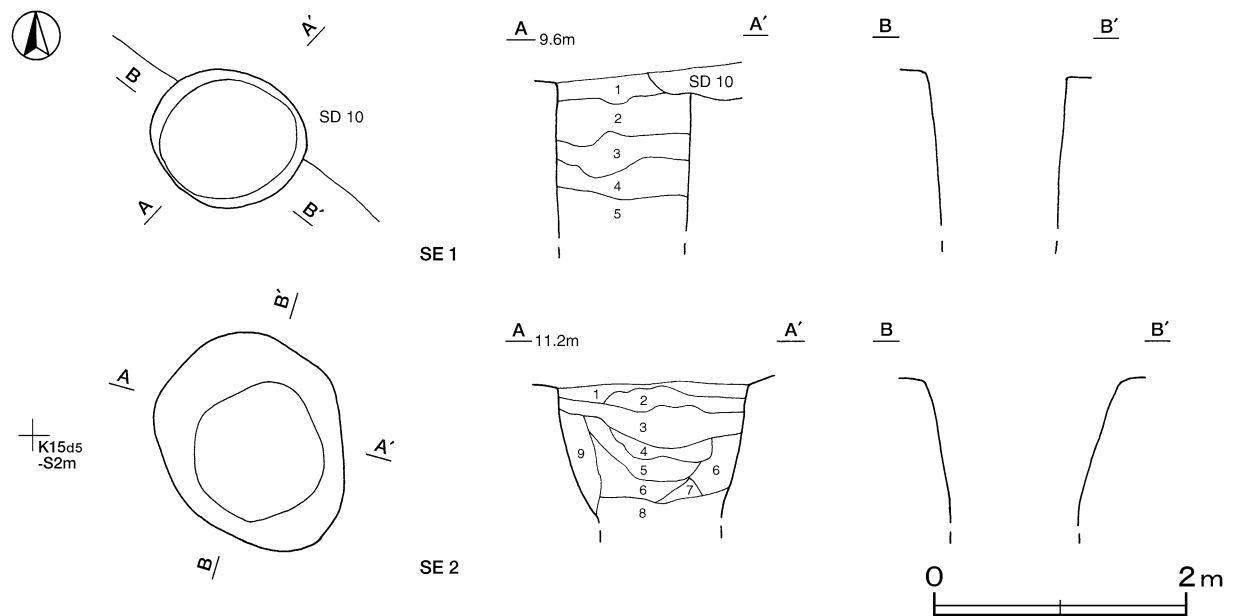
覆土 9層に分層できる。不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒色 | ローム粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 9 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片2点（甕），須恵器片1点（坏），陶器片1点（蓋）が覆土中から出土している。

所見 形状から素掘りの井戸とみられる。出土土器から平安時代に廃絶したと考えられる。



第218図 第1・2号井戸跡実測図

表9 井戸跡一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
1	K14e0	-	円形	1.20 × 1.10	(129)	円筒	-	人為	土師器，須恵器	本跡→SD10
2	K15d5	N - 26° - W	楕円形	1.78 × 1.46	(121)	漏斗・円筒	-	人為	土師器，須恵器，陶器	

4 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡3棟、方形竪穴遺構19基、地下式坑9基、火葬土坑3基、粘土貼土坑5基、墓坑5基、土坑32基、井戸跡8基、堀跡1条、溝跡3条が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

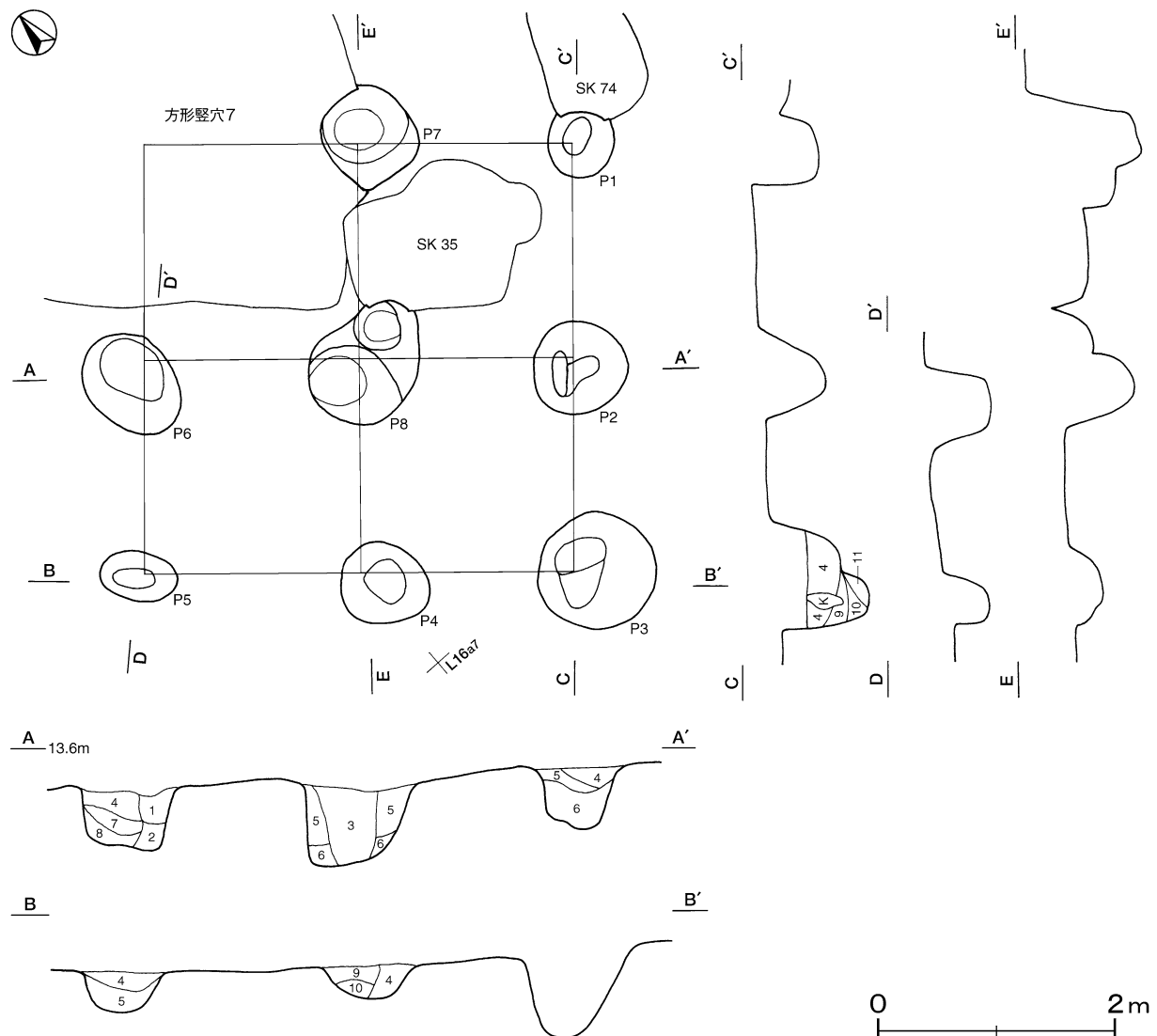
第1号掘立柱建物跡(第219図)

位置 調査区南東部のK16j7区、標高13.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第7号方形竪穴遺構、第35・74号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向がN-41°-Eの正方棟である。規模は、桁行3.6m、梁行3.6mで、面積は13.0㎡である。柱間寸法は、桁行・梁行ともに1.8m(6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。柱穴は本来9か所あったと思われるが、北端の1か所は第7号方形竪穴遺構に掘り込まれているため遺存していない。平面形は円形で、深さは28~80cmである。土層は、第1~4層が柱抜き取り跡に相当し、第5~11層が埋土で版築状に突き固められている。



第219図 第1号掘立柱建物跡実測図

土層解説

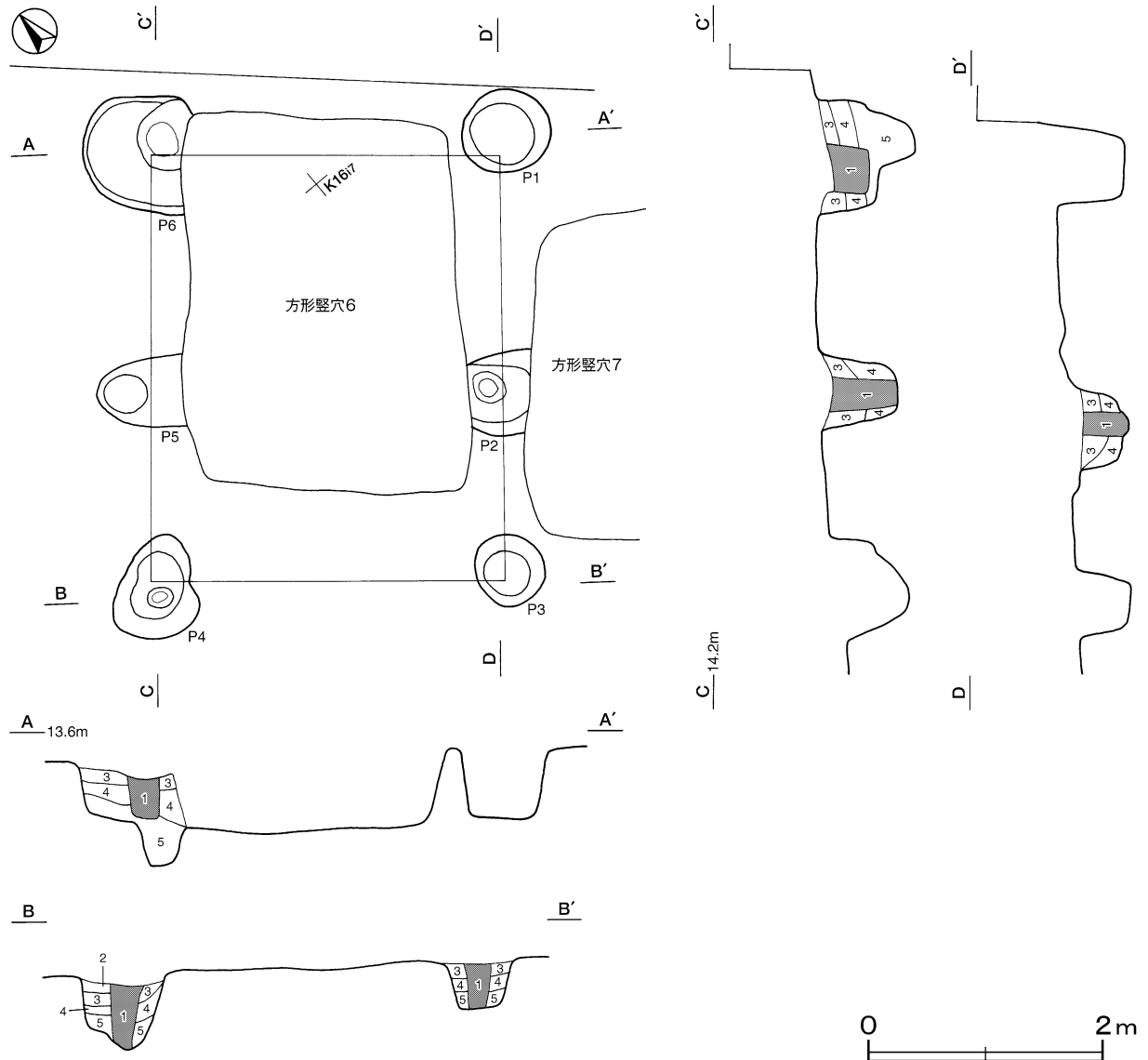
- | | | | |
|----------|------------------------|---------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子・細礫少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 細礫少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子・細礫少量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・細礫少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 細礫少量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 細礫少量 | 11 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・細礫少量 | | |

所見 本跡は、確認できた柱穴群から小形の総柱建物と想定され、倉庫としての性格を有していたものと思われる。また、西側に隣接する側柱建物の第2号掘立柱建物跡とは桁行方向が同じであり、さらに西側に位置する側柱建物の第8号掘立柱建物跡とは桁行方向がほぼ直交しているということから、3棟は同時期にそれぞれの役割を担っていた一連の建物群であった可能性が考えられる。時期は、第8号掘立柱建物跡の出土土器から15世紀前半と考えられる。

第2号掘立柱建物跡（第220図）

位置 調査区南東部のK16i6区、標高13.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第6・7号方形竪穴遺構に掘り込まれている。



第220図 第2号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行2間，梁行1間の側柱建物跡で，桁行方向がN - 41° - Eの南北棟である。規模は，桁行3.6m，梁行3.0mで，面積は10.8㎡である。柱間寸法は，桁行1.8m（6尺），梁行3.0m（10尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形で，深さは44～88cmである。土層は，第1層が柱痕跡に相当し，第2～5層が埋土で版築状に突き固められている。

土層解説

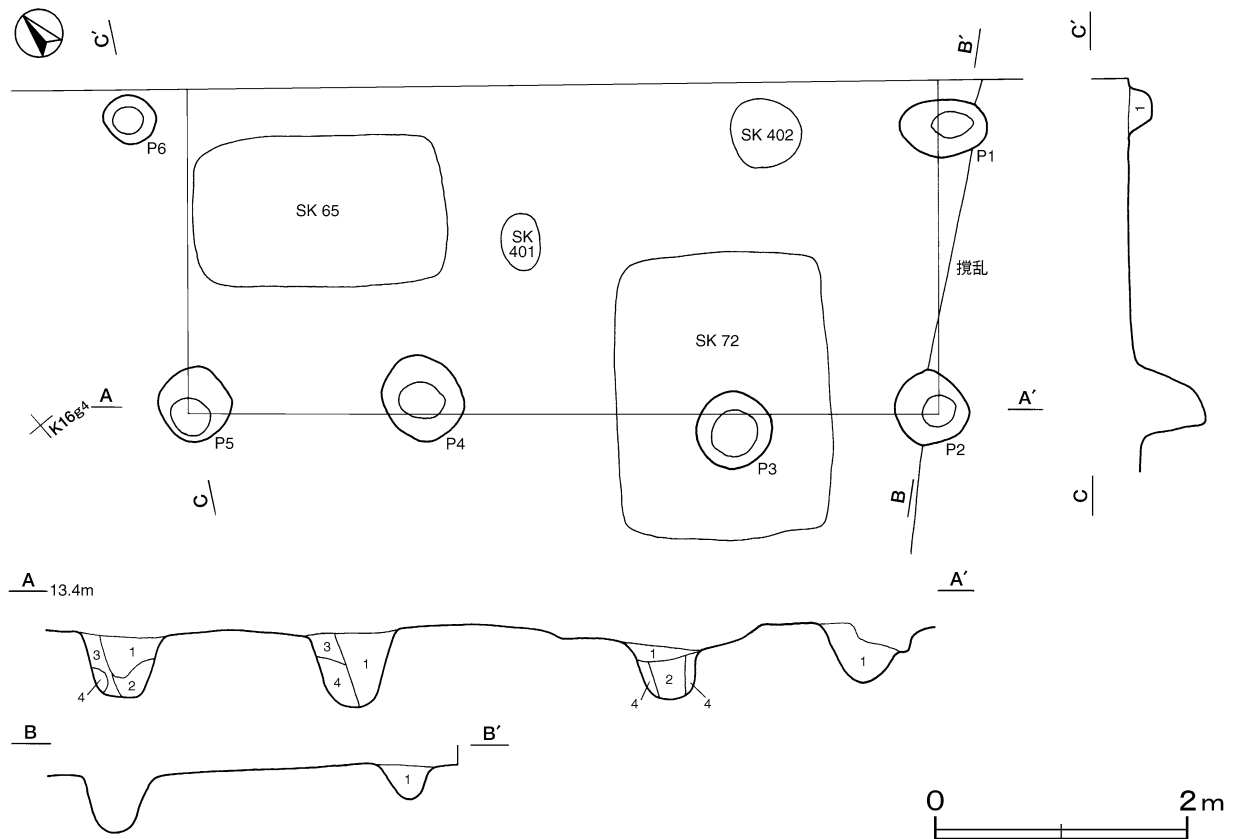
- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック・細礫中量 |
| 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，細礫少量 | |

遺物出土状況 土師器片3点（坏1，甕2），須恵器片1点（甕），鉄製品1点（不明）が出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は，確認できた柱穴群から小形の側柱建物と想定され，倉庫としての性格を有していたものと思われる。また，東側に隣接する総柱建物の第1号掘立柱建物跡とは桁行方向が同じであり，西側に位置する側柱建物の第8号掘立柱建物跡とは桁行方向がほぼ直交していることから，3棟は同時期にそれぞれの役割を担っていた一連の建物群であった可能性が考えられる。時期は，第8号掘立柱建物跡の出土土器から15世紀前半と考えられる。

第8号掘立柱建物跡（第221・222図）

位置 調査区南東部のK16g4区，標高13.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。



第221図 第8号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第72号土坑に掘り込まれている。また、出土土器から第65号土坑よりも古い。その他、第401・402号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 北東側が調査区域外に延びているため、確認できたのは桁行3間以上、梁行1間以上の側柱建物跡で、桁行方向がN-48°-Wの東西棟と推定される。確認できた規模は、桁行6.0m、梁行2.6m以上で、面積は15.6㎡以上である。柱間寸法は、桁行・梁行ともに2.4m(8尺)を基調としていると思われるが、桁行方向両端のP2・P3の柱間、及びP4・P5の柱間は1.8m(6尺)と幅が狭くなっている。また、棟持ち柱の柱穴と思われるP6は、梁行の柱筋より外側に位置している。

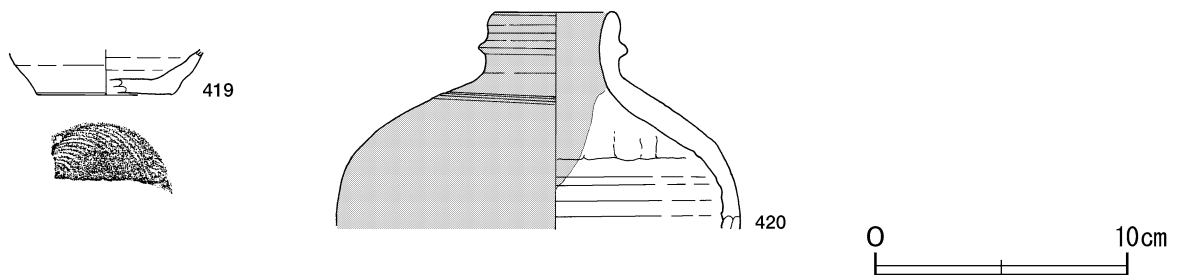
柱穴 6か所。平面形は円形で、深さは20~62cmである。土層は、第1・2層が柱抜き取り痕に相当し、第3・4層が埋土で版築状に突き固められている。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐灰色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿), 陶器片1点(古瀬戸灰釉瓶子)が出土している。419はP5, 420はP2の柱抜き取り痕の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から中形の側柱建物と想定され、居宅としての性格を有していたものと思われる。また、東側に隣接する側柱建物の第2号掘立柱建物跡、さらに東側に位置する総柱建物の第1号掘立柱建物跡とは桁行方向がほぼ直交しているということから、3棟は同時期にそれぞれの役割を担っていた一連の建物群であった可能性が考えられる。時期は、出土土器から15世紀前半と考えられる。



第222図 第8号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第222図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
419	土師質土器	皿	-	(1.8)	[5.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	P5柱抜き取り痕覆土中	5%
420	陶器	瓶子	4.6	(8.6)	-	緻密・長石	釉オリーブ黄胎土浅黄橙	良好	外面・口縁部内面灰釉を施釉 体部上端に3条の沈線が巡る II類	P2柱抜き取り痕覆土中	30% PL37 古瀬戸後II期

表10 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模				柱穴				主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	構造	柱穴数	平面形	深さ (cm)			
1	K16j7	N-41°-E	2×2	3.6×3.6	13.0	1.8	1.8	総柱	(8)	円形	28~80	-	15世紀前半	本跡→方形竪穴7, SK35・74
2	K16i6	N-41°-E	2×1	3.6×3.0	10.8	1.8	3.0	側柱	6	円形	44~88	-	15世紀前半	本跡→方形竪穴6・7
8	K16g4	N-48°-W	3×(1)	6.0×(2.6)	(15.6)	2.4	2.4	側柱	(6)	円形	20~62	土師質土器, 陶器	15世紀前半	本跡→SK65・72

(2) 方形竪穴遺構

今回の調査では、方形あるいは長方形の平面形を有する中世の遺構が数十基確認された。その内、短軸が1.8m以上且つ面積が3.3㎡以上のものを方形竪穴遺構、短軸が1.8m未満で面積が3.3㎡未満のものを方形あるいは長方形の土坑としてそれぞれ報告する。

第1号方形竪穴遺構（第223・226図）

位置 調査区北部のJ13b7区、標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第11号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.26m、短軸1.84mの長方形で、長軸方向はN - 35° - Eである。壁高は54～66cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

ピット 深さ6cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，炭化物微量
子・炭化粒子微量

遺物出土状況 古銭1点（**寶**）が覆土中から出土している。その他、混入した土師器片16点（坏3，甕13），須恵器片11点（坏4，高台付坏2，甕5）が覆土中から出土している。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は、出土遺物や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第2号方形竪穴遺構（第223図）

位置 調査区北部のJ13b5区、標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第66号土坑を掘り込み、第24号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.30m、短軸2.20mの長方形で、長軸方向はN - 37° - Eである。壁高は12～24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

ピット 深さ16cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 3 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 混入した土師器片44点（坏7，甕37），須恵器片10点（坏3，高台付坏1，蓋1，甕5）が覆土中から出土している。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は、重複関係から15世紀代と考えられる。

第3号方形竪穴遺構（第223・226図）

位置 調査区北部のJ13a4区、標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第24号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.76m，短軸2.10mの長方形で，長軸方向はN - 49° - Wである。壁高は72～80cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，硬化面は認められない。北東側の床面からは炭化物，南西側の床面からは焼土がそれぞれ多く検出された。また，北西壁際の床面から炭化材が検出された。

覆土 14層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物を含む不自然な塊状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	6 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量 焼土ブロック少量 炭化物微量
2 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
5 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量，ロームブロック中量，炭化粒子微量	10 黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
		11 暗褐色	粘土ブロック・炭化物多量，焼土ブロック中量
		12 褐色	ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
		13 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物中量
		14 にぶい黄橙色	炭化物多量，焼土ブロック・粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿)，陶器片1点(常滑片口鉢)，鉄製品1点(不明)が出土している。443は床面，444は覆土下層からそれぞれ出土している。その他，混入した土師器片9点(坏3，甕6)，須恵器片4点(坏4)が覆土中から出土している。

所見 本跡は，他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われ，焼土及び炭化材の検出状況から上屋を焼却したものと想定される。時期は，出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。なお，上屋構築材と思われる炭化材①・②については樹種同定を行い，マツ科マツ属とイネ科タケ亜科という分析結果を得ている(付章参照)。

第4号方形竪穴遺構(第223・226図)

位置 調査区北部のI13j6区，標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第30号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部が第30号土坑に掘り込まれているため，遺存していたのは長軸1.86m，短軸1.4mで，長軸方向がN - 36° - Eの方形と推測される。壁高は56～76cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

覆土 3層に分層できる。粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黄褐色	粘土ブロック多量，炭化物少量，焼土粒子微量	3 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
2 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片7点(皿5，内耳鍋2)，陶器片1点(古瀬戸天目茶椀)，青磁片1点(龍泉窯鎚蓮弁文碗)，土製品1点(球状土錘)が出土している。445・446・DP135は覆土中から出土している。その他，混入した土師器片4点(坏1，甕3)，須恵器片3点(坏2，蓋1)が覆土中から出土している。

所見 本跡は，他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は，出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第5号方形竪穴遺構(第223・226図)

位置 調査区北部のI13j6区，標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第30・31号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.26m，短軸2.00mの長方形で，長軸方向はN - 48° - Wである。壁高は58～60cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

覆土 4層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物中量，ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック多量，炭化物・焼土粒子微量 | 4 黄褐色 粘土ブロック多量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片6点（内耳鍋），陶器片1点（古瀬戸灰釉平椀）が出土している。448は覆土中から出土している。その他，混入した土師器片14点（坏3，甕11），須恵器片12点（坏5，高台付坏2，蓋2，甕3）が覆土中から出土している。

所見 本跡は，他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は，出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第6号方形竪穴遺構（第224・226図）

位置 調査区南東部のK16i6区，標高13.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第2号掘立柱建物跡を掘り込んでいます。

規模と形状 長軸3.20m，短軸2.46mの長方形で，長軸方向はN - 42° - Eである。壁高は56～70cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

ピット 深さ16cmで，性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片8点（皿7，内耳鍋1）が出土している。449は覆土上層から出土している。その他，混入した土師器片4点（甕），須恵器片1点（甕）が覆土中から出土している。

所見 本跡は，他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は，出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第7号方形竪穴遺構（第224・226図）

位置 調査区南東部のK16i7区，標高13.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第1・2号掘立柱建物跡を掘り込こみ，第35号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.86m，短軸2.76mの方形で，長軸方向はN - 42° - Eである。壁高は58～74cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

覆土 7層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックや細礫・炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・細礫少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 炭化物少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・細礫中量, 粘土ブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 6 暗褐色 | 粘土粒子・細礫中量, ローム粒子少量 |
| | | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片 8 点 (皿 5, 播鉢 1, 内耳鍋 2), 陶器片 1 点 (古瀬戸灰釉平椀) が出土している。450は覆土上層, 451は覆土下層からそれぞれ出土している。その他, 混入した土師器片 5 点 (坏 2, 甕 3), 須恵器片 2 点 (坏, 甕) が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は, 出土土器や重複関係から 15 世紀前半と考えられる。

第 8 号方形竪穴遺構 (第 224 図)

位置 調査区南東部の L 16a8 区, 標高 13.5m の河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第 50・51・53・60 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が第 50・51・53・60 号土坑に掘り込まれているため, 遺存していたのは長軸 2.14m, 短軸 1.50m で, 長軸方向が N - 32° - E の方形と推測される。壁高は 30~42cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は認められない。

覆土 2 層に分層できる。粘土ブロックや炭化物を含み, 水平に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量 |
|-------|-------------------|----------|---------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (皿), 陶器片 1 点 (古瀬戸灰釉折縁深皿) が出土しているが, 細片のため図示できない。その他, 混入した土師器片 7 点 (甕), 須恵器片 3 点 (坏 2, 蓋 1) が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は, 出土土器や重複関係から 15 世紀前半と考えられる。

第 9 号方形竪穴遺構 (第 224 図)

位置 調査区南東部の K 16h3 区, 標高 12.5m の河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 2.60m, 短軸 1.90m の長方形で, 長軸方向は N - 50° - W である。壁高は 16~28cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は認められない。

覆土 粘土ブロックを含む黒褐色土の単一層で埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 |
|-------|-------------------------|

遺物出土状況 混入した土師器片 8 点 (坏 1, 甕 7), 須恵器片 2 点 (坏) が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが, 時期は, 15 世紀と考えられる。

第 10 号方形竪穴遺構 (第 224 図)

位置 調査区中央部の J 15j1 区, 標高 11.0m の河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第41・44号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.08m, 短軸1.92mの方形で, 長軸方向はN - 56° - Wである。壁高は38~52cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は認められない。

覆土 ロームブロックを含む黒褐色土の単一層で埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化物少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 混入した土師器片27点(坏4, 甕23), 須恵器片8点(坏)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが, 時期は, 重複関係から15世紀代と考えられる。

第11号方形竪穴遺構(第225図)

位置 調査区中央部のK14a0区, 標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第38・44号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.30m, 短軸2.14mの方形で, 長軸方向はN - 40° - Eである。壁高は18~36cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は認められない。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 混入した土師器片14点(坏1, 甕13), 須恵器片7点(坏6, 甕1)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが, 時期は, 重複関係から15世紀代と考えられる。

第12号方形竪穴遺構(第225図)

位置 調査区南西部のL16j2区, 標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第63・64号住居跡を掘り込み, 第112号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.00m, 短軸2.10mの長方形で, 長軸方向はN - 36° - Wである。壁高は10~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は認められない。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 混入した土師器片41点(坏5, 甕36), 須恵器片6点(坏5, 蓋1)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが, 時期は, 重複関係から15世紀代と考えられる。

第13号方形竪穴遺構（第225図）

位置 調査区南西部のL16h1区，標高11.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第68・69号住居跡，第116・118号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.16m，短軸2.14mの方形で，長軸方向はN - 49° - Eである。壁高は40～48cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

覆土 2層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 2 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
|-------|---------------------------------|--------|-----------------------|

遺物出土状況 混入した土師器片6点（甕6），須恵器片1点（甕）が覆土中から出土している。

所見 本跡は，他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが，時期は，重複関係から15世紀代と考えられる。

第14号方形竪穴遺構（第225図）

位置 調査区南西部のL16g3区，標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第3号墓坑，第135号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.52m，短軸1.92mの長方形で，長軸方向はN - 42° - Eである。壁高は34～46cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

覆土 5層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------|----------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量，粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 | | |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 混入した土師器片15点（坏2，甕13），須恵器片3点（坏，高盤，甕）が覆土中から出土している。

所見 本跡は，他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが，時期は，重複関係から15世紀代と考えられる。

第15号方形竪穴遺構（第225・226図）

位置 調査区中央部のK14d7区，標高8.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第96号住居跡，第199号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.50m，短軸2.24mの長方形で，長軸方向はN - 44° - Wである。壁高は18～24cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

覆土 2層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 2 黒褐色 | 粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量 |
|-------|----------------------|-------|------------------------|

遺物出土状況 陶器片1点(常滑片口鉢)が覆土中から出土している。その他、混入した土師器片19点(坏2・甕17)、須恵器片9点(坏4、盤1、蓋1、甕3)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は、出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第16号方形竪穴遺構(第225・227図)

位置 調査区南西部のL15a4区、標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第17号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.94m、短軸1.76mの長方形で、長軸方向はN-44°-Wである。壁高は24~36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

覆土 2層に分層できる。粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 黒褐色 炭化物少量、粘土ブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 陶器片1点(古瀬戸灰釉卸皿)が覆土中から出土している。その他、混入した土師器片14点(坏1、甕13)、須恵器片7点(坏1、蓋3、甕3)、灰釉陶器片1点(瓶)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は、出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第17号方形竪穴遺構(第225・227図)

位置 調査区南西部のL15a4区、標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第16号方形竪穴遺構、第169号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.92m、短軸1.86mの方形で、長軸方向はN-44°-Wである。壁高は22~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 3 暗褐色 粘土ブロック多量、炭化物・焼土粒子微量
2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 古銭5点(天聖元寶・皇宋通寶・元豊通寶・元祐通寶・元寶)が出土している。M36~40は覆土下層から5枚重なった状態で出土している。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。しかし、六道銭的な意味合いをもつ古銭が5枚出土していることから、人骨は確認できなかったが墓坑の可能性も考えられる。時期は、出土遺物や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第18号方形竪穴遺構(第226図)

位置 調査区北部のI14i2区、標高14.5mの河岸段丘上位の平坦部に位置している。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びているため、確認できたのは長軸2.00m、短軸1.7mで、長軸方向がN-52°-Wの方形と推測される。壁高は16~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。中央部南東壁寄りの床面からは焼土が多く検出された。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 2 暗褐色 ロームブロック中量 焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 石器1点(砥石)が出土している。その他、混入した土師器片58点(坏13, 甕45), 須恵器片13点(坏2, 蓋1, 長頸瓶1, 甕9)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。床面の焼土の検出状況から火処の存在が想定される。本跡に伴う土器は出土していないが、時期は、15世紀代と考えられる。

第19号方形竪穴遺構(第226・227図)

位置 調査区南東部のK15b4区、標高11.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 一辺2.00mの方形である。壁高は28~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 北西壁寄り、長軸1.08m、短軸0.96m、深さ20cmの長方形に掘り下げられている。上段、下段の床とも硬化面は認められない。

覆土 4層に分層できる。粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 3 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 4 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 青磁片1点(同安窰櫛描文碗)が覆土中から出土している。その他、混入した土師器片33点(坏8, 甕25), 須恵器片10点(坏7, 高台付坏1, 甕2), 灰釉陶器片1点(瓶)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は、出土土器から15世紀前半と考えられる。

第1号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第226図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M34	貫	2.37	0.67	0.12	0.38	銅	不明	無背	覆土中	PL49

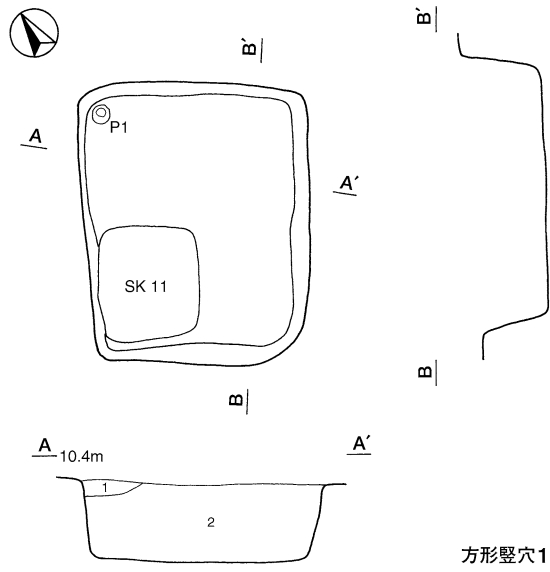
第3号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
443	土師質土器	皿	[13.0]	4.0	[5.2]	長石・石英・赤胎子	橙	普通	底部回転糸切り	床面	20%
444	陶器	片口鉢	[32.0]	(6.8)	-	長石・石英	にぶい橙	良好	体部外面縦位のヘラナデ II類	覆土下層	5% 常滑10型式

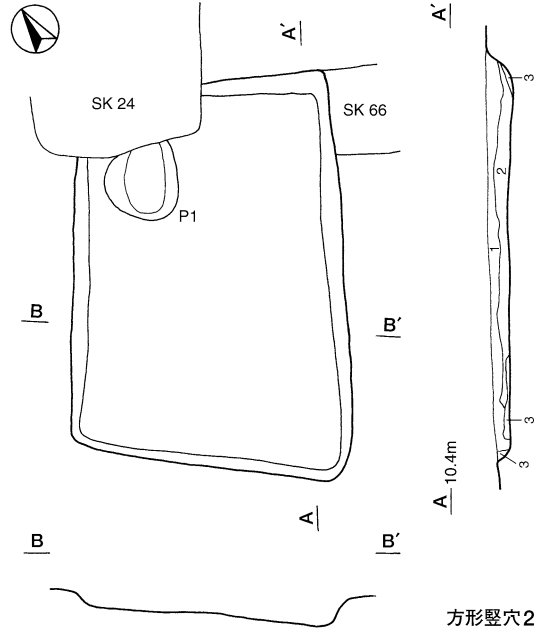
第4号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
445	陶器	天目茶碗	[11.4]	(2.3)	-	緻密	釉褐 胎土浅黄橙	良好	内・外面鉄釉を施釉	覆土中	5% 古瀬戸後II期
446	青磁	碗	-	(2.6)	-	精良	釉緑灰 胎土灰白	良好	体部外面に鎗蓮弁文を陽刻	覆土中	5% 龍泉窰

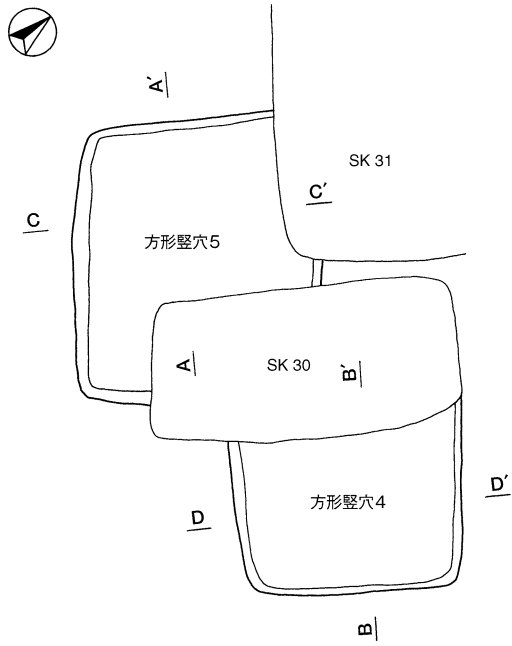
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP135	球状土錘	2.7	2.6	0.5	17.7	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL45



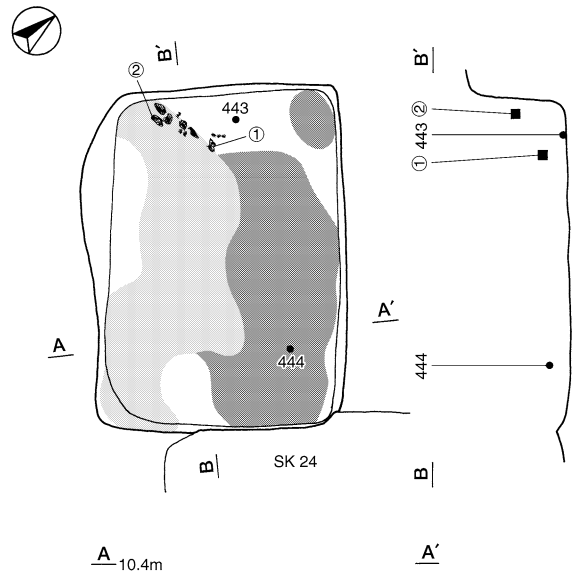
方形竖穴1



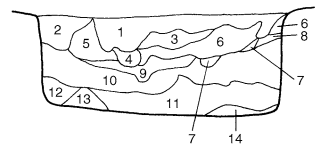
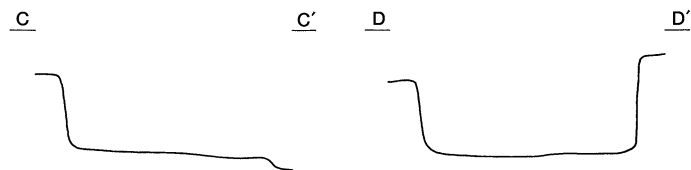
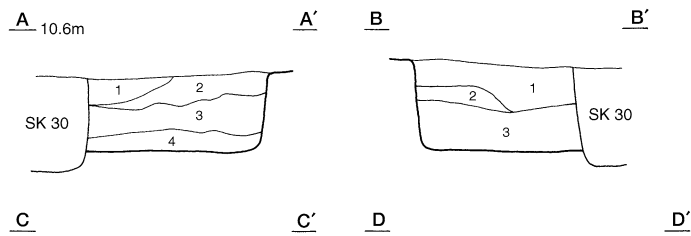
方形竖穴2



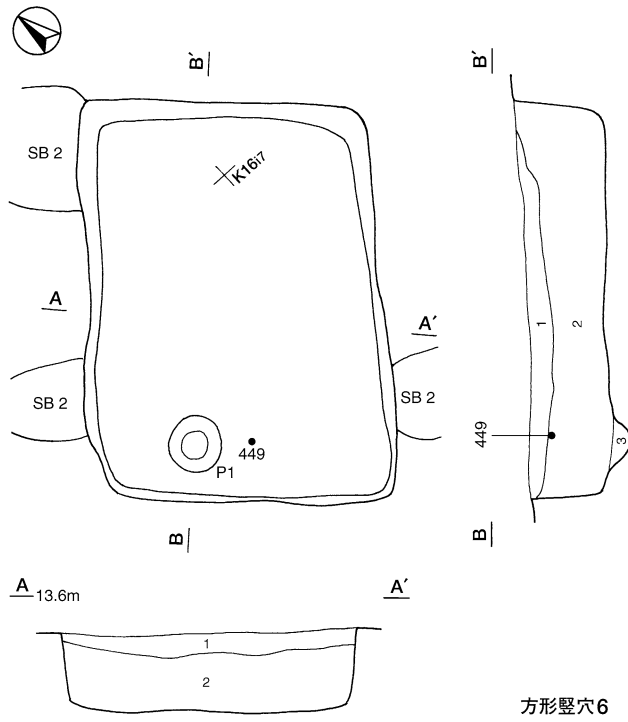
方形竖穴4・5



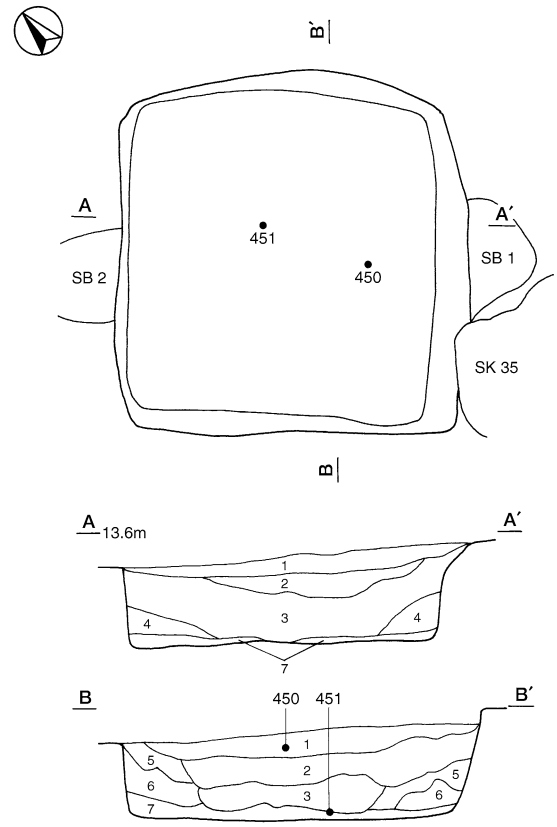
方形竖穴3



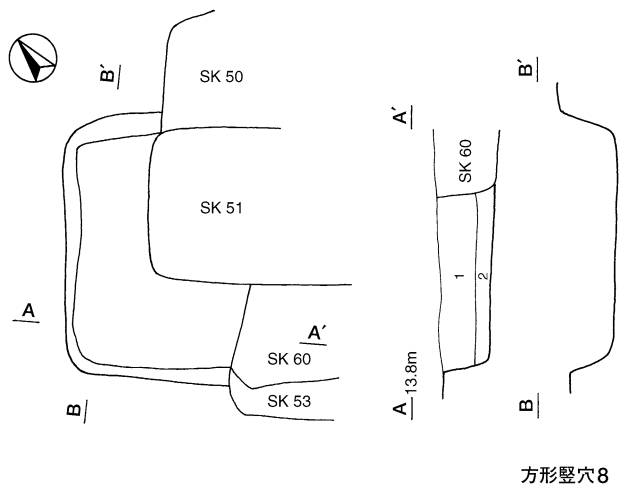
第223图 第1~5号方形竖穴遺構実測図



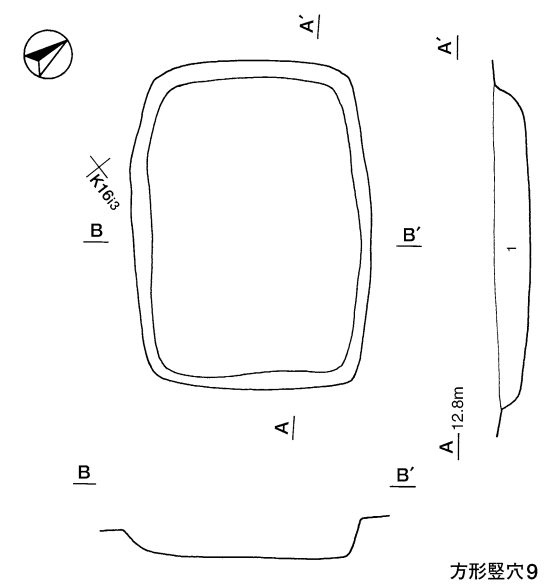
方形竖穴6



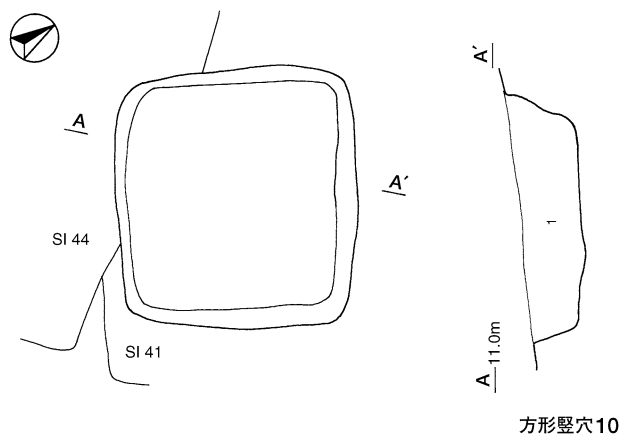
方形竖穴7



方形竖穴8



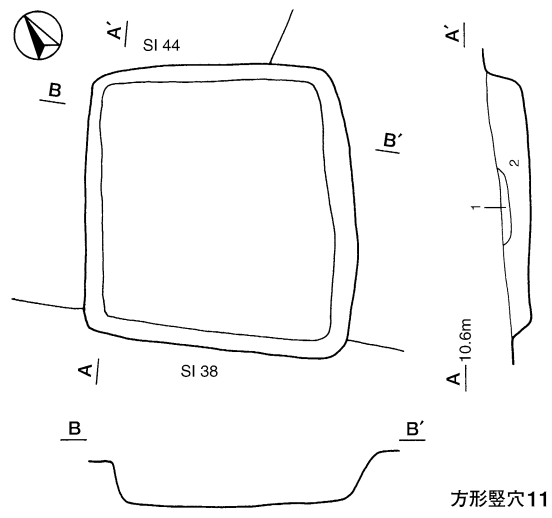
方形竖穴9



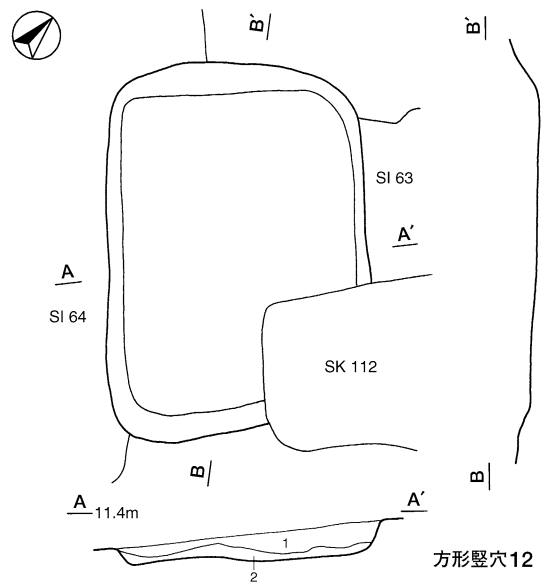
方形竖穴10



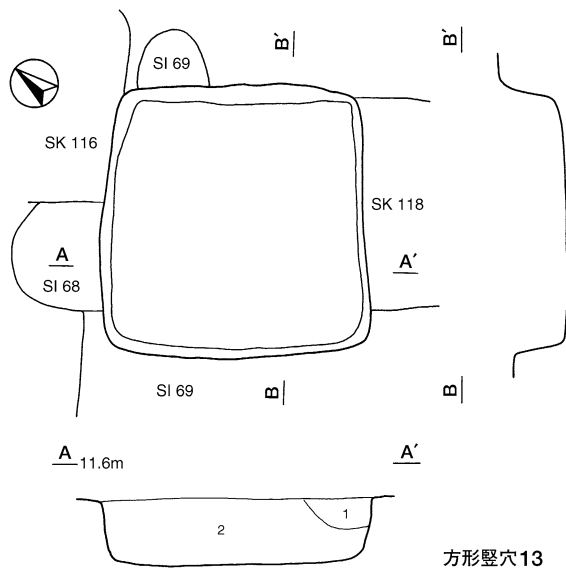
第224图 第6~10号方形竖穴遗构实测图



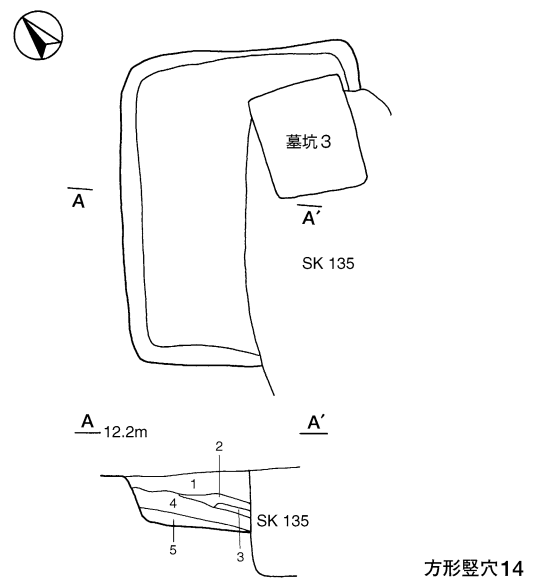
方形竖穴11



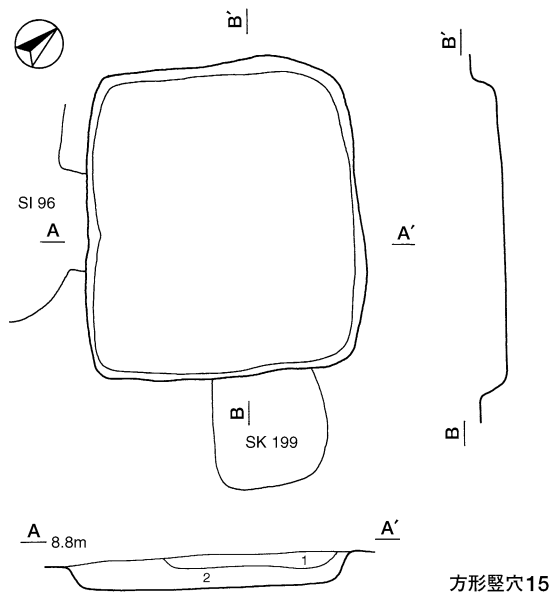
方形竖穴12



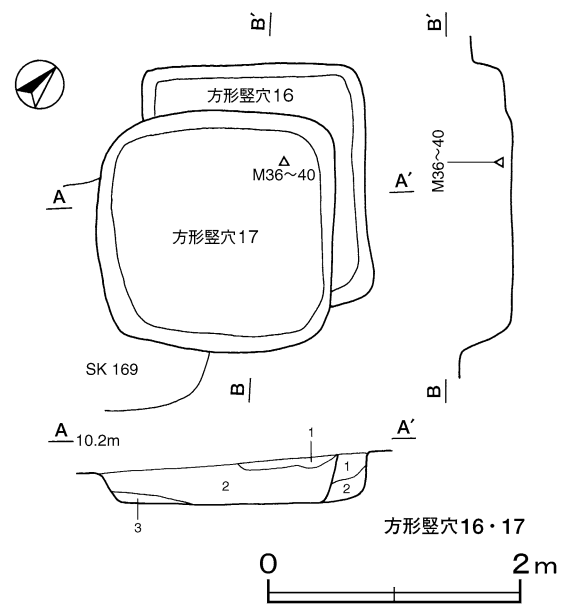
方形竖穴13



方形竖穴14

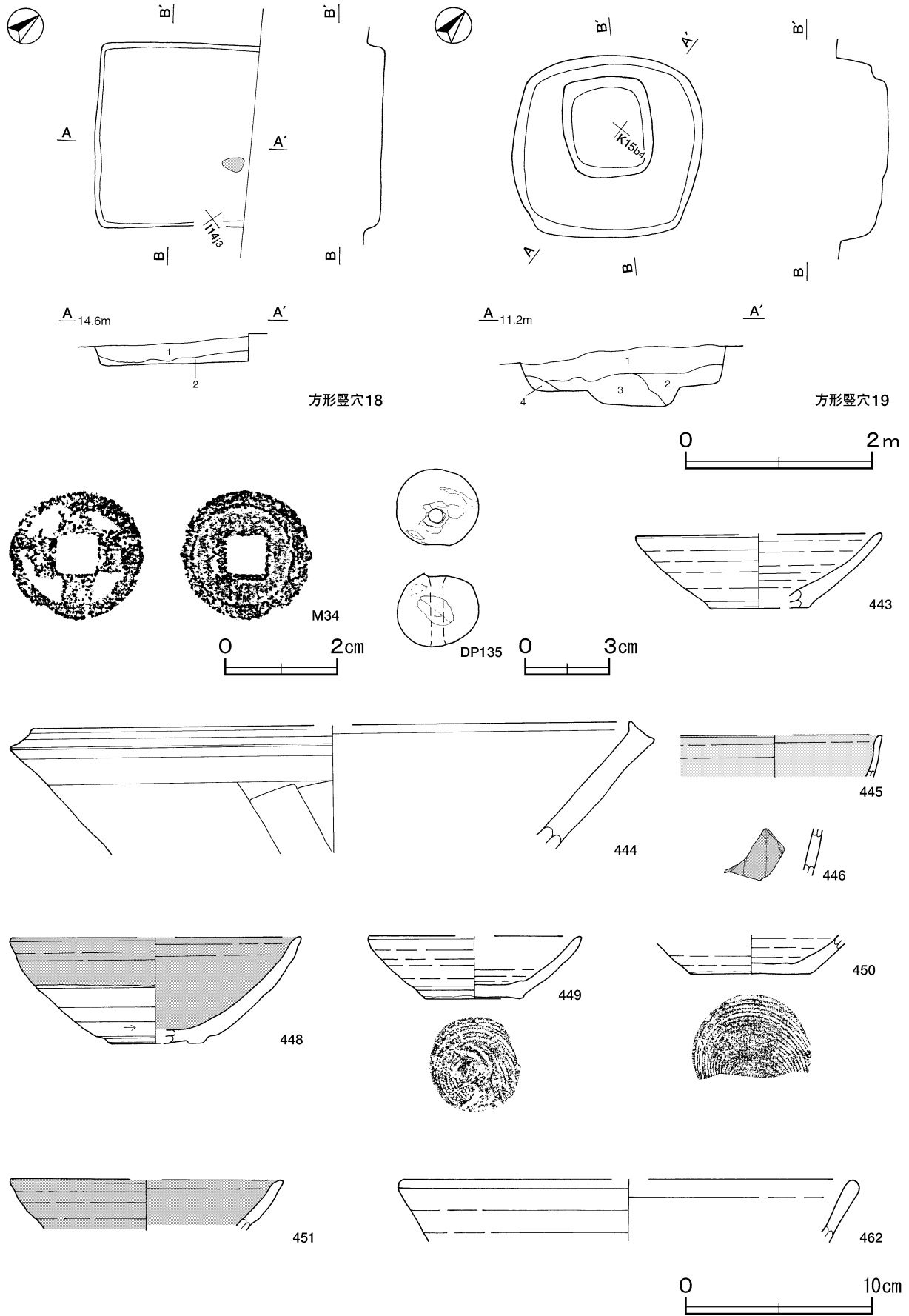


方形竖穴15

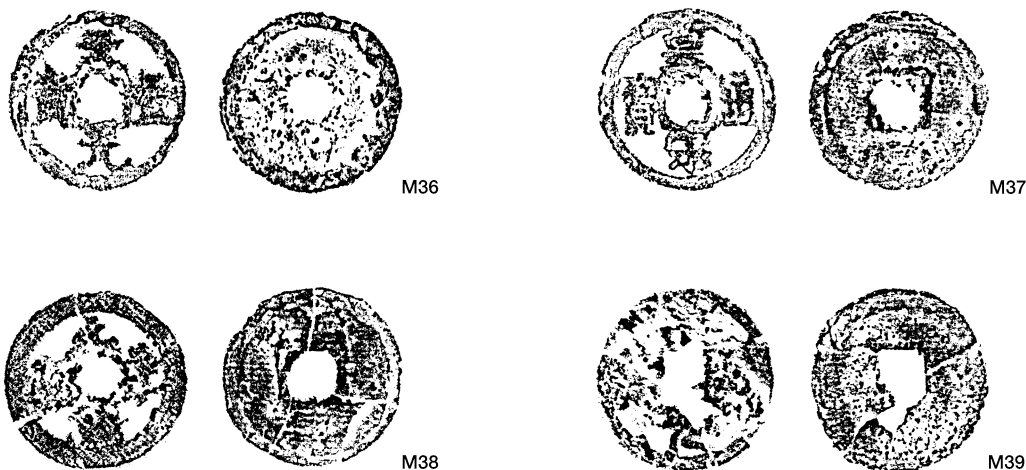
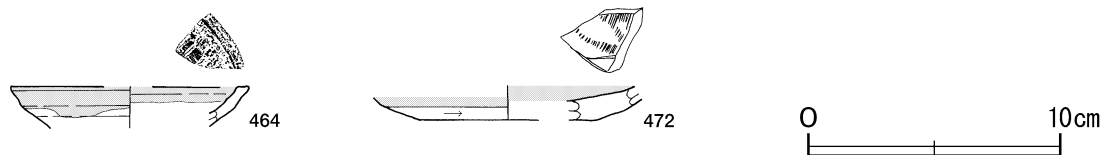


方形竖穴16・17

第225图 第11~17号方形竖穴遺構実測图



第226图 第18·19号方形竖穴遗构，第1·3~7·15号方形竖穴遗构出土遗物实测图



第227図 第16・17・19号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第5号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
448	陶器	平碗	[15.4]	5.7	[5.0]	緻密・長石	釉オリーブ黄 胎土灰黄	良好	体部下半回転ヘラ削り 底部高台削り出し 内・外面灰釉を施釉 底部露胎	覆土中	20% 古瀬戸後Ⅲ期

第6号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
449	土師質土器	皿	[11.2]	3.4	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り 内底面周縁に沈線状のナデ	覆土上層	40%

第7号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
450	土師質土器	皿	-	(2.1)	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り 内底面周縁に沈線状のナデ	覆土上層	40%
451	陶器	平碗	[14.6]	(2.7)	-	緻密	釉浅黄 胎土浅黄橙	良好	内・外面灰釉を施釉	覆土下層	5% 古瀬戸後Ⅲ期

第15号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
462	陶器	片口鉢	[24.0]	(3.3)	-	長石・石英	黄灰	良好	内・外面口クロナデ I類	覆土中	5% 常滑5型式

第16号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第227図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
464	陶器	卸皿	[9.4]	(1.6)	-	緻密	釉にふい黄橙胎土オリブ灰	良好	口縁部内・外面灰釉を施釉 内面に卸目	覆土中	5% 古瀬戸後Ⅱ期

第17号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第227図）

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M36	天聖元寶	2.38	0.32	0.13	2.64	銅	1023	北宋銭 真書 無背	覆土中層	PL49
M37	皇宋通寶	2.39	0.46	0.17	2.74	銅	1038	北宋銭 真書 無背	覆土中層	PL49
M38	元豐通寶	2.39	0.41	0.10	2.30	銅	1078	北宋銭 行書 無背	覆土中層	
M39	元寶	2.42	0.47	0.12	(2.42)	銅	不明	篆書 無背	覆土中層	
M40	元祐通寶	2.36	0.33	0.11	(1.78)	銅	1086	北宋銭 行書 無背	覆土中層	

第19号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第227図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
472	青磁	碗	-	(1.4)	-	精良	釉オリブ黄胎土灰黄	良好	体部下端回転へら削り 底部回転へら削り 底部内面に櫛描文	覆土中	5% 同安窯

表11 方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規模		底面	内部施設	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)						
1	J13b7	N-35°-E	長方形	2.26 × 1.84	54~66	平坦	ピット1	人為	古銭	15世紀前半	本跡→SK11
2	J13b5	N-37°-E	長方形	3.30 × 2.20	12~24	平坦	ピット1	人為	-	15世紀	SK66→本跡→SK24
3	J13a4	N-49°-W	長方形	2.76 × 2.10	72~80	平坦	-	人為	土師質土器, 陶器, 鉄製品	15世紀後半	本跡→SK24
4	I13j6	N-36°-E	[方形]	1.86 × (1.40)	56~76	平坦	-	人為	土師質土器, 陶器, 青磁, 球状土鏝	15世紀前半	本跡→SK30
5	I13j6	N-48°-W	長方形	2.26 × 2.00	58~60	平坦	-	人為	土師質土器, 陶器	15世紀前半	本跡→SK30-31
6	K16i6	N-42°-E	長方形	3.20 × 2.46	56~68	平坦	ピット1	人為	土師質土器	15世紀前半	SB2→本跡
7	K16i7	N-42°-E	方形	2.86 × 2.76	58~74	平坦	-	人為	土師質土器, 陶器	15世紀前半	SB1-2→本跡→SK35
8	L16a8	N-32°-E	[方形]	2.14 × (1.50)	30~42	平坦	-	人為	土師質土器, 陶器	15世紀前半	本跡→SK50-51-53-60
9	K16h3	N-50°-W	長方形	2.60 × 1.90	16~28	平坦	-	人為	-	15世紀	
10	J15j1	N-56°-W	方形	2.08 × 1.92	38~52	平坦	-	人為	-	15世紀	SI41-44→本跡
11	K14a0	N-40°-E	方形	2.30 × 2.14	18~36	平坦	-	人為	-	15世紀	SI38-44→本跡
12	L16j2	N-36°-W	長方形	3.00 × 2.10	10~24	平坦	-	人為	-	15世紀	SI63-64→本跡→SK112
13	L16h1	N-49°-E	方形	2.16 × 2.14	40~48	平坦	-	人為	-	15世紀	SI68-69, SK116-118→本跡
14	L16g3	N-42°-E	長方形	2.52 × 1.92	34~46	平坦	-	人為	-	15世紀	本跡→墓坑3-SK135
15	K14d7	N-44°-W	長方形	2.50 × 2.24	18~24	平坦	-	人為	陶器	15世紀前半	SI96, SK199→本跡
16	L15a4	N-44°-W	長方形	1.94 × 1.76	24~36	平坦	-	人為	陶器	15世紀前半	本跡→方形竪穴17
17	L15a4	N-44°-W	方形	1.92 × 1.86	22~40	平坦	-	人為	古銭	15世紀後半	方形竪穴16, SK169→本跡
18	I14i2	N-52°-W	[方形]	2.00 × (1.70)	16~20	平坦	火処1	人為	砥石	15世紀	
19	K15b4	N-36°-W	方形	2.00 × 2.00	28~38	二段	-	人為	青磁	15世紀前半	

(3) 地下式坑

第1号地下式坑 (第228図)

位置 調査区中央部のJ14d4区, 標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第100号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 主軸方向はN - 48° - Wである。竪坑は長径1.06m, 短径1.00mの円形で, 深さは106~116cmである。壁はほぼ直立し, 底面は羨門に向けて緩やかに下がっている。主室は長軸2.36m, 短軸2.30mの方形で, 深さは150~160cmである。壁はほぼ直立しているが, 奥壁に段を有している。底面はほぼ平坦である。

覆土 16層に分層できる。第1~3層は主室天井の崩落後に堆積した土層で, 第1層は主室壁の崩落土層である。第4・5層は主室天井の崩落土層, 第6~16層は竪坑から主室にかけて埋め戻された土層である。

土層解説

1 黄褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
3 にぶい黄褐色	粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量
5 にぶい黄褐色	粘土ブロック・細礫多量	13 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量
7 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15 灰黄褐色	粘土ブロック多量
8 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	16 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量

遺物出土状況 混入した土師器片14点(甕13, 甌1), 須恵器片3点(坏2, 甕1)が覆土中から出土している。

所見 本跡に伴う遺物は出土していないが, 時期は, 重複関係から15世紀代と考えられる。

第2号地下式坑 (第228・231図)

位置 調査区中央部のJ15h1区, 標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 主軸方向はN - 44° - Eである。竪坑は長径1.06m, 短径0.70mの楕円形で, 深さは60~70cmである。壁はほぼ直立し, 底面は羨門に向けて緩やかに上がっている。主室は長軸2.70m, 短軸2.30mの主軸方向が短い横長方形で, 深さは50~70cmである。壁はほぼ直立し, 底面はほぼ平坦である。

覆土 12層に分層できる。第1~3層は主室天井の崩落後に堆積した土層で, 第3層は主室壁の崩落土層である。第4~7層は主室天井の崩落土層, 第8~12層は竪坑から主室にかけて埋め戻された土層である。

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量
2 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化物少量
3 暗褐色	ロームブロック中量	10 極暗褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量
4 褐色	ロームブロック多量	11 暗褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
5 暗褐色	粘土粒子中量, 炭化粒子少量	12 褐色	ロームブロック多量, 粘土粒子少量
6 暗褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック少量		
7 暗褐色	粘土粒子中量, ロームブロック少量		

遺物出土状況 陶器片1点(古瀬戸灰釉三耳壺)が主室の底面から覆土下層にかけて散在した状態で出土している。その他, 混入した土師器片19点(坏5, 甕14), 須恵器片11点(坏7, 蓋3, 長頸瓶1)が覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第3号地下式坑（第228・231図）

位置 調査区中央部のJ15i1区、標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第41号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 主軸方向はN-71°-Wである。竪坑は長径1.06m、短径1.00mの円形で、深さは50～76cmである。壁はほぼ直立し、底面はほぼ平坦である。主室は長径2.96m、短径2.30mの主軸方向が短い横楕円形で、深さは90～100cmである。壁はほぼ直立し、底面はほぼ平坦である。

覆土 12層に分層できる。第1～4層は主室天井の崩落後に堆積した土層で、第4層は主室壁の崩落土層である。第5～7層は主室天井の崩落土層で、第8～12層は竪坑から主室にかけて埋め戻された土層である。

土層解説

1 極暗褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
3 極暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量、粘土粒子中量
4 褐色	ロームブロック多量	11 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量	12 褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
6 黒褐色	炭化物少量、ローム粒子微量		
7 褐色	ローム粒子多量、粘土粒子中量		

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿、内耳鍋）、陶器片1点（常滑片口鉢）、ヤマトシジミ4点（右殻2、左殻2、総量1.52g）が出土している。422・423は主室の覆土中、424は竪坑の覆土中層からそれぞれ出土している。その他、混入した土師器片69点（坏20、甕49）、須恵器片17点（坏15、蓋2）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第4号地下式坑（第229・231図）

位置 調査区南西部のL15f0区、標高11.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第37号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 主軸方向はN-22°-Eである。竪坑は長径0.96m、短径0.90mの円形で、深さは112～122cmである。壁はほぼ直立し、底面は羨門に向けて緩やかに下がっている。主室は長軸2.64m、短軸2.00mの主軸方向が短い横長方形で、深さは132～136cmである。壁はオーバーハング気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

覆土 18層に分層できる。第1層は主室天井の崩落後に堆積した土層である。第2層は主室天井の崩落土層で、第3～18層は竪坑から主室にかけて埋め戻された土層である。

土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	9 黒褐色	粘土ブロック多量、炭化物中量、焼土ブロック少量
2 黄褐色	粘土ブロック多量	10 黄褐色	粘土ブロック多量（帯状に黒褐色土が混じる）
3 黒褐色	焼土粒子少量	11 黒褐色	炭化物中量、焼土ブロック少量
4 黄褐色	粘土粒子多量	12 黄褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	13 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量
6 黒褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	14 黒褐色	粘土ブロック多量、炭化物少量、焼土粒子微量
7 黒褐色	炭化物中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土ブロック微量	15 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
8 黒褐色	粘土ブロック多量、炭化物少量、焼土ブロック微量	16 黒褐色	粘土ブロック・炭化物少量
		17 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子微量
		18 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳鍋）が主室の覆土中から出土している。その他、混入した土師器片39点（坏6、高坏1、甕32）、須恵器片4点（盤1、高盤2、甕1）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第5号地下式坑（第229・232図）

位置 調査区南西部のL16g1区，標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第116号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 主軸方向はN - 36° - Wである。竪坑は長径1.08m，短径0.90mの楕円形で，深さは152～158cmである。壁はほぼ直立し，底面はピット状に径0.68m，深さ54cm掘り込まれている。主室は長軸2.38m，短軸1.60mの主軸方向が短い横長方形で，深さは150～158cmである。壁はオーバーハングしながら立ち上がり，底面はほぼ平坦である。

覆土 17層に分層できる。第1～3層は主室天井の崩落後に堆積した土層である。第4・5層は主室天井の崩落土層で，第6～15層は竪坑から主室にかけて埋め戻された土層である。また，16・17層は竪坑内のピットを埋め戻した土層である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量	9 褐色	ローム粒子多量，粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・ローム粒子中量	10 褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子中量，粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 明褐色	ロームブロック多量，粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	13 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 橙色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	14 橙色	粘土粒子多量，ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 明褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
		17 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，炭化粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片2点（内耳鍋），陶器片1点（常滑甕）が出土している。426は主室の覆土中から出土している。その他，混入した土師器片15点（坏3，甕12），須恵器片3点（坏，蓋，甕）が覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第6号地下式坑（第230・232図）

位置 調査区南西部のL16h3区，標高12.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第78号住居跡，第124・135・156号土坑を掘り込み，第125号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 主軸方向はN - 92° - Wである。竪坑は長径1.22m，短径1.20mの円形で，深さは202～212cmである。壁はほぼ直立し，底面は羨門に向けて緩やかに上がっている。主室は長軸2.92m，短軸2.90mの方形で，深さは152～192cmである。壁はオーバーハングしながら立ち上がり，底面はほぼ平坦である。

覆土 19層に分層できる。第1～12層は主室天井の崩落後に堆積した土層で，第7・8層は主室壁の崩落土層である。第13～15層は主室天井の崩落土層で，第16～19層は竪坑を埋め戻した土層である。

土層解説

1 にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化物中量，焼土ブロック微量	10 黒褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量	11 黒褐色	炭化粒子少量
3 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量
4 暗褐色	ロームブロック多量，炭化粒子少量	13 褐色	ロームブロック多量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	14 褐色	粘土ブロック多量，ローム粒子中量
6 黒褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	15 黄褐色	粘土ブロック多量，ローム粒子微量
7 褐色	ロームブロック多量	16 にぶい黄褐色	ロームブロック多量
8 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量	17 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量，ロームブロック少量
9 黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	18 褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
		19 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が主室の覆土中から出土している。その他、混入した土師器片45点(甕45),須恵器片8点(坏6,蓋1,甕1)が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第7号地下式坑(第230・231図)

位置 調査区南西部のL16i2区,標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第68号住居跡,第115・131号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 主軸方向はN-10°-Wである。竪坑は長径1.00m,短径0.50mの楕円形で,深さは198~212cmである。壁はほぼ直立し,底面は羨門に向けて緩やかに下がっている。主室は長径2.80m,短径1.80mの主軸方向が短い横楕円形で,深さは208~212cmである。壁はオーバーハングしながら立ち上がり,底面はほぼ平坦である。

覆土 13層に分層できる。第1~7層は主室天井の崩落後に堆積した土層である。第8~10層は主室天井の崩落土層で,第11~13層は竪坑から主室にかけて埋め戻された土層である。

土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック多量,粘土ブロック中量,炭化物・焼土粒子少量	7	褐色	ロームブロック中量,炭化物微量
2	暗褐色	粘土ブロック中量,ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	8	にぶい黄褐色	ロームブロック多量,炭化物・焼土粒子少量,粘土ブロック微量
3	褐色	ロームブロック中量,粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック多量,粘土ブロック・炭化物少量,焼土粒子微量
4	にぶい黄褐色	粘土ブロック多量,ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子少量	10	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量,炭化粒子少量
5	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量,炭化粒子少量	11	黒褐色	ロームブロック中量,粘土ブロック・炭化粒子少量,焼土粒子微量
6	褐色	ロームブロック多量,粘土ブロック中量,炭化物・焼土粒子少量	12	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
			13	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量,ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片5点(皿3,内耳鍋2)が出土している。428・429は主室の覆土中から出土している。その他、混入した土師器片43点(坏7,甕36),須恵器片13点(坏6,高台付坏1,蓋1,甕5)が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第8号地下式坑(第229・232図)

位置 調査区南西部のL16i3区,標高12.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第9号地下式坑,第166号土坑を掘り込み,第2・4号墓坑,第137・143・165号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 主軸方向はN-30°-Eである。竪坑,主室とも南東部は第137・142号土坑に掘り込まれているため遺存していない。竪坑は径1.20mの円形と推測され,深さは60~70cmである。壁はほぼ直立し,底面は羨門に向けて緩やかに下がっている。また,主室は一辺2.1mの方形と推測され,深さは80~100cmである。壁はオーバーハングしながら立ち上がり,底面はほぼ平坦である。

覆土 10層に分層できる。第1層は主室天井の崩落土層で,第2~10層は竪坑から主室にかけて埋め戻された土層である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
3 褐色	ロームブロック多量, 粘土ブロック微量	8 黄褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量, 粘土ブロック微量
5 にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	10 褐色	ローム粒子中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片 5 点(皿 1, 内耳鍋 4), 陶器片 1 点(瀬戸・美濃灰釉瓶)が出土している。430・431は主室の覆土中から出土している。その他, 混入した土師器片 22 点(坏 5, 甕 17), 須恵器片 1 点(甕)が覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から 15 世紀後半と考えられる。

第 9 号地下式坑 (第 231・232 図)

位置 調査区南西部の L16i4 区, 標高 12.0m の河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第 8 号地下式坑, 第 2 号墓坑, 第 137・165 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 主軸方向は N - 48° - E である。竪坑は長径 0.94m, 短径 0.80m の楕円形で, 深さは 176 ~ 186cm である。壁はほぼ直立し, 底面は羨門に向けて緩やかに下がっている。主室は長軸 1.80m, 短軸 1.40m の主軸方向が短い横長方形で, 深さは 210 ~ 228cm である。壁はオーバーハングしながら立ち上がり, 底面はほぼ平坦である。

覆土 12 層に分層できる。第 1・2 層は主室天井の崩落後に堆積した土層で, 第 1 層は主室壁の崩落土層である。第 3・4 層は主室天井の崩落土層で, 第 5 ~ 12 層は竪坑から主室にかけて埋め戻された土層である。

土層解説

1 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量, 炭化粒子微量	8 暗褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	粘土ブロック多量, 炭化粒子少量	9 にぶい黄色	粘土ブロック多量
3 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量	10 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量, 炭化物少量
4 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量	11 暗褐色	粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化物少量
5 暗褐色	粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量	12 黄褐色	粘土ブロック多量
6 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量, 炭化粒子少量		
7 褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師質土器片 1 点(内耳鍋)が主室の覆土中層から出土している。

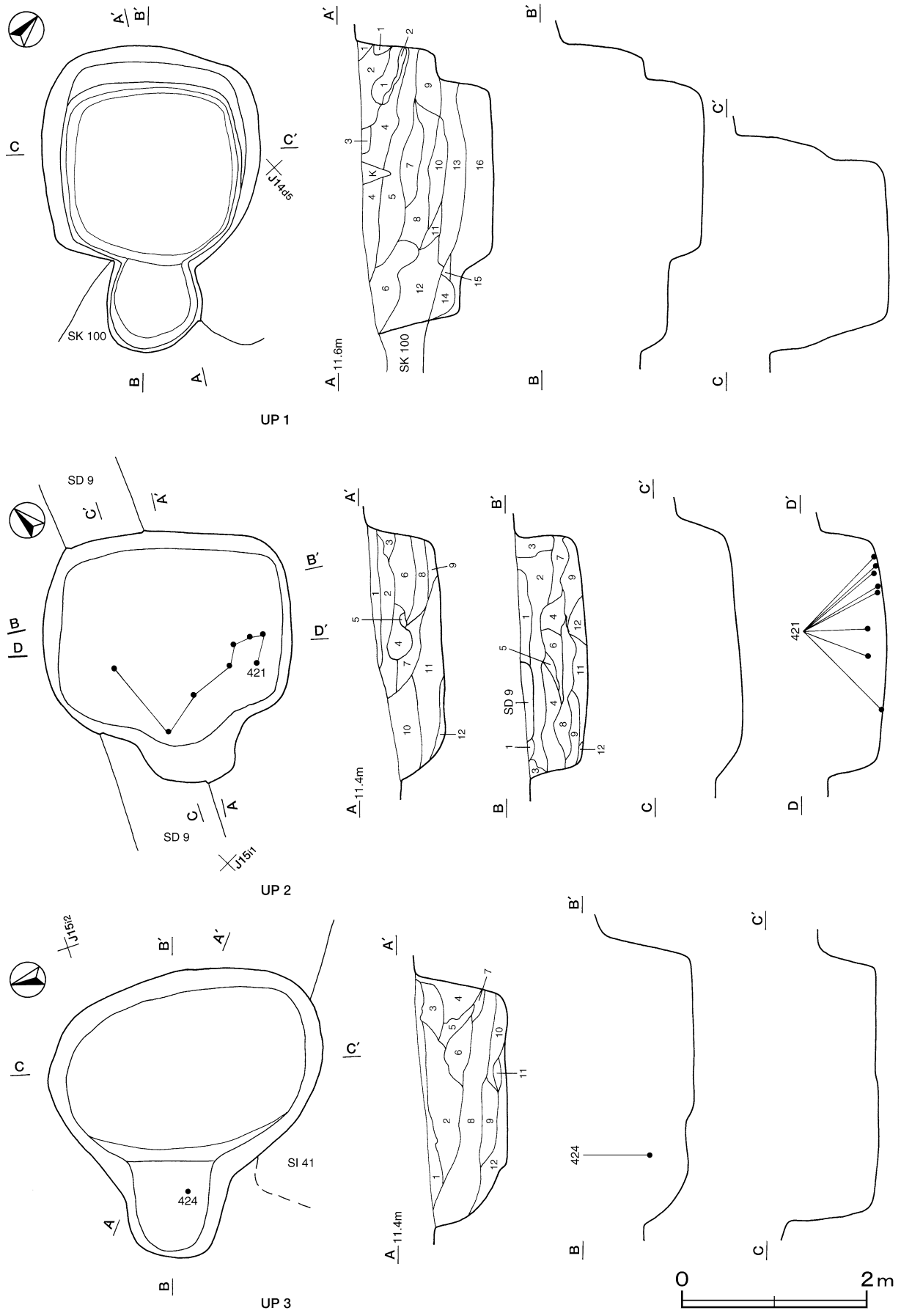
所見 時期は, 出土土器や重複関係から 15 世紀前半と考えられる。

第 2 号地下式坑出土遺物観察表 (第 231 図)

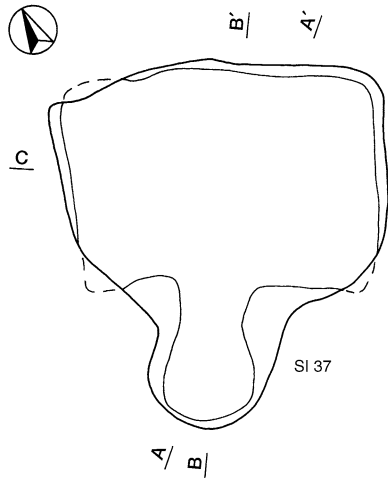
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
421	陶器	三耳壺	-	(25.1)	-	緻密・長石	釉灰オリープ胎土浅黄	良好	体部下半回転ヘラ削り 外面・口縁部から体部上半内面灰釉を施釉 体部外面上端に耳貼り付け 体部外面上端に 3 条・上位に 5 条の沈線が巡る	主室底面 ~ 覆土下層	60% PL37 古瀬戸後Ⅲ期

第 3 号地下式坑出土遺物観察表 (第 231 図)

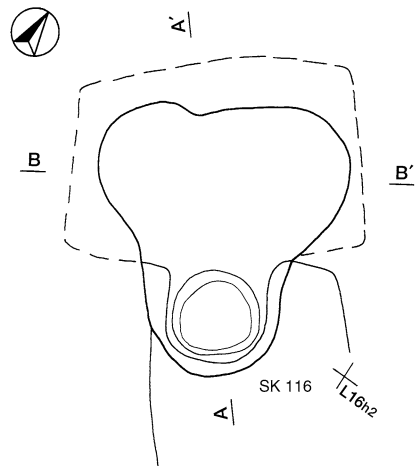
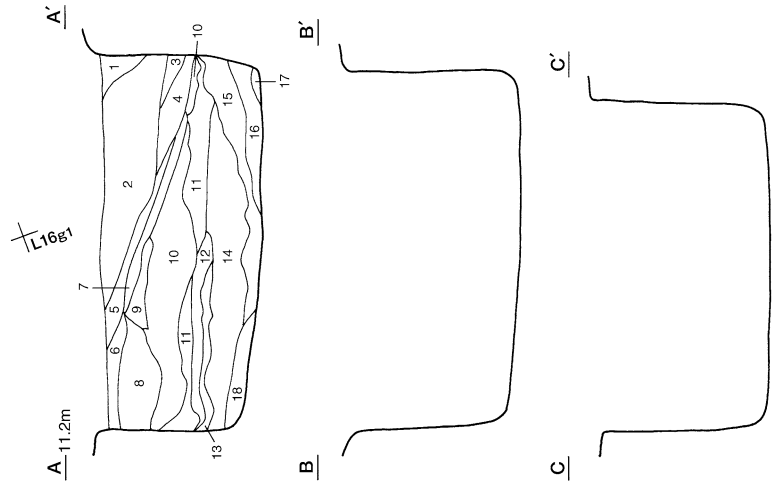
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
422	土師質土器	皿	[11.8]	2.5	[5.2]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転糸切り	主室覆土中	10%
423	陶器	片口鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	にぶい黄橙	良好	内・外面口口ロナデ 底部高台貼り付け I 類	主室覆土中	5% 常滑 5 型式
424	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	(12.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ 内面横ナデ 口縁部上端に耳貼り付け	竪坑覆土中層	10%



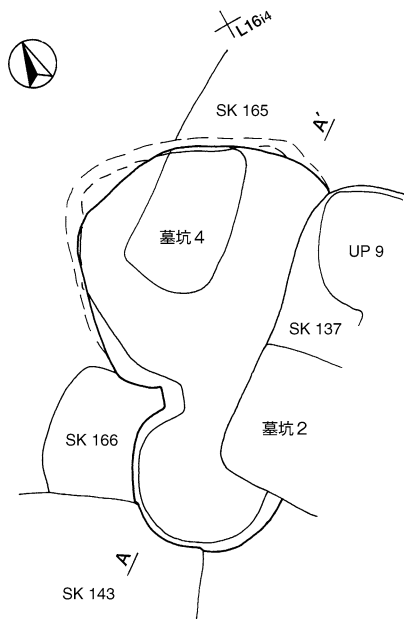
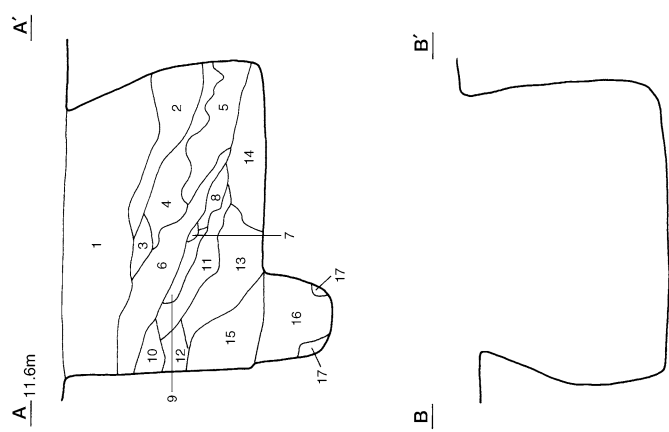
第228图 第1~3号地下式坑实测图



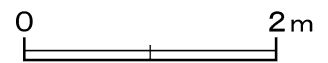
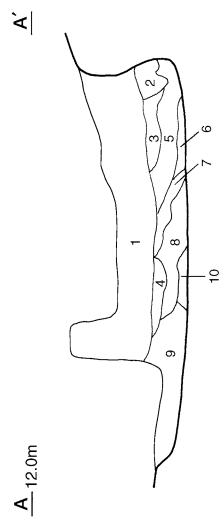
UP 4



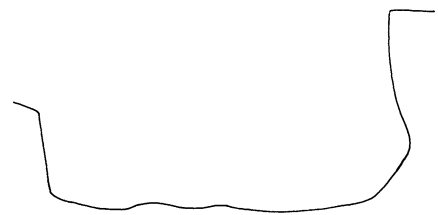
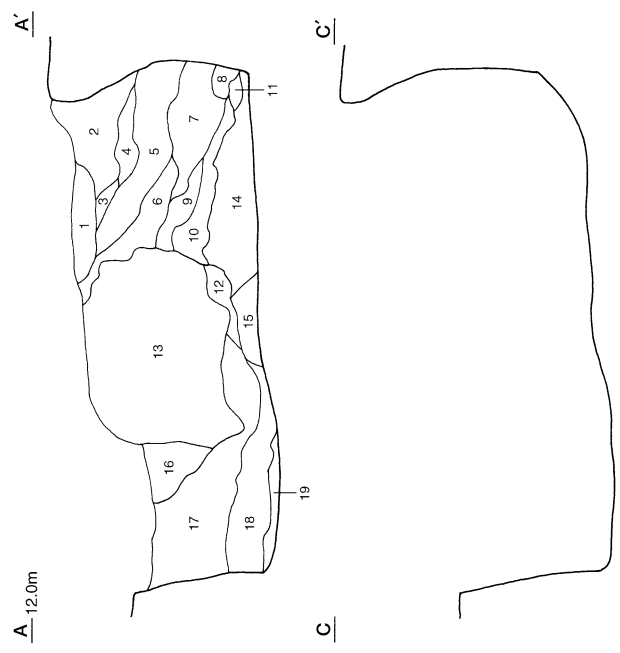
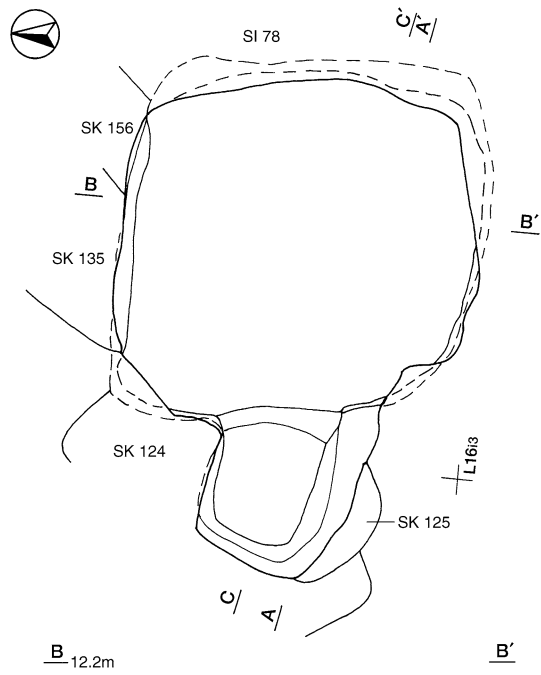
UP 5



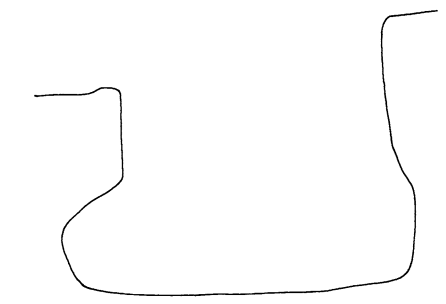
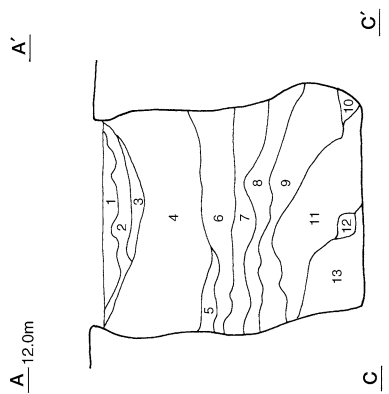
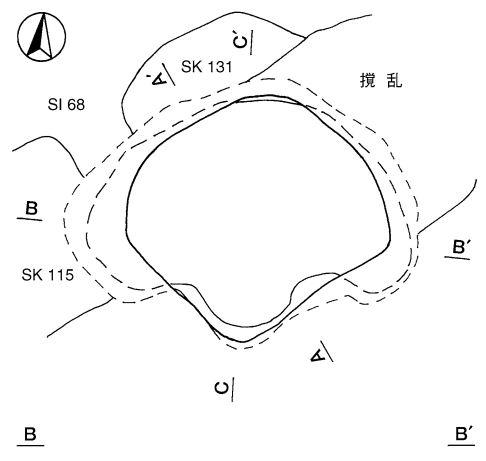
UP 8



第229图 第4·5·8号地下式坑实测图

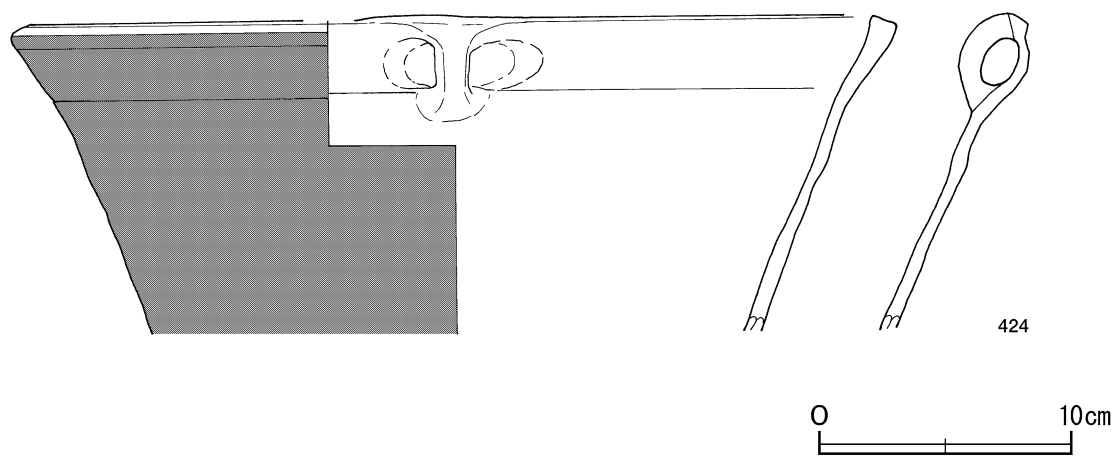
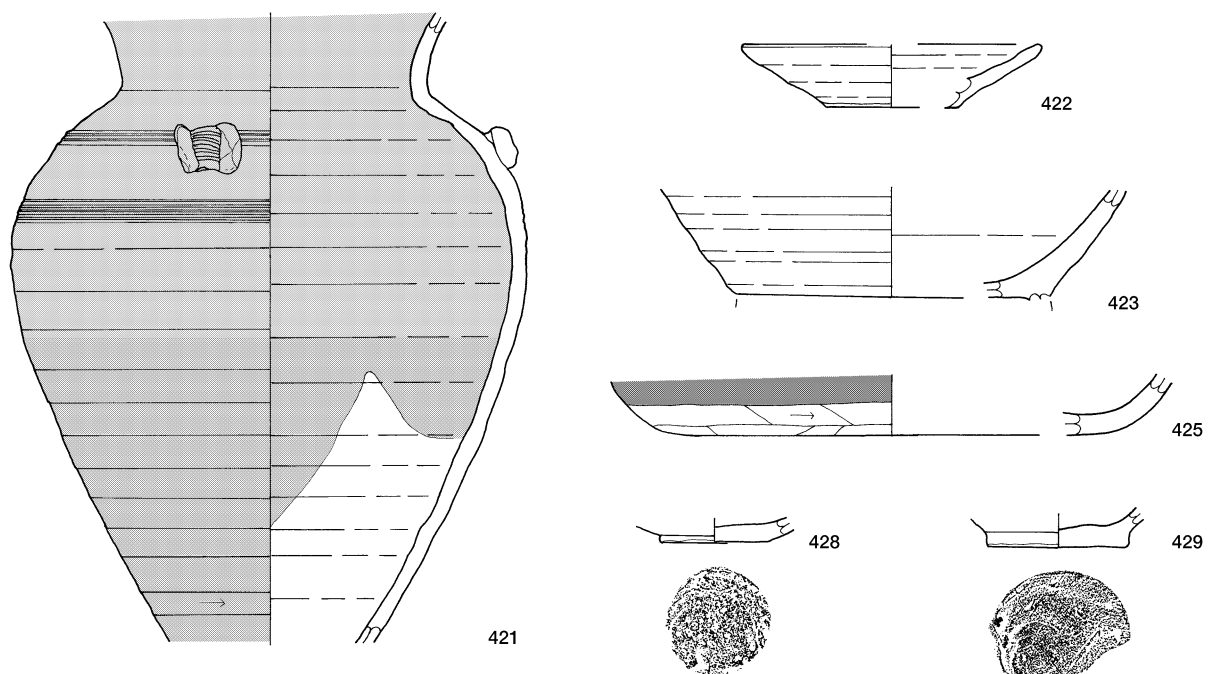
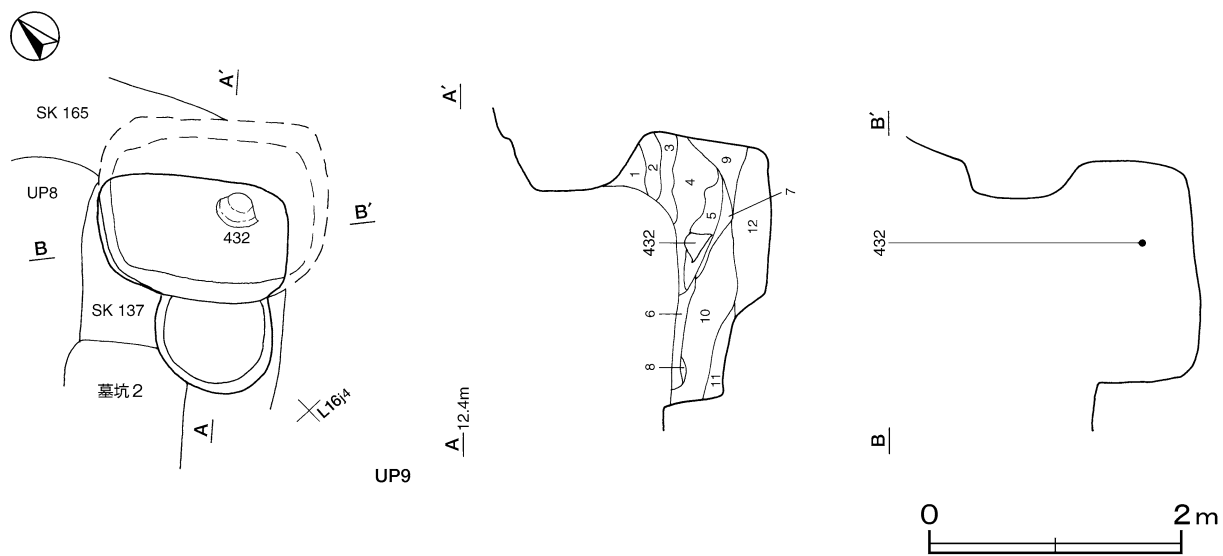


UP 6

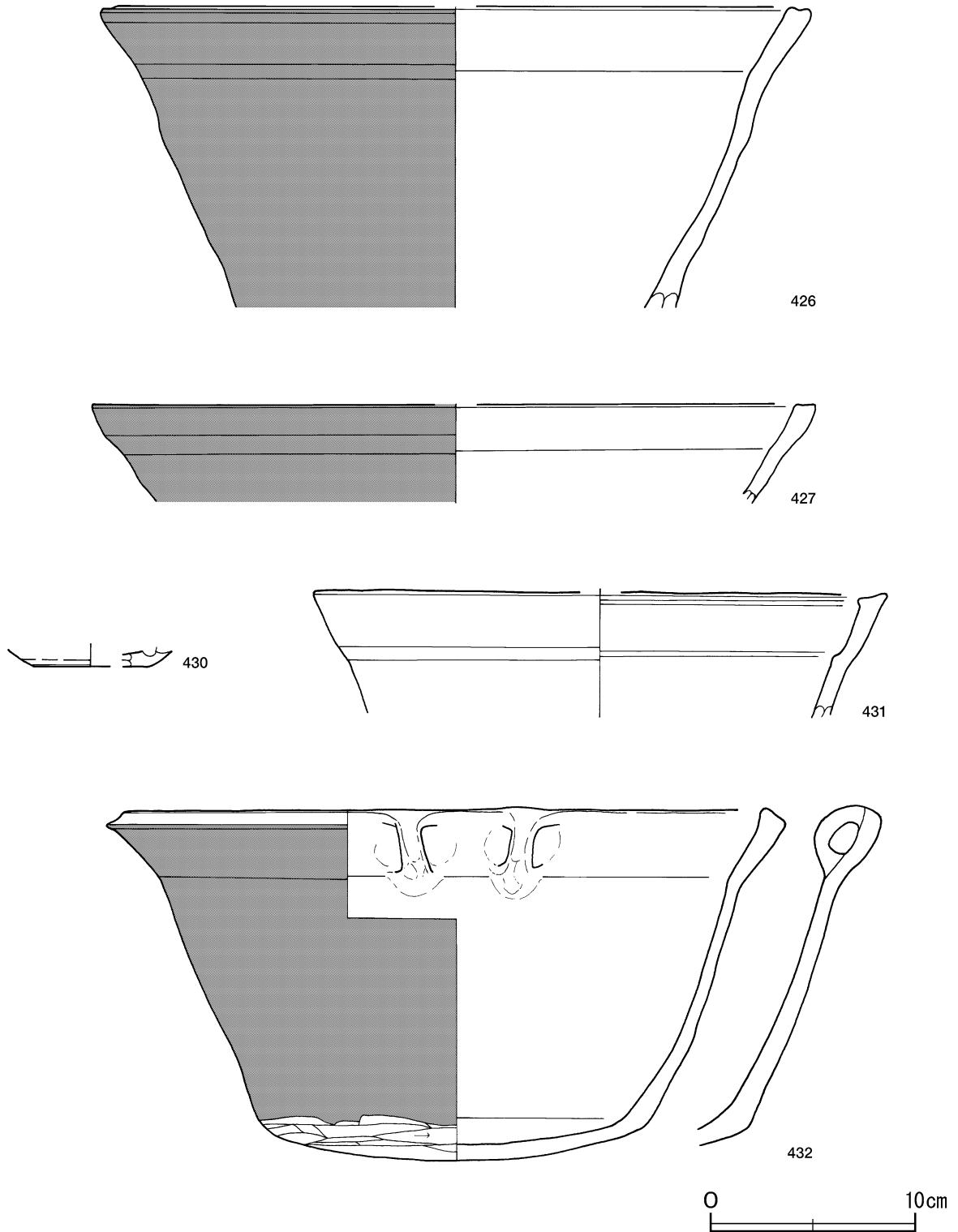


UP 7

第230图 第6·7号地下式坑突测图



第231图 第9号地下式坑，2~4·7号地下式坑出土遗物实测图



第232図 第5・6・8・9号地下式坑出土遺物実測図

第4号地下式坑出土遺物観察表（第231図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
425	土師質土器	内耳鍋	-	(2.5)	[18.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面ナデ 下端横位のへら削り 内面横ナデ 底部へら削り	主室覆土中	5%

第5号地下式坑出土遺物観察表(第232図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
426	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	(14.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面ナデ 内面横ナデ	主室覆土中	10%

第6号地下式坑出土遺物観察表(第232図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
427	土師質土器	内耳鍋	[33.6]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面ナデ 内面横ナデ	主室覆土中	5%

第7号地下式坑出土遺物観察表(第231図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
428	土師質土器	皿	-	(1.0)	4.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り 内底面周縁に沈線状のナデ	主室覆土中	10%
429	土師質土器	皿	-	(1.1)	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 内底面周縁に沈線状のナデ 底面に板目状圧痕	主室覆土中	10%

第8号地下式坑出土遺物観察表(第232図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
430	土師質土器	皿	-	(1.1)	[5.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 内底面周縁に沈線状のナデ	主室覆土中	5%
431	土師質土器	内耳鍋	[28.0]	(6.1)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	体部外面ナデ 内面横ナデ	主室覆土中	5%

第9号地下式坑出土遺物観察表(第232図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
432	土師質土器	内耳鍋	30.8	17.2	19	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面ナデ 内面横ナデ 底部ヘラ削り 縁部上端に耳貼り付け	主室覆土中層	90% PL41

表12 地下式坑一覧表

番号	位置	主軸方向	規模								覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
			竪坑				主室							
			長径・軸 × 短径・軸 (m)	深さ (cm)	平面形	底面	長径・軸 × 短径・軸 (m)	深さ (cm)	平面形	底面				
1	J 14d4	N - 48° - W	1.06 × 1.00	106 - 116	円形	緩斜	2.36 × 2.30	150 - 160	方形	平坦	人為	-	15世紀	本跡→SK100
2	J 15h1	N - 44° - E	1.06 × 0.70	60 - 70	楕円形	緩斜	2.70 × 2.30	50 - 70	横長方形	平坦	人為	陶器	15世紀前半	本跡→SD 9
3	J 15i1	N - 71° - W	1.06 × 1.00	50 - 76	円形	平坦	2.96 × 2.30	90 - 100	横楕円形	平坦	人為	土師質土器, 陶器, ヤマトシジミ	15世紀前半	SI41→本跡
4	L 15f0	N - 22° - E	0.96 × 0.90	112 - 122	円形	緩斜	2.64 × 2.00	132 - 136	横長方形	平坦	人為	土師質土器	15世紀前半	SI37→本跡
5	L 16g1	N - 36° - W	1.08 × 0.90	152 - 158	楕円形 平坦 ピット有	緩斜	2.38 × 1.60	150 - 158	横長方形	平坦	人為	土師質土器, 陶器	15世紀前半	SK116→本跡
6	L 16h3	N - 92° - W	1.22 × 1.20	202 - 212	円形	緩斜	2.92 × 2.90	152 - 192	方形	平坦	人為	土師質土器	15世紀前半	SI78, SK124・135・156 →本跡→SK125
7	L 16i2	N - 10° - W	1.00 × 0.50	198 - 212	楕円形	緩斜	2.80 × 1.80	208 - 212	横楕円形	平坦	人為	土師質土器	15世紀前半	SI68, SK115・131→ 本跡
8	L 16i3	N - 30° - E	1.20 × [1.20]	60 - 70	[円形]	緩斜	2.10 × [2.10]	80 - 100	方形	平坦	人為	土師質土器, 陶器	15世紀後半	UP9, SK166→本跡→ 墓坑2・4, SK137・143・165
9	L 16i4	N - 48° - E	0.94 × 0.80	176 - 186	楕円形	平坦	1.80 × 1.40	210 - 228	横長方形	平坦	人為	土師質土器	15世紀前半	本跡→UP8 墓坑2, SK137・165

(4) 火葬土坑

第1号火葬土坑(第233図)

位置 調査区中央部のJ14j0区, 標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第9号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 主軸方向がN-120°-EのT字形を呈している。燃烧部は長軸0.94m, 短軸0.50mの長方形である。深さは10~16cmで, 底面はほぼ平坦である。通気溝は長さ1.08m, 上幅0.34m, 下幅0.20mで, 深さは26cmである。燃烧部の底面及び壁面は赤変硬化している。

覆土 7層に分層できる。第3・4層中に火葬骨片が確認できた。焼土や炭化物を多く含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	4 黒褐色	焼土ブロック・炭化材中量, 火葬骨片少量
2 暗赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子少量	5 黒色	炭化材多量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化材・火葬骨片少量	6 暗褐色	ローム粒子少量
		7 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量

遺物出土状況 陶器片1点(瀬戸・美濃灰釉瓶)が出土しているが, 細片のため図示できない。

所見 本跡は, 火葬骨片が確認できた火葬土坑である。時期は, 出土土器や重複関係から16世紀前半と考えられる。

第2号火葬土坑(第233図)

位置 調査区南東部のK15e3区, 標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第190・191号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 主軸方向がN-28°-EのT字形を呈している。燃烧部は長径0.94m, 短径0.46mの楕円形である。深さは6~10cmで, 底面はほぼ平坦である。通気溝は長さ0.94m, 上幅0.46m, 下幅0.30mで, 深さは24cmである。燃烧部の底面及び壁面は赤変硬化している。

覆土 6層に分層できる。第1・2・6層中に火葬骨片が確認できた。焼土や炭化物を多く含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 黒色	焼土粒子・炭化粒子・火葬骨片少量, ローム粒子微量	4 暗赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量, ローム粒子微量
2 黒褐色	火葬骨片少量, ローム粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	炭化物中量, ローム粒子・焼土粒子少量	6 黒褐色	火葬骨片中量, ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿), 陶器片1点(常滑甕)が出土している。433・434は通気溝の覆土下層から出土している。その他, 混入した土師器片1点(甕), 須恵器片2点(坏, 甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 火葬骨片が確認できた火葬土坑である。時期は, 出土土器や重複関係から16世紀前半と考えられる。

第3号火葬土坑（第233図）

位置 調査区南東部のK15h5区，標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 主軸方向がN-24°-EのT字形を呈している。燃烧部は長径1.14m，短径0.38mの楕円形である。深さは12~20cmで，底面はほぼ平坦である。通気溝は長さ1.04m，上幅0.40m，下幅0.28mで，深さは28cmである。燃烧部の底面及び壁面は赤変硬化している。

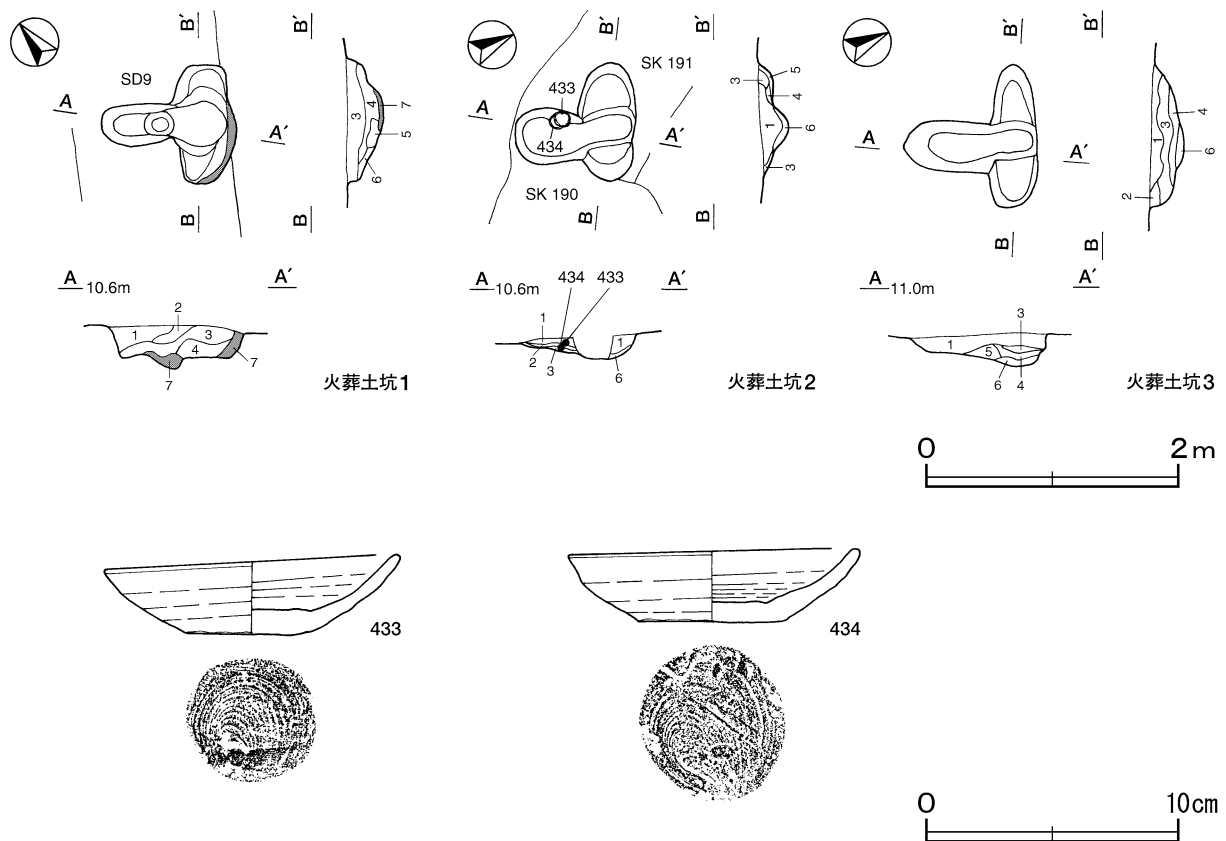
覆土 6層に分層できる。第3~5層中に火葬骨片が確認できた。焼土や炭化物を多く含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・火葬骨片中量，炭化材少量，ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化材中量，ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・火葬骨片少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化材中量，火葬骨片少量，ローム粒子微量 | 6 黒色 炭化材多量，ローム粒子微量 |

遺物出土状況 陶器片1点（瀬戸・美濃灰釉瓶）が出土しているが，細片のため図示できない。その他，混入した土師器片5点（甕），須恵器片1点（蓋）が覆土中から出土している。

所見 本跡は，火葬骨片が確認できた火葬土坑である。時期は，出土土器から16世紀前半と考えられる。



第233図 第1~3号火葬土坑・出土遺物実測図

第2号火葬土坑出土遺物観察表（第233図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
433	土師質土器	皿	11.6	3.2	5.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り 内底面周縁に沈線状のナデ 二次焼成	通気溝覆土下層	100% PL35
434	土師質土器	皿	11.4	3.0	5.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り 内底面周縁に沈線状のナデ 底面に板目状圧痕 二次焼成	通気溝覆土下層	95% PL35

表13 火葬土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模								覆土	人骨 主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				燃焼部				通気溝							
				長径・軸 × 短径・軸 (m)	深さ (cm)	平面形	底面	長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)				
1	J14j0	N - 120° - E	T字形	0.94 × 0.50	10~16	長方形	平坦	1.08	0.34	0.20	26	人為	火葬骨片, 陶器	16世紀前半	SD9→本跡
2	K15e3	N - 28° - E	T字形	0.94 × 0.46	6~10	楕円形	平坦	0.94	0.46	0.30	24	人為	火葬骨片, 土師 質土器, 陶器	16世紀前半	SK190・191→本跡
3	K15h5	N - 24° - E	T字形	1.14 × 0.38	12~20	楕円形	平坦	1.04	0.40	0.28	28	人為	火葬骨片, 陶器	16世紀前半	

(5) 粘土貼土坑

第1号粘土貼土坑 (第234図)

位置 調査区南西部のK14g0区, 標高9.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第83号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.40m, 短軸1.16mの長方形で, 長軸方向はN - 40° - Eである。深さは22cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面及び壁面に粘土を10~14cmの厚さで貼り付けている。

覆土 2層に分層できる。第1層が覆土, 第2層が貼り付けられた粘土層である。覆土は, 粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 2 黄褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第2号粘土貼土坑 (第234図)

位置 調査区南西部のK14g9区, 標高9.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第93号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.52m, 短径1.96mの楕円形で, 長径方向はN - 16° - Wである。深さは20cmで, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 粘土を主体とする単一層で埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器片1点(古瀬戸灰釉花瓶)が覆土中から出土している。その他, 混入した土師器片7点(坏4, 甕3), 須恵器片4点(坏3, 甕1)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 粘土で一度に埋めていることから, 粘土貼というよりは粘土埋というような土坑である。時期は, 出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第3号粘土貼土坑 (第234図)

位置 調査区南東部のK15e3区, 標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.58m, 短軸1.52mの方形で, 長軸方向はN - 40° - Wである。深さは62cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面及び壁面に粘土を2~10cmの厚さで貼り付けている。

覆土 8層に分層できる。第1~7層が覆土, 第8層が貼り付けられた粘土層である。覆土は, ロームブロック・粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | 5 極暗褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量 | 6 極暗褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 | 7 にぶい黄褐色 粘土粒子多量 |
| 4 極暗褐色 粘土ブロック中量 | 8 明黄褐色 粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 陶器片1点(常滑甕)が出土しているが, 細片のため図示できない。その他, 混入した土師器片1点(坏)が覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から15世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第4号粘土貼土坑 (第234図)

位置 調査区南東部のK15f3区, 標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.52m, 短軸1.22mの長方形で, 長軸方向はN - 43° - Wである。深さは38cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面及び壁面に粘土を4~6cmの厚さで貼り付けている。

覆土 3層に分層できる。第1・2層が覆土, 第3層が貼り付けられた粘土層である。覆土は, 粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化物少量, ローム粒子微量 | 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量 |
| 2 極暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量 | |

所見 本跡に伴う遺物は出土していないが, 時期は, 15世紀代と考えられる。性格は不明である。

第5号粘土貼土坑 (第234図)

位置 調査区南東部のK15e2区, 標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.58m, 短軸0.92mの長方形で, 長軸方向はN - 39° - Wである。深さは56cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面及び壁面に粘土を4~10cmの厚さで貼り付けている。

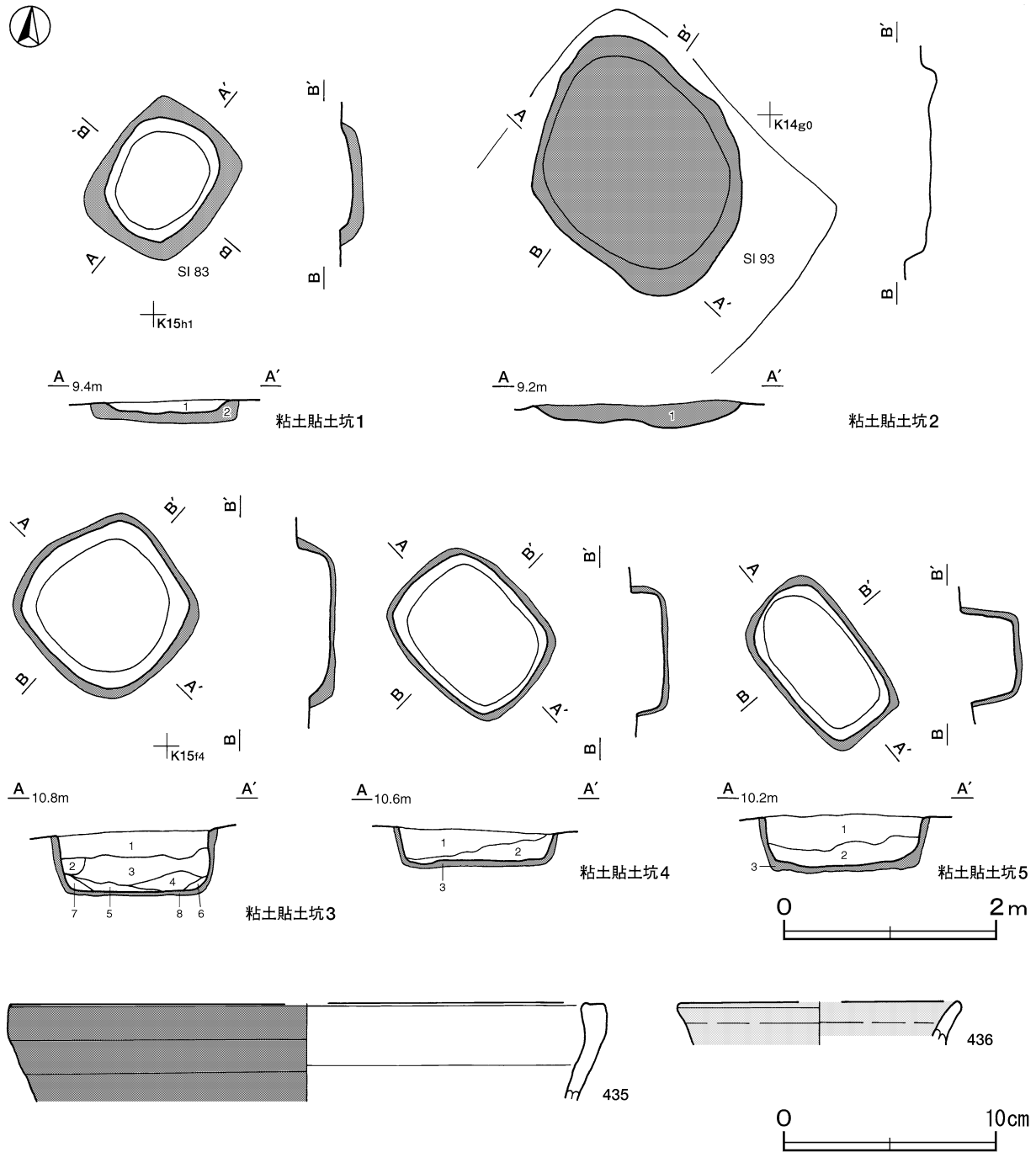
覆土 3層に分層できる。第1・2層が覆土, 第3層が貼り付けられた粘土層である。覆土は, 粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 混入した土師器片5点(甕), 須恵器片2点(甕), 剥片3点(チャート)が覆土中から出土している。

所見 本跡に伴う遺物は出土していないが, 時期は, 15世紀代と考えられる。性格は不明である。



第234図 第1～5号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第1号粘土貼土坑出土遺物観察表（第234図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
435	土師質土器	内耳鍋	[28.0]	(4.6)	-	長石・石英・雲母・赤褐色子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 内面横ナデ	覆土中	5%

第2号粘土貼土坑出土遺物観察表（第234図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
436	陶器	花瓶	[13.0]	(2.0)	-	緻密	釉浅黄 胎土浅黄橙	良好	内・外面灰釉を施釉 III類カ	覆土中	5% 古瀬戸後期

表14 粘土貼土坑一覽表

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸 × 短径・軸 (m)	深さ (cm)						
1	K14g0	N - 40° - E	長方形	1.40 × 1.16	22	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	SI83→本跡
2	K14g9	N - 16° - W	楕円形	2.52 × 1.96	20	凹凸	緩斜	人為	陶器	15世紀後半	SI93→本跡
3	K15e3	N - 40° - W	方形	1.58 × 1.52	62	平坦	外傾	人為	陶器	15世紀後半	
4	K15f3	N - 43° - W	長方形	1.52 × 1.22	38	平坦	外傾	人為	-	15世紀	
5	K15e2	N - 39° - W	長方形	1.58 × 0.92	56	平坦	外傾	人為	-	15世紀	

(6) 墓坑

第1号墓坑(第235図)

位置 調査区南西部のL16j3区, 標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第63号住居跡, 第128・140・143号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.20m, 短軸0.78mの隅丸長方形で, 長軸方向はN - 43° - Eである。深さは58cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 ロームを主体とする単一層で埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 粘土ブロック・炭化物微量

埋葬状況 人骨の頭位は, 長軸の北東方向である。脚を折り曲げて埋葬したものである。

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿2, 内耳鍋2)が出土している。437・438は覆土下層から出土している。

その他, 混入した土師器片16点(坏1, 甕15), 須恵器片1点(坏)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人を埋葬した墓坑である。時期は, 出土土器や重複関係から16世紀前半と考えられる。

第2号墓坑(第235図)

位置 調査区南西部のL16i3区, 標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第8・9号地下式坑, 第137号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.28m, 短軸1.00mの長方形で, 長軸方向はN - 50° - Eである。深さは92cmで, 壁はほぼ直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックや, 炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック・炭化物中量, 粘土ブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック中量, 炭化物少量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化粒子中量, ローム粒子少量 |

埋葬状況 人骨の頭位は, 長軸の北東方向である。脚を折り曲げて埋葬したものである。

所見 本跡は, 人を埋葬した墓坑である。本跡に伴う遺物は出土していないが, 時期は, 重複関係から16世紀代と考えられる。

第3号墓坑(第235図)

位置 調査区南西部のL16g3区, 標高12.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第14号方形竪穴遺構, 第135号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.90m, 短軸0.76mの長方形で, 長軸方向はN - 27° - Eである。深さは76cmで, 壁はほぼ直立している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックや, 炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量

埋葬状況 人骨の頭位は, 長軸の北東方向である。脚を折り曲げて埋葬したものと思われる。

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が覆土中から出土している。その他, 混入した土師器片9点(坏3, 甗6)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人を埋葬した墓坑である。時期は, 出土土器や重複関係から16世紀前半と考えられる。

第4号墓坑(第235図)

位置 調査区南西部のL16i3区, 標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第8号地下式坑, 第165号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.24m, 短軸0.70mの長方形で, 長軸方向はN - 51° - Eである。深さは80cmで, 壁はほぼ直立している。

覆土 ロームブロックを含む黒褐色土の単一層で埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

埋葬状況 人骨の頭位は, 長軸の北東方向である。脚を折り曲げて埋葬したものと思われる。

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)が覆土中から出土している。その他, 混入した土師器片2点(坏, 甗)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人を埋葬した墓坑である。時期は, 出土土器や重複関係から16世紀前半と考えられる。

第5号墓坑(第235図)

位置 調査区中央部のJ13g7区, 標高8.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第269号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.16m, 短径1.34mの楕円形で, 長径方向はN - 67° - Eである。深さは40cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。中央部に深さ18cmのピットを伴っている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

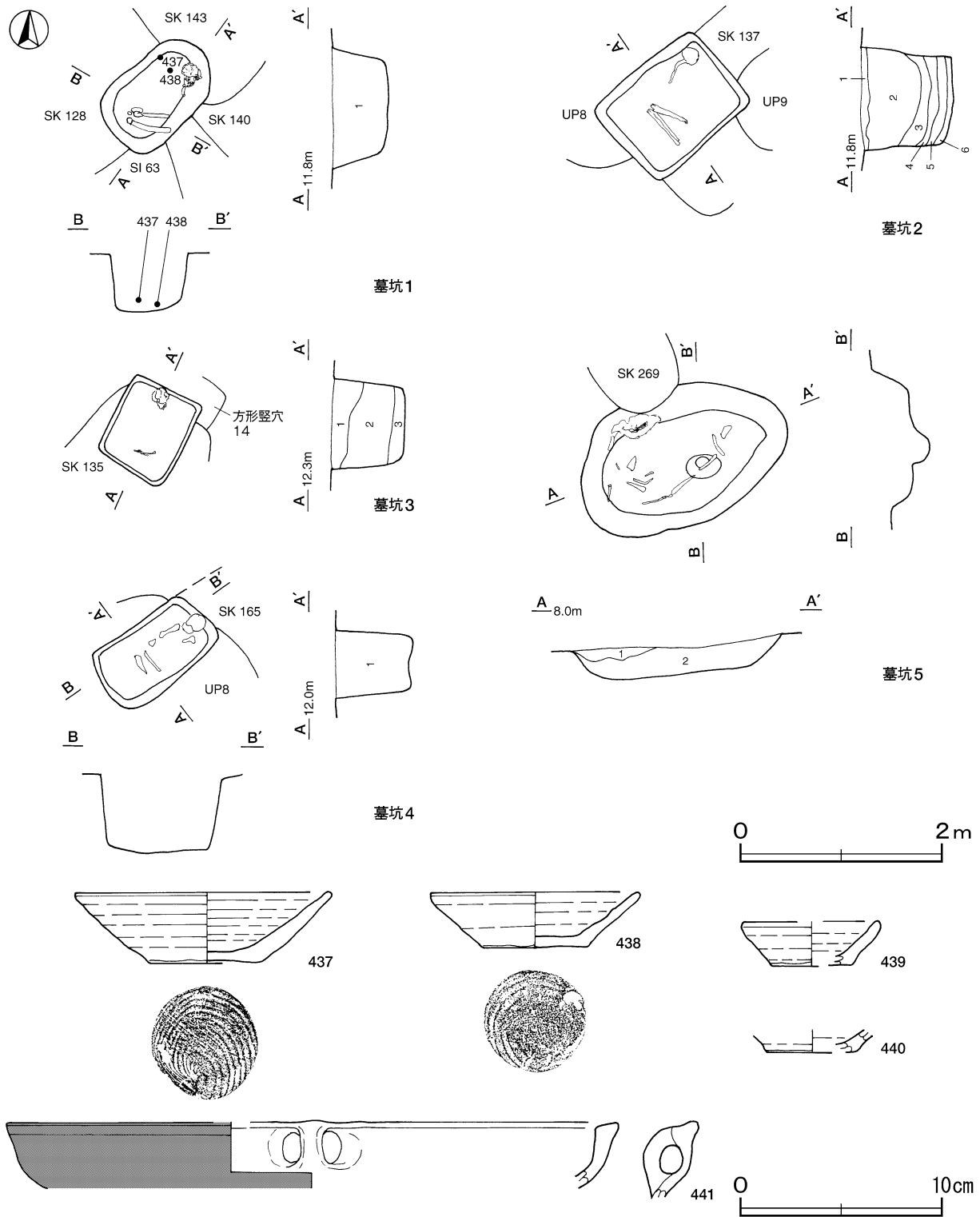
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量

埋葬状況 馬骨の頭位は, 長軸の南西方向である。首や脚を折り曲げて埋葬したものと思われる。

遺物出土状況 土師質土器片3点（内耳鍋）が出土している。441は覆土中から出土している。その他、混入した土師器片16点（甕）、須恵器片3点（甕）が覆土中から出土している。

所見 本跡は、馬を埋葬した墓坑である。時期は、出土土器や重複関係から16世紀前半と考えられる。



第235図 第1～5号墓坑・出土遺物実測図

第1号墓坑出土遺物観察表（第235図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
437	土師質土器	皿	12.6	3.5	5.6	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り 底面に板目状圧痕	覆土下層	95% PL35
438	土師質土器	皿	10.2	2.8	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土下層	100% PL35

第3号墓坑出土遺物観察表（第235図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
439	土師質土器	小皿	[6.8]	2.2	[4.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	10%

第4号墓坑出土遺物観察表（第235図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
440	土師質土器	皿	-	(1.1)	[4.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	5%

第5号墓坑出土遺物観察表（第235図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
441	土師質土器	内耳鍋	[30.4]	(3.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面横ナデ 口縁部上端に耳貼り付け	覆土中	5%

表15 墓坑一覧表

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	人骨・獣骨 主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
				長径・軸 × 短径・軸 (m)	深さ (cm)						
1	L16j3	N - 43° - E	隅丸長方形	1.20 × 0.78	58	平坦	外傾	人為	人骨・土師質土器	16世紀前半	SI63, SK128・140・143→本跡
2	L16i3	N - 50° - E	長方形	1.28 × 1.00	92	平坦	直立	人為	人骨	16世紀	UP8・9, SK137→本跡
3	L16g3	N - 27° - E	長方形	0.90 × 0.76	76	平坦	直立	人為	人骨・土師質土器	16世紀前半	方形竪穴14, SK135→本跡
4	L16i3	N - 51° - E	長方形	1.24 × 0.70	80	平坦	直立	人為	人骨・土師質土器	16世紀前半	UP8, SK165→本跡
5	J13g7	N - 67° - E	楕円形	2.16 × 1.34	40	平坦 ピット有	外傾	人為	馬骨・土師質土器	16世紀前半	本跡→SK269

(7) 土坑

第13号土坑（第236・239図）

位置 調査区北部のJ13a6区，標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第16号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東側が第16号土坑に掘り込まれているため，遺存していたのは長軸1.6m，短軸1.62mで，長軸方向がN - 32° - Eの方形と推測される。深さは38cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然なブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量,炭化物少量 | 3 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 粘土ブロック多量 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量,炭化物微量 |

遺物出土状況 陶器片2点(古瀬戸灰釉瓶子),石器1点(砥石)が出土している。442は覆土下層,Q14は覆土中からそれぞれ出土している。その他,混入した土師器片19点(坏7,甕12),須恵器片13点(坏3,高台付坏1,甕9)が覆土中から出土している。

所見 本跡は,人骨は確認できなかったが,遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は,出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第14号土坑(第236図)

位置 調査区北部のJ13b5区,標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第22・66号土坑を掘り込み,第17・23号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東側が第23号土坑に掘り込まれているため,遺存していたのは長軸1.60m,短軸1.54mで,長軸方向がN-59°-Wの方形と推測される。深さは50cmで,壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 陶器片2点(常滑甕)が出土しているが,細片のため図示できない。その他,混入した土師器片30点(坏2,甕28),須恵器片22点(坏8,蓋4,甕10),灰釉陶器片1点(瓶)が覆土中から出土している。

所見 本跡は,人骨は確認できなかったが,遺構の形状から墓坑の可能性はある。時期は,出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第30号土坑(第236・239図)

位置 調査区北部のI13j6区,標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第4・5号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.48m,短軸1.24mの長方形で,長軸方向はN-33°-Eである。深さは82cmで,壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 1 褐色 粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量,炭化物少量,焼土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量,炭化物・焼土粒子少量 | |

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋),陶器片1点(常滑壺)が出土している。447は覆土下層から出土している。その他,混入した土師器片8点(坏1,甕7),須恵器片2点(坏,甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は,人骨は確認できなかったが,遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は,出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第31号土坑 (第236図)

位置 調査区北部のI13j6区, 標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第5号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.72m, 短軸1.70mの長方形で, 長軸方向はN - 53° - Wである。深さは88cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物を含む不自然なブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|----------|------------------------|
| 1 褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化物中量, 焼土ブロック少量 | 4 灰黄褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 5 褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が出土しているが, 細片のため図示できない。その他, 混入した土師器片2点(坏, 甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人骨は確認できなかったが, 遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は, 出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第35号土坑 (第236・240図)

位置 調査区南東部のK16j7区, 標高13.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第1号掘立柱建物跡, 第7号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.44m, 短軸1.24mの不整長方形で, 長軸方向はN - 57° - Wである。深さは56cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。南東壁に深さ12cmのピットを伴っている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックや細礫を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 極暗褐色 | 粘土粒子・細礫中量, ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土粒子・細礫少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 細礫少量 | | |

遺物出土状況 陶器片1点(直縁大皿)が覆土下層から出土している。

所見 本跡は, 人骨は確認できなかったが, 遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は, 出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第39号土坑 (第236・240図)

位置 調査区南東部のK16j9区, 標高13.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 北東側が調査区域外に延びているため, 確認できたのは長軸1.70m, 短軸0.70mで, 長軸方向がN - 54° - Wの方形と推測される。深さは58cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|------|---------------------------|------|------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
|------|---------------------------|------|------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片5点(皿4,内耳鍋1),古銭1点(正隆元寶)が出土している。453は覆土上層,454・M35は覆土中層からそれぞれ出土している。その他,混入した須恵器片1点(坏)が覆土中から出土している。
所見 本跡は,人骨は確認できなかったが,遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は,出土土器から15世紀後半と考えられる。

第46号土坑(第236図)

位置 調査区南東部のK16j6区,標高13.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第75号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.90m,短軸1.42mの長方形で,長軸方向はN-39°-Eである。深さは86cmで,壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。第1~3層は含有物が小さく,レンズ状の堆積状況から自然堆積である。第4~6層は粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック多量,炭化粒子少量,焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量,炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 粘土ブロック多量,炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿1,内耳鍋2),陶器片2点(常滑片口鉢,常滑甕),鉄滓1点が出土しているが,細片のため図示できない。その他,混入した土師器片3点(甕),須恵器片5点(蓋3,甕2)が覆土中から出土している。

所見 本跡は,人骨は確認できなかったが,遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は,出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第50号土坑(第237図)

位置 調査区南東部のL16a8区,標高14.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第8号方形竪穴遺構を掘り込み,第51・60号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西側が第51・60号土坑に掘り込まれているため,遺存していたのは長軸1.62m,短軸1.00mで,長軸方向がN-35°-Wの方形と推測される。深さは60cmで,壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子多量,炭化粒子少量,ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | 粘土ブロック多量,炭化物少量,焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック中量,炭化粒子少量,ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | 粘土ブロック多量,炭化物少量,焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿),剥片1点(瑪瑙)が出土しているが,細片のため図示できない。その他,混入した土師器片1点(甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は,人骨は確認できなかったが,遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は,出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第51号土坑 (第237・240図)

位置 調査区南東部のL16a8区, 標高13.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第8号方形竪穴遺構, 第50・60号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.46m, 短軸1.22mの長方形で, 長軸方向はN - 56° - Wである。深さは56cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物・灰を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 灰多量, ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 3 灰黄褐色 粘土ブロック多量, 炭化物少量 | 5 灰黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片7点(皿2, 茶釜1, 内耳鍋4)が出土している。455は覆土上層から出土している。その他, 混入した土師器片2点(坏, 甕), 須恵器片1点(坏)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人骨は確認できなかったが, 遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は, 出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第60号土坑 (第237図)

位置 調査区南東部のL16a8区, 標高14.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第8号方形竪穴遺構, 第50・53号土坑を掘り込み, 第51号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.28m, 短軸1.16mの長方形で, 長軸方向はN - 43° - Eである。深さは54cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック多量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片13点(皿1, 内耳鍋12), 鉄滓1点が出土しているが, 細片のため図示できない。その他, 混入した須恵器片1点(坏)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人骨は確認できなかったが, 遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は, 出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第65号土坑 (第237図)

位置 調査区南東部のK16g4区, 標高13.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 出土土器から第8号掘立柱建物跡よりも新しい。

規模と形状 長軸2.02m, 短軸1.22mの長方形で, 長軸方向はN - 50° - Wである。深さは36cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。粘土ブロックや細礫を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 3 黒褐色 粘土ブロック中量, 細礫少量 |
| 2 にびい黄褐色 粘土ブロック・細礫中量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が出土しているが、細片のため図示できない。また、礫4点(雲母片岩3,花崗岩1)が底面から出土している。その他、混入した土師器片2点(甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、人骨は確認できなかったが、遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は、出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第101号土坑(第237・240図)

位置 調査区中央部のJ14h5区,標高9.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第51号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.10m,短軸0.96mの長方形で、長軸方向はN-45°-Eである。深さは14cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。含有物も小さく、レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土粒子中量,ローム粒子少量 | 3 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 粘土粒子中量,ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)が覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第105号土坑(第237・240図)

位置 調査区中央部のK14b3区,標高8.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第54号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.44m,短軸1.30mの長方形で、長軸方向はN-56°-Eである。深さは20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 褐色 ロームブロック中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿),土製品1点(球状土錘)が出土している。457は底面,DP136は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、人骨は確認できなかったが、遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は、出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第106号土坑(第237・240図)

位置 調査区中央部のK14d2区,標高7.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第53号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.58m,短軸1.30mの長方形で、長軸方向はN-53°-Eである。深さは16cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 ロームブロックを含む暗褐色土の単一層で埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)が覆土上層から出土している。その他, 混入した土師器片2点(甕), 須恵器片1点(坏)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人骨は確認できなかったが, 遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は, 出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第108号土坑 (第237・240図)

位置 調査区南西部のL16j1区, 標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第110号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.02m, 短軸1.12mの長方形で, 長軸方向はN-45°-Eである。深さは24cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックや炭化物を含む不自然なブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量

2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片5点(皿1, 小皿2, 内耳鍋2)が出土している。459~461は覆土下層から出土している。その他, 混入した土師器片9点(坏2, 甕7), 須恵器片2点(甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人骨は確認できなかったが, 遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は, 出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第110号土坑 (第237図)

位置 調査区南西部のL16j1区, 標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第77号住居跡, 第108号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.66m, 短軸0.94mの長方形で, 長軸方向はN-42°-Eである。深さは14cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 含有物の少ない黒褐色土の単一層で埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)が出土しているが, 細片のため図示できない。また, 礫1点(斑礫岩)が底面から出土している。その他, 混入した土師器片5点(甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人骨は確認できなかったが, 遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は, 出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第118号土坑（第237図）

位置 調査区南西部のL16h2区，標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第121号土坑を掘り込み，第13号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 北西側が第13号方形竪穴遺構に掘り込まれているため，遺存していたのは長軸1.70m，短軸0.90mで，長軸方向がN - 40° - Eの方形と推測される。深さは50cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-----------------------------|---|--------|------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量 | 3 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 4 | 褐色 | ロームブロック多量，炭化物少量，焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点（内耳鍋）が出土しているが，細片のため図示できない。その他，混入した土師器片33点（坏7，高台付椀2，甕24），須恵器片4点（坏2，盤1，蓋1）が覆土中から出土している。

所見 本跡は，人骨は確認できなかったが，遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は，出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第137号土坑（第238図）

位置 調査区南西部のL16i3区，標高12.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第8・9号地下式坑を掘り込み，第2号墓坑，第165号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.60m，短軸1.66mの長方形で，長軸方向はN - 53° - Eである。深さは104cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|---------------------------------|---|--------|----------------------------------|
| 1 | 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 4 | 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 5 | 灰黄褐色 | 粘土ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量 |
| 3 | 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量，炭化粒子微量 | 6 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片13点（皿1，内耳鍋12），陶器片1点（古瀬戸灰釉折縁皿）が出土しているが，細片のため図示できない。その他，混入した土師器片29点（坏8，甕21），須恵器片3点（坏2，甕1）が覆土中から出土している。

所見 本跡は，人骨は確認できなかったが，遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は，出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第140号土坑（第238図）

位置 調査区南西部のL16j3区，標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第1号墓坑，第143号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西側が第1号墓坑，第143号土坑に掘り込まれているため，遺存していたのは長軸1.06m，短軸1.00mで，長軸方向がN - 37° - Wの方形と推測される。深さは34cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が出土しているが、細片のため図示できない。その他、混入した土師器片1点(甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、人骨は確認できなかったが、遺構の形状から墓坑の可能性はある。時期は、出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第143号土坑(第238図)

位置 調査区南西部のL16i3区、標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第140・166号土坑を掘り込み、第8号地下式坑、第1号墓坑、第128・164号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西側が第1号墓坑、第128・164号土坑に掘り込まれているため、遺存していたのは長軸1.66m、短軸1.20mで、長軸方向がN-55°-Wの方形と推測される。深さは50cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化物微量 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片4点(内耳鍋)が出土しているが、細片のため図示できない。その他、混入した土師器片3点(坏1、甕2)、須恵器片1点(甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、人骨は確認できなかったが、遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は、出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第146号土坑(第238図)

位置 調査区南西部のL15a3区、標高9.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.70m、短軸1.66mの方形で、長軸方向はN-43°-Wである。深さは10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 灰黄褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量
2 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋)が出土しているが、細片のため図示できない。その他、混入した土師器片1点(甕)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、人骨は確認できなかったが、遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第151号土坑(第238図)

位置 調査区南西部のK14f8区、標高8.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.80m、短軸1.32mの長方形で、長軸方向はN-38°-Eである。深さは14cmで、壁は外傾して立ち上がっている。南コーナー部及び西コーナー部に深さ10~20cmのピットを伴っている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 粘土ブロック中量 炭化物少量 焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋)が出土しているが、細片のため図示できない。その他、混入した須恵器片2点(高台付坏, 蓋)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、人骨は確認できなかったが、遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第156号土坑(第238図)

位置 調査区南西部のL16h3区, 標高12.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第78号住居跡を掘り込み, 第6号地下式坑, 第135号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西側が第135号土坑, 南側が第6号地下式坑に掘り込まれているため、遺存していたのは長軸0.90m, 短軸0.60mで、長軸方向がN-44°-Eの方形と推測される。深さは80cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量 4 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が出土しているが、細片のため図示できない。その他、混入した土師器片3点(坏1, 甕2)が覆土中から出土している。

所見 本跡は、人骨は確認できなかったが、遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は、出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第165号土坑(第238・240図)

位置 調査区南西部のL16i3区, 標高12.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第8・9号地下式坑, 第137号土坑を掘り込み, 第4号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東側が調査区域外に延びているため、確認できたのは長軸3.30m, 短軸1.58mで、長軸方向がN-27°-Wの長方形と推測される。深さは26cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む不自然なブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片12点(内耳鍋)が出土している。463は底面から出土している。その他、混入した土師器片8点(坏5, 甕3)が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第181号土坑（第238・240図）

位置 調査区南西部のL16d1区，標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.86m，短径1.24mの不整楕円形で，長径方向はN - 14° - Wである。底面は二段に掘り込まれており，深さは42cmで，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量，粘土ブロック微量 | 5 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿），陶器片1点（古瀬戸灰釉平椀），石製品1点（硯）が出土している。465・Q15は覆土中から出土している。その他，混入した土師器片8点（坏2，甕6）が覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から15世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第200号土坑（第239図）

位置 調査区北部のJ13e7区，標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第1号堀，第18号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.82m，短軸1.72mの方形で，長軸方向はN - 52° - Wである。深さは76cmで，外傾して立ち上がっている。

覆土 10層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックや炭化物を含む不自然なブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化物少量，焼土ブロック・ローム粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 8 黒褐色 炭化物少量，ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 5 褐色 粘土ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点（皿）が出土しているが，細片のため図示できない。その他，混入した土師器片31点（坏9，甕22），須恵器片10点（坏1，高台付坏2，蓋1，甕6）が覆土中から出土している。

所見 本跡は，人骨は確認できなかったが，遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性がある。時期は，出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。

第205号土坑（第239・240図）

位置 調査区南西部のL15h0区，標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸2.12m，短軸1.48mの長方形で，長軸方向はN - 43° - Eである。深さは28cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1 灰褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 黒褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
|----------------------------------|-----------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片7点(皿2, 小皿2, 播鉢2, 内耳鍋1)が出土している。466は覆土下層, 467は覆土中からそれぞれ出土している。その他, 混入した土師器片7点(坏1, 甕6), 須恵器片2点(坏)が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 人骨は確認できなかったが, 遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はある。時期は, 出土土器から15世紀後半と考えられる。

第239号土坑(第239図)

位置 調査区中央部のJ13i9区, 標高7.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.04m, 短径0.76mの楕円形で, 長径方向はN-50°-Wである。深さは18cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。含有物が小さく, レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が出土しているが, 細片のため図示できない。その他, 混入した土師器片8点(坏3, 甕5), 須恵器片2点(坏, 甕)が覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から15世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第327号土坑(第239・241図)

位置 調査区中央部のJ14i9区, 標高10.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長径0.98m, 短径0.62mの楕円形で, 長径方向はN-55°-Wである。深さは64cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。柱穴の柱痕跡及び埋土のような堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片1点(古瀬戸灰釉瓶子)が底面から出土している。

所見 本跡は, 柱穴状の土坑であるが, 建物や柵・塀のように他に並ぶものは確認することができなかった。時期は, 出土土器から15世紀前半と考えられる。

第350号土坑(第239・241図)

位置 調査区中央部のJ14f3区, 標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第4号住居跡を掘り込み, 第349・350号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.20m, 短軸1.62mの長方形で, 長軸方向はN-32°-Eである。深さは52cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。北西壁際中央部及び南コーナー部に深さ14~24cmのピットを伴っている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 陶器片 1 点(古瀬戸灰釉平椀)が覆土中から出土している。その他，混入した土師器片32点(甕)，須恵器片 3 点(坏 2，高台付坏 1)が覆土中から出土している。

所見 本跡は，遺構の形状や覆土の堆積状況から墓坑の可能性はあるが，長軸が 3 m を超えていることから墓坑としては規模が大きすぎ，性格は不明である。時期は，出土土器から 15 世紀前半と考えられる。

第384号土坑 (第239図)

位置 調査区南東部の L 16b9 区，標高 13.5m の河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.60m，短径 0.56m の円形である。深さは 46cm で，壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点(内耳鍋)が出土しているが，細片のため図示できない。

所見 時期は，出土土器から 15 世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第395号土坑 (第239・241図)

位置 調査区南東部の K 16j 8 区，標高 13.5m の河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.94m，短径 1.42m の不整楕円形で，長径方向は N - 10° - E である。深さは 22cm で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 ロームブロックを含む暗褐色土の単一層で埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|-----------|

遺物出土状況 土師質土器片 3 点(皿)，陶器片 1 点(古瀬戸灰釉平椀)が出土している。470 は覆土中層，471 は覆土中からそれぞれ出土している。その他，混入した土師器片 2 点(甕)，須恵器片 1 点(甕)が覆土中から出土している。

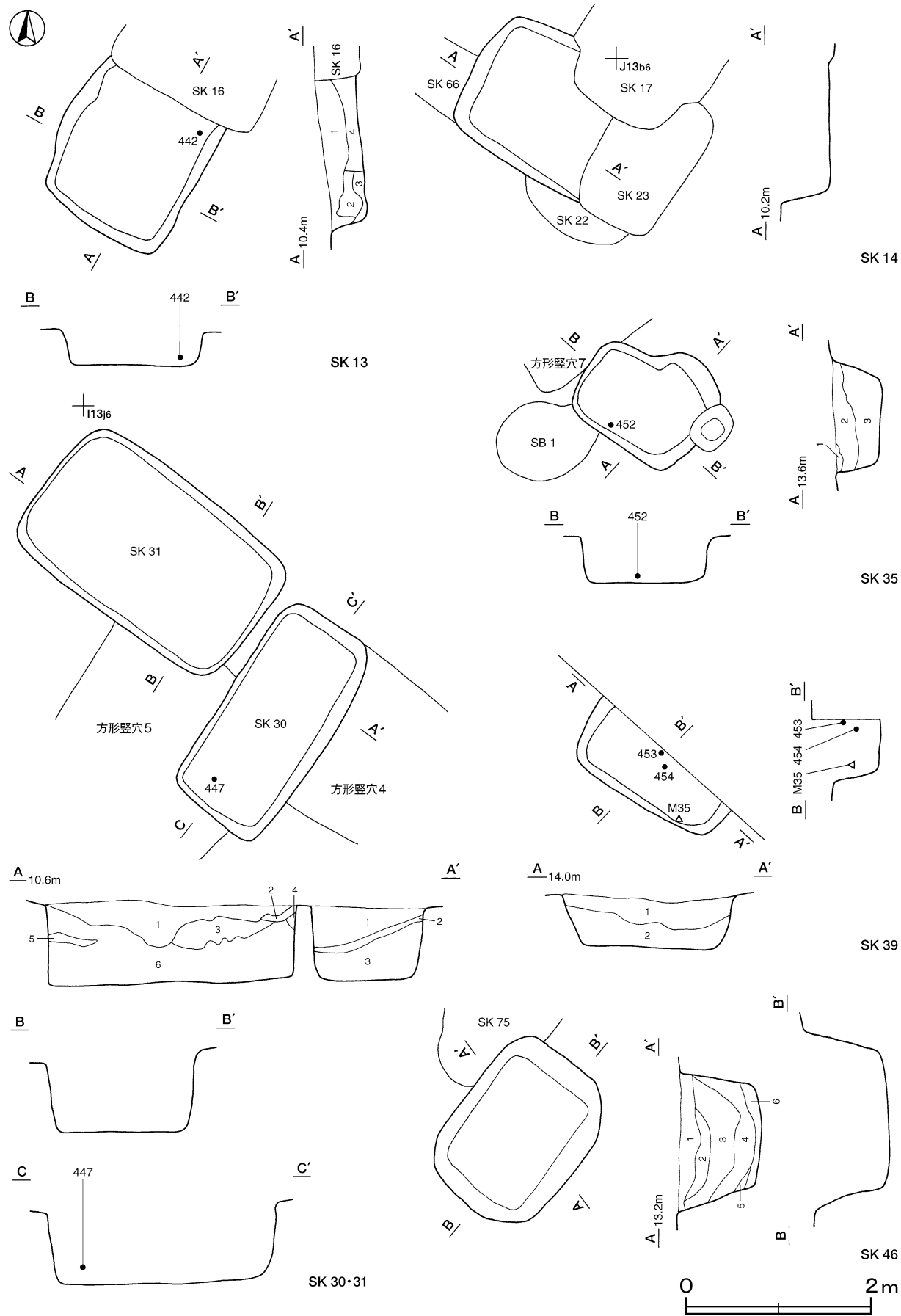
所見 時期は，出土土器から 15 世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第13号土坑出土遺物観察表 (第239図)

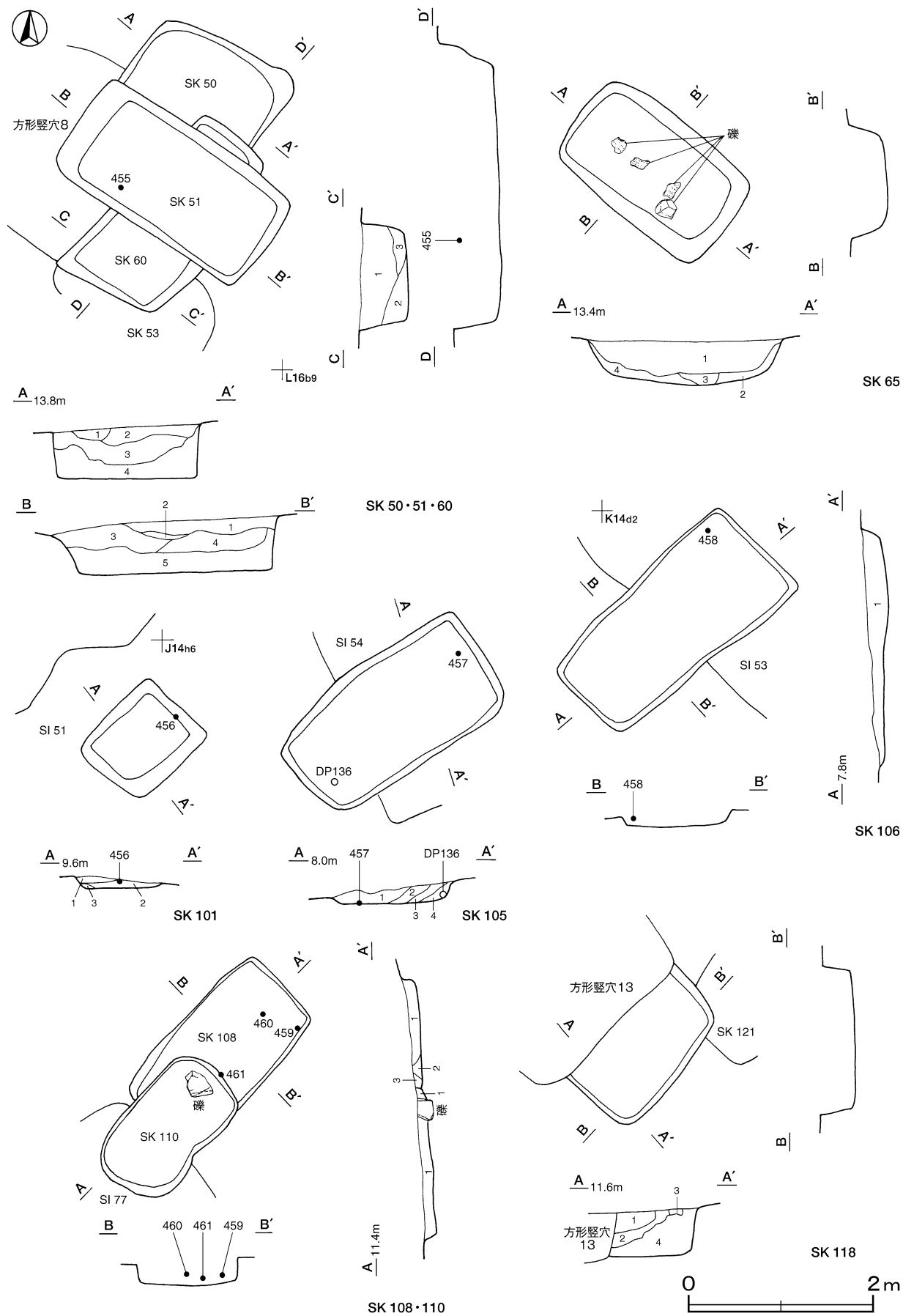
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
442	陶器	瓶子	-	(5.5)	[9.8]	緻密・長石	釉灰 ^{オレンジ} 胎土灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り 外面灰釉を施釉 II類	覆土下層	10% 古瀬戸後期
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴			出土位置	備考
Q 14	砥石	10.9	2.6	2.4	84.7	凝灰岩	砥面 4 面			覆土中	PL48

第30号土坑出土遺物観察表 (第239図)

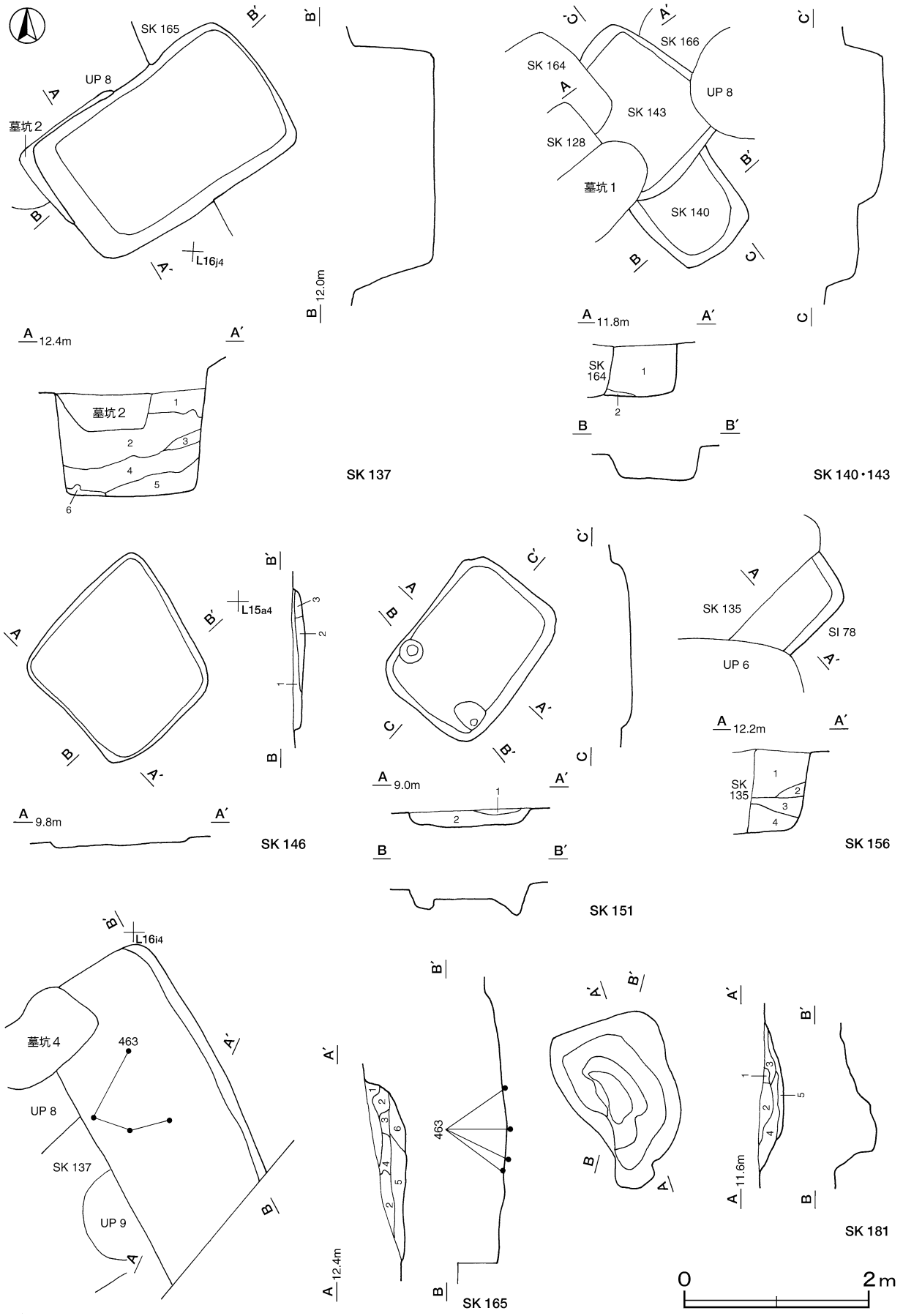
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
447	陶器	壺	-	(2.0)	[12.0]	長石・石英	灰黄褐	良好	体部下端縦位のヘラナデ 内面横位のヘラナデ	覆土下層	5% 常滑



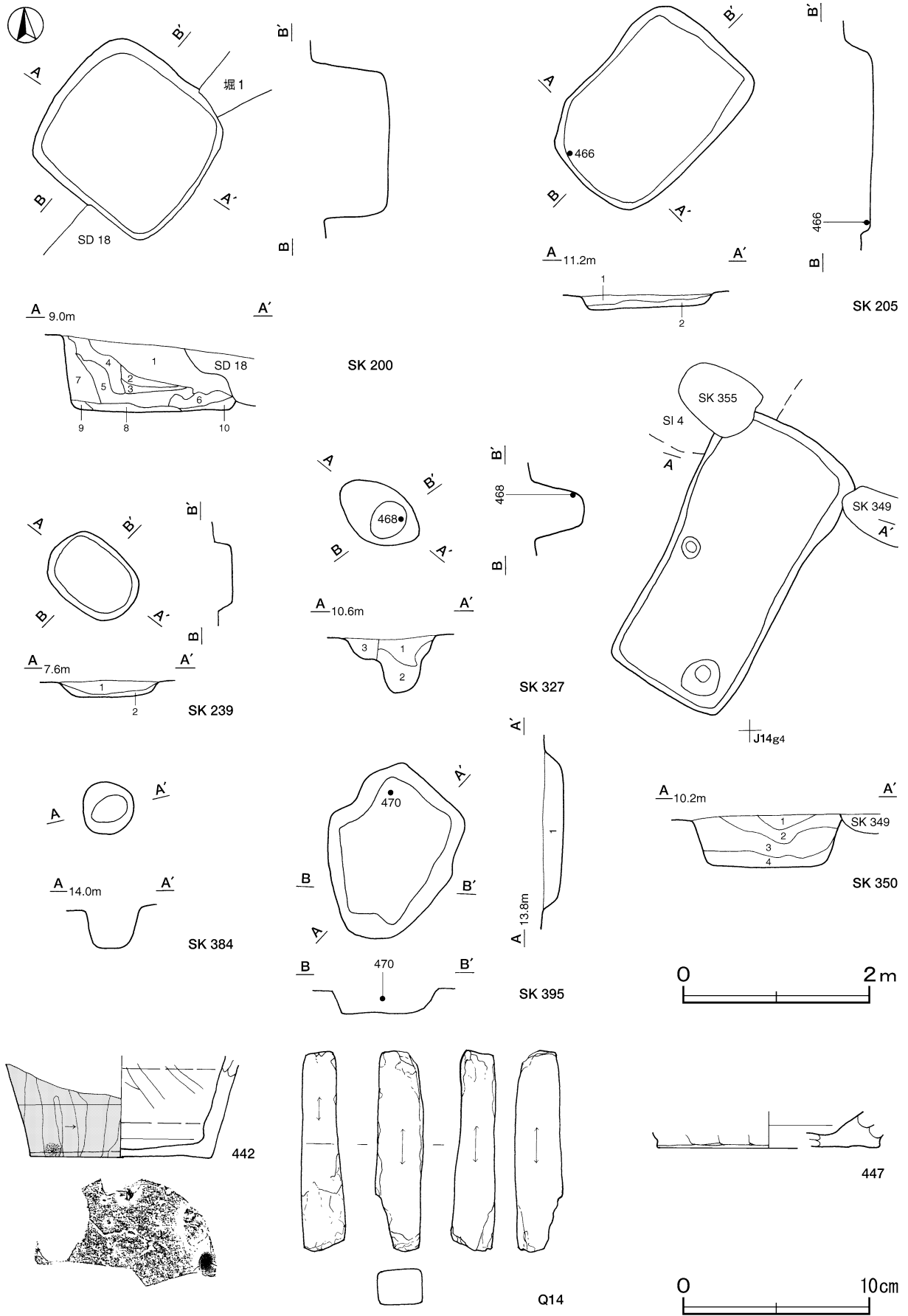
第236图 第13·14·30·31·35·39·46号土坑实测图



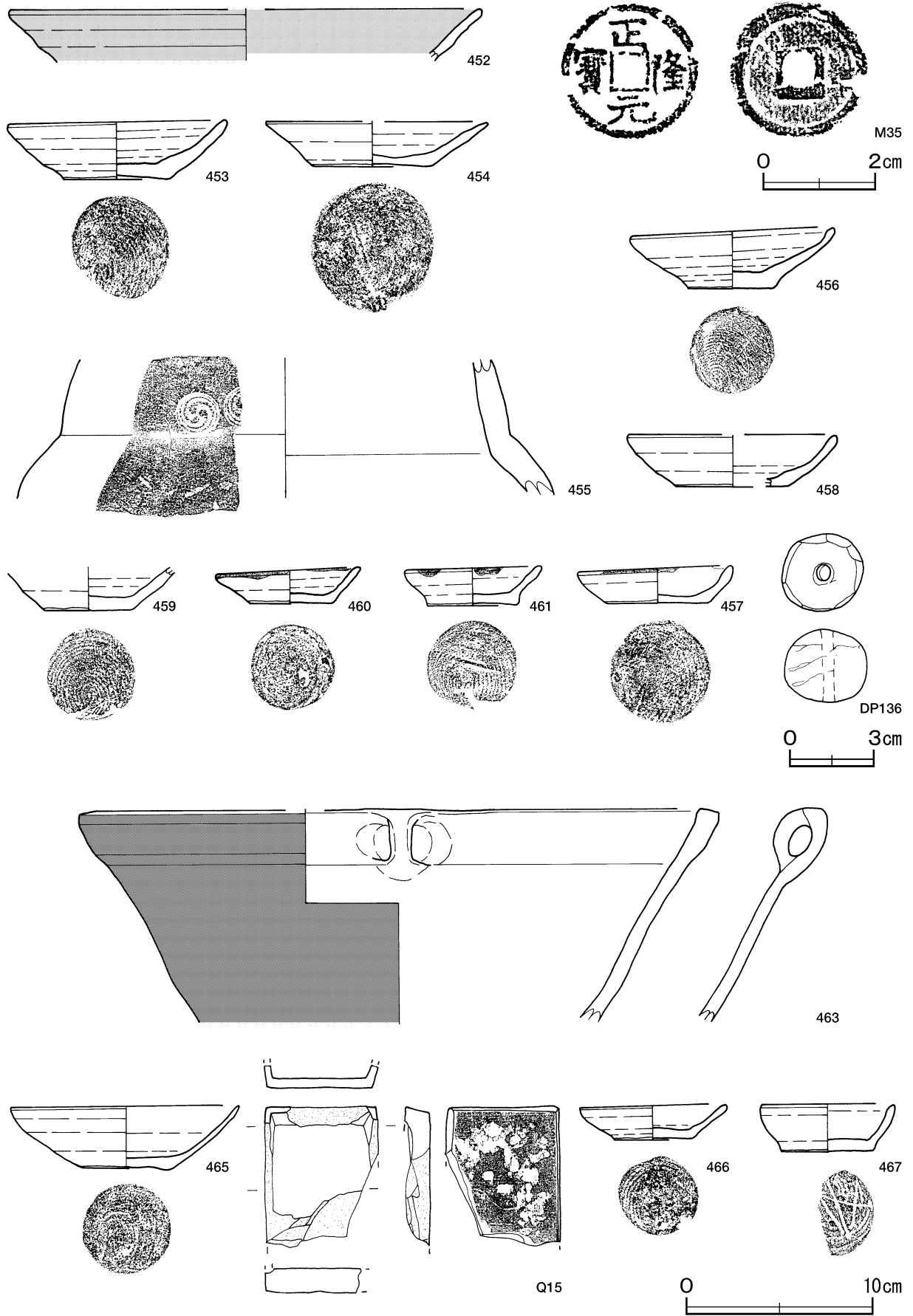
第237图 第50·51·60·65·101·105·106·108·110·118号土坑实测图



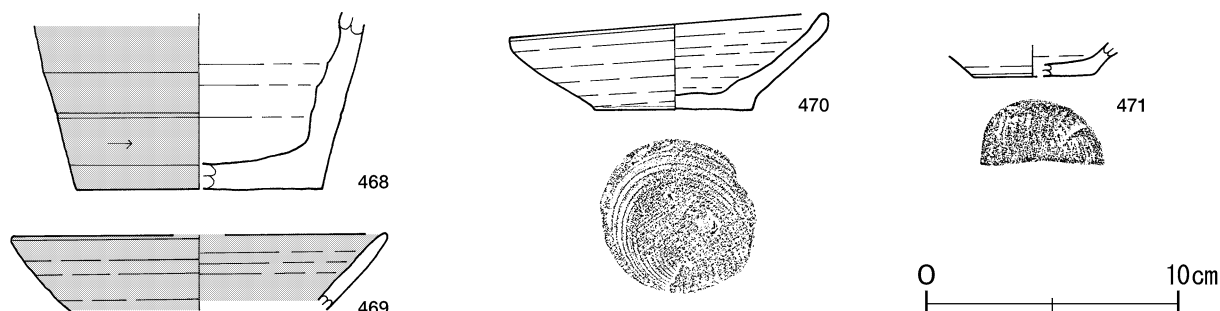
第238图 第137·140·143·146·151·156·165·181号土坑实测图



第239图 第200·205·239·327·350·384·395号土坑，第13·30号土坑出土遗物实测图



第240图 第35·39·51·101·105·106·108·165·181·205号土坑出土遺物実測図



第241図 第327・350・395号土坑出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
452	陶器	直縁大皿	[25.0]	(2.8)	-	緻密	釉浅黄 胎土浅黄	良好	内・外面灰釉を施釉	覆土下層	5% 古瀬戸後Ⅱ期

第39号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
453	土師質土器	皿	11.6	3.2	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 内底面周縁に沈線状のナデ	覆土上層	70% PL35
454	土師質土器	皿	[11.8]	2.4	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 底面に板目状圧痕	覆土中層	50%

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M35	正隆元寶	2.44	0.61	0.13	(1.78)	銅	1157	金銭 無背	覆土中層	

第51号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
455	土師質土器	茶釜	-	(7.5)	-	長石・石英・赤色粒子・針状磁物	黄灰	普通	体内内・外面横ナデ 体部上端に右三巴文の印花	覆土上層	5%

第101号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
456	土師質土器	皿	10.8	3.3	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り 内底面周縁に沈線状のナデ	覆土上層	80% PL35

第105号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
457	土師質土器	小皿	8.2	2.0	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り 口縁部内・外面油煙付着 灯明皿として使用	底面	100% PL35

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP136	球状土錘	3.0	2.6	0.4	19.6	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45

第106号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
458	土師質土器	皿	[11.2]	2.8	[6.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土上層	40%

第108号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
459	土師質土器	皿	-	(2.3)	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転系切り 内底面周縁に沈線状のナデ 底面に板目状圧痕	覆土下層	40%
460	土師質土器	小皿	7.6	2.0	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転系切り 内底面周縁に沈線状のナデ 口縁部内・外面油煙付着 灯明皿として使用	覆土下層	100% PL35
461	土師質土器	小皿	7.2	2.1	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転系切り 内底面周縁に沈線状のナデ 底面に板 目状圧痕 口縁部内・外面油煙付着 灯明皿として使用	覆土下層	95% PL35

第165号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
463	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	(11.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 内面横ナデ 口縁部上端に耳貼り付け	底面	20%

第181号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
465	土師質土器	皿	12.2	3.5	4.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転系切り	覆土中	40%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	硯	(7.6)	2.6	6.1	(89.1)	粘板岩	裏面に工具痕有り	覆土中	PL47

第205号土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
466	土師質土器	小皿	7.8	1.9	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転系切り 内底面周縁に沈線状のナデ	覆土下層	100% PL35
467	土師質土器	小皿	[7.0]	2.5	[5.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転系切り 内底面周縁に沈線状のナデ 底面に板目状圧痕	覆土中	40%

第327号土坑出土遺物観察表（第241図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
468	陶器	瓶子	-	(7.0)	[9.8]	緻密	釉灰オリーブ 胎土浅黄橙	良好	体部下端回転ヘラ削り 外面灰釉を施釉 II類	底面	10% 古瀬戸後期

第350号土坑出土遺物観察表（第241図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
469	陶器	平椀	[14.8]	(3.0)	-	緻密・長石	釉浅黄 胎土浅黄橙	良好	内・外面灰釉を施釉	覆土中	5% 古瀬戸後II期

第395号土坑出土遺物観察表（第241図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
470	土師質土器	皿	12.6	3.8	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転系切り 内底面周縁に沈線状のナデ	覆土中層	95% PL35
471	土師質土器	皿	-	(1.3)	[4.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転系切り	覆土中	20%

表16 土坑一覧表

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)	
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)							
13	J13a6	N - 32° - E	[方形]	(1.60) ×	1.62	38	平坦	外傾	人為	陶器, 砥石	15世紀前半	本跡→SK16
14	J13b5	N - 59° - W	[方形]	(1.60) ×	1.54	50	平坦	外傾	-	陶器	15世紀前半	SK22・66→本跡→SK17・23

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
30	I13j6	N-33°-E	長方形	2.48 × 1.24	82	平坦	外傾	人為	土師質土器 陶器	15世紀後半	方形竪穴4・5→本跡
31	I13j6	N-53°-W	長方形	2.72 × 1.70	88	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	方形竪穴5→本跡
35	K16j7	N-57°-W	不整長方形	1.44 × 1.24	56	平坦 ピット有	外傾	人為	陶器	15世紀後半	SB1, 方形竪穴7→本跡
39	K16j9	N-54°-W	[方形]	1.70 × (0.70)	58	平坦	外傾	人為	土師質土器 古銭	15世紀後半	
46	K16j6	N-39°-E	長方形	1.90 × 1.42	86	平坦	外傾	人為	土師質土器, 陶器 鉄滓	15世紀後半	SK75→本跡
50	L16a8	N-35°-W	[方形]	1.62 × (1.00)	60	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	方形竪穴8→本跡→SK51・60
51	L16a8	N-56°-W	長方形	2.46 × 1.22	56	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	方形竪穴8, SK50・60→本跡
60	L16a8	N-43°-E	長方形	2.28 × 1.16	54	平坦	外傾	人為	土師質土器 鉄滓	15世紀後半	方形竪穴8, SK50・53→本跡→SK51
65	K16g4	N-50°-W	長方形	2.02 × 1.22	36	平坦	外傾	人為	土師質土器 礫	15世紀後半	SB8→本跡
101	J14h5	N-45°-E	長方形	1.10 × 0.96	14	平坦	外傾	自然	土師質土器	15世紀後半	SI51→本跡
105	K14b3	N-56°-E	長方形	2.44 × 1.30	20	平坦	外傾	人為	土師質土器 球状土錘	15世紀後半	SI54→本跡
106	K14d2	N-53°-E	長方形	2.58 × 1.30	16	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	SI53→本跡
108	L16j1	N-45°-E	長方形	2.02 × 1.12	24	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	本跡→SK110
110	L16j1	N-42°-E	長方形	1.66 × 0.94	14	平坦	外傾	人為	土師質土器 礫	15世紀後半	SI77, SK108→本跡
118	L16h2	N-40°-E	[方形]	1.70 × (0.90)	50	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀前半	SK121→本跡→方形竪穴13
137	L16i3	N-53°-E	長方形	2.60 × 1.66	104	平坦	外傾	人為	土師質土器 陶器	15世紀後半	UP8・9→本跡→墓坑2, SK165
140	L16j3	N-37°-W	[方形]	1.06 × (1.00)	34	平坦	外傾	-	土師質土器	15世紀後半	本跡→墓坑1, SK143
143	L16i3	N-55°-W	[方形]	1.66 × (1.20)	50	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	SK140・166→本跡→UP8 墓坑1, SK128・164
146	L15a3	N-43°-W	方形	1.70 × 1.66	10	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	
151	K14f8	N-38°-E	長方形	1.80 × 1.32	14	平坦 ピット有	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	
156	L16h3	N-44°-E	[方形]	(0.90) × (0.60)	80	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀前半	SI78→本跡→UP6, SK135
165	L16i3	N-27°-W	[長方形]	(3.30) × (1.58)	26	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	UP8・9, SK137→本跡→墓坑4
181	L16d1	N-14°-W	不整楕円形	1.86 × 1.24	42	二段	緩斜	人為	土師質土器 陶器	15世紀後半	
200	J13e7	N-52°-W	方形	1.82 × 1.72	76	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀前半	本跡→堀1, SD18
205	L15h0	N-43°-E	長方形	2.12 × 1.48	28	平坦	外傾	人為	土師質土器	15世紀後半	
239	J13i9	N-50°-W	楕円形	1.04 × 0.76	18	平坦	外傾	自然	土師質土器	15世紀後半	
327	J14i9	N-55°-W	楕円形	0.98 × 0.62	64	平坦	外傾	人為	陶器	15世紀前半	
350	J14f3	N-32°-E	長方形	3.20 × 1.62	52	平坦 ピット有	外傾	人為	陶器	15世紀前半	SI4→本跡→SK349・355
384	L16b9	-	円形	0.60 × 0.56	46	平坦	外傾	-	土師質土器	15世紀後半	
395	K16j8	N-10°-E	不整楕円形	1.94 × 1.42	22	平坦	緩斜	人為	土師質土器 陶器	15世紀後半	

(8) 井戸跡

第3号井戸跡(第242図)

位置 調査区中央部のK14a9区で、標高9.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第33・38号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.12m, 短軸1.08mの円形である。確認面から円筒状に掘り下げられているが、深さ1.80mほどで崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積しているが、ロームブロックを多く含んでいる層が多いことから埋め戻されたものとみられる。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 | 3 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片14点(甕), 須恵器片1点(高台付坏), 陶器片1点(常滑甕)が覆土中から出土している。

所見 形状から素掘りの井戸とみられる。重複関係や出土土器から中世に廃絶したと考えられる。

第4号井戸跡(第242図)

位置 調査区東部のM15a9区で, 標高10.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第55・56号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.20m, 短径1.02mの楕円形で, 長径方向はN - 37° - Eである。確認面から円筒状に掘り下げられているが, 深さ1.30mほどで崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 黒色 | ロームブロック・炭化物中量, 粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック多量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片24点(坏11, 甕13), 須恵器片5点(高坏1, 甕4), 灰釉陶器片1点(長頸瓶)が覆土中から出土している。

所見 形状から素掘りの井戸とみられる。重複関係から中世に廃絶したと考えられる。

第5号井戸跡(第243図)

位置 調査区中央部のK14j9区で, 標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸0.88m, 短軸0.84mの方形である。確認面から垂直に掘り下げられているが, 深さ2.95mほどで湧水のため, 下部の調査を断念した。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積しているが, 粘土ブロックを含んでいる層が多いことから埋め戻されたものとみられる。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------------|------|------------------|
| 1 黒色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | 3 黒色 | 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片26点(坏2, 甕24), 須恵器片5点(甕), 灰釉陶器片4点(長頸瓶), 木片1点, 礫1点が覆土中から出土している。

所見 形状から素掘りの井戸とみられる。遺構の形状から中世に廃絶したと考えられる。

第6号井戸跡(第243・244図)

位置 調査区中央部のK14i9区で, 標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長径1.62m, 短径1.38mの楕円形で, 長径方向はN - 88° - Eである。確認面から円筒状に掘り下げられているが, 深さ2.51mほどで崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

覆土 6層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | 炭化物少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量, 粘土ブロック微量 | 6 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片34点(甕), 須恵器片16点(甕), 土師質土器片46点(内耳鍋), 陶器片3点(瀬戸皿1, 瓶子2), 礫12点が出土している。473は覆土中から出土している。

所見 形状から素掘りの井戸とみられる。廃絶時期は, 出土遺物から15世紀代と考えられる。

第7号井戸跡(第243図)

位置 調査区中央部のJ14j5区で, 標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸1.44m, 短軸1.36mの円形である。確認面から円筒状に掘り下げられているが, 深さ1.72mほどで崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

覆土 8層に分層できる。各層に粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	5 褐色	粘土ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	粘土ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量, 粘土ブロック少量

遺物出土状況 陶器片1点(常滑甕)が覆土中から出土している。

所見 形状から素掘りの井戸とみられる。出土土器から中世に廃絶したと考えられる。

第8号井戸跡(第243図)

位置 調査区西部のJ13d8区で, 標高9.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第1号堀に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.22m, 短径1.12mの円形である。確認面から円筒状に掘り下げられているが, 深さ1.23mほどで崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積しているが, 粘土ブロックや焼土ブロックを多く含んでいる層が多いことから埋め戻されたものとみられる。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量	4 黒褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量	5 暗褐色	炭化物中量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
3 暗褐色	炭化物中量, 粘土ブロック・焼土粒子少量	6 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片10点(高台付皿1, 甕9), 須恵器片6点(坏5, 高台付坏1), 灰釉陶器片1点(鉢)が覆土中から出土している。

所見 形状から素掘りの井戸とみられる。重複関係から中世に廃絶したと考えられる。

第9号井戸跡(第244図)

位置 調査区西部のJ13c8区で, 標高10.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第1号堀に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.45m, 短軸0.96mの楕円形で, 長径方向はN-36°-Eである。確認面から円筒状に掘り下げられているが, 深さ2.05mほどで崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積しているが, 各層にロームブロックを多く含んでいる層が多いことから埋め戻されたものとみられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片14点(甕), 須恵器片7点(坏5, 高台付椀1, 高盤1)が覆土中から出土している。

所見 形状から素掘りの井戸とみられる。重複関係から中世に廃絶したと考えられる。

第10号井戸跡 (第244図)

位置 調査区東部のK15i7区で, 標高10.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第110号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.47m, 短径1.42mの円形である。確認面から円筒状に掘り下げられているが, 深さ1.55mほどで崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

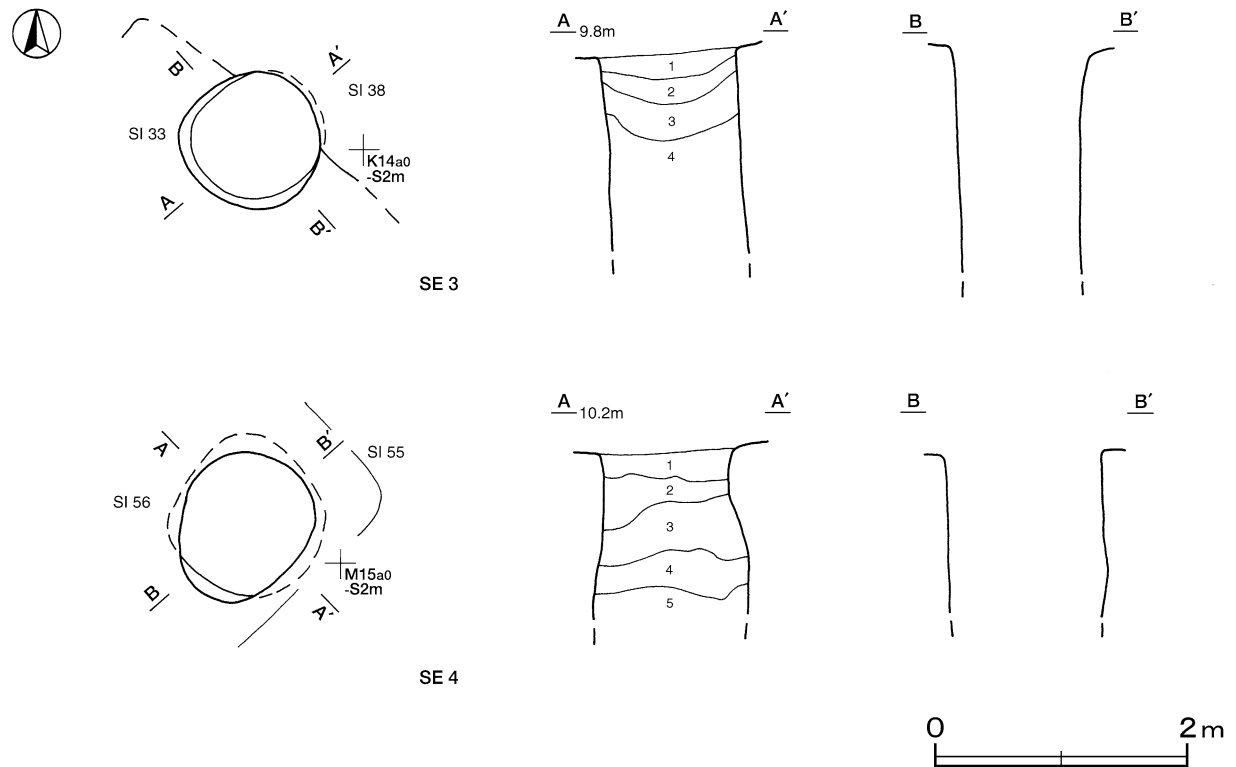
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積しているが, ロームブロックを多く含んでいる層が多いことから埋め戻されたものとみられる。

土層解説

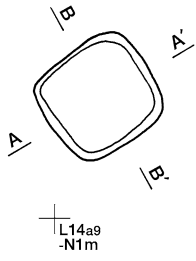
- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片4点(坏1, 甕3), 須恵器片2点(坏, 甕), 灰釉陶器片1点(椀)が覆土中から出土している。

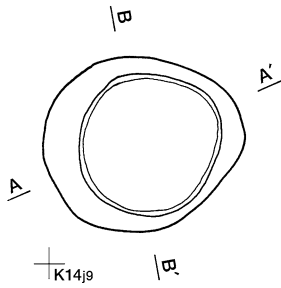
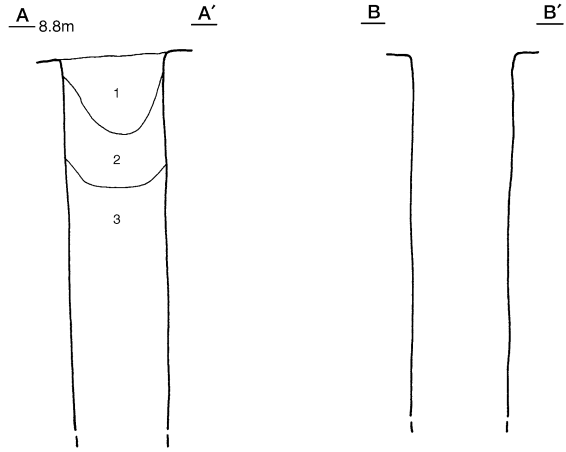
所見 形状から素掘りの井戸とみられる。重複関係から中世に廃絶したと考えられる。



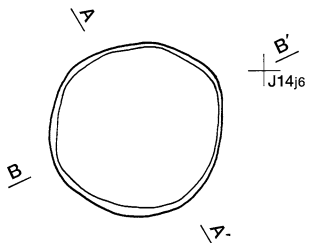
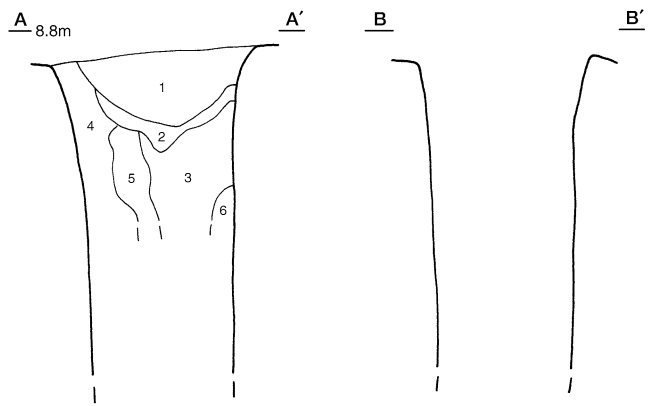
第242図 第3・4号井戸跡実測図



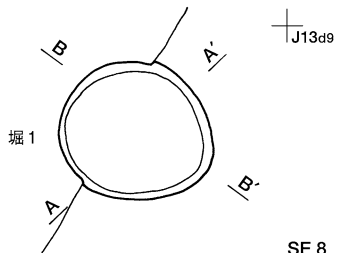
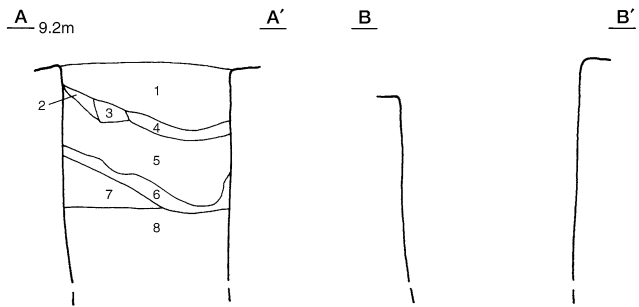
SE 5



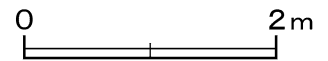
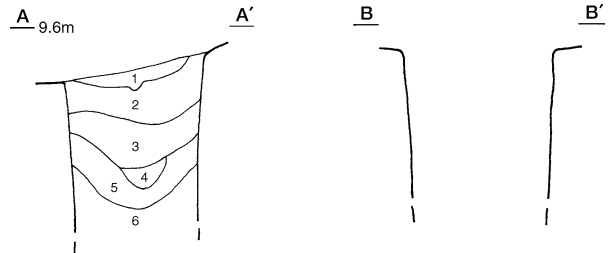
SE 6



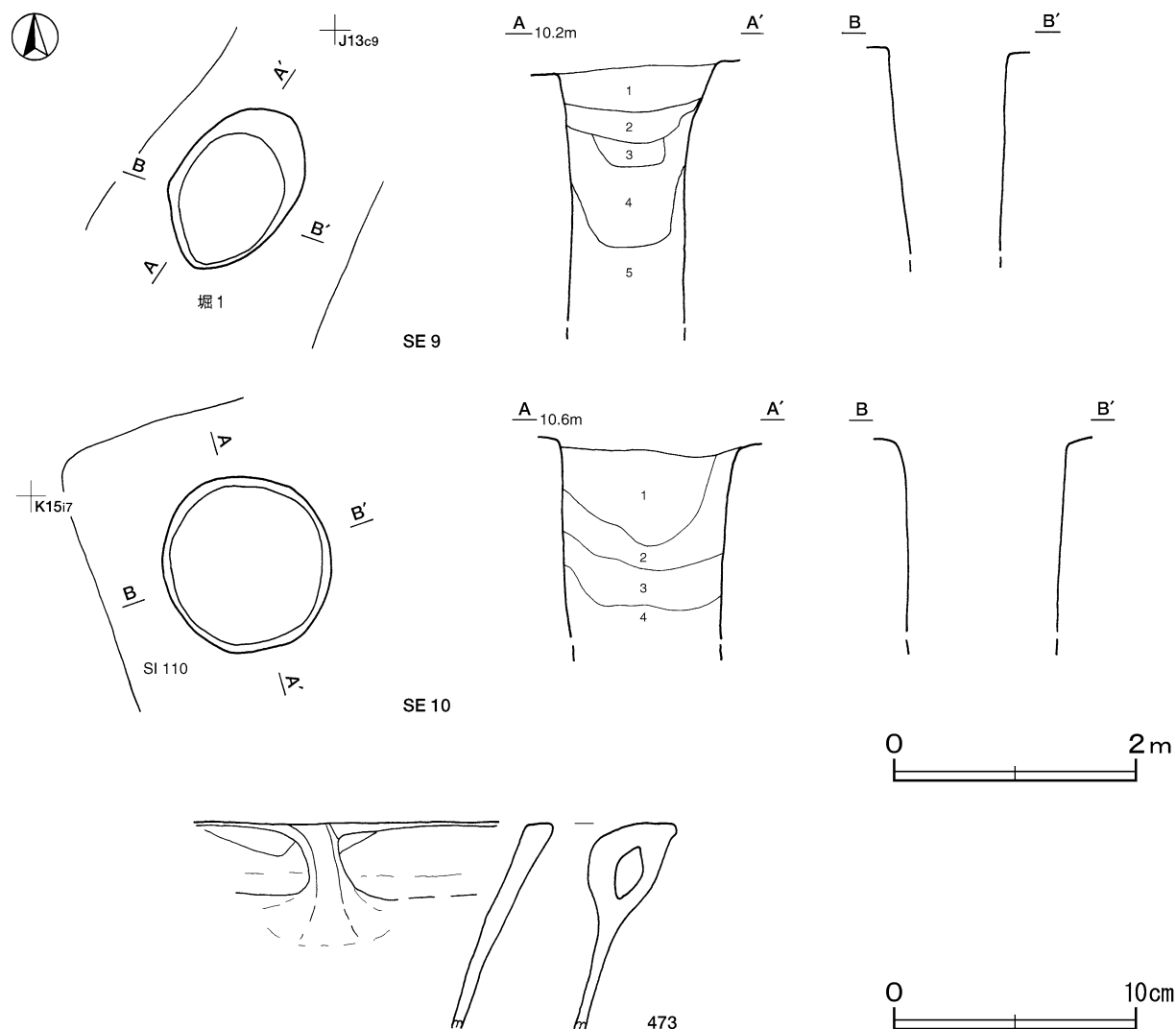
SE 7



SE 8



第243图 第5~8号井戸跡実測图



第244図 第9・10号井戸跡，第6号井戸跡出土遺物実測図

第6号井戸跡出土遺物観察表（第244図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
473	土師質土器	内耳鍋	[38.4]	(8.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	1内耳残存 内面横ナデ	覆土中	5%

表17 井戸跡一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
3	K14a9	-	円形	1.12 × 1.08	(180)	円筒	-	人為	土師器 須恵器 陶器	S133・38→本跡
4	M15a9	N - 37° - E	楕円形	1.20 × 1.02	(130)	円筒	-	人為	土師器 須恵器 灰釉陶器	S155・56→本跡
5	K14j9	-	方形	0.88 × 0.84	(295)	垂直	-	人為	土師器 須恵器 灰釉陶器	
6	K14i9	N - 88° - E	楕円形	1.62 × 1.38	(251)	円筒	-	人為	土師器 須恵器 陶器, 土師質土器	
7	J14j5	-	円形	1.44 × 1.36	(172)	円筒	-	人為	陶器	
8	J13d8	-	円形	1.22 × 1.12	(123)	円筒	-	人為	土師器 須恵器 灰釉陶器	本跡→堀1
9	J13c8	N - 36° - E	楕円形	1.45 × 0.96	(205)	円筒	-	人為	土師器 須恵器	本跡→堀1
10	K15i7	-	円形	1.47 × 1.42	(155)	円筒	-	人為	土師器 須恵器 灰釉陶器	S1110→本跡

(9) 堀跡

第1号堀跡 (第245~247図, 付図)

位置 調査区北西部 I 14h1 ~ J 13h5区, 標高8.0~14.0mの河岸段丘下位~中位の傾斜部に位置している。

確認状況 北端は標高14mの高位に位置し, その北側は調査区域外の台地上に続くものと考えられる。南端は標高8mの低位に位置し, その南側は調査区域外へ延びている。I 14j0区で表土が削平されて急な段差(比高差3m)となっている。

重複関係 第8・9号井戸跡, 第8号溝跡, 第200・325号土坑を掘り込み, 第18号溝, 第201・202・238号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北方向(N-28°-E)に直線的に延びている。北端と南端が調査区域外に延びており, 確認された長さは46.70mで, 上幅0.76~4.38m, 下幅0.14~0.90mである。深さは32~160cmで, 断面形はU字状である。北端と南端の底面には5.0mほどの標高差があり, 北から南に向かって傾斜している。

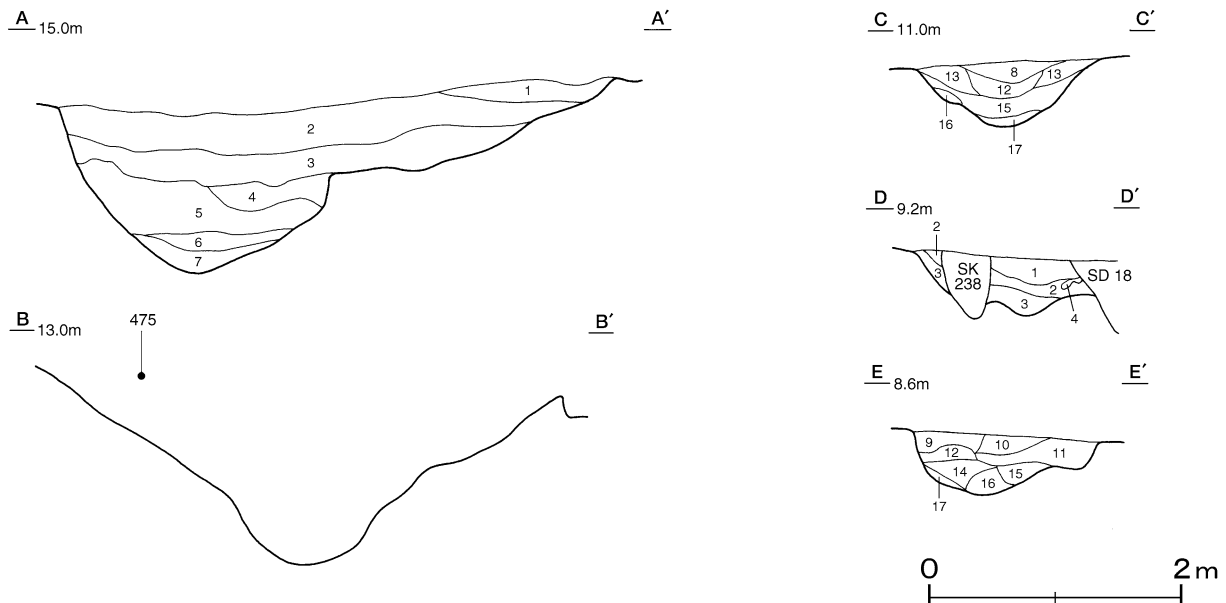
覆土 17層に分層できる。各層にロームを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

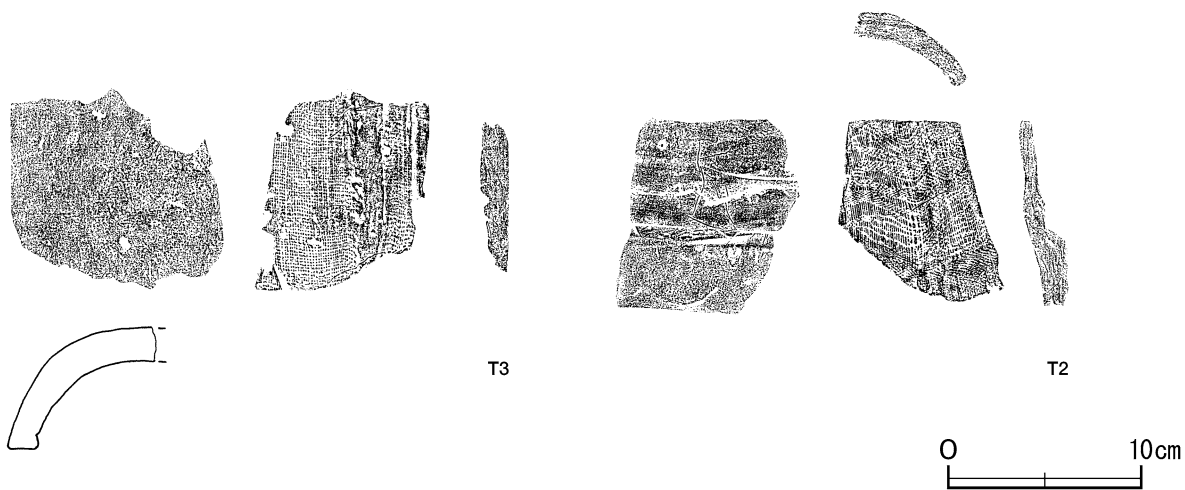
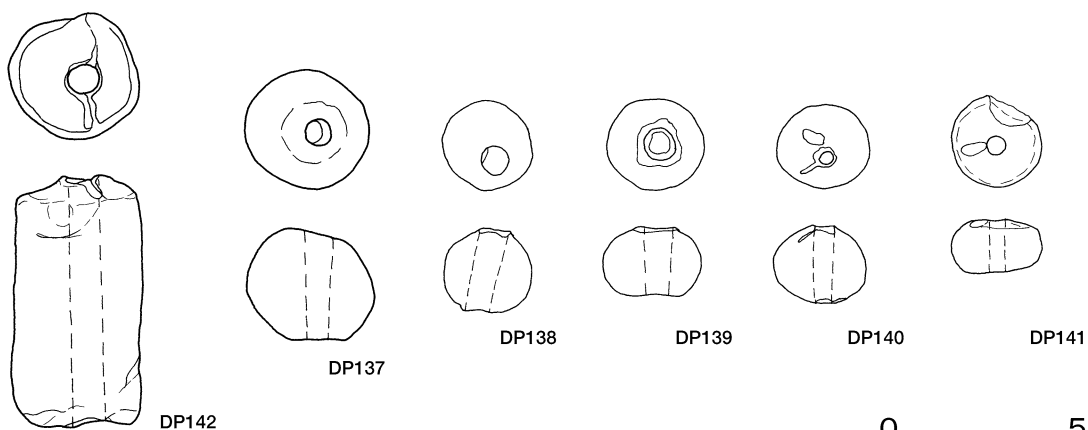
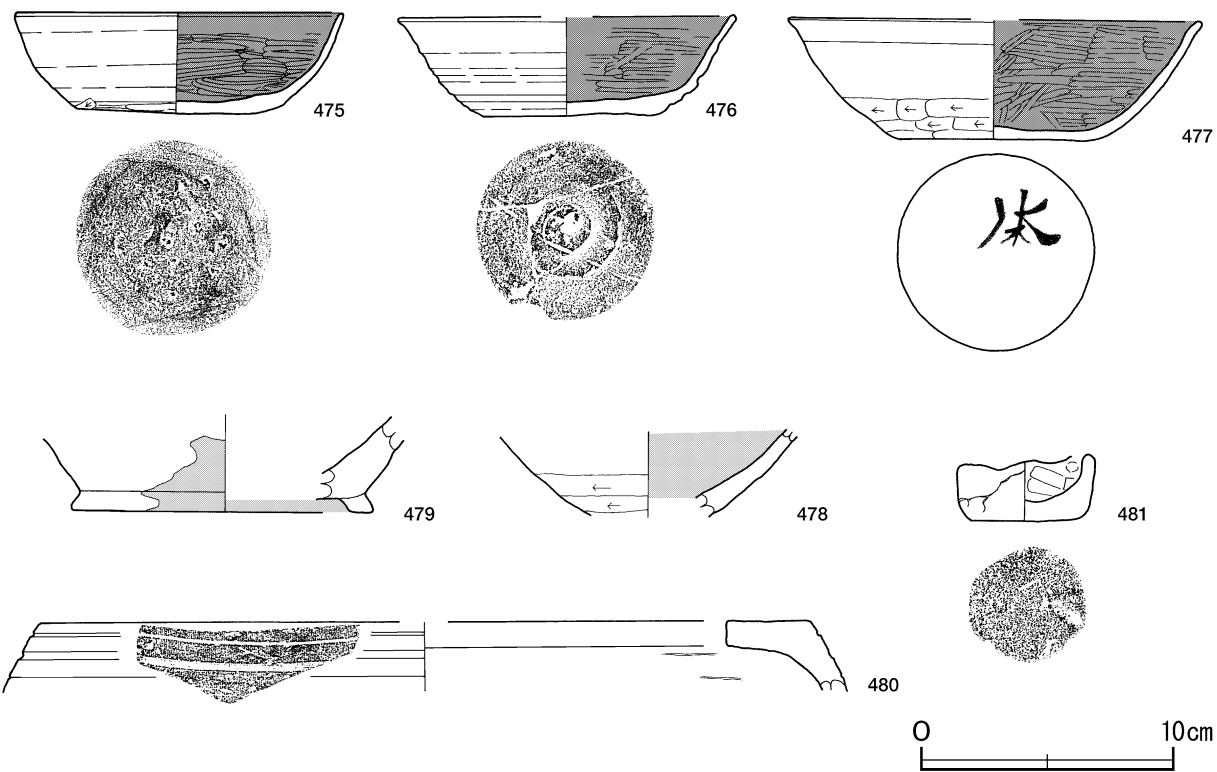
- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|------------------------|
| 1 黄褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | 砂質粘土中量, ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | 炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | 細礫中量, 炭化物微量 | 14 にぶい黄褐色 | 砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 にぶい黄褐色 | 細礫中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 灰黄褐色 | 砂粒中量, 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 16 にぶい黄褐色 | 砂粒多量 |
| | | 17 にぶい黄褐色 | 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片5点(内耳鍋4, 置電カ1), 陶器片7点(椀3, 甕4), 鉄製品3点(刀子2, 釘1), 土製品7点(球状土錘5, 管状土錘1, 支脚1)が出土している。その他, 流れ込んだ土師器片1,063点, 須恵器片611点, 縄文土器片4点, 灰釉陶器片3点, 瓦片21点も出土している。478は北部の覆土中から出土しており, 時期決定の指標となる土器である。

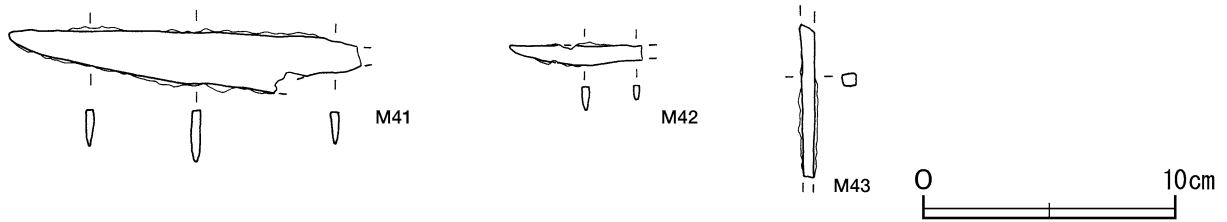
所見 規模と形状から, 防御施設としての機能が想定されるが, 明確ではない。時期は, 出土土器と重複関係から中世後半と考えられる。



第245図 第1号堀跡実測図



第246图 第1号掘跡出土遺物実測図(1)



第247図 第1号堀跡出土遺物実測図(2)

第1号堀跡出土遺物観察表(第246・247図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
475	土師器	坏	12.9	4.2	8.1	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り痕を残す多方向のヘラ削り	覆土上層	90% PL28
476	土師器	坏	[13.2]	4.0	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	覆土中	40%
477	土師器	坏	[16.2]	4.8	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り 墨書 ^カ 承 ^カ	覆土中	60% PL28・43
478	陶器	平椀	-	(3.4)	-	緻密	釉オリーブ灰胎土浅黄	良好	内面施釉 見込みに砂目痕	覆土中	5%
479	灰釉陶器	長頸瓶	-	(3.9)	[12.0]	長石	釉黄灰胎土にぶい黄橙	良好	底部高台貼り付け 体部外面と底部に施釉	覆土中	10%
480	土師質土器	置籠カ	[30.6]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	中央部に径24cmほどの孔有り 横位二条の沈線	覆土中	5%
481	土師器	手捏土器	4.9	2.7	4.5	長石・石英	橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土中	95%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP137	球状土錘	3.2	3.0	0.7	28.5	長石・石英・雲母	ナデ 穿孔部を平坦に研磨	覆土中	PL46
DP138	球状土錘	2.4	2.2	0.8	11.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL46
DP139	球状土錘	2.6	1.8	0.8	12.0	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL46
DP140	球状土錘	2.5	2.0	0.5	10.4	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL46
DP141	球状土錘	2.3	1.4	0.4	(7.5)	長石・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP142	管状土錘	6.6	3.4	0.8	79.2	長石・雲母・赤色粒子	ナデ一方向からの穿孔	覆土中	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M41	刀子	(13.9)	2.5	0.3	(24.5)	鉄	茎部欠損 刃閉	覆土中	PL49
M42	刀子	(5.2)	0.8	0.3	(2.5)	鉄	刃部・茎部欠損	覆土中	PL49
M43	釘	(6.0)	0.5	0.5	(5.4)	鉄	断面方形 頭部・先端部欠損	覆土中	PL49

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T 2	丸瓦	(9.7)	(8.3)	2.3	(210.0)	長石・石英・黒色粒子	凹面布目痕 凸面横位にヘラナデ 側面ヘラ削り	覆土中	PL50
T 3	丸瓦	(11.4)	(7.6)	1.8	(272.0)	長石・石英・赤色粒子	凹面布目痕 凸面縦位にヘラナデ 側面ヘラ削り 二次焼成	覆土中	PL50

(10) 溝跡

第9号溝跡(第248図, 付図)

位置 調査区中央部 J 15g1 ~ K 14a9区, 標高10.0~11.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第38・44号住居跡, 第2号地下式坑, 第82・83・93・94・103号土坑を掘り込み, 第1号火葬土坑, 第86号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北方向(N-28°-E)に直線的に伸びている。北端が調査区域外に伸びており, 南端は第38号住居跡の東壁を掘り込んでいるが, 延長上の西壁には掘り込みの痕跡が見られないことから同住居跡の中で立ち上がっているものと推測される。確認された長さは15.00mで, 上幅0.82~1.45m, 下幅0.72~1.14mで

ある。深さは28～37cmで、断面形は逆台形である。南端と北端の底面には60cmの標高差があり、北から南に向かって傾斜している。

覆土 10層に分層できる。各層にロームを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|---------|-----------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量,炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 明黄褐色 | ロームブロック多量,炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 10 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子・細礫多量,ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿2,内耳鍋4),陶器片3点(椀2,常滑甕1),土製品1点(球状土錘),粘土塊2点が出土している。その他,流れ込んだ土師器片134点,須恵器片19点も出土している。483・484,TP5は中央部の覆土下層から底面にかけて出土しており,時期決定の指標となる土器である。

所見 時期は,出土土器と重複関係から中世後半と考えられる。

第14号溝跡(第248・249図,付図)

位置 調査区中央部K14e8～K14h4区,標高8.0～8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第97・99号住居跡を掘り込み,第406号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東から南西方向(N-54°-E)に直線的に延びている。南西端は調査区域外に延びており,確認された長さは17.74mで,上幅0.16～2.99m,下幅0.08～0.38mである。深さは31～70cmで,断面形は北端部がU字状で,中央部から南西端部にかけて底面が一段低く掘り込まれている。

覆土 8層に分層できる。各層にロームや炭化粒子を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量,粘土ブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 砂粒多量,炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量,炭化粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | 砂粒多量,粘土ブロック・炭化粒子少量,焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿1,内耳鍋2),陶器片1点(椀),瓦片1点(平瓦),土製品1点(球状土錘),鉄製品1点(刀子),鉄滓2点が出土している。その他,流れ込んだ土師器片441点,須恵器片330点,灰釉陶器片3点も出土している。486は南部の覆土中から出土しており,時期決定の指標となる土器である。

所見 北東端で途切れているが,延長上に同方向に延びる第16号溝が存在しており,本来は同一溝であった可能性がある。時期は,出土土器から中世後半と考えられる。

第16号溝跡(第248・249図,付図)

位置 調査区中央部K15a5～K14e9区,標高10.5～11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第104号住居跡を掘り込み,第10号溝,第411号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東から南西方向(N-55°-E)に直線的に延びている。長さは31.38mで,上幅0.72～1.60m,下幅0.36～0.80mである。深さは36～58cmで,断面形はU字状である。底面はほぼ平坦であるが,K15b4区・K15c2区・K14d0区の3か所に段状の掘り込みが認められる。南端と北端の底面は2.5mの標高差があり,北東から南西に向かって傾斜している。

覆土 4層に分層できる。各層にロームを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

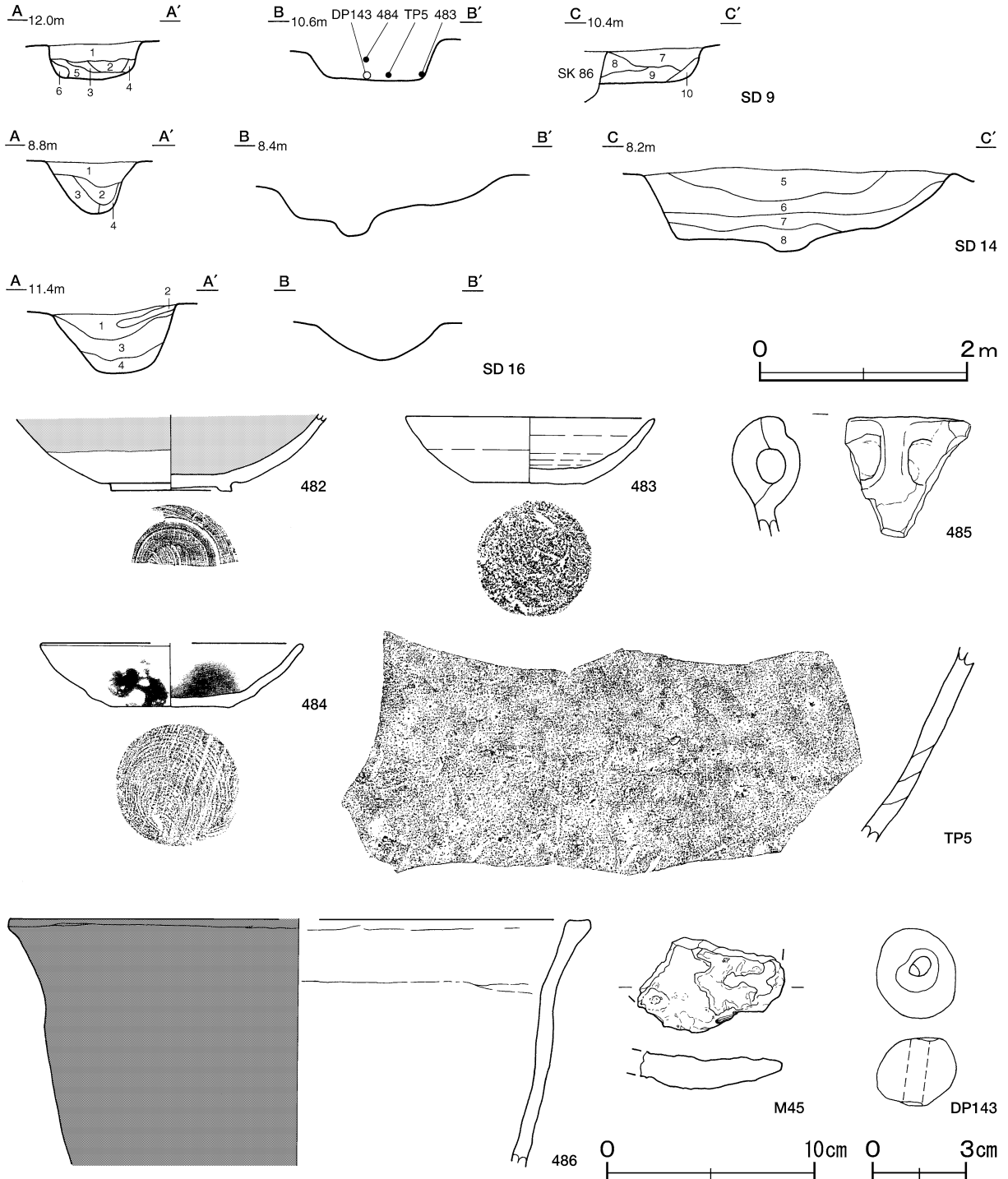
土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・砂粒少量

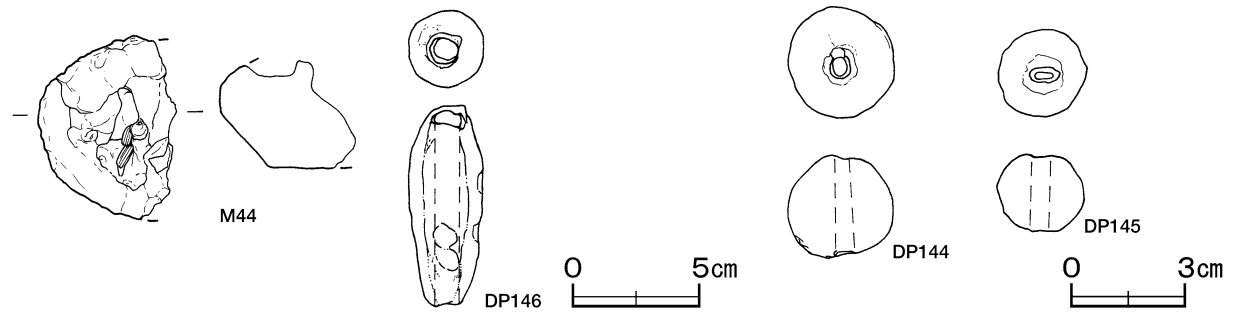
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋), 陶器片2点(甕), 土製品5点(支脚1, 球状土錘3, 管状土錘1), 鉄製品1点(釘)が出土している。その他, 流れ込んだ土師器片468点, 須恵器片178点, 手捏土器片4点, 縄文土器片3点も出土している。

所見 南西端で途切れているが, 延長上に同方向に延びる第14号溝が存在しており, 本来は同一溝であった可能性がある。時期は, 出土土器から中世後半と考えられる。



第248図 第9・14・16号溝跡・出土遺物実測図



第249図 第14・16号溝跡出土遺物実測図

第9号溝跡出土遺物観察表(第248図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
482	陶器	平椀	-	(3.7)	[6.8]	緻密	釉浅黄 胎土浅黄	良好	内・外面施釉 内面に砂目痕 底部回転糸切り後高台削り出し	覆土中	10%
483	土師質土器	皿	12.0	3.2	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部糸切り痕	覆土下層	60%
484	土師質土器	皿	[12.5]	3.0	5.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り痕と箕子状圧痕 二次焼成	覆土中層	60%
485	土師質土器	内耳鍋	-	(5.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内耳貼り付け	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	陶器	甕	長石・雲母・細礫	にぶい赤褐	良好	体部外面八ヶ目調整後, ナデ	覆土下層	常滑

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP143	球状土錘	2.2	2.5	0.6	14.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL45

第14号溝跡出土遺物観察表(第248・249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
486	土師質土器	内耳鍋	[27.8]	[11.9]	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	耳部欠損 ロク口成形	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M44	鉄滓	7.3	(5.5)	4.3	(210.0)	鉄	木質付着	覆土中	
M45	鉄滓	(4.6)	(7.0)	1.7	(78.5)	鉄	木質付着	覆土中	

第16号溝跡出土遺物観察表(第249図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP144	球状土錘	2.8	2.7	0.4	20.6	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL46
DP145	球状土錘	2.3	2.0	0.5	9.9	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL46

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP146	管状土錘	8.0	3.0	1.0	64.6	長石・石英・雲母	ナデ 指頭圧痕	覆土中	PL46

表18 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面形	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)				
9	J15g1~K14a9	N-28°-E	直線状	(15.00)	0.82~1.45	0.72~1.14	28~37	逆台形	人為	土師器 須恵器, 土師質土器, 陶器	SI38・44, JP2, SK82・83・93・94・103→本跡→火葬土坑1, SK86
14	K14e8~K14h4	N-54°-E	直線状	(17.74)	0.16~2.99	0.08~0.38	31~70	逆台形 U字形	人為	土師器 須恵器, 土師質土器, 陶器	SI97・99→本跡→SK406
16	K15a5~K14e9	N-55°-W	直線状	31.38	0.72~1.60	0.36~0.80	36~58	浅い U字形	人為	土師器 須恵器, 土師質土器	SI104→本跡→SD10, SK411

5 その他の遺構と遺物

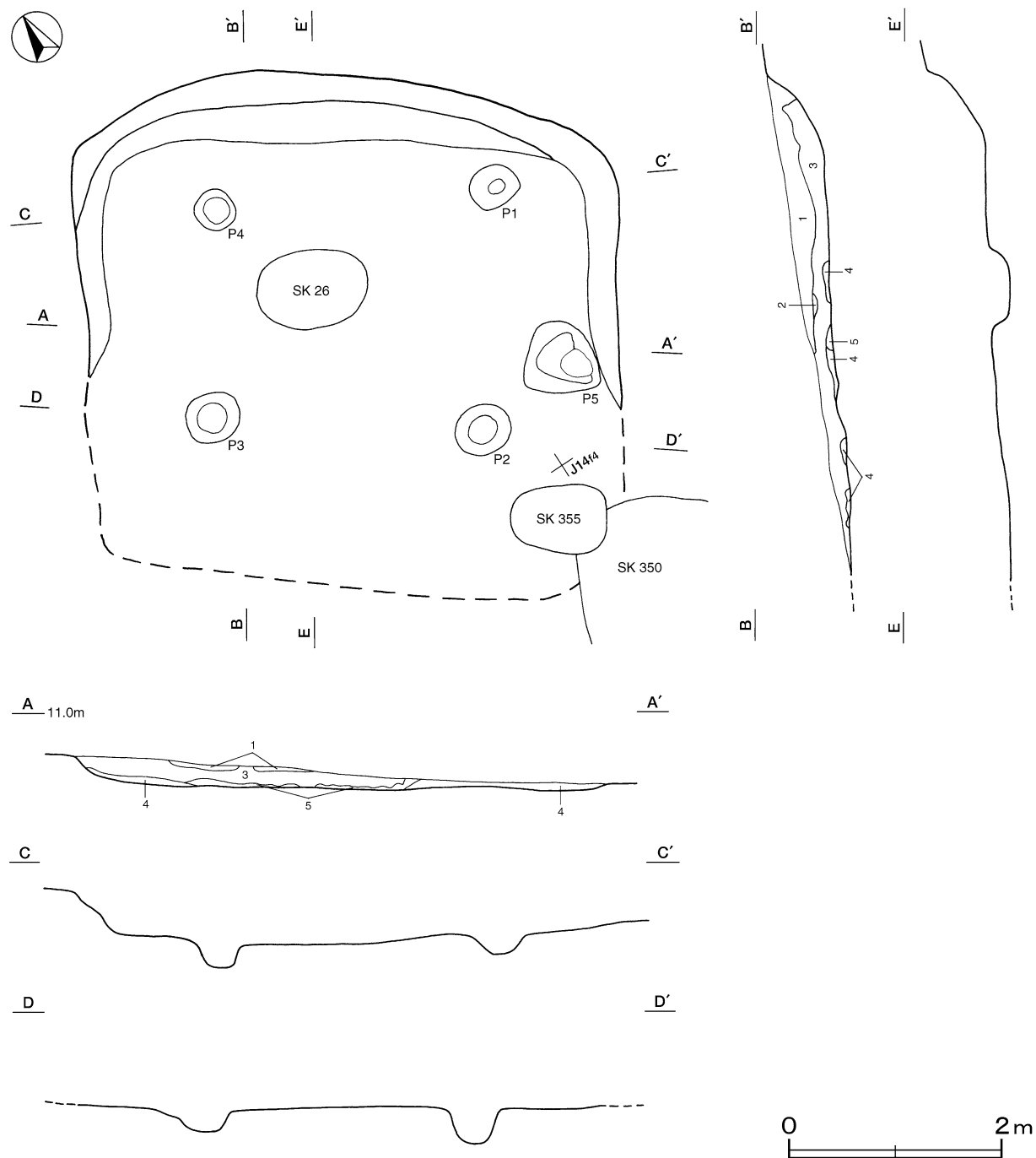
今回の調査で、時期が明確でない竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡3棟、土坑293基、溝跡16条を確認した。
以下、遺構の特徴と出土遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第4号住居跡(第250図)

位置 調査区中央部のJ14e3区、標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 中央部を第26号土坑、南コーナー部を第350・355号土坑に掘り込まれている。



第250図 第4号住居跡実測図

規模と形状 南側が削平されているため北西・南東軸は5.12mで、北東・南西軸は4.70mが確認できただけである。主軸方向がN - 25° - Wの方形または長方形と推測できる。壁高は10~58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

ピット 5か所。P1~P4は深さ18~32cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ14cmで、南東壁際の中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層に分層できる。不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黄褐色 | 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子多量,炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量,炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 焼土粒子少量,炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片45点(坏6,甕37,内耳鍋2),須恵器片14点(坏6,蓋2,甕6)が出土しているが、細片のため図示できない。

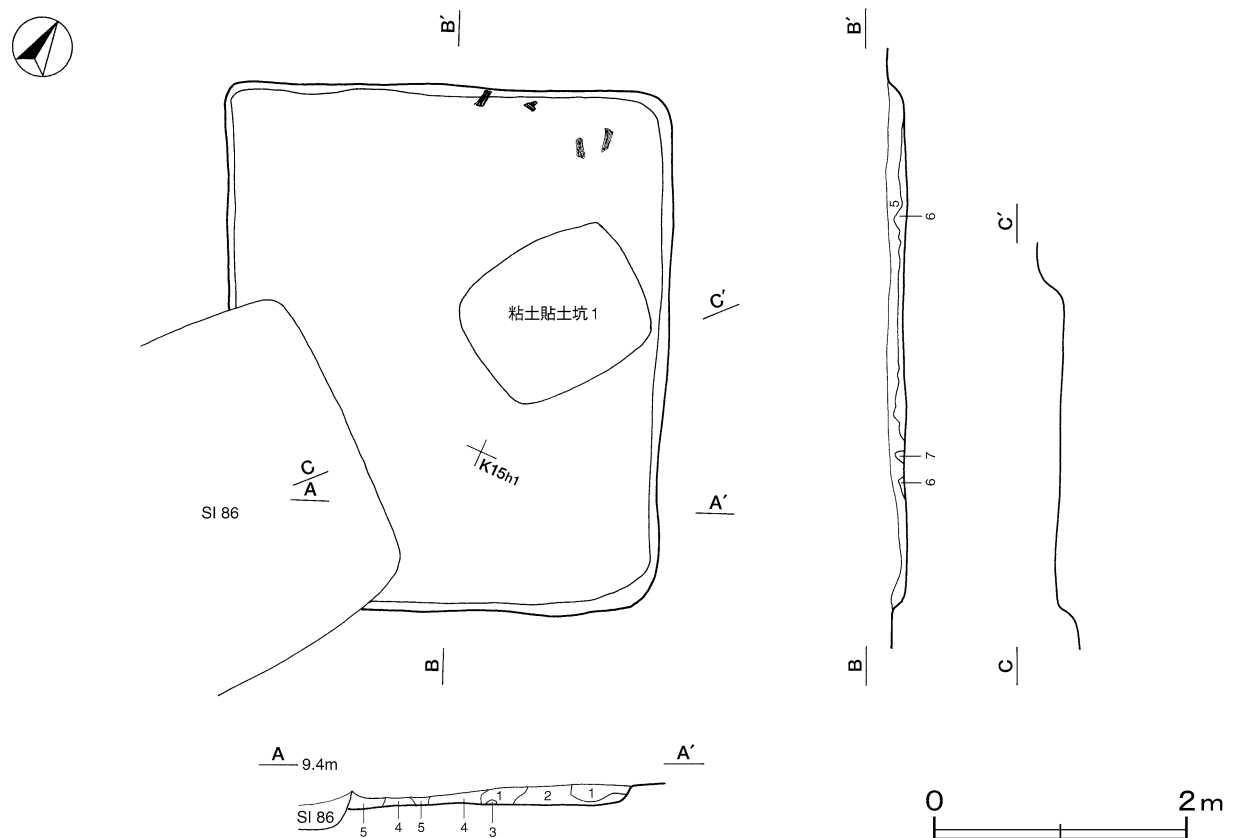
所見 出土土器が少なく細片のため、時期は不明である。

第83号住居跡 (第251図)

位置 調査区中央部のK14g0区,標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 南西部を第86号住居,東壁付近を第1号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.20m,短軸3.54mの長方形で、長軸方向はN - 20° - Wである。壁高は10~20cmで、外傾して立ち上がっている。



第251図 第83号住居跡実測図

床 ほぼ平坦である。炭化材が北壁際で確認されている。

覆土 7層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 炭化物・焼土粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 炭化粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片9点(坏6, 器台1, 甕2), 須恵器片2点(蓋, 盤)が出土している。

所見 炭化材が北壁際で確認されていることから焼失住居である。重複関係から第86号住居より古いということとは分かるが, 出土土器が少なく細片のため, 時期は不明である。

第86号住居跡(第252図)

位置 調査区中央部のK14h0区, 標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第83号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.70m, 短軸2.81mの長方形で, 長軸方向はN-40°-Eである。壁高は10~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

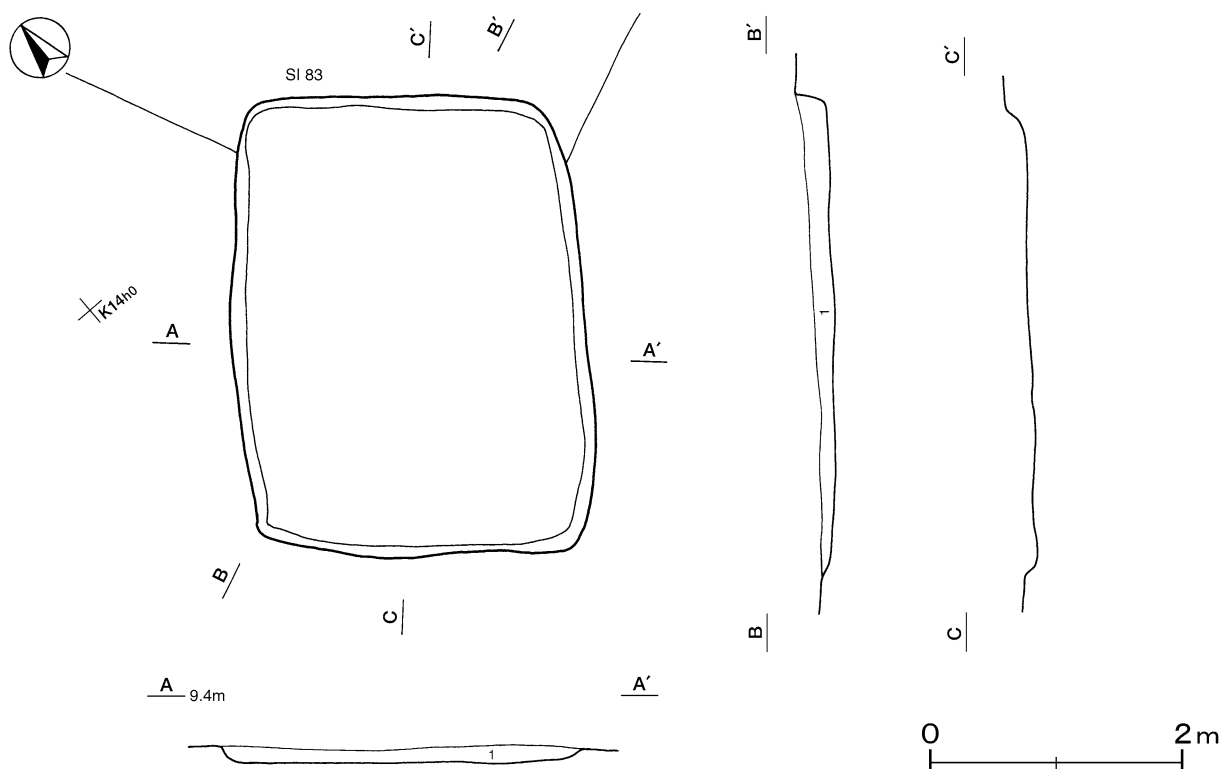
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれる堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片9点(坏6, 器台1, 甕2), 須恵器片2点(蓋, 盤)が出土している。

所見 重複関係から第83号住居跡より新しいということは分かるが, 出土土器が少なく細片のため, 時期は不明である。



第252図 第86号住居跡実測図

第93号住居跡 (第253図)

位置 調査区中央部のK14g9区, 標高9.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第155号土坑を掘り込み, 第84号住居, 第2号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m, 短軸2.00mの方形または長方形と推測される。主軸方向はN - 33° - Eである。壁高は25cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が東コーナー部で確認されている。

ピット 2か所。P1は深さ28cmで, 規模と位置から支柱穴である。P2は深さ18cmで, 性格は不明である。

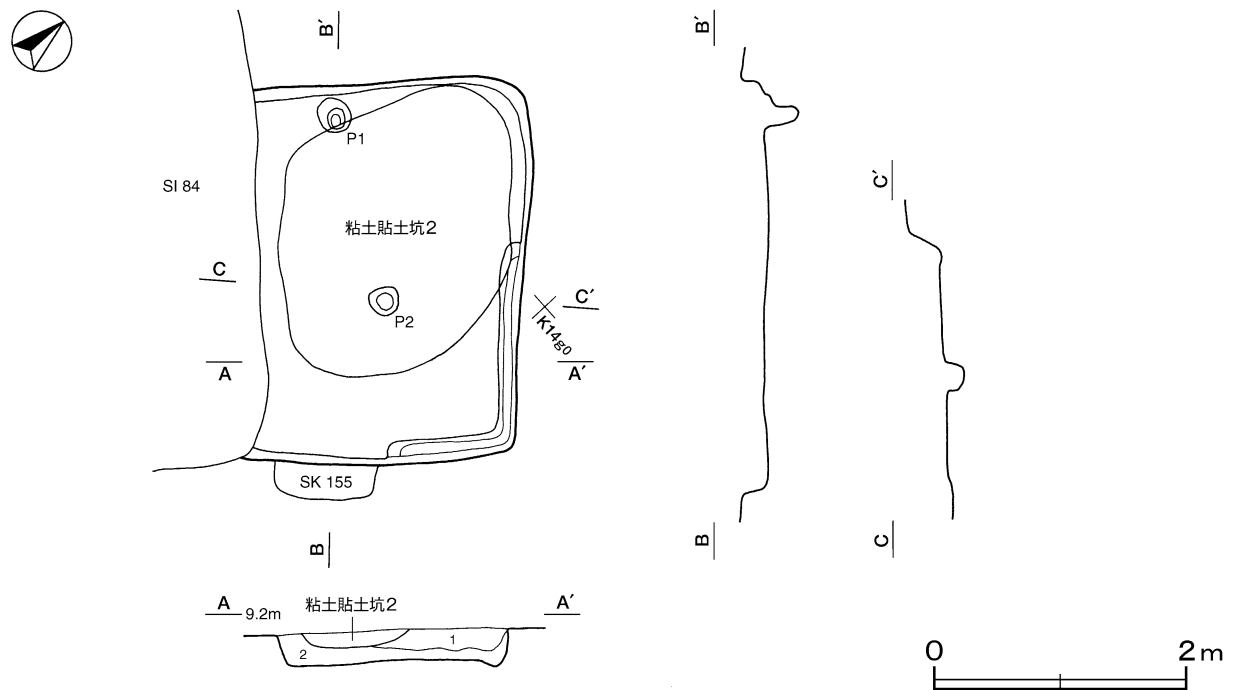
覆土 2層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片24点(甕), 須恵器片4点(甕)が出土している。

所見 重複関係から第155号土坑より新しく, 第84号住居, 第2号粘土貼土坑より古いということは分かるが, 出土土器が少なく細片のため, 時期は不明である。



第253図 第93号住居跡実測図

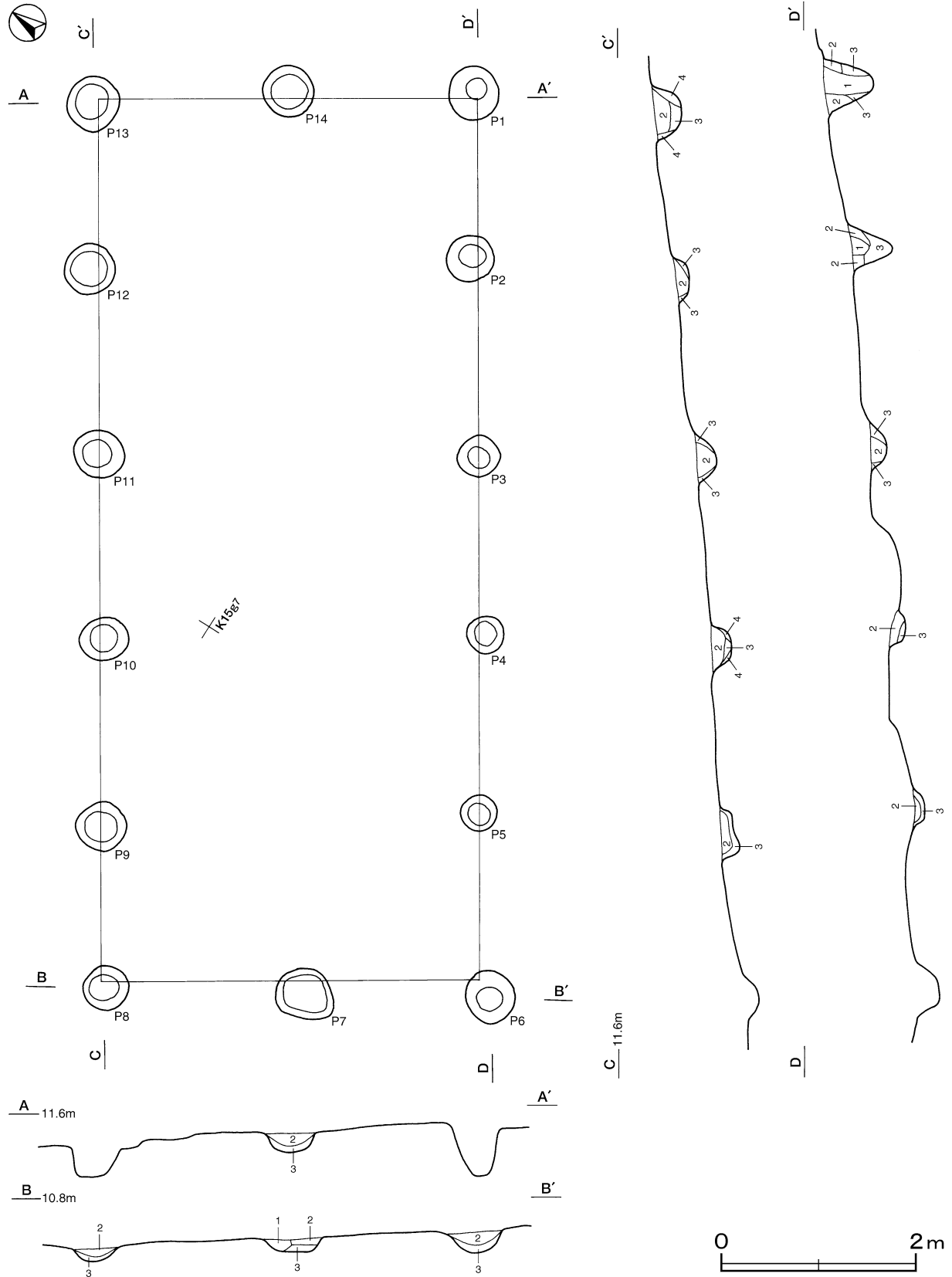
表19 時期不明竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸 × 短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
								支柱穴	出入口 ピット	ピット	竈	貯蔵穴				
4	J14e3	N - 25° - W	[方形・ 長方形]	5.12 × [4.70]	10~58	平坦	-	4	1	-	-	-	人為	-	不明	本跡→SK26・350・355
83	K14g0	N - 20° - W	長方形	4.20 × 3.54	10~20	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	-	不明	本跡→SI86, 粘土貼 土坑1
86	K14h0	N - 40° - E	長方形	3.70 × 2.81	10~21	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	-	不明	SI83→本跡
93	K14g9	N - 33° - E	[方形・ 長方形]	3.02 × (2.20)	25	平坦	-	1	-	1	-	-	人為	-	不明	SK155→本跡→SI84, 粘土貼土坑2

(2) 掘立柱建物跡

第3号掘立柱建物跡 (第254図)

位置 調査区南東部のK15f7区, 標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。



第254図 第3号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行5間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN - 58° - Eの東西棟である。規模は，桁行9.0m，梁行3.9mで，面積は35.1㎡である。柱間寸法は，桁行1.80m（6尺），梁行1.95m（6尺5寸）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 14か所。平面形は円形で，深さは14～54cmである。土層は，第1・2層が柱抜き取り跡に相当し，第3・4層が埋土で，版築状に突き固められている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

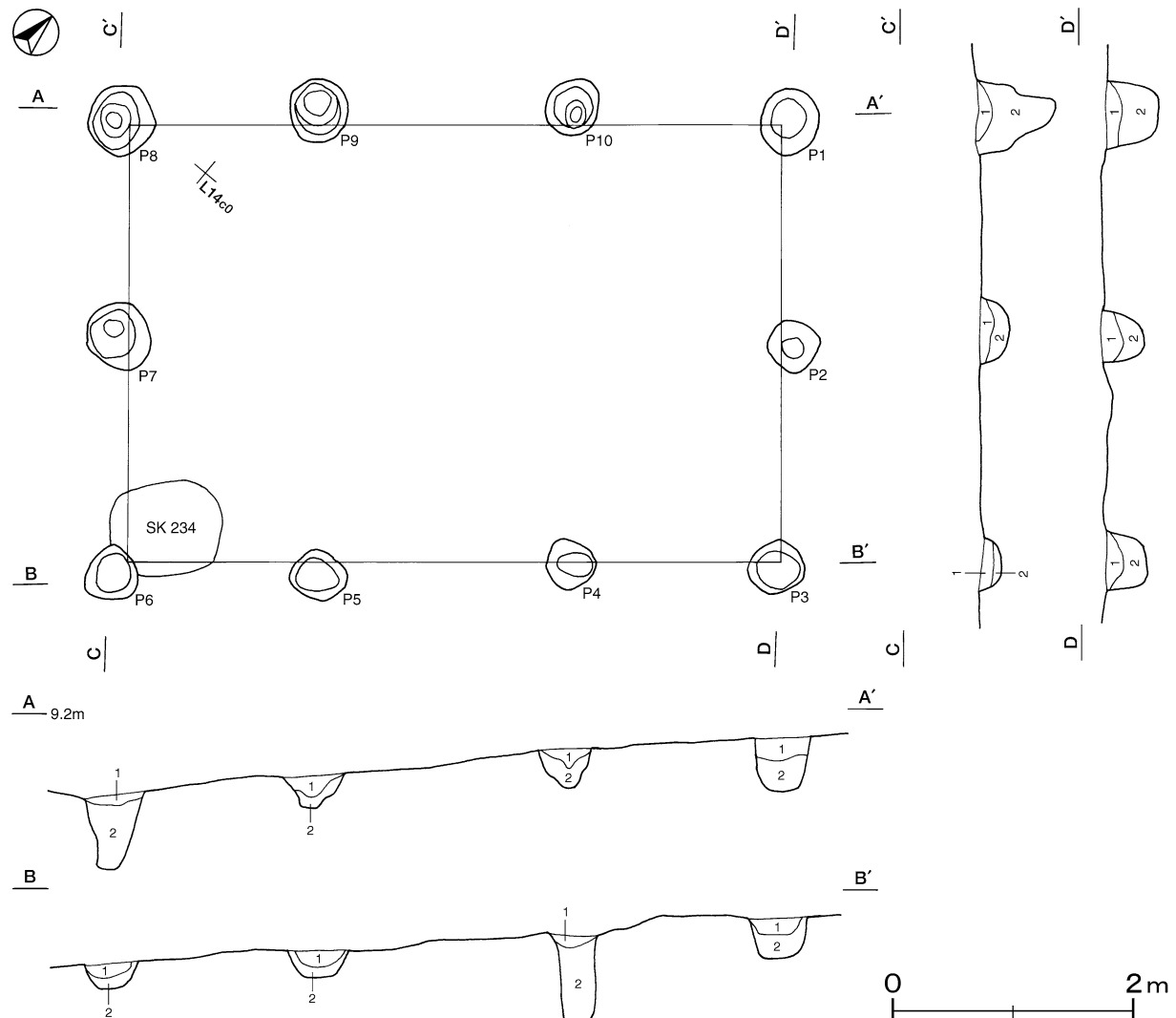
遺物出土状況 土師器片1点（甕）が出土しているが，細片のため図示できない。

所見 本跡は，確認できた柱穴群から規格性のある中形の側柱建物と想定され，倉庫というよりは居宅的な建物としての性格を有していたものと考えられる。時期は，重複関係がなく，出土土器が少なく細片のため不明である。

第4号掘立柱建物跡（第255図）

位置 調査区南西部のL14b0区，標高9.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第234号土坑を掘り込んでいる。



第255図 第4号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間 梁行2間の側柱建物跡で 桁行方向がN - 50° - Eの東西棟である。規模は 桁行5.4m , 梁行3.6mで、面積は19.4㎡である。柱間寸法は、桁行・梁行ともに1.8m(6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。
柱穴 10か所。平面形は円形で、深さは20~72cmである。土層は、第1・2層とも柱抜き取り痕に相当する。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片3点(甕)が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から規格性のある小形の側柱建物と想定され、倉庫としての性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器が少なく細片のため不明である。

第9号掘立柱建物跡(第256図)

位置 調査区中央部のJ13j8区、標高7.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第262号土坑を掘り込み、第266号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN - 45° - Wの南北棟である。規模は、桁行2.7m、梁行1.65mで、面積は4.5㎡である。柱間寸法は、桁行1.35m(4尺5寸)、梁行1.65m(5尺5寸)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形で、深さは26~68cmである。土層は、第1層が柱痕跡、第2~4層が柱抜き取り痕に相当し、第5・6層が埋土である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック少量

4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

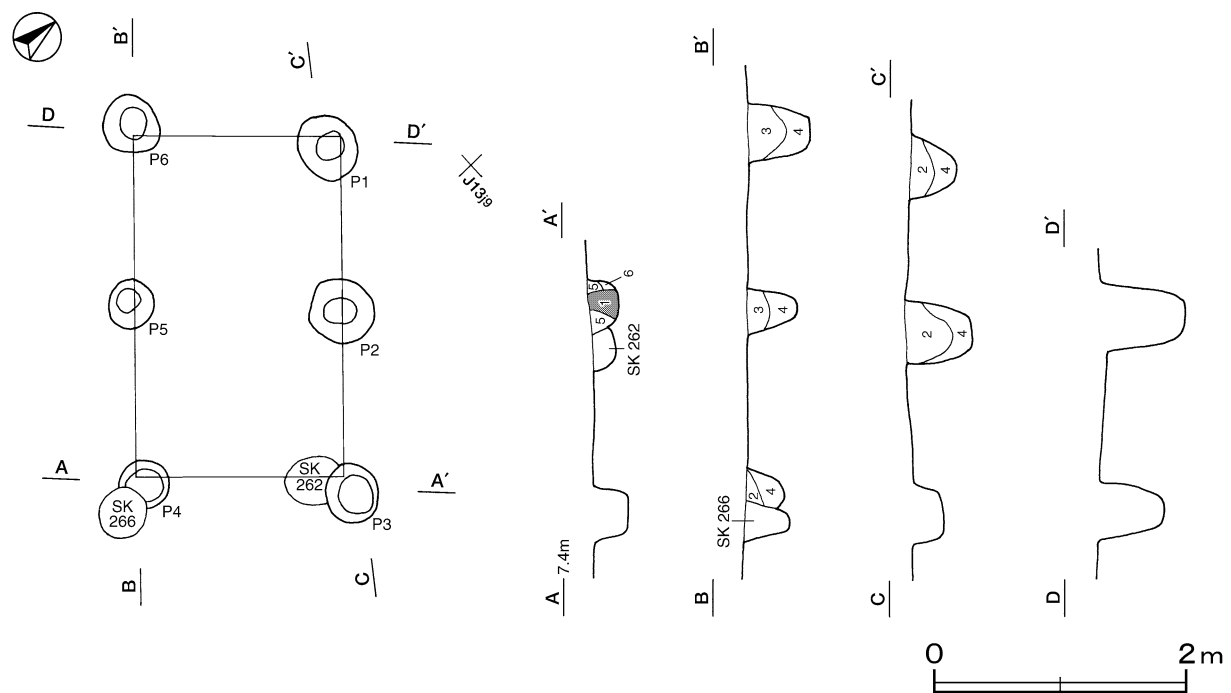
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

5 黒褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ローム粒子微量

6 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片17点(坏2, 甕15), 須恵器片6点(坏4, 蓋1, 甕1)が出土しているが、細片のため図示できない。



第256図 第9号掘立柱建物跡実測図

所見 本跡は、確認できた柱穴群から小形の側柱建物と想定され、倉庫としての性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器が細片のため不明である。

表20 時期不明掘立柱建物跡一覧表

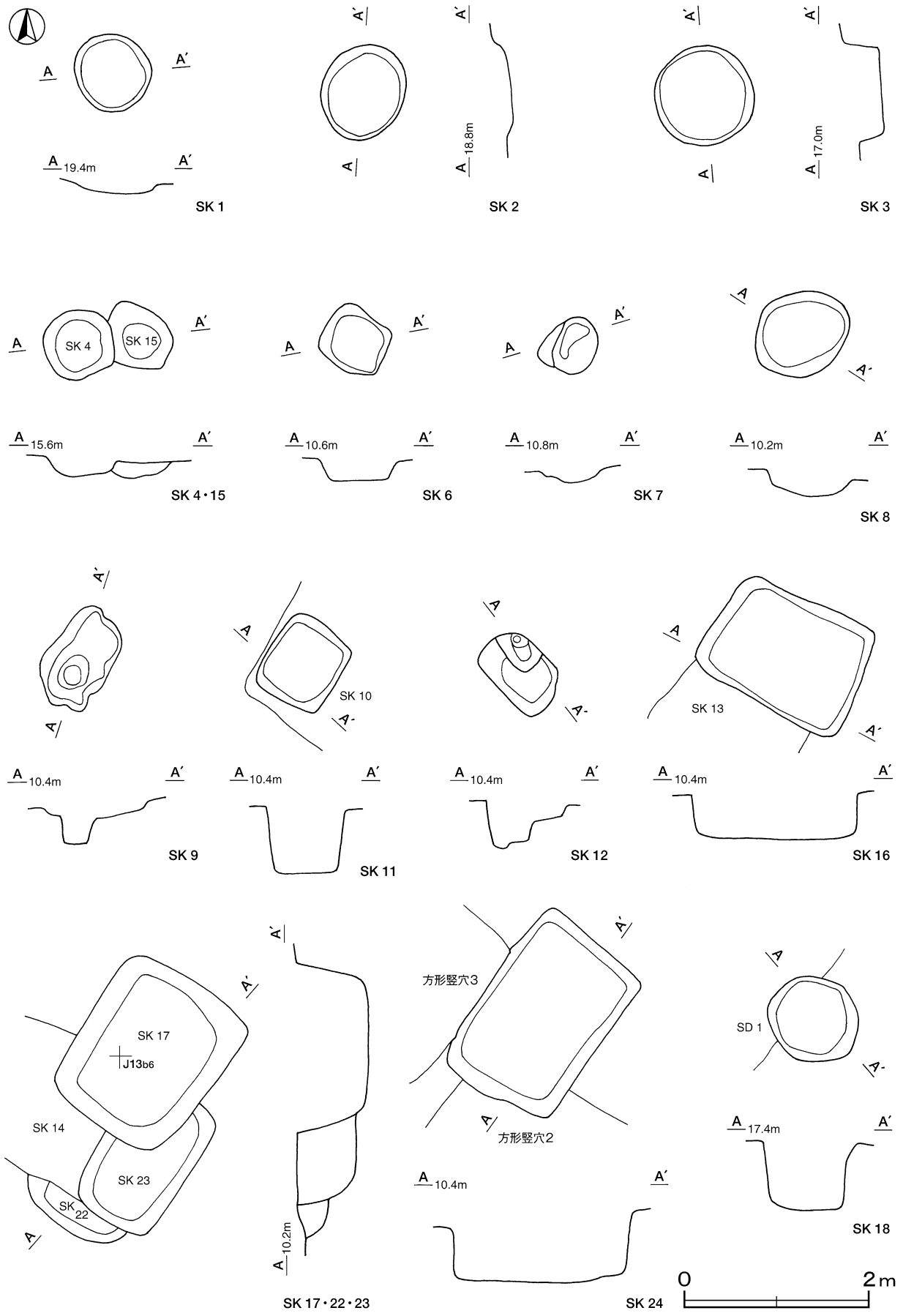
番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模				柱穴				主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	構造	柱穴数	平面形	深さ (cm)			
3	K15f7	N - 58° - E	5 × 2	9.0×3.9	35.1	1.80	1.95	側柱	14	円形	14~54	-	不明	
4	L14b0	N - 50° - E	3 × 2	5.4×3.6	19.4	1.80	1.80	側柱	10	円形	20~72	-	不明	SK234→本跡
9	J13j8	N - 45° - W	2 × 1	2.7×1.65	4.5	1.35	1.65	側柱	6	円形	26~68	-	不明	SK262→本跡→ SK266

(3) 土坑 (第257~269図)

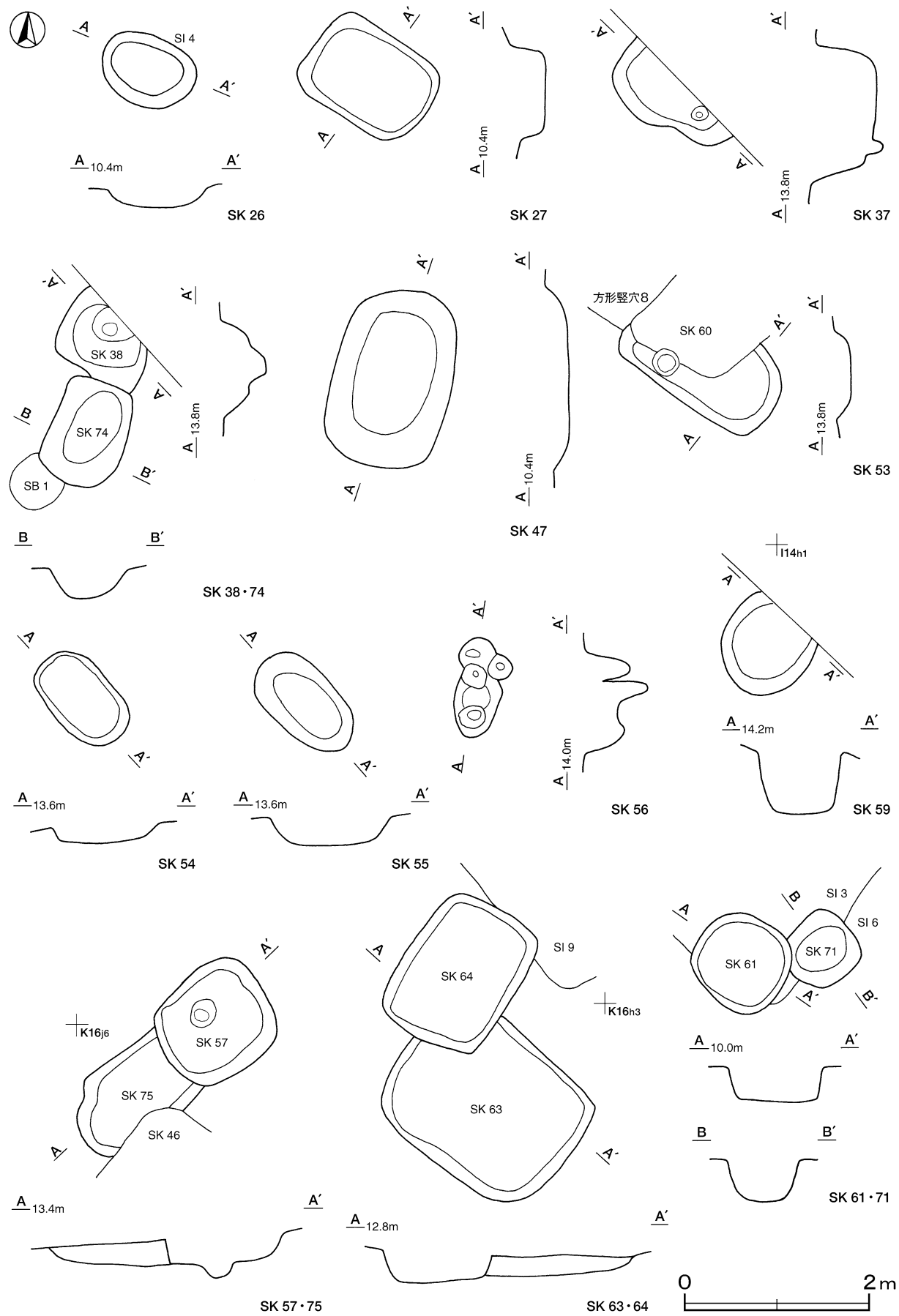
今回の調査では、土坑と思われる遺構に第1~413号まで番号を付けて調査したが、他の遺構の一部であることや遺構でないことが判明したものについては欠番とした。この項では、図示できるような出土遺物がなく、時期や性格も不明の土坑293基について、実測図及び一覧表で掲載する。

表21 時期不明土坑一覧表

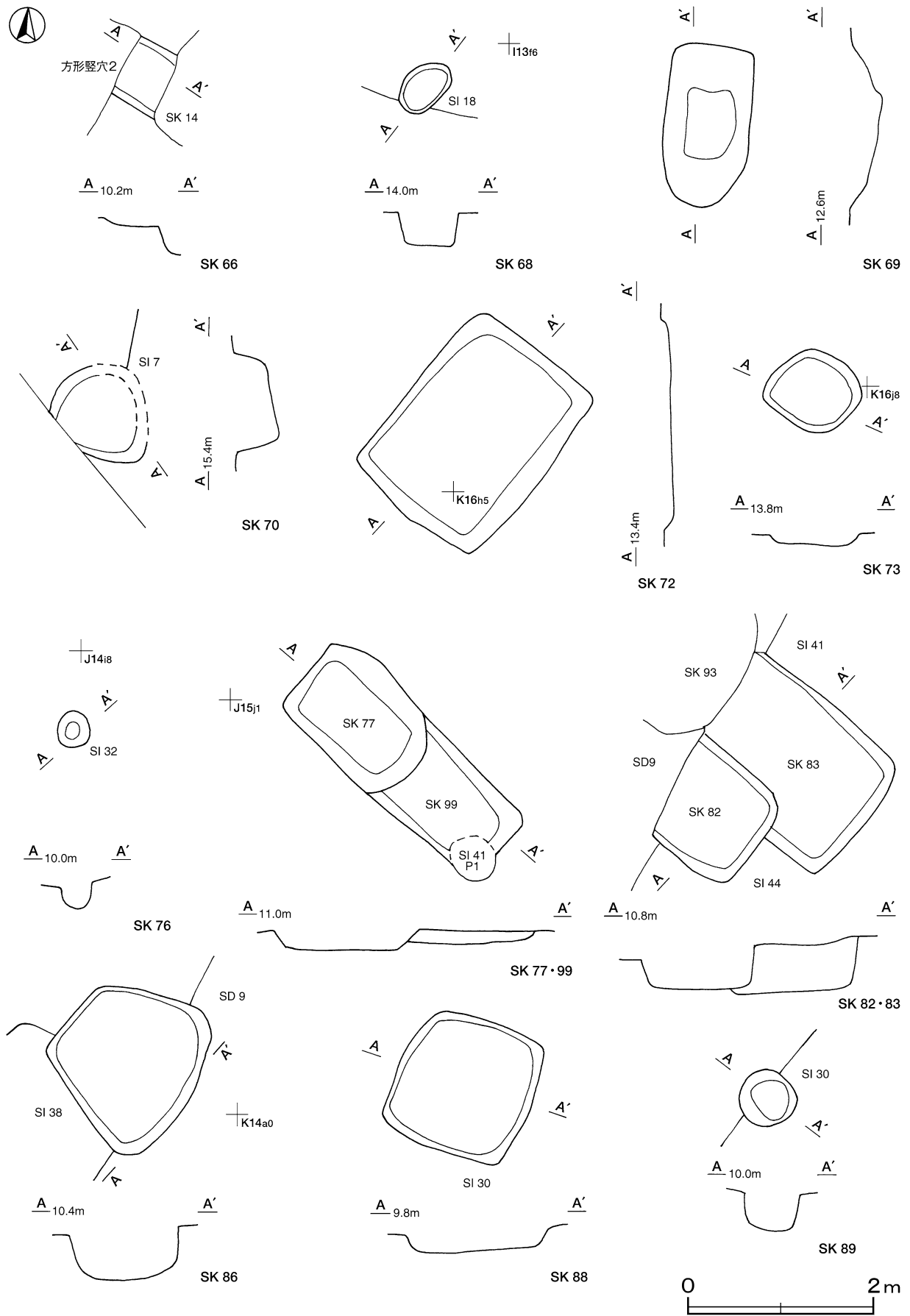
番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
1	H12i9	-	円形	0.84 × 0.82	10	皿状	緩斜	人為	-	不明	
2	H12j0	N - 31° - E	楕円形	1.06 × 0.90	14	平坦	緩斜	人為	-	不明	
3	I13a1	-	円形	1.10 × 1.08	46	平坦	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	
4	I13c3	-	円形	0.74 × 0.72	22	皿状	緩斜	自然	土師器 須恵器	不明	SK15→本跡
6	I13i4	N - 62° - W	方形	0.70 × 0.66	22	皿状	緩斜	人為	土師器 須恵器	不明	
7	I13i4	-	円形	0.68 × 0.64	14	二段	緩斜	人為	-	不明	
8	I13b2	N - 80° - E	楕円形	1.10 × 0.90	28	平坦	緩斜	自然	土師器 須恵器	不明	
9	J13b7	N - 35° - E	不整長方形	1.10 × 0.70	18	平坦 ピット有	緩斜	人為	-	不明	
11	J13b7	N - 37° - E	長方形	0.92 × 0.82	72	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SK10→本跡
12	J13b6	N - 48° - W	長方形	0.94 × 0.60	10	平坦 ピット有	緩斜	人為	土師器	不明	
15	I13c3	N - 29° - W	楕円形	0.84 × 0.68	18	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	本跡→SK4
16	J13a6	N - 61° - W	長方形	1.66 × 1.30	50	平坦	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	SK13→本跡
17	J13a6	N - 35° - E	長方形	1.90 × 1.56	80	平坦	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	SK14・23→本跡
18	I13a1	-	円形	0.98 × 0.90	74	平坦	外傾	人為	須恵器	不明	SD1→本跡
22	J13b5	N - 35° - E	[方形]	1.30 × (0.38)	32	平坦	外傾	人為	-	不明	本跡→SK14・23
23	J13b6	N - 35° - E	長方形	1.62 × 1.04	60	平坦	外傾	人為	-	不明	SK14・22→本跡→SK17
24	J13a5	N - 38° - E	長方形	2.10 × 1.38	54	平坦	外傾	-	-	不明	方形竪穴2・3→本跡
26	J14e3	N - 66° - W	楕円形	1.06 × 0.76	18	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	SI4→本跡
27	J14e2	N - 58° - W	長方形	1.40 × 1.04	36	平坦	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	
37	K16i7	N - 44° - W	[不整方形]	1.50 × (0.70)	62	平坦 ピット有	外傾	人為	-	不明	
38	K16i8	-	円形	1.06 × (0.80)	32	平坦 ピット有	外傾	人為	-	不明	本跡→SK74
47	K16i2	N - 14° - E	長方形	1.96 × 1.30	26	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	
53	L16a8	N - 55° - W	長方形	1.80 × 0.98	24	平坦	緩斜	人為	-	不明	方形竪穴8→本跡→SK60
54	L16a7	N - 41° - W	長方形	1.14 × 0.68	16	平坦	緩斜	人為	-	不明	
55	L16a7	N - 43° - W	楕円形	1.30 × 0.70	30	平坦	外傾	人為	-	不明	
56	L16a9	N - 9° - E	不定形	1.08 × 0.58	72	凹凸	外傾	人為	-	不明	
57	K16j6	N - 53° - E	長方形	1.28 × 1.16	26	平坦 ピット有	緩斜	人為	-	不明	SK75→本跡
59	I13h0	-	[円形]	0.96 × (0.90)	68	平坦	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	
61	J14e1	-	円形	1.04 × 0.98	38	平坦	外傾	人為	-	不明	SI3・6 SK71→本跡
63	K16h2	N - 52° - W	長方形	2.14 × 1.64	20	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	本跡→SK64
64	K16g2	N - 32° - E	長方形	1.62 × 1.22	30	平坦	外傾	人為	須恵器	不明	SI9 SK63→本跡



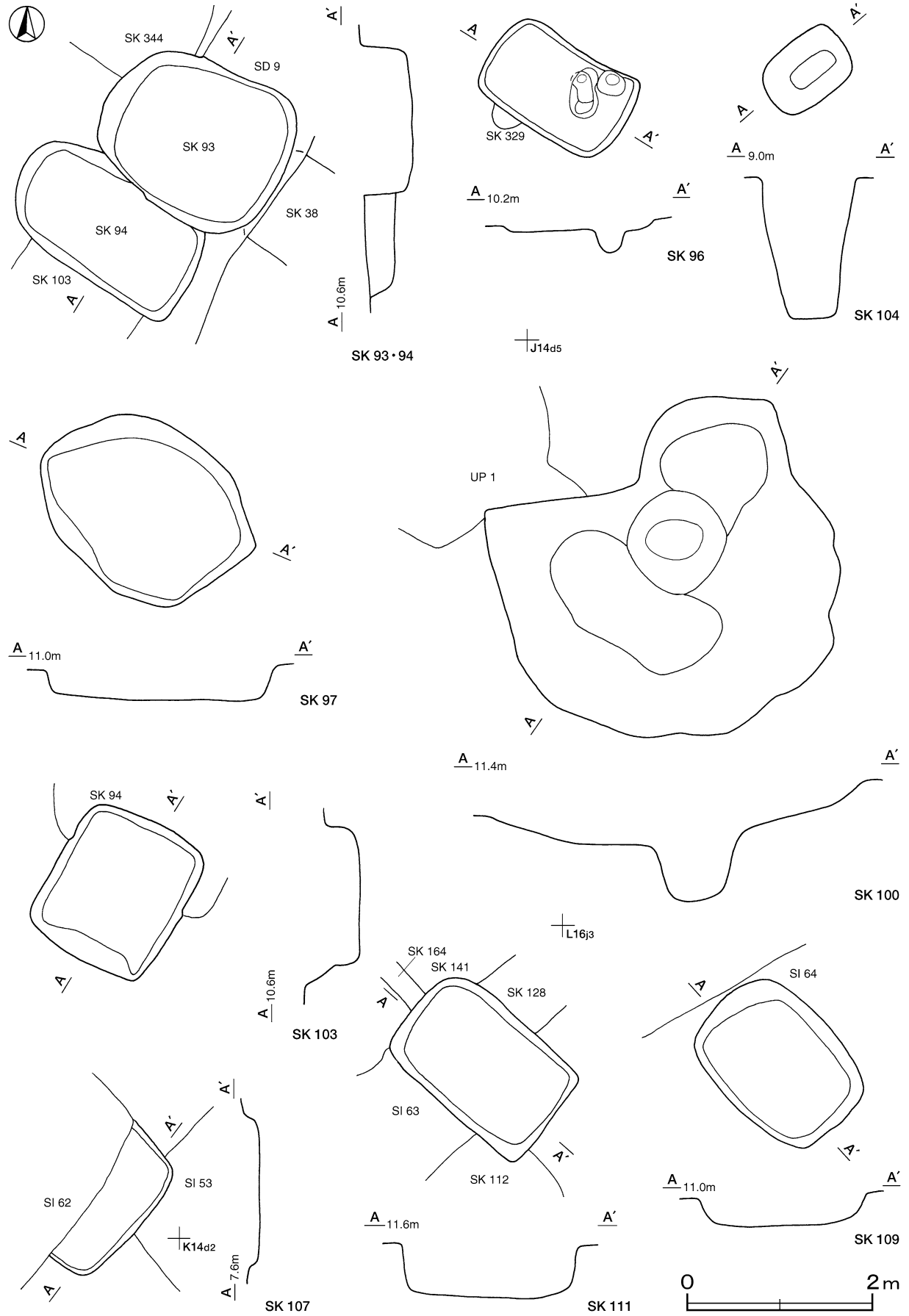
第257図 その他の土坑実測図(1)



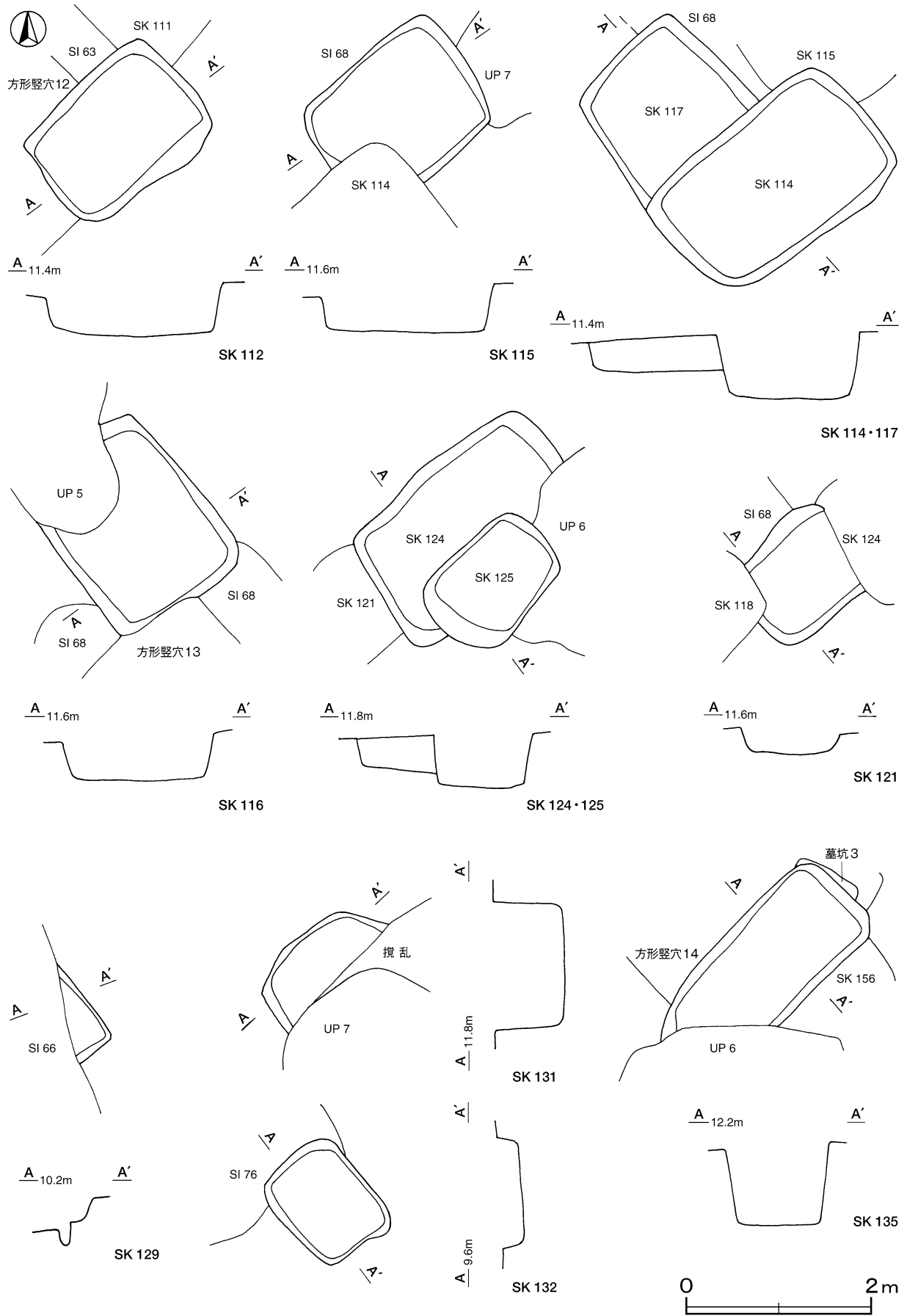
第258図 その他の土坑実測図(2)



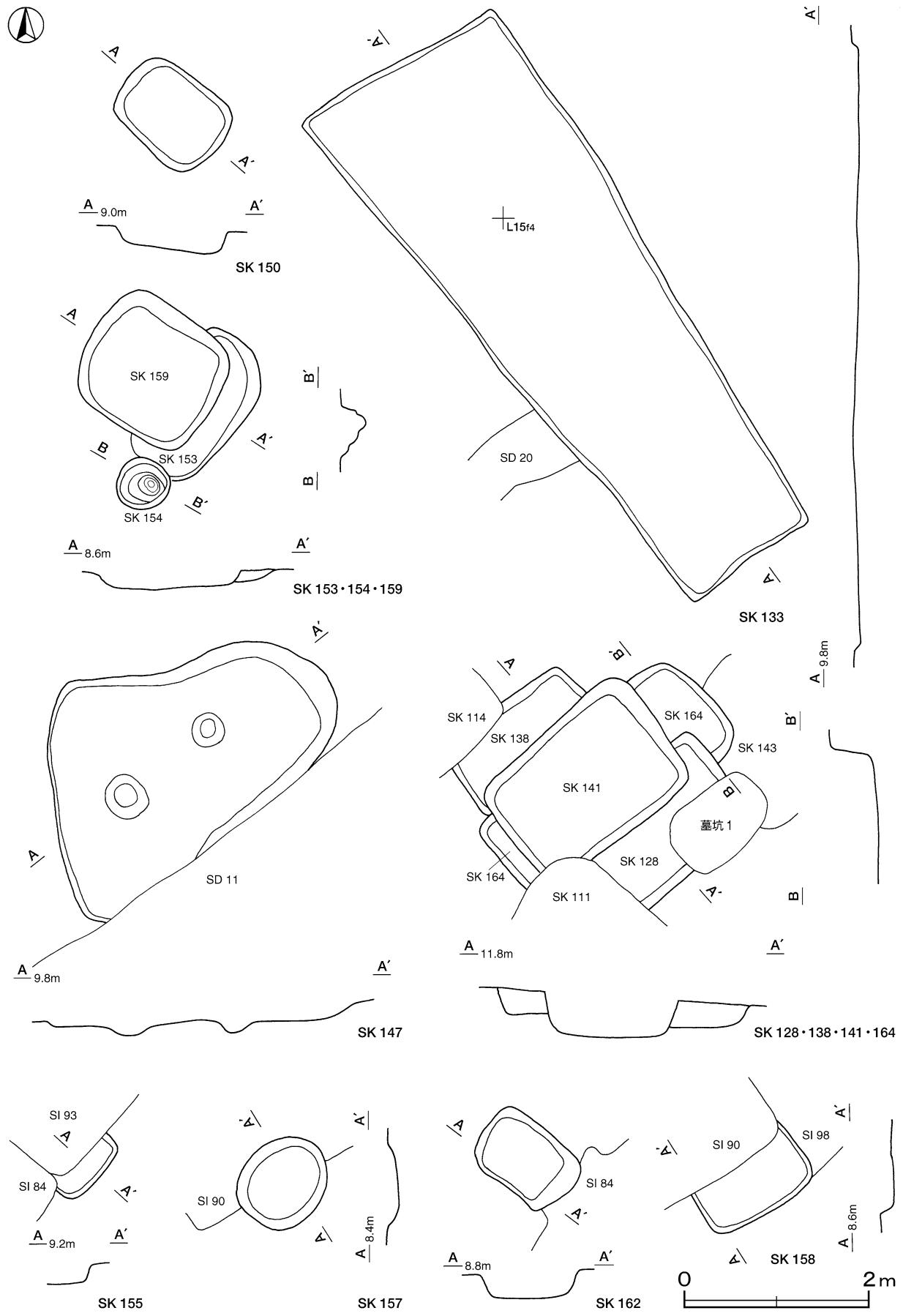
第259図 その他の土坑実測図(3)



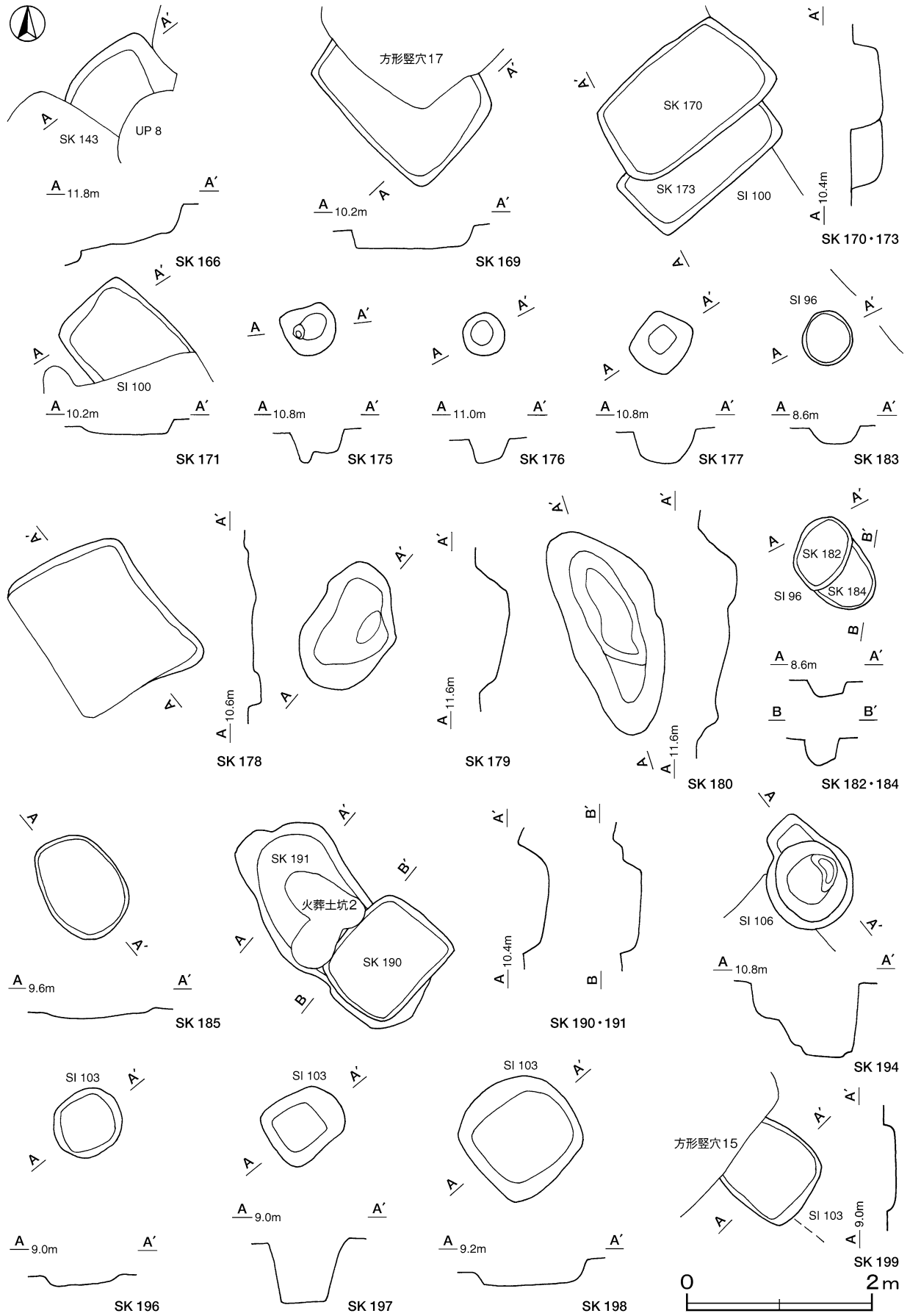
第260図 その他の土坑実測図(4)



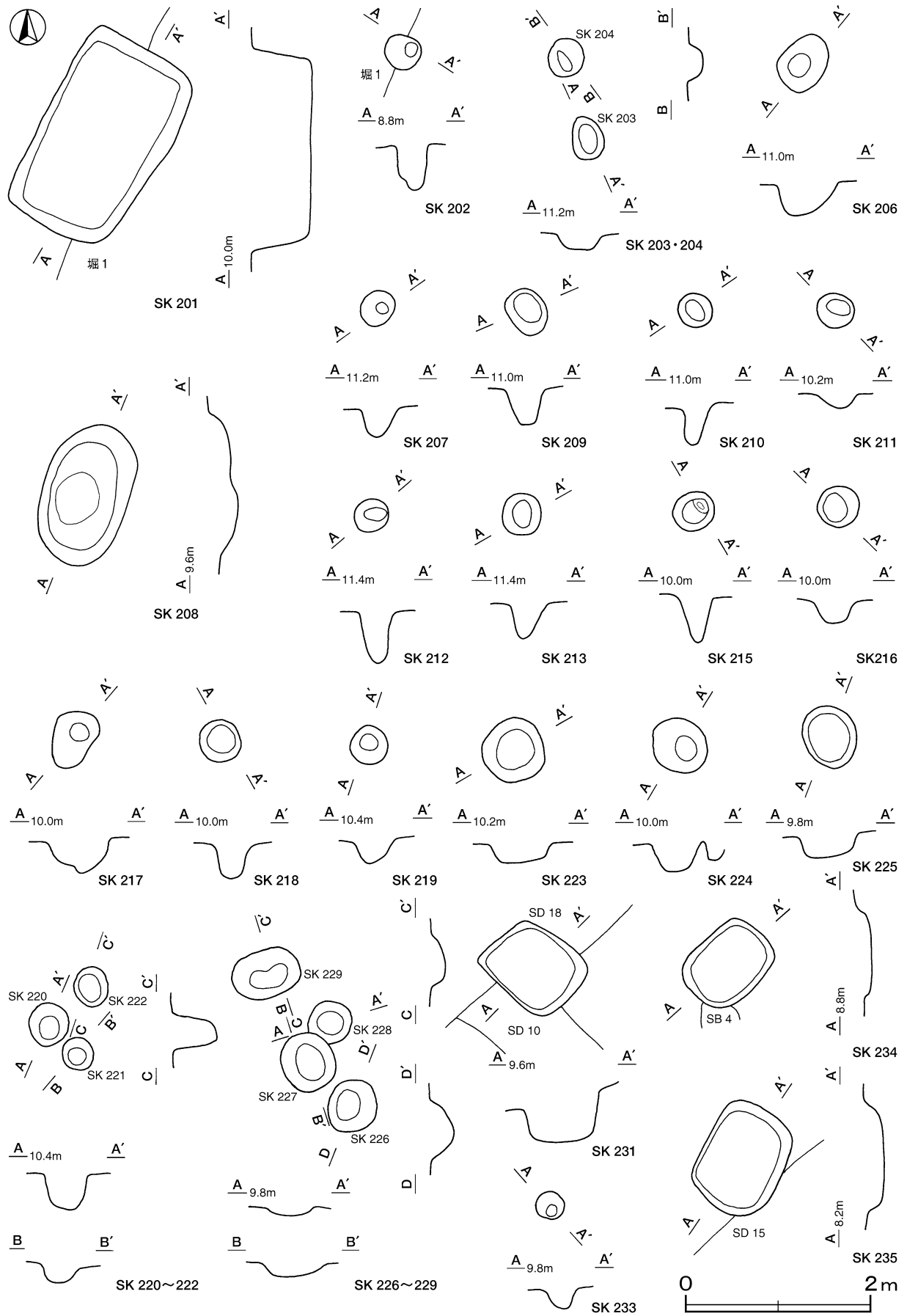
第261図 その他の土坑実測図(5)



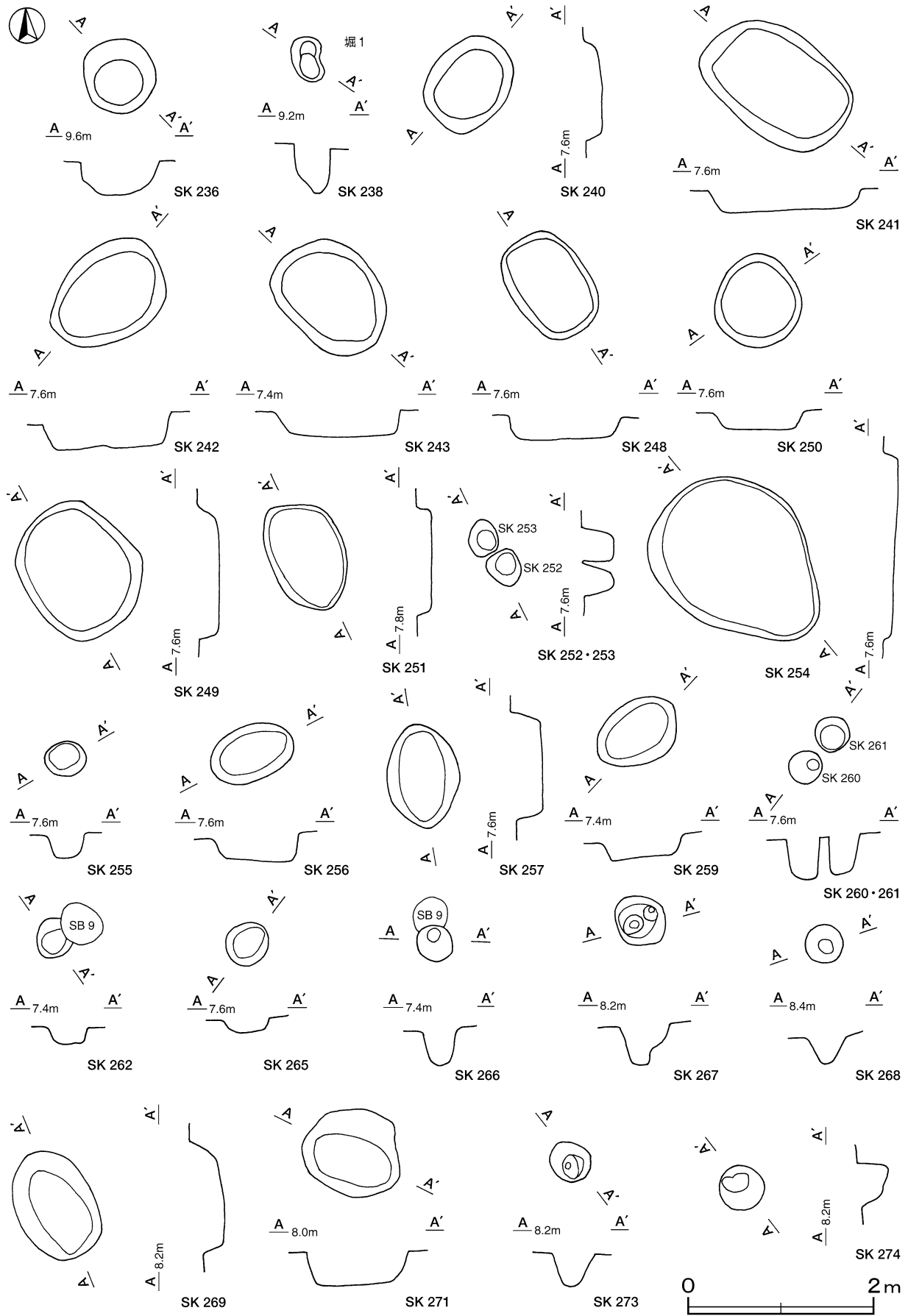
第262図 その他の土坑実測図(6)



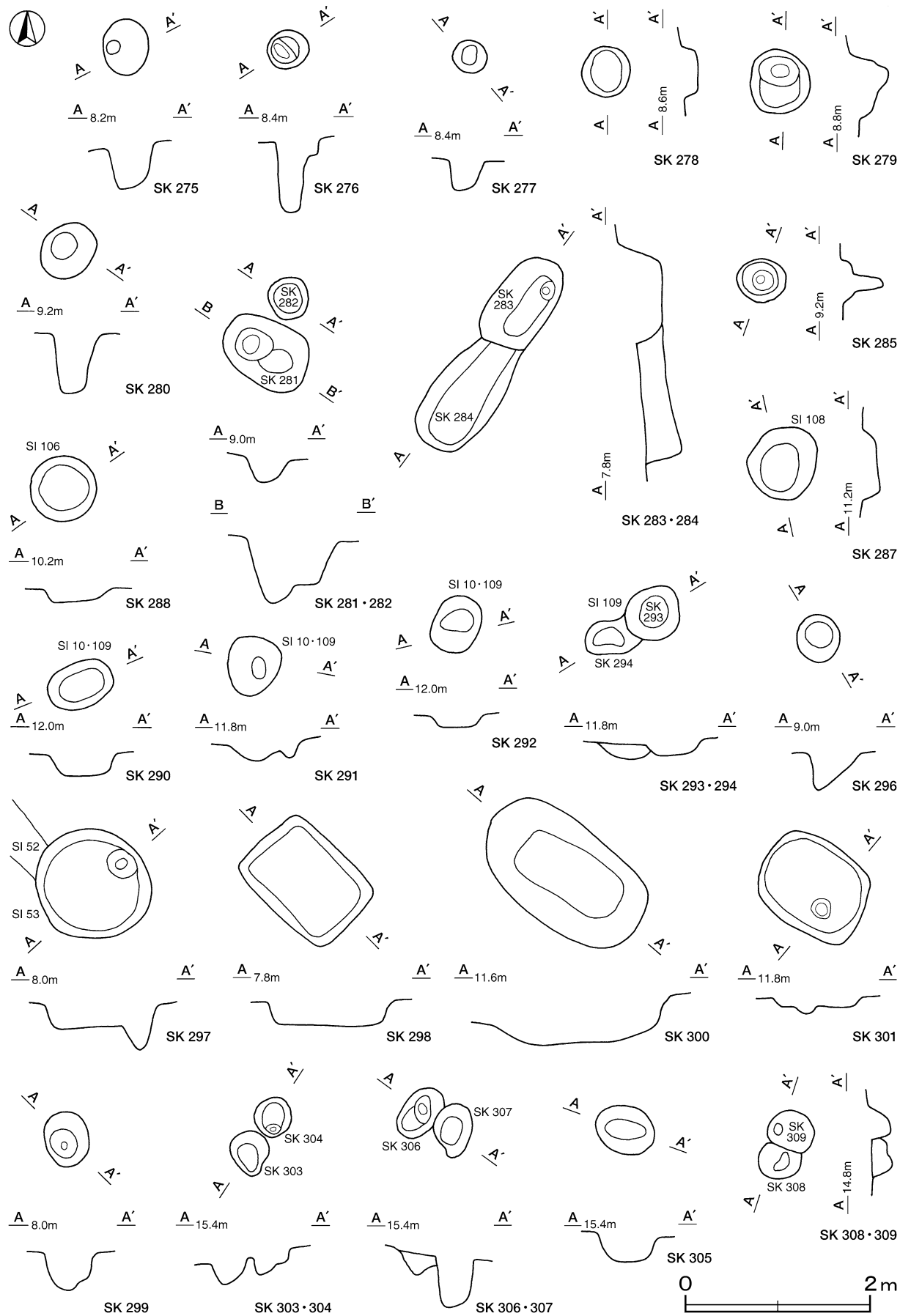
第263図 その他の土坑実測図(7)



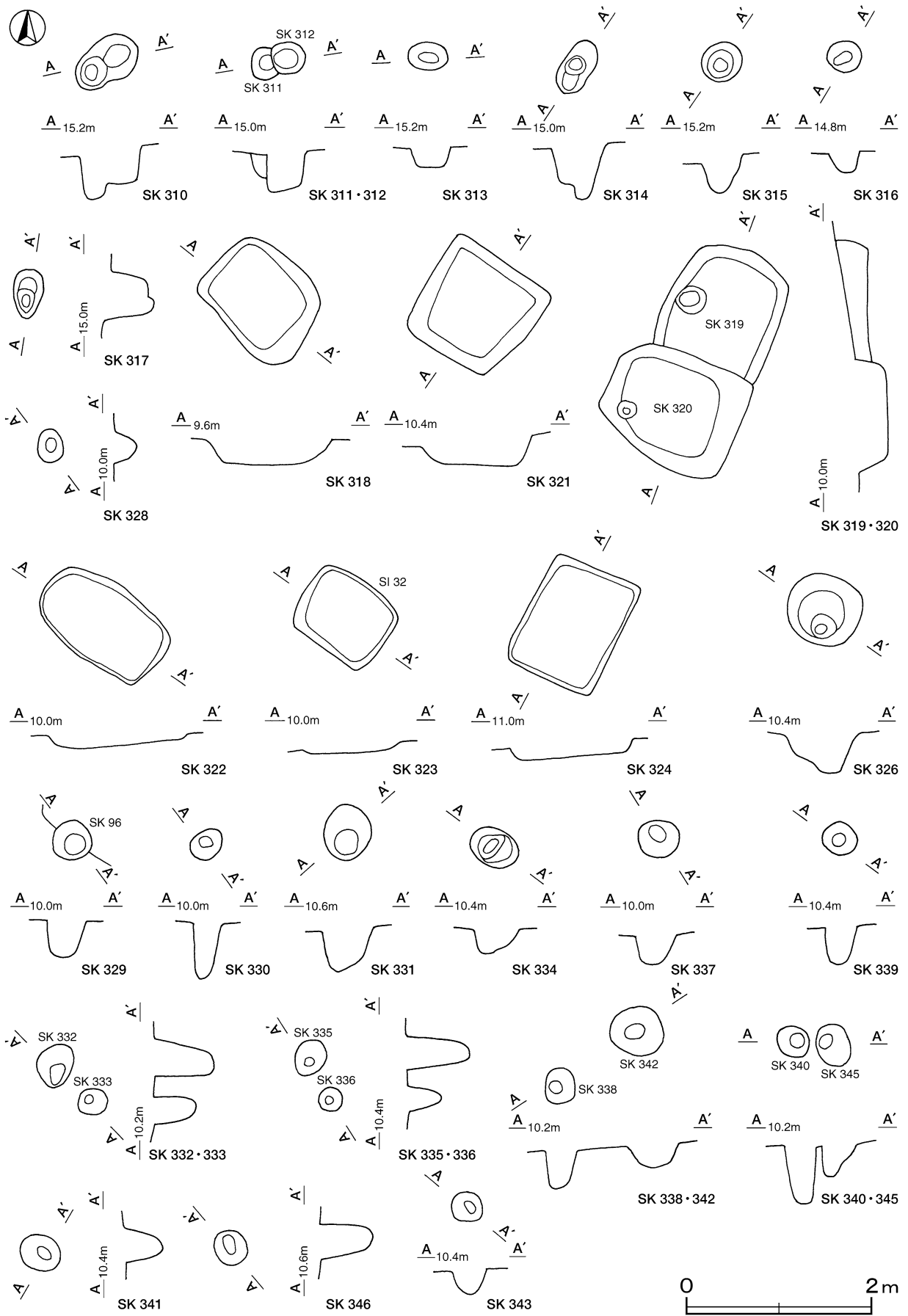
第264図 その他の土坑実測図(8)



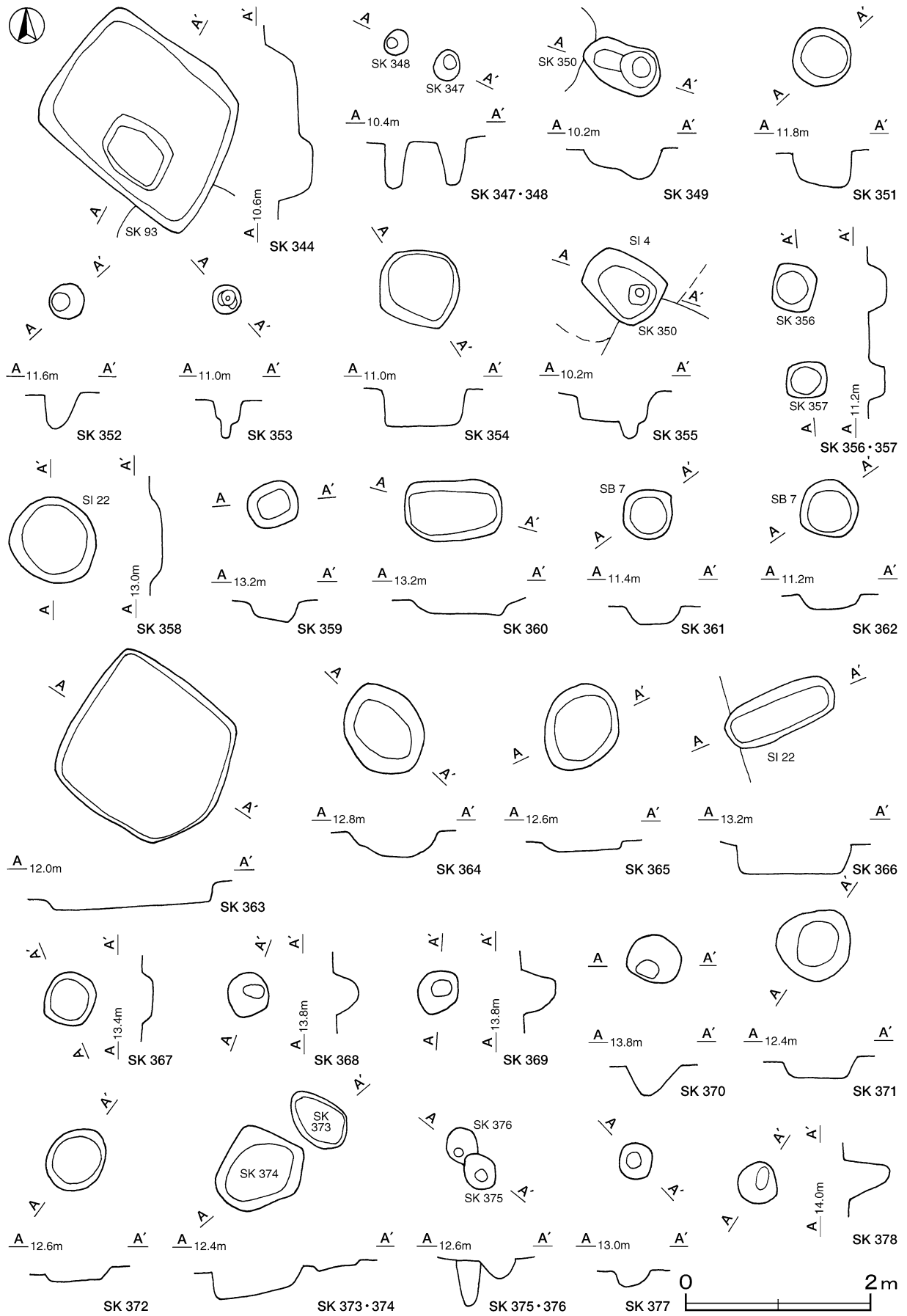
第265図 その他の土坑実測図(9)



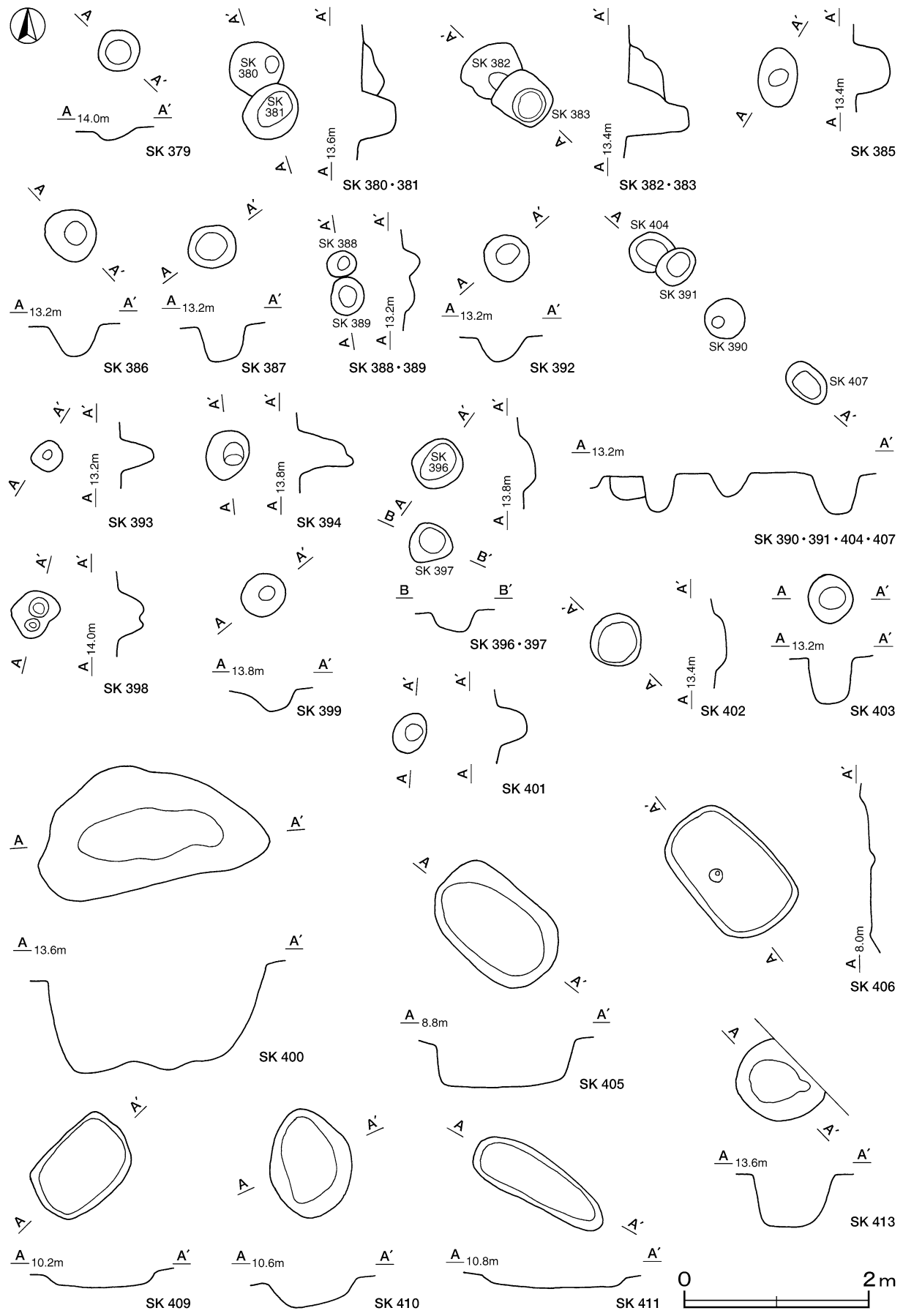
第266図 その他の土坑実測図(10)



第267図 その他の土坑実測図(11)



第268図 その他の土坑実測図(12)



第269図 その他の土坑実測図(13)

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
66	J13b5	N-29°-E	[方形]	0.74 x (0.50)	28	皿状	緩斜	-	-	不明	本跡→方形竪穴2,SK14
68	I13f5	N-40°-E	楕円形	0.62 x 0.44	32	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SI18→本跡
69	L16c4	N-5°-E	長方形	1.76 x 0.92	36	皿状	緩斜	人為	-	不明	
70	I12d0	N-38°-W	[円形]	1.14 x (0.70)	48	平坦	外傾	人為	-	不明	SI7→本跡
71	J14e2	N-45°-E	方形	0.78 x 0.74	54	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI3・6→本跡→SK61
72	K16g5	N-40°-E	長方形	2.30 x 1.72	16	平坦	緩斜	人為	-	不明	SB8→本跡
73	K16j7	N-50°-W	方形	0.90 x 0.86	18	平坦	緩斜	人為	-	不明	
74	K16j8	N-18°-E	長方形	1.16 x 0.86	34	平坦	外傾	人為	礫	不明	SB1, SK38→本跡
75	K16j6	N-53°-E	[楕円形]	(1.30)x 0.90	18	平坦	緩斜	人為	-	不明	本跡→SK46・57
76	J14i6	-	円形	0.38 x 0.34	30	皿状	外傾	人為	土師器	不明	SI32→本跡
77	J15j1	N-48°-W	長方形	1.54 x 1.10	22	平坦	緩斜	-	土師器	不明	SI41, SK99→本跡
82	J14j0	N-55°-W	[方形]	(1.20)x 1.20	46	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI41・44, SK83→本跡→SD9
83	J14j0	N-48°-W	[方形]	(2.00)x 1.56	54	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI41・44→本跡→SK82・93, SD9
86	J14j9	N-32°-E	方形	1.68 x 1.58	54	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SI38, SD9→本跡
88	J14g5	-	方形	1.52 x 1.52	22	平坦	緩斜	人為	土師器 須惠器	不明	SI30→本跡
89	J14f4	-	円形	0.64 x 0.62	36	皿状	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI30→本跡
93	J14i0	N-65°-W	長方形	2.08 x 1.74	34	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器 土玉	不明	SK83・94→本跡→SK344, SD9
94	J14j0	N-52°-W	長方形	2.22 x 1.14	20	平坦	緩斜	人為	-	不明	SK103→本跡→SK93, SD9
96	J14j8	N-58°-W	長方形	1.64 x 1.02	10	平坦 ピット有	緩斜	人為	須惠器	不明	本跡→SK329
97	J14g9	N-68°-W	楕円形	2.50 x 1.86	36	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	
99	J15j1	N-47°-W	[長方形]	(1.50)x 1.04	14	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	SI41→本跡→SK77
100	J14d5	N-35°-E	不定形	4.00 x 3.80	114	凹凸	緩斜	人為	-	不明	UP1→本跡
103	J14j0	N-29°-E	長方形	1.66 x 1.50	64	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器 鉄鏝	不明	本跡→SK94, SD9
104	K14a5	N-53°-E	長方形	1.02 x 0.70	170	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SI48→本跡
107	K14c1	N-38°-E	[方形]	1.68 x (0.70)	16	平坦	緩斜	-	-	不明	SI53→本跡→SI62
109	L16j1	N-40°-W	長方形	1.84 x 1.34	32	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SI64→本跡
111	L16j2	N-47°-W	長方形	1.90 x 1.22	50	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI63, SK112・128・141・164→本跡
112	L16j2	N-50°-E	長方形	1.84 x 1.30	42	平坦	外傾	人為	鉄製品	不明	SI63, 方形竪穴12→本跡→SK111
114	L16i2	N-52°-E	長方形	2.54 x 1.14	74	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SK115・117→本跡
115	L16i2	N-52°-E	長方形	1.96 x 1.40	50	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI68→本跡→UP7, SK114
116	L16h1	N-37°-W	長方形	2.12 x 1.62	46	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI68・69→本跡→UP5, SK126
117	L16i1	N-44°-E	長方形	1.76 x 1.46	40	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI68→本跡→SK114
121	L16h2	N-50°-E	[方形]	(1.2)x 1.16	26	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	SI68→本跡→SK118・124
124	L16h2	N-50°-E	長方形	2.44 x 1.46	46	平坦	外傾	人為	-	不明	SK121→本跡→SK125, JJP6
125	L16h2	N-45°-E	長方形	1.48 x 1.08	46	平坦	外傾	人為	-	不明	UP6, SK124→本跡
128	L16j2	N-50°-E	[長方形]	(1.70)x (1.30)	56	平坦	外傾	-	-	不明	SK143・164→本跡→墓坑1, SK111・141
129	L15d5	N-37°-E	[方形]	(1.00)x (0.40)	26	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	本跡→SI66
131	L16i2	N-46°-E	[方形]	1.58 x (0.60)	76	平坦	外傾	人為	-	不明	SI68→本跡→UP7
132	L15c2	N-40°-W	長方形	1.28 x 0.98	30	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI76→本跡
133	L15f4	N-36°-W	長方形	6.62 x 2.06	10	平坦	緩斜	人為	土師器 須惠器 瓦	不明	本跡→SD20
135	L16h3	N-42°-E	[長方形]	(2.60)x 1.12	88	平坦	外傾	人為	土師器	不明	方形竪穴14, SK156→本跡→UP6, 墓坑3
138	L16i2	N-50°-E	[長方形]	1.64 x (0.90)	30	平坦	外傾	-	-	不明	本跡→SK114・141・164
141	L16i2	N-50°-E	長方形	2.06 x 1.42	52	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SK128・138・164→本跡→SK111
147	L15a3	N-46°-E	不整楕円形	3.66 x 2.34	30	平坦 ピット有	緩斜	人為	土師器 須惠器, 陶器 磁器 土玉	不明	本跡→SD11
150	K14g8	N-50°-W	長方形	1.24 x 0.92	24	平坦	緩斜	人為	土師器 土玉	不明	
153	K14i8	N-37°-E	[長方形]	1.68 x (1.00)	10	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	本跡→SK154・159
154	K14j8	-	円形	0.56 x 0.54	28	皿状	緩斜	人為	-	不明	SK153→本跡
155	K14g9	N-66°-W	[方形]	0.80 x (0.30)	20	平坦	緩斜	-	-	不明	本跡→SI84・93
157	K14i7	N-39°-E	楕円形	1.06 x 0.86	14	皿状	緩斜	人為	土師器 須惠器	不明	SI90→本跡
158	K14i7	N-44°-W	[方形]	1.30 x (0.60)	14	平坦	緩斜	人為	-	不明	SI98→本跡→SI90
159	K14i8	N-56°-W	長方形	1.54 x 1.38	16	平坦	緩斜	人為	-	不明	SK153→本跡
162	K14g8	N-49°-W	長方形	1.10 x 0.74	30	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI84→本跡
164	L16i2	N-50°-E	長方形	2.88 x 1.30	48	平坦	外傾	人為	-	不明	SK138・143→本跡→SK111・128・141
166	L16i3	N-41°-W	[方形]	(1.10)x (0.80)	38	平坦	外傾	人為	縄文土器	不明	本跡→UP8, SK143
169	L15b4	N-44°-W	長方形	1.82 x 1.36	30	平坦	外傾	人為	-	不明	本跡→方形竪穴17
170	L15b5	N-54°-E	長方形	1.88 x 1.08	30	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI100, SK173→本跡
171	L15b5	N-43°-W	[長方形]	(1.20)x 1.04	14	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	本跡→SI100

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
173	L15b5	N - 54° - E	長方形	1.76 × 0.78	30	平坦	外傾	人為	-	不明	SI100→本跡→SK170
175	L15j0	-	円形	0.56 × 0.52	32	二段	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	
176	L16i1	-	円形	0.46 × 0.46	26	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
177	L15i9	N - 29° - E	長方形	0.64 × 0.58	36	皿状	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	
178	L15j9	N - 35° - W	[方形]	1.68 × (1.50)	14	凹凸	緩斜	人為	土師器 須惠器	不明	
179	L16d1	N - 30° - E	楕円形	1.36 × 0.90	38	皿状	緩斜	人為	-	不明	
180	L16d2	N - 35° - W	楕円形	2.28 × 1.02	64	皿状	緩斜	人為	-	不明	
182	K14e6	N - 40° - E	楕円形	0.72 × 0.60	16	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI96, SK184→本跡
183	K14d6	N - 9° - W	楕円形	0.58 × 0.52	18	皿状	緩斜	人為	土師器 須惠器 鉄滓	不明	SI96→本跡
184	K14e6	-	[円形]	0.64 × (0.50)	30	皿状	外傾	人為	-	不明	SI96→本跡→SK182
185	J14h4	N - 39° - W	楕円形	1.18 × 0.88	10	平坦	緩斜	自然	-	不明	
190	K15e3	N - 42° - E	長方形	1.24 × 1.00	10	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	SK191→本跡→火葬土坑 2
191	K15e3	N - 41° - W	長方形	2.62 × 1.08	32	平坦	外傾	人為	土師器	不明	本跡→火葬土坑 2, SK190
194	K15b1	N - 15° - W	楕円形	1.28 × 0.94	80	二段	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	SI106→本跡
196	K14c7	N - 50° - W	楕円形	0.78 × 0.70	10	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI103→本跡
197	K14d7	N - 55° - E	長方形	0.86 × 0.74	68	平坦	外傾	人為	-	不明	SI103→本跡
198	K14c8	N - 42° - W	方形	1.24 × 1.22	22	平坦	緩斜	人為	-	不明	SI103→本跡
199	K14d7	N - 42° - E	[方形]	0.96 × (0.90)	14	平坦	緩斜	人為	-	不明	SI103→本跡→方形竪穴15
201	J13c8	N - 30° - E	長方形	2.20 × 1.38	60	平坦	外傾	人為	土師器 須惠器	不明	堀 1→本跡
202	J13e7	N - 56° - W	方形	0.38 × 0.36	50	皿状	外傾	自然	-	不明	堀 1→本跡
203	L16i1	N - 20° - W	楕円形	0.48 × 0.34	12	皿状	緩斜	人為	-	不明	
204	L16i1	-	円形	0.40 × 0.38	10	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
206	L15i0	N - 33° - E	楕円形	0.62 × 0.50	62	皿状	外傾	自然	須惠器	不明	
207	L16j1	N - 55° - E	楕円形	0.40 × 0.32	30	皿状	外傾	人為	-	不明	
208	L15i6	N - 21° - E	楕円形	1.52 × 0.92	30	皿状	外傾	人為	-	不明	
209	L15f9	N - 37° - W	楕円形	0.50 × 0.40	46	皿状	外傾	自然	土師器	不明	
210	L15g9	N - 43° - W	楕円形	0.38 × 0.34	38	皿状	外傾	自然	-	不明	
211	L15d6	N - 60° - W	楕円形	0.40 × 0.36	16	皿状	緩斜	自然	-	不明	
212	L15g0	N - 90°	楕円形	0.36 × 0.32	50	皿状	外傾	人為	-	不明	
213	L16h1	N - 0°	楕円形	0.46 × 0.40	36	皿状	外傾	人為	土師器	不明	
215	L15c4	-	円形	0.42 × 0.42	50	二段	外傾	人為	-	不明	
216	L15c4	-	円形	0.44 × 0.44	22	皿状	緩斜	自然	-	不明	
217	L15b4	N - 41° - E	楕円形	0.68 × 0.46	32	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
218	L15b3	-	円形	0.44 × 0.44	36	皿状	外傾	人為	-	不明	
219	L15a5	-	円形	0.44 × 0.44	24	皿状	緩斜	人為	-	不明	
220	L15b5	-	円形	0.46 × 0.42	38	皿状	外傾	自然	須惠器	不明	
221	L15b6	-	円形	0.34 × 0.32	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	
222	L15b6	N - 24° - W	楕円形	0.42 × 0.36	46	皿状	外傾	人為	-	不明	
223	L15e5	-	円形	0.68 × 0.66	22	皿状	緩斜	人為	-	不明	
224	L15e5	-	円形	0.58 × 0.58	30	皿状	外傾	人為	-	不明	
225	L15e4	N - 18° - W	楕円形	0.66 × 0.56	24	平坦	緩斜	人為	-	不明	
226	L15e4	N - 30° - E	楕円形	0.60 × 0.52	30	皿状	外傾	人為	-	不明	
227	L15e4	N - 25° - W	楕円形	0.62 × 0.56	14	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	SK228→本跡
228	L15e4	-	円形	0.44 × 0.44	12	皿状	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK227
229	L15e4	N - 74° - E	楕円形	0.72 × 0.54	18	皿状	緩斜	自然	-	不明	
231	J13d9	N - 49° - W	長方形	1.00 × 0.80	38	平坦	外傾	人為	土師器 煙管	不明	SD10・18→本跡
233	L15a3	-	円形	0.32 × 0.30	22	皿状	緩斜	自然	-	不明	
234	L14c0	N - 48° - E	長方形	0.94 × 0.76	14	平坦	緩斜	人為	土師器 須惠器	不明	本跡→SB 4
235	K14c4	N - 26° - E	長方形	1.18 × 0.90	20	平坦	緩斜	人為	土師器 須惠器	不明	SD15→本跡
236	K15e1	-	円形	0.80 × 0.80	36	皿状	外傾	人為	-	不明	
238	J13d7	N - 0°	不整楕円形	0.48 × 0.32	50	二段	外傾	人為	-	不明	堀 1→本跡
240	J13i8	N - 43° - E	長方形	1.06 × 0.84	20	平坦	緩斜	自然	土師器 須惠器	不明	
241	J13i8	N - 53° - W	長方形	1.64 × 1.10	24	平坦	緩斜	自然	土師器 須惠器	不明	
242	J13h8	N - 49° - E	楕円形	1.36 × 1.00	30	平坦	外傾	自然	土師器 須惠器	不明	
243	J13i8	N - 46° - W	楕円形	1.32 × 1.00	26	平坦	緩斜	自然	土師器 須惠器	不明	
248	K13a9	N - 31° - W	長方形	1.18 × 0.82	22	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	
249	K13a0	N - 40° - W	長方形	1.42 × 1.22	20	平坦	緩斜	人為	土師器 須惠器	不明	

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
250	K13b0	-	円形	1.00 × 0.94	16	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	
251	K14a1	N - 28° - W	楕円形	1.20 × 0.82	18	平坦	緩斜	自然	-	不明	
252	J13j8	N - 0°	楕円形	0.40 × 0.32	32	平坦	外傾	自然	土師器	不明	
253	J13i8	N - 0°	楕円形	0.40 × 0.36	36	平坦	外傾	自然	土師器	不明	
254	K14b1	N - 40° - W	楕円形	2.02 × 1.70	16	平坦	緩斜	自然	縄文土器 土師器	不明	
255	K13b0	N - 60° - E	楕円形	0.40 × 0.36	26	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
256	K13a0	N - 62° - E	楕円形	0.92 × 0.58	30	平坦	外傾	人為	土師器	不明	
257	K14a1	N - 6° - W	楕円形	1.12 × 0.80	30	平坦	外傾	自然	土師器	不明	
259	J13i7	N - 50° - E	楕円形	0.96 × 0.70	20	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	
260	K13a9	-	円形	0.40 × 0.38	52	皿状	外傾	自然	土師器	不明	
261	K13a9	-	円形	0.34 × 0.34	40	皿状	外傾	自然	土師器	不明	
262	J13j9	N - 15° - E	楕円形	0.46 × 0.40	20	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	本跡→SB 9
265	K14b1	-	円形	0.48 × 0.46	16	皿状	緩斜	自然	-	不明	
266	J13j8	N - 14° - W	楕円形	0.42 × 0.38	38	皿状	外傾	自然	須恵器	不明	SB 9 →本跡
267	J13f7	N - 41° - W	楕円形	0.60 × 0.54	40	凹凸	外傾	自然	土師器	不明	
268	J13f8	-	円形	0.42 × 0.42	30	皿状	外傾	人為	-	不明	
269	J13g7	N - 26° - W	楕円形	1.22 × 0.82	32	平坦	外傾	自然	土師器	不明	
271	J13g7	N - 64° - W	楕円形	1.10 × 0.92	38	平坦	外傾	自然	土師器	不明	
273	J13g8	N - 36° - W	楕円形	0.46 × 0.40	36	二段	外傾	自然	-	不明	
274	J13g8	-	円形	0.50 × 0.48	32	皿状	外傾	自然	土師器	不明	
275	J13g9	N - 7° - W	楕円形	0.60 × 0.50	48	皿状	外傾	自然	-	不明	
276	J13g9	N - 65° - E	楕円形	0.46 × 0.40	76	二段	外傾	自然	縄文土器	不明	
277	J13g9	N - 44° - W	楕円形	0.40 × 0.36	34	皿状	外傾	自然	-	不明	
278	J13f9	N - 0°	楕円形	0.56 × 0.50	18	皿状	緩斜	自然	-	不明	
279	J13f9	-	円形	0.68 × 0.64	34	二段	外傾	自然	-	不明	
280	J13e9	N - 34° - E	楕円形	0.64 × 0.54	80	皿状	外傾	人為	土師器	不明	
281	J13f9	N - 56° - W	楕円形	1.00 × 0.68	66	二段	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	
282	J13f9	-	円形	0.48 × 0.44	30	平坦	外傾	自然	土師器	不明	
283	J13g7	N - 36° - E	長方形	1.08 × 0.62	42	平坦 ピット有	外傾	人為	-	不明	SK284→本跡
284	J13g7	N - 36° - E	[長方形]	(1.40) × 1.22	32	平坦	外傾	人為	-	不明	本跡→SK283
285	J13e9	-	円形	0.50 × 0.46	42	二段	外傾	自然	土師器 剥片	不明	
287	K15c7	N - 42° - E	楕円形	0.80 × 0.72	22	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI108→本跡
288	K14b0	-	円形	0.72 × 0.70	16	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	SI106→本跡
290	K15d8	N - 71° - E	長方形	0.72 × 0.48	18	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI10・109→本跡
291	K15e8	-	円形	0.62 × 0.60	12	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	SI10・109→本跡
292	K15d9	N - 25° - E	楕円形	0.62 × 0.52	10	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI10・109→本跡
293	K15e9	-	円形	0.62 × 0.58	12	皿状	緩斜	自然	縄文土器	不明	SI109, SK294→本跡
294	K15e9	N - 85° - E	[楕円形]	(0.50) × 0.42	14	皿状	緩斜	自然	縄文土器	不明	SI109→本跡→SK293
296	J14f1	-	円形	0.50 × 0.50	40	皿状	外傾	自然	-	不明	
297	K14c2	-	円形	1.12 × 1.10	26	平坦 ピット有	緩斜	自然	土師器 須恵器	不明	SI52・53→本跡
298	K14b1	N - 43° - W	長方形	1.32 × 0.96	26	平坦	緩斜	人為	土師器 須恵器	不明	
299	K14b2	N - 21° - W	楕円形	0.60 × 0.46	40	皿状	外傾	自然	土師器	不明	
300	K15j9	N - 52° - W	長方形	1.96 × 1.10	42	平坦	外傾	人為	-	不明	
301	L15a0	N - 58° - W	長方形	1.12 × 0.98	10	平坦 ピット有	緩斜	人為	土師器	不明	
303	I13c3	N - 9° - W	楕円形	0.48 × 0.42	24	皿状	緩斜	自然	-	不明	
304	I13c3	-	円形	0.40 × 0.40	20	二段	緩斜	自然	縄文土器 土師器	不明	
305	I13c3	N - 72° - W	楕円形	0.64 × 0.52	30	皿状	外傾	自然	縄文土器 土師器	不明	
306	I13c3	N - 43° - E	楕円形	0.60 × 0.40	24	二段	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK307
307	I13c3	N - 11° - E	楕円形	0.58 × 0.38	52	皿状	外傾	自然	土師器 須恵器	不明	SK306→本跡
308	I13d4	-	[円形]	0.48 × (0.40)	24	皿状	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK309
309	I13d4	N - 66° - W	楕円形	0.52 × 0.40	20	皿状	緩斜	自然	-	不明	SK308→本跡
310	I13c4	N - 54° - E	楕円形	0.72 × 0.50	56	二段	外傾	人為	-	不明	
311	I13d4	-	[円形]	0.36 × (0.30)	28	皿状	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK312
312	I13d4	-	円形	0.38 × 0.36	35	皿状	外傾	自然	土師器	不明	SK311→本跡
313	I13c4	N - 78° - W	楕円形	0.42 × 0.30	20	皿状	緩斜	-	-	不明	
314	I13d4	N - 33° - E	楕円形	0.60 × 0.30	54	二段	外傾	-	-	不明	
315	I13c4	-	円形	0.42 × 0.42	32	皿状	外傾	-	-	不明	

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
316	I13d4	N-90°	楕円形	0.38 × 0.32	22	皿状	緩斜	-	-	不明	
317	I13d3	N-6°-E	楕円形	0.52 × 0.34	40	二段	外傾	-	土師器	不明	
318	J14e1	N-44°-W	長方形	1.28 × 1.02	26	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	
319	J14e2	N-23°-E	[方形]	(1.30) × 1.24	34	平坦 ピット有	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	本跡→SK320
320	J14f2	N-66°-W	長方形	1.46 × 1.22	30	平坦 ピット有	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	SK319→本跡
321	J14e4	N-56°-W	方形	1.26 × 1.20	32	平坦	外傾	人為	-	不明	
322	J14i7	N-56°-W	長方形	1.46 × 0.88	10	平坦	緩斜	人為	-	不明	
323	J14i7	N-55°-W	長方形	1.02 × 0.84	10	平坦	緩斜	人為	-	不明	SI32→本跡
324	J14g8	N-27°-E	長方形	1.32 × 1.04	14	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	
326	J14i9	-	円形	0.80 × 0.74	42	二段	外傾	人為	-	不明	
328	J14j8	N-0°	楕円形	0.36 × 0.28	26	皿状	緩斜	-	-	不明	
329	J14j8	-	円形	0.40 × 0.40	40	皿状	外傾	-	-	不明	SK96→本跡
330	J14j8	N-53°-E	楕円形	0.36 × 0.30	60	皿状	外傾	-	-	不明	
331	J14h9	N-0°	楕円形	0.58 × 0.52	44	皿状	外傾	-	-	不明	
332	J14i8	N-17°-E	楕円形	0.46 × 0.38	66	皿状	外傾	-	-	不明	
333	J14i8	-	円形	0.30 × 0.30	44	皿状	外傾	-	-	不明	
334	J14h8	N-50°-W	楕円形	0.52 × 0.42	28	二段	緩斜	-	-	不明	
335	J14i8	N-29°-E	楕円形	0.40 × 0.32	68	皿状	外傾	-	-	不明	
336	J14i8	-	円形	0.26 × 0.24	34	皿状	外傾	-	-	不明	
337	J14j8	N-61°-E	楕円形	0.44 × 0.40	32	皿状	外傾	-	-	不明	
338	J14i8	N-36°-E	楕円形	0.38 × 0.32	40	皿状	外傾	-	-	不明	
339	J14j9	N-50°-W	楕円形	0.36 × 0.32	40	皿状	外傾	-	-	不明	
340	J14j9	N-38°-W	楕円形	0.38 × 0.32	42	皿状	外傾	-	-	不明	
341	J14i9	N-54°-W	楕円形	0.46 × 0.38	40	皿状	外傾	-	-	不明	
342	J14i8	N-66°-W	楕円形	0.58 × 0.52	28	皿状	緩斜	-	-	不明	
343	J14i9	-	円形	0.32 × 0.32	28	皿状	緩斜	-	-	不明	
344	J14i0	N-53°-W	長方形	2.10 × 1.70	30	二段	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	SK93→本跡
345	J14j9	N-18°-W	楕円形	0.48 × 0.38	34	平坦	外傾	-	-	不明	
346	J14j9	-	円形	0.36 × 0.34	56	皿状	外傾	-	-	不明	
347	J14i9	-	円形	0.28 × 0.28	44	皿状	外傾	-	-	不明	
348	J14i9	-	円形	0.32 × 0.30	48	皿状	外傾	-	-	不明	
349	J14f4	N-73°-W	楕円形	0.84 × 0.50	34	二段	外傾	人為	土師器 須恵器	不明	SK350→本跡
351	J15i3	-	円形	0.64 × 0.62	40	皿状	外傾	自然	-	不明	
352	J15j3	-	円形	0.38 × 0.38	36	皿状	外傾	-	-	不明	
353	K15a2	-	円形	0.32 × 0.32	40	二段	外傾	-	-	不明	
354	K15a1	N-77°-W	方形	0.86 × 0.82	40	皿状	外傾	人為	-	不明	
355	J14f3	N-55°-W	長方形	0.88 × 0.66	30	平坦 ピット有	外傾	人為	土師器	不明	SI4, SK350→本跡
356	K15c7	N-12°-E	長方形	0.52 × 0.46	18	皿状	緩斜	-	-	不明	
357	K15c7	N-90°	方形	0.44 × 0.40	16	皿状	緩斜	-	-	不明	
358	K15c0	-	円形	0.98 × 0.98	14	平坦	緩斜	人為	-	不明	SI22→本跡
359	K15d0	N-71°-E	長方形	0.54 × 0.46	22	皿状	緩斜	-	-	不明	
360	K15e0	N-87°-E	長方形	1.06 × 0.64	16	平坦	緩斜	人為	-	不明	
361	K15b6	-	円形	0.54 × 0.54	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	
362	K15c6	-	円形	0.62 × 0.60	16	皿状	緩斜	自然	-	不明	
363	L16a1	N-56°-W	方形	1.80 × 1.70	20	平坦	緩斜	人為	-	不明	
364	K16j4	N-32°-W	楕円形	1.00 × 0.82	26	平坦	緩斜	人為	-	不明	
365	K16i3	N-31°-E	楕円形	1.00 × 0.80	16	平坦	緩斜	自然	-	不明	
366	K15c0	N-68°-E	長方形	1.14 × 0.50	22	平坦	緩斜	人為	-	不明	SI22→本跡
367	L16a7	-	円形	0.56 × 0.56	12	皿状	緩斜	-	-	不明	
368	L16a8	N-8°-E	楕円形	0.50 × 0.44	26	皿状	緩斜	-	須恵器	不明	
369	L16b8	N-27°-E	楕円形	0.52 × 0.42	36	皿状	外傾	-	-	不明	
370	K16j8	N-57°-W	楕円形	0.56 × 0.48	32	皿状	外傾	-	-	不明	
371	K16j3	-	円形	0.80 × 0.78	20	皿状	緩斜	自然	-	不明	
372	K16j3	N-34°-E	楕円形	0.72 × 0.60	10	皿状	緩斜	自然	-	不明	
373	K16h2	N-48°-W	楕円形	0.72 × 0.50	10	皿状	緩斜	自然	-	不明	
374	K16i2	N-56°-E	楕円形	1.00 × 0.88	30	平坦	外傾	自然	-	不明	
375	K16h3	N-31°-W	楕円形	0.40 × 0.34	20	皿状	緩斜	-	-	不明	SK376→本跡

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
376	K16h3	N - 10° - W	[楕円形]	(0.40) × 0.34	52	皿状	外傾	-	-	不明	本跡→SK375
377	K16g3	-	円形	0.40 × 0.40	16	皿状	緩斜	-	-	不明	
378	L16b9	N - 10° - W	楕円形	0.46 × 0.40	46	皿状	外傾	-	-	不明	
379	L16b9	-	円形	0.46 × 0.46	10	皿状	緩斜	-	-	不明	
380	K16h6	-	[円形]	(0.60) × 0.58	24	皿状	緩斜	人為	-	不明	本跡→SK381
381	K16h6	N - 45° - E	楕円形	0.62 × 0.54	38	皿状	外傾	人為	-	不明	SK380→本跡
382	K16h5	N - 55° - E	[円形]	0.68 × (0.50)	42	皿状	外傾	-	-	不明	本跡→SK383
383	K16h5	N - 48° - W	楕円形	0.60 × 0.52	66	皿状	外傾	-	-	不明	SK382→本跡
385	K16h6	N - 3° - W	楕円形	0.62 × 0.44	38	皿状	外傾	-	-	不明	
386	K16i5	-	円形	0.58 × 0.54	34	皿状	外傾	-	-	不明	
387	K16i5	N - 9° - E	楕円形	0.52 × 0.46	40	皿状	外傾	-	-	不明	
388	K16h5	N - 81° - E	楕円形	0.32 × 0.28	20	皿状	緩斜	-	-	不明	
389	K16h5	N - 10° - E	楕円形	0.42 × 0.36	14	皿状	緩斜	-	-	不明	
390	K16i5	-	円形	0.46 × 0.44	26	皿状	緩斜	-	-	不明	
391	K16h4	N - 49° - E	楕円形	0.46 × 0.38	40	皿状	外傾	-	-	不明	SK404→本跡
392	K16i5	-	円形	0.50 × 0.50	30	皿状	外傾	-	-	不明	
393	K16j6	N - 43° - E	楕円形	0.32 × 0.28	36	皿状	外傾	-	-	不明	
394	K16j8	N - 24° - E	楕円形	0.54 × 0.42	52	二段	外傾	自然	-	不明	
396	L16b8	N - 36° - E	楕円形	0.56 × 0.50	16	皿状	緩斜	-	-	不明	
397	L16b8	-	円形	0.48 × 0.46	28	皿状	緩斜	-	-	不明	
398	L16c8	N - 15° - E	不整楕円形	0.52 × 0.46	28	凹凸	緩斜	-	-	不明	
399	L16c8	N - 50° - E	楕円形	0.50 × 0.44	20	皿状	緩斜	-	-	不明	
400	L16c7	N - 87° - E	不整楕円形	2.46 × 1.36	106	凹凸	外傾	人為	-	不明	
401	K16g4	N - 30° - E	楕円形	0.46 × 0.34	32	皿状	外傾	-	-	不明	
402	K16g5	-	円形	0.58 × 0.56	12	皿状	緩斜	自然	-	不明	
403	K16g4	N - 8° - W	楕円形	0.54 × 0.48	50	皿状	外傾	-	-	不明	
404	K16h4	-	[円形]	0.54 × (0.40)	26	皿状	緩斜	-	-	不明	本跡→SK391
405	K14f7	N - 48° - W	楕円形	1.50 × 0.94	50	平坦	外傾	-	-	不明	
406	K14f6	N - 42° - W	長方形	1.48 × 0.94	10	平坦 ピット有	緩斜	-	-	不明	SD14→本跡
407	K16i5	N - 49° - W	楕円形	0.52 × 0.34	56	皿状	外傾	-	-	不明	
409	K15e2	N - 45° - E	長方形	1.16 × 0.80	14	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	
410	K15c3	N - 12° - W	楕円形	1.18 × 0.92	30	平坦	外傾	-	土師器	不明	
411	K15b3	N - 59° - W	楕円形	1.60 × 0.52	12	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	SD16→本跡
413	K16i7	-	[円形]	0.92 × (0.80)	64	平坦	外傾	人為	-	不明	

(4) 溝跡 (第270・271図, 付図)

今回の調査で、時期・性格ともに不明の溝跡16条が確認されている。これらの溝跡については、土層断面図、実測図、土層解説、一覧表を遺構順に掲載し、平面図については遺構全体図(付図)で掲載するにとどめる。

第1号溝跡土層解説

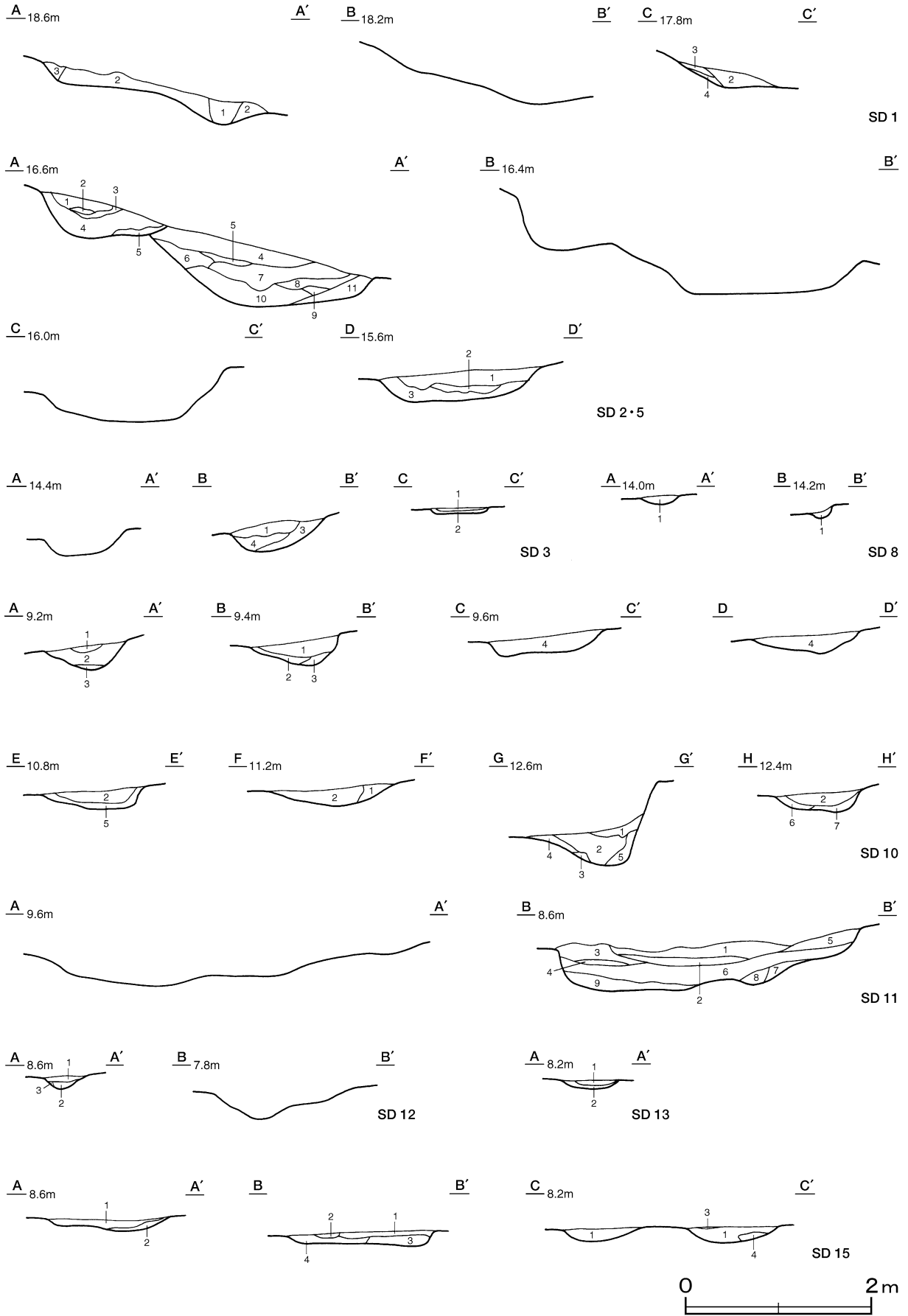
- 1 灰黄褐色 ロームブロック微量
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黄褐色 ローム粒子多量
- 4 黒褐色 細礫多量, ローム粒子少量

第3号溝跡土層解説

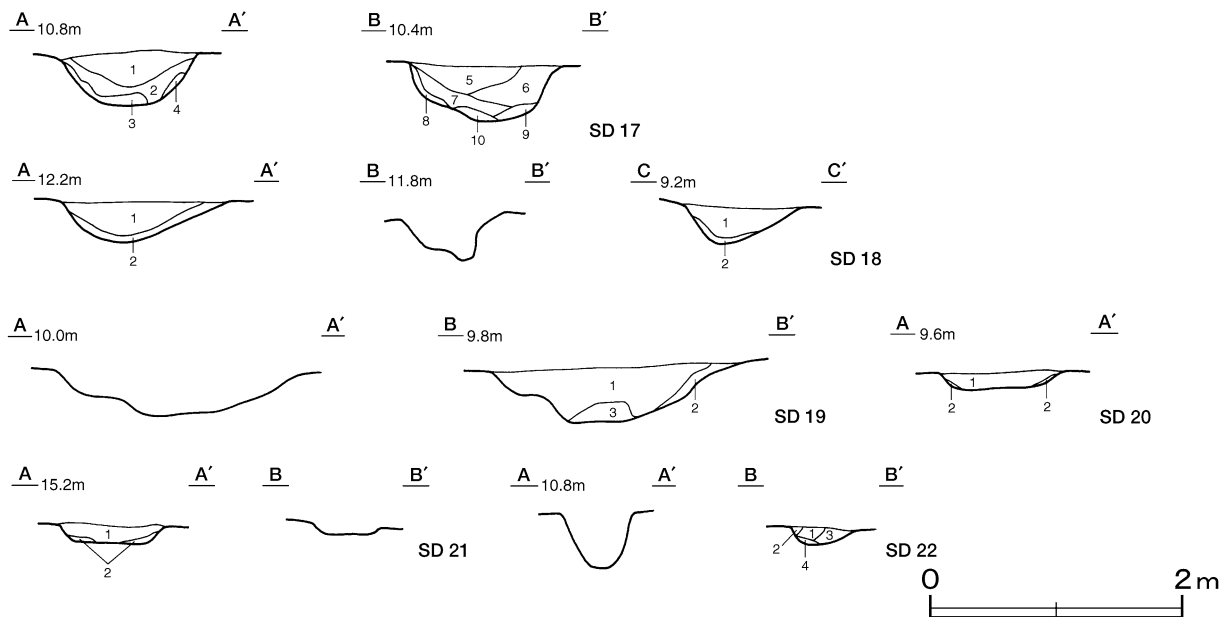
- 1 黒褐色 炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第2号溝跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 砂粒微量
- 5 にぶい黄褐色 炭化粒子微量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 7 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 9 にぶい黄褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 10 にぶい黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 11 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量



第270图 第1~3·5·8·10~13·15号沟迹实测图



第271図 第17～22号溝跡実測図

第5号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第8号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第10号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 灰黄褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 7 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

第11号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化物微量
- 5 暗褐色 炭化粒子少量, 砂粒微量
- 6 暗褐色 炭化粒子・砂粒微量
- 7 灰黄褐色 砂粒少量, 炭化粒子・粘土粒子多量
- 8 灰黄褐色 砂粒少量, 炭化粒子微量
- 9 黒褐色 砂粒少量, 炭化物微量

第12号溝跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第13号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第15号溝跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第17号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 砂質粘土粒子多量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 黒褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第18号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 焼土粒子少量

第19号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第20号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 炭化粒子微量

第21号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第22号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 粘土ブロック多量
- 3 黒褐色 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

表22 時期不明溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面形状	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)				
1	H13j1~I12b9	N-35°-E	直線状	(10.54)	1.00~2.44	0.12~0.52	10~25	浅いU字形	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器	本跡→SK18
2	I13c2~I12d0	N-41°-E N-45°-W	L字状	(13.72)	1.10~2.78	0.75~1.07	30~65	浅いU字形 逆台形	人為	土師器, 須恵器	本跡→SD5
3	I13f5~I13g0	N-80°-W	直線状	(19.60)	0.26~1.22	0.13~0.73	6~30	浅いU字形	人為	土師器, 須恵器	SI20→本跡
5	I13b1~I12c0	N-44°-E	直線状	(8.75)	0.82~1.45	0.18~0.46	32~35	浅いU字形	人為	土師器, 須恵器	SD2→本跡
8	I13g8~I13h0	N-74°-W	直線状	(10.02)	0.14~0.47	0.05~0.34	6~10	浅いU字形	不明	土師器, 須恵器	SI20→本跡→堀1
10	J13d9~L16g5	N-52°-W	直線状	(98.40)	0.49~1.62	0.22~0.90	18~38	浅いU字形	自然	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 磁器	SI15・42・47・48・102・103, SE1, SD16→本跡→SK231, SD12・15・18
11	K15j4~L14e0	N-44°-E	直線状	(25.76)	1.77~4.24	0.87~2.34	27	逆台形	自然	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 陶器, 磁器	SI76, SK147→本跡
12	K14b7~K14f3	N-48°-E	直線状	(22.12)	0.40~1.58	0.10~0.40	10~38	浅いU字形	自然	土師器, 須恵器	SI94・95→本跡→SD10
13	K14h6~K14i5	N-49°-E	直線状	(4.73)	0.44~0.68	0.35~0.63	10	逆台形	自然	土師器, 須恵器	SI91・92→本跡
15	K14a6~K14f2	N-43°-E	直線状	(21.71)	0.60~1.82	0.19~1.30	11~17	浅いU字形 逆台形	自然	土師器, 須恵器, 陶器	SI95→本跡→SK235, SD10
17	K15a3~K14c0	N-59°-E	直線状	16.16	0.60~1.32	0.34~0.84	40~42	U字形	人為	土師器, 須恵器	SI106→本跡
18	I14j1~J13g5	N-50°-E	直線状	(37.62)	0.35~1.62	0.12~0.85	28~50	U字形	自然	土師器, 須恵器	堀1 SK200→本跡→SK231, SD10
19	L15h7~L15j6	N-43°-E	直線状	(6.78)	1.86~2.18	0.52~0.66	34~40	浅いU字形	人為	土師器, 須恵器	
20	L15f4~L15g3	N-50°-E	直線状	4.54	0.48~1.04	0.30~0.76	15	逆台形	自然	土師器, 須恵器	SK133→本跡
21	I13c4~I13d5	N-7°-W	直線状	(2.20)	0.37~0.55	0.28~0.40	9~12	逆台形	自然	土師器, 須恵器	
22	K15b3~K15c2	N-56°-E	直線状	6.93	0.26~0.52	0.12~0.30	16~43	U字形	人為	土師器, 須恵器	

(5) 遺構外出土遺物(第272~276図)

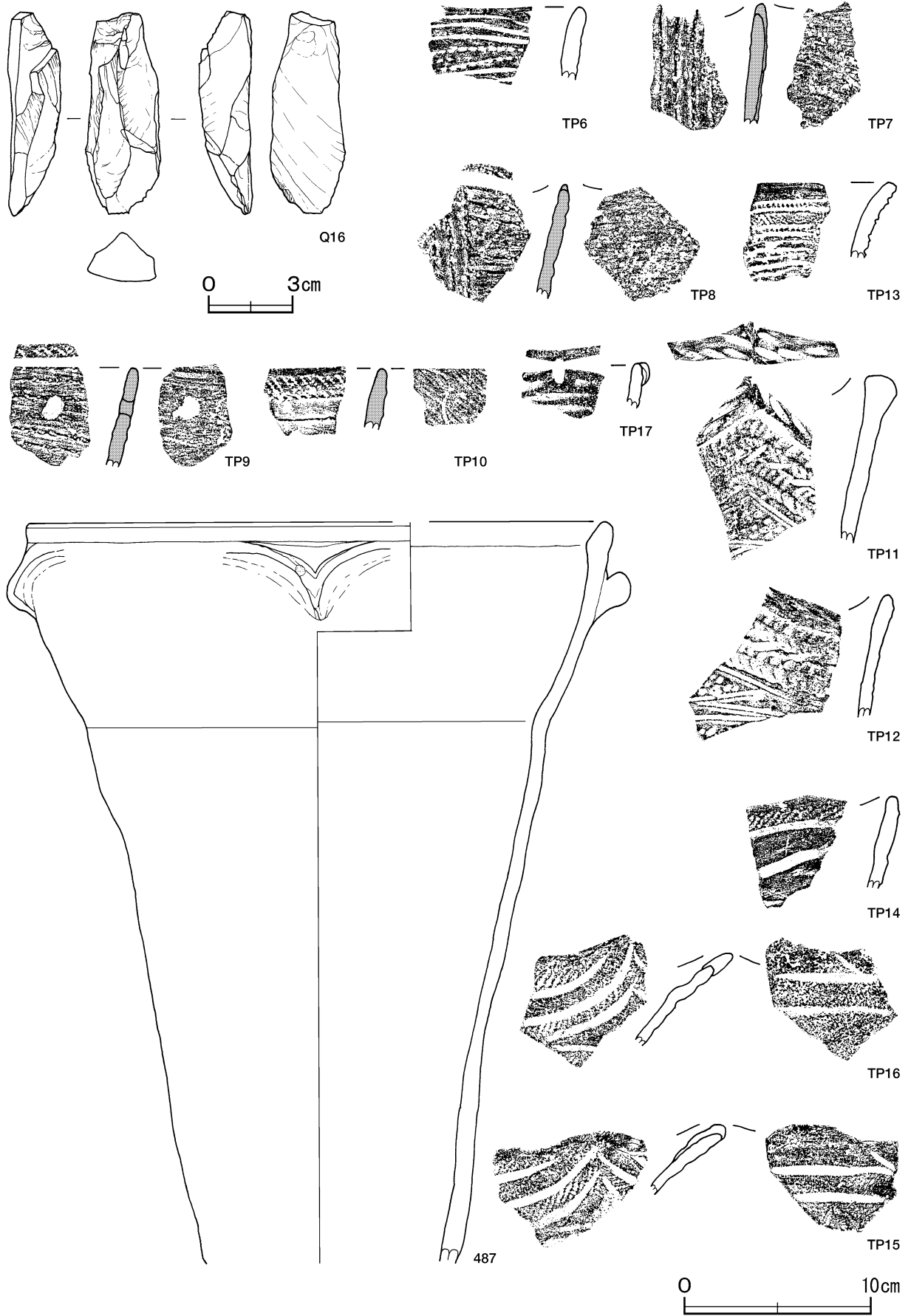
今回の調査で、表土層等から遺構に伴わない遺物が出土している。ここでは、土器(縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・土師質土器・陶器・青磁), 土製品(土器片錘・紡錘車), 瓦(丸瓦・平瓦), 石器(石鏃), 石製品(双孔円板), 古銭など特徴的な遺物について、実測図及び遺物観察表で掲載する。

旧石器時代遺構外出土遺物観察表(第272図)

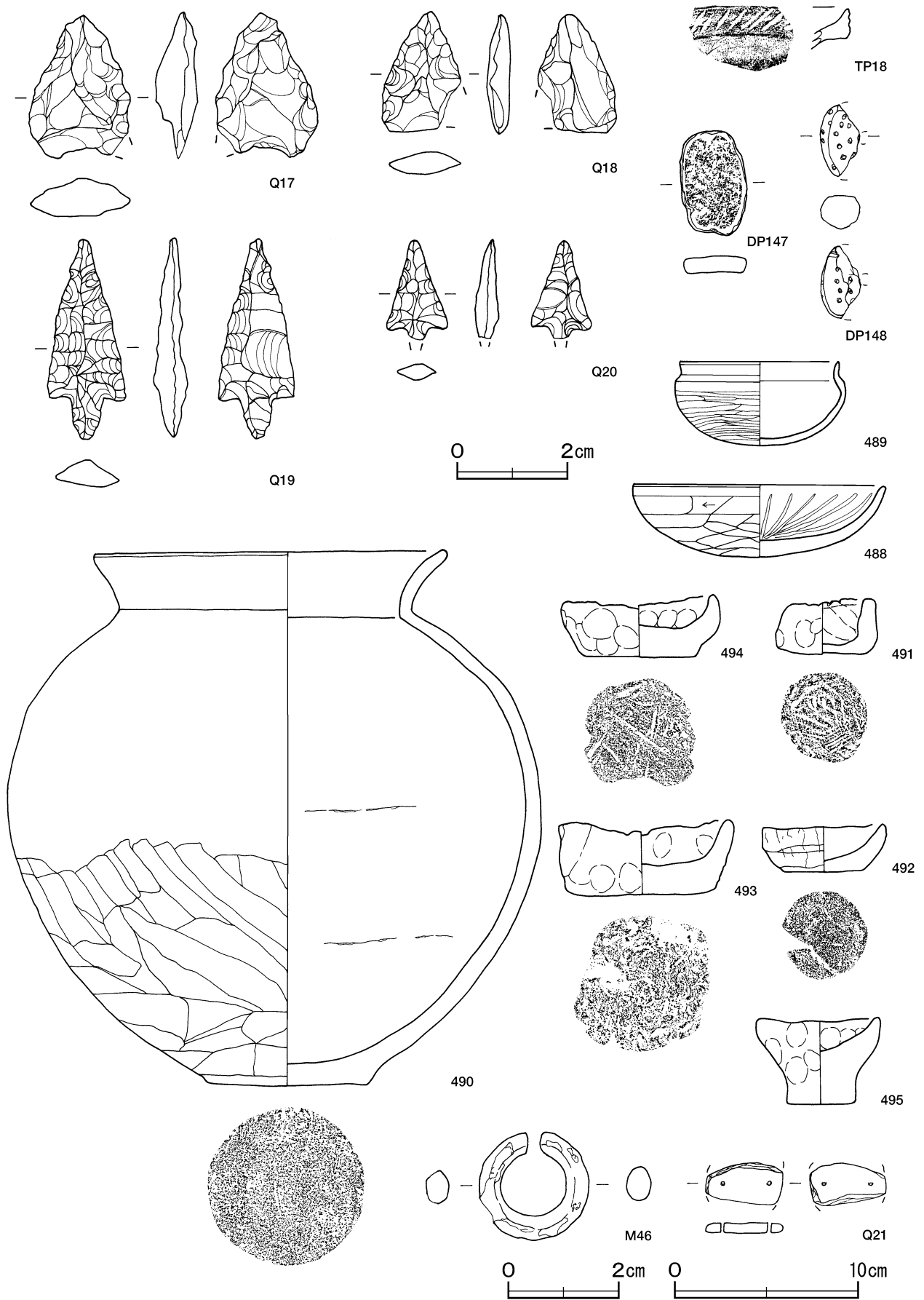
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	縦長剥片	7.8	2.9	1.9	40.8	安山岩	表面多方向から剥離痕 2面に礫面が残る	I13区表土	PL47

縄文時代遺構外出土遺物観察表(第272・273図)

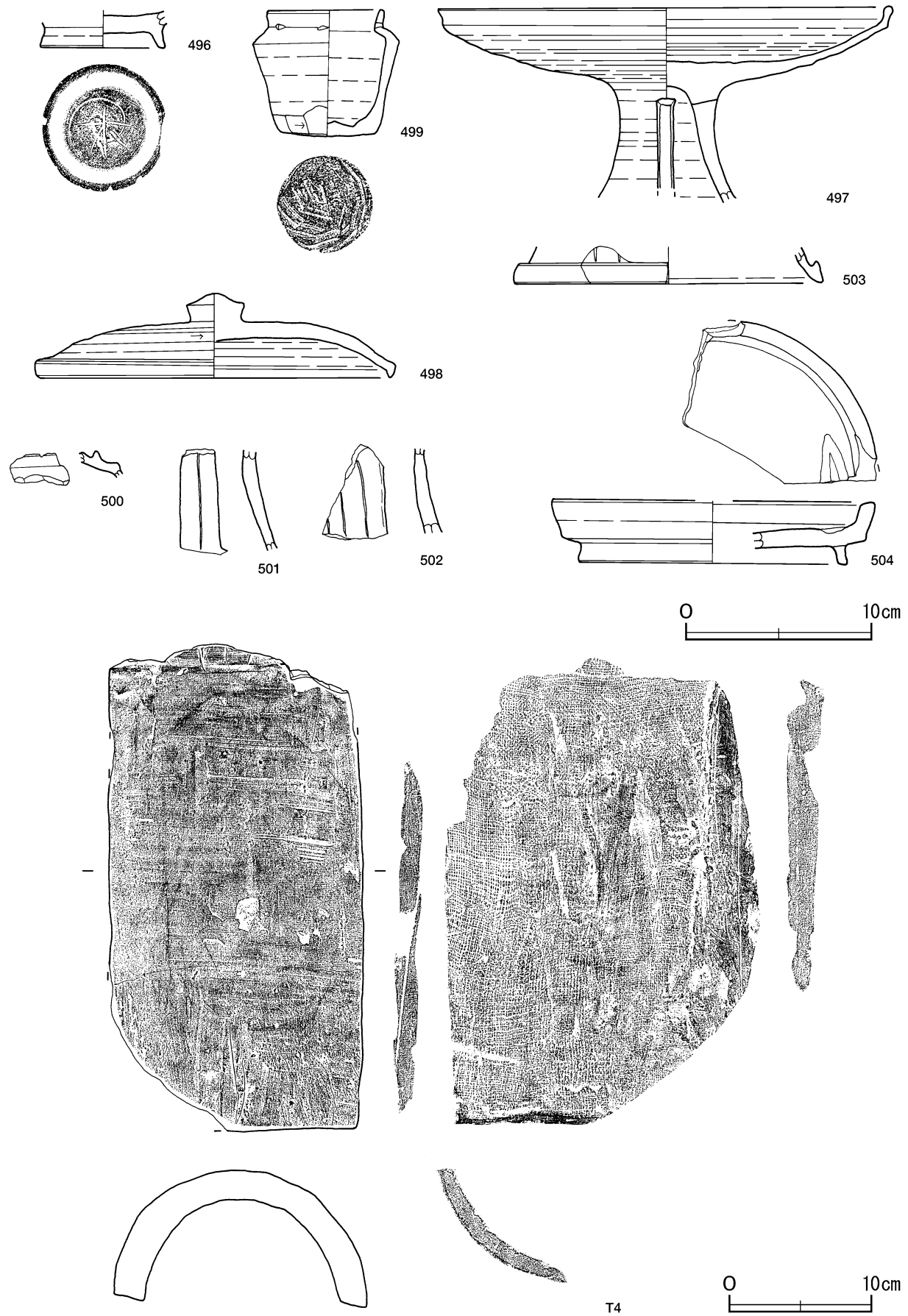
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
487	縄文土器	深鉢	[31.0]	(39.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面無文 口縁部に突起貼り付け	K15e6区表土	80% PL41 中期前半 (阿玉台Ib-II式)
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考			
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横位の沈線文, 爪形状刺突文を施文	J13区表土	PL44 早期前半(田戸下層式)			
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐	普通	波状口縁 口縁部縦位の微隆起線文, 微隆起線上に絡糸体圧痕文 外・内面貝殻痕文を施文	I13f7区表土	PL44 早期後半(野島式)			
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐	普通	波状口縁 口唇部絡糸体圧痕文 口縁部縦位・横位の微隆起線文, 微隆起線上に絡糸体圧痕文 外・内面貝殻痕文を施文	I13区表土	PL44 早期後半(野島式) TP2と同一個体カ			
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐	普通	口唇部絡糸体圧痕文 口縁部横位の微隆起線文, 微隆起線上に絡糸体圧痕文 外・内面貝殻痕文を施文 補修孔有り	I13区表土	PL44 早期後半(野島式) TP2と同一個体カ			
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐	普通	口縁部絡糸体圧痕文 口縁部横位の微隆起線文 内面貝殻痕文を施文	I13区表土	PL44 早期後半(野島式)			
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	波状口縁 口縁部横位の沈線文, 爪形状刺突文を施文	K15b7区表土	PL44 前期後半(浮島I式)			



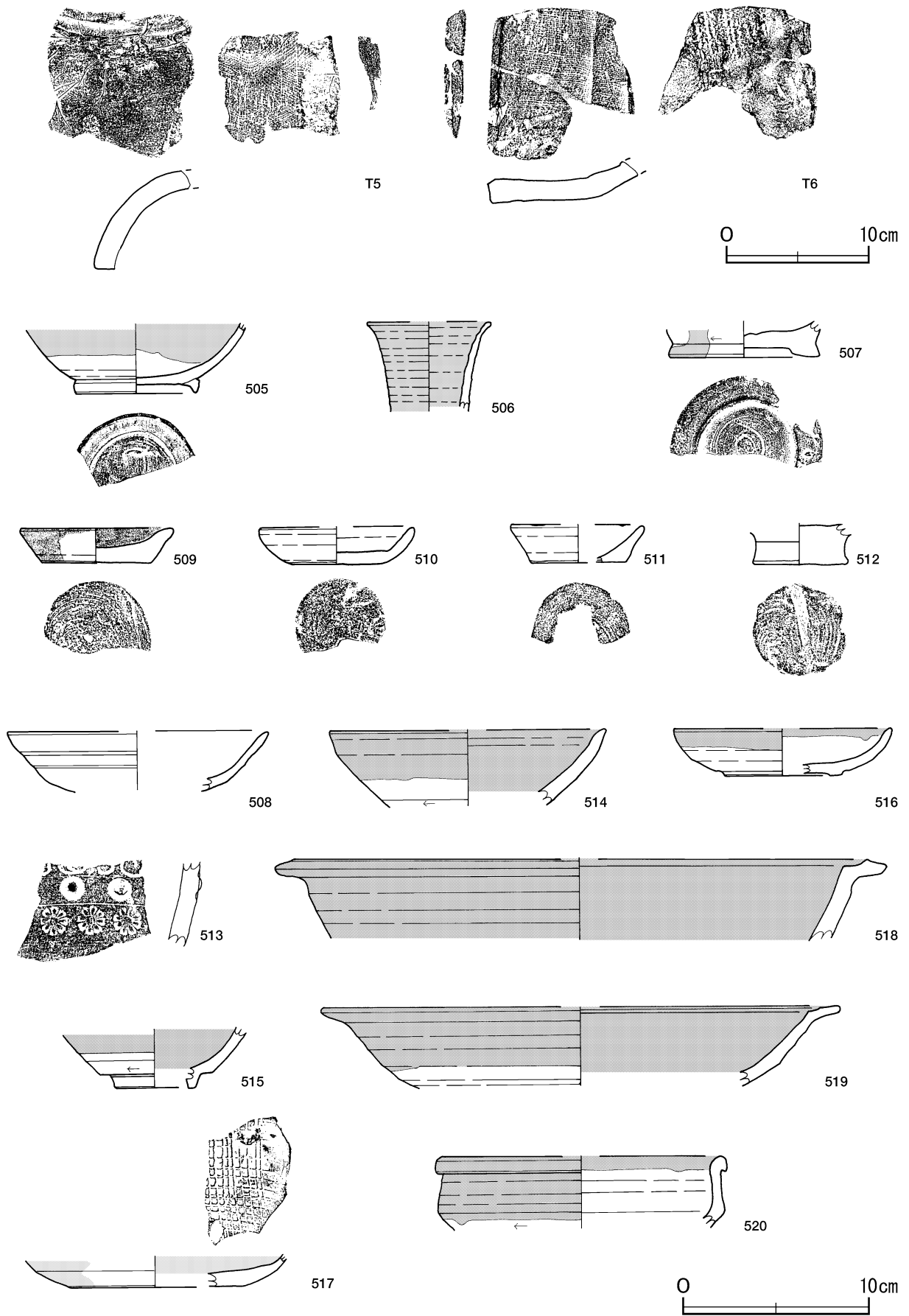
第272図 遺構外出土遺物実測図(1)



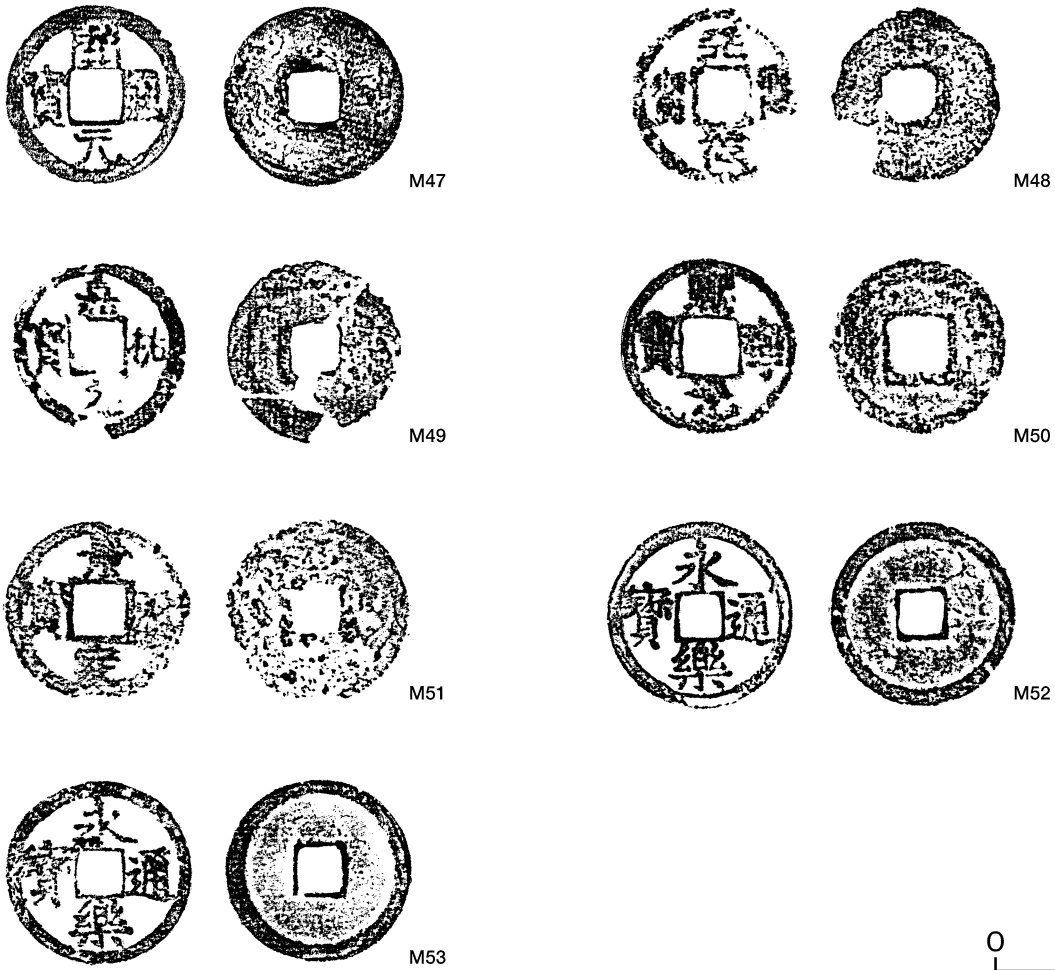
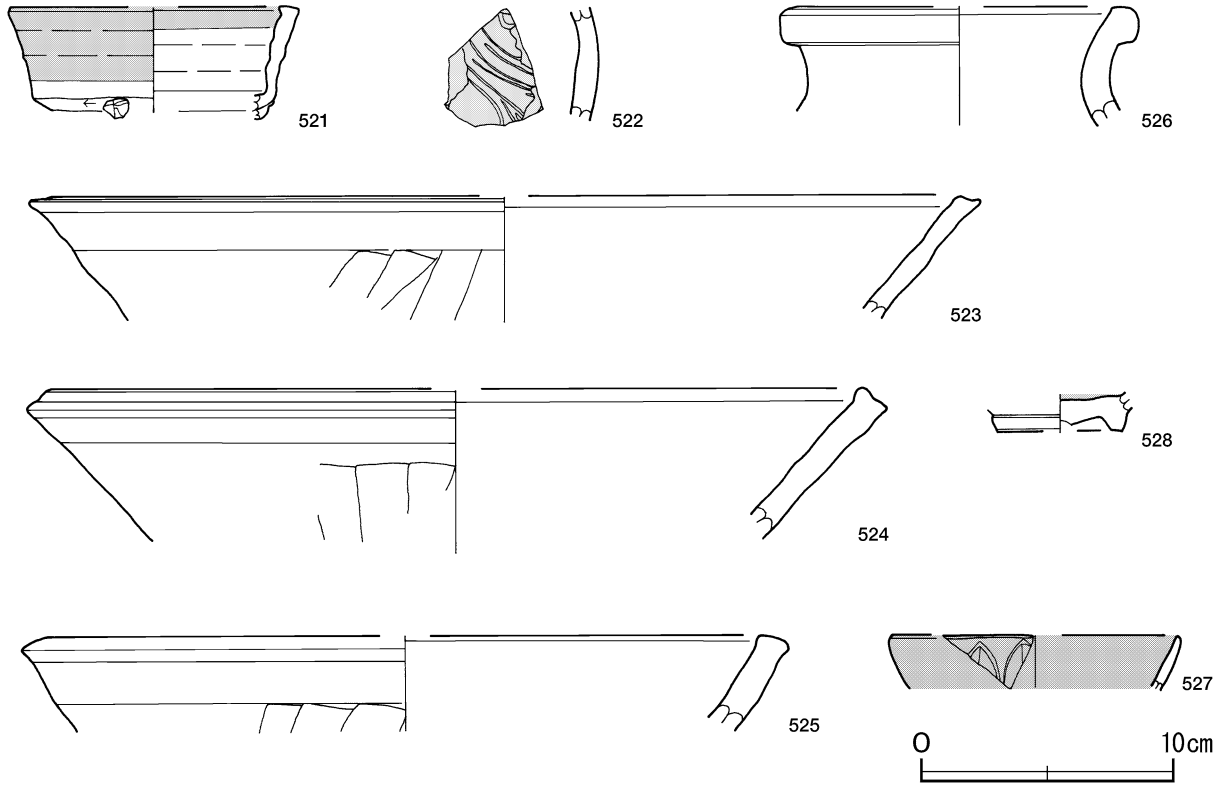
第273図 遺構外出土遺物実測図(2)



第274図 遺構外出土遺物実測図(3)



第275図 遺構外出土遺物実測図(4)



第276圖 遺構外出土遺物実測図(5)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	波状口縁 口縁部横位の沈線文, 爪形状刺突文を施文	K15b7区表土	PL44 前期後半(浮島Ⅰ式) TP6と同一個体か
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横位の沈線文, 押引文を施文	K15d6区表土	PL44 前期後半(浮島Ⅱ式)
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	波状口縁 口縁部単節縄文LR, 沈線文を施文 沈線区画内磨消	SK52覆土中	PL44 晩期後半(前浦式)
TP15	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	波状口縁 口縁部単節縄文LR, 沈線文を施文 沈線区画内磨消 内面太い沈線文を施文	J13区表土	PL44 晩期後半(前浦式)
TP16	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	波状口縁 口縁部単節縄文LR, 沈線文を施文 沈線区画内磨消 内面太い沈線文を施文	L15区表土	PL44 晩期後半(前浦式)
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部小突起 口縁部横位の沈線文を施文	L15区表土	PL44 晩期後半(大洞A式)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP147	土器片錘	5.6	3.5	0.9	23.1	長石・石英	縄文土器片転用 両端切り込み	SI74覆土中	PL47

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	石鏃	2.6	(1.8)	0.8	(2.6)	チャート	無茎 両面多方向から剥離痕	I13区表土	PL48
Q18	石鏃	2.2	(1.4)	0.4	(1.1)	チャート	無茎 両面多方向から剥離痕	I13区表土	PL48
Q19	石鏃	3.7	1.4	0.6	1.9	頁岩	有茎 両面多方向から剥離痕	J14g1区表土	PL48
Q20	石鏃	(1.8)	1.2	0.5	(0.5)	頁岩	有茎 両面多方向から剥離痕	K14b1区表土	PL48

弥生時代遺構外出土遺物観察表(第273図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP18	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	普通	折り返し口縁 口縁部端部結条体圧痕文を施文	SI55覆土中	PL44 後期後半(南関東系)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP148	紡錘車	(3.9)	(1.8)	-	(12.3)	長石・石英	表面棒状工具による刺突文	SI55覆土中	PL47

古墳時代遺構外出土遺物観察表(第273図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
488	土師器	坏	13.6	3.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面ナデ後, 放射状のヘラ磨き	I13区表土	80%
489	土師器	椀	8.6	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横位のヘラ磨き 内面ナデ	J14j1区表土	80%
490	土師器	甕	19.0	29.2	8.6	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面下半・底部ヘラナデ 内面ナデ 輪積痕	L15区表土	80% PL40
491	土師器	手捏土器	4.6	6.0	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	内・外面指頭圧痕 底面に板目状圧痕	I13区表土	100%
492	土師器	手捏土器	6.6	2.6	4.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面指頭圧痕 内面・底部ナデ	J14区表土	80% PL42
493	土師器	手捏土器	9.2	4.1	7.6	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面指頭圧痕	J15j5区表土	95% PL42
494	土師器	手捏土器	8.0	3.4	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面指頭圧痕 底面に板目状圧痕	K15b7区表土	95% PL42
495	土師器	手捏土器	6.6	4.7	[3.6]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	内・外面指頭圧痕	K15b7区表土	70% PL42

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	双孔円板	(2.3)	4.2	0.5	(8.5)	滑石	端部欠損	J13区表土	PL47

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M46	耳環	1.97	1.9	0.59	(5.2)	銅・金	銅芯 一部塗金遺存	K14b0区表土	PL49

奈良時代遺構外出土遺物観察表(第274・275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
496	須恵器	高台付坏	-	(2.0)	6.6	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け 底部外面ヘラ磨き『木』	J13区表土	20%
497	須恵器	高盤	24.4	(10.5)	-	長石・石英	灰	良好	4孔式脚部 盤部下端ナデ後, 脚貼り付け	I13f5区表土	70% PL34
498	須恵器	蓋	19.0	4.6	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け	I13f5区表土	95%
499	須恵器	小形短頸壺	6.2	6.9	5.2	長石・石英	黄灰	良好	体部下端・底部手持ちヘラ削り 焼成後, 頸部に5孔穿孔	I13f5区表土	95% PL37
500	須恵器	円面硯	-	(1.5)	-	長石・石英・黒色粒子	灰オリーブ	良好	硯部外縁に鋭い縁帯	I13区表土	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
501	須恵器	円面碗	-	(5.5)	-	長石・石英・黒色粒子	灰オリーブ	良好	脚部に1条の鋭い沈線	I 13区表土	5% 500と同一個体カ
502	須恵器	円面碗	-	(4.6)	-	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	脚部に3条以上の鋭い沈線	I 13区表土	5%
503	須恵器	円面碗	-	(2.0)	[16.6]	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	良好	脚部に3条以上の鋭い沈線	K 14区表土	5%
504	須恵器	宝珠碗カ	[17.2]	3.4	[14.4]	長石・石英・針状鉱物	灰黄	良好	底部ナデ後，高台貼り付け	K 15区表土	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴		出土位置	備考
T 4	丸瓦	(34.7)	18.0	2.5	(2820.0)	長石・石英・雲母	玉縁付	凸面ナデ 凹面布目	I 13d2区表土	PL50
T 5	丸瓦	(8.6)	(9.5)	1.5	(187.0)	長石・石英	玉縁付	凸面ナデ 凹面布目	I 13d2区表土	
T 6	平瓦	(10.8)	(11.4)	1.7	(223.0)	長石・石英・雲母	凹面布目	桶巻痕 凸面短縄叩き	I 13区表土	

平安時代遺構外出土遺物観察表 (第275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
505	灰釉陶器	椀	-	(3.8)	[6.6]	緻密	釉にぶい黄橙胎土灰黄褐	良好	底部回転系切り後，高台貼り付け 上半内・外面灰釉浸し掛け	L 15h8区表土	20% 折戸53号窯段階
506	灰釉陶器	平瓶	[6.6]	(4.8)	-	緻密	釉灰黄胎土灰黄	良好	口縁部内・外面灰釉を施釉	I 13h8区表土	5% 黒笹14号窯段階
507	灰釉陶器	長頸瓶	-	(2.0)	8.0	緻密	釉灰オリーブ胎土浅黄	良好	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け 外面灰釉を施釉	K 15b8区表土	10% 黒笹14号窯段階

中世遺構外出土遺物観察表 (第275・276図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
508	土師質土器	皿	[14.0]	(3.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部二段の横ナデ 体部・内・外面ナデ	I 14区表土	20%
509	土師質土器	小皿	8.2	1.9	5.8	長石・石英・雲母	黒褐	普通	底部回転系切り 内・外面油煙付着 灯明皿として使用	SI33覆土中	60%
510	土師質土器	小皿	[8.0]	2.0	4.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転系切り痕を残すナデ 内底面周縁に沈線状のナデ	J 14区表土	40%
511	土師質土器	小皿	[7.0]	2.0	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転系切り 口縁部内・外面油煙付着 灯明皿として使用	J 14区表土	40%
512	土師質土器	柱状高台付皿	-	(2.2)	5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	柱状高台部回転系切り 底面に棒状圧痕	K 15区表土	20%
513	瓦質土器	火舎	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面横ナデ 右巴文・珠文・八弁菊花文の印花 2条の沈線が巡る	J 14区表土	5%
514	陶器	平椀	[14.8]	(4.1)	-	緻密	釉オリーブ胎土灰黄	良好	体部下半回転ヘラ削り 内・外面灰釉を施釉 底部露胎	I 13j7区表土	10% 古瀬戸後Ⅲ期
515	陶器	天目茶椀	-	(3.2)	[4.2]	緻密	釉オリーブ黒胎土浅黄橙	良好	体部下半回転ヘラ削り 底部高台削り出し 内・外面鉄釉を施釉 底部露胎	K 14区表土	10% 古瀬戸後Ⅱ期
516	陶器	折縁小皿	[11.6]	2.5	[6.2]	緻密	釉オリーブ黄胎土浅黄	良好	底部高台削り出し 口縁部内・外面灰釉を施釉	J 13区表土	20% 古瀬戸後Ⅰ期
517	陶器	卸皿	-	(1.7)	[9.2]	緻密	釉オリーブ黄胎土灰白	良好	底部回転系切り 内・外面灰釉を施釉 底部露胎	K 15e3区表土	10% 古瀬戸後Ⅰ期
518	陶器	折縁深皿	[30.8]	(4.4)	-	緻密	釉灰オリーブ胎土灰白	良好	内・外面灰釉を施釉	J 14区表土	5% 古瀬戸後Ⅱ期
519	陶器	折縁深皿	[27.6]	(4.3)	-	緻密	釉オリーブ黄胎土浅黄	良好	口縁部から体部上半外面・内面灰釉を施釉	K 16e6区表土	5% 古瀬戸後Ⅱ期
520	陶器	袴腰形香炉	[15.0]	(3.9)	-	緻密	釉灰黄胎土浅黄	良好	体部下端回転ヘラ削り 口縁部から体部上半外面・口縁部内面鉄釉を施釉	M 15区表土	10% 古瀬戸後Ⅱ期
521	陶器	筒形香炉	[11.4]	4.4	[8.0]	緻密	釉オリーブ黄胎土灰黄	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部周縁に足貼り付け 口縁部から体部上半外面・口縁部内面灰釉を施釉	SI109覆土中	10% 古瀬戸後Ⅱ期
522	陶器	瓶子	-	(4.5)	-	緻密・長石	釉灰黄胎土浅黄	良好	草葉文をヘラ描き 外面灰釉を施釉	I 13区表土	5% 古瀬戸中期
523	陶器	片口鉢	[36.0]	(4.9)	-	長石・石英	灰赤	良好	体部外面縦位のヘラナデ Ⅱ類	K 15b7区表土	5% 常滑9型式
524	陶器	片口鉢	[32.0]	(6.0)	-	長石	にぶい橙	良好	体部外面縦位のヘラナデ Ⅱ類	L 15区表土	5% 常滑10型式
525	陶器	片口鉢	[28.0]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐	良好	体部外面縦位のヘラナデ Ⅱ類	表採	5% 常滑10型式
526	陶器	玉縁口縁壺	[12.2]	(4.7)	-	長石・石英	暗赤褐	良好	口縁部内・外面横ナデ 外面自然釉	I 13区表土	5% 常滑11型式
527	青磁	碗	[11.2]	(2.1)	-	精良	釉明緑灰胎土灰白	良好	体部外面に鑄蓮弁文を陽刻 内・外面施釉	K 14区表土	5% 龍泉窯
528	青磁	碗	-	(1.5)	[5.0]	精良	釉灰オリーブ胎土灰白	良好	底部高台削り出し 内面施釉	J 13区表土	10% 龍泉窯

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	材質	初鑄年	特 徴	出土位置	備考
M47	開元通寶	2.41	0.68	0.08	2.80	銅	621	唐銭 真書 無背	L 16区表土	PL49
M48	天聖元寶	2.34	0.63	0.09	(1.42)	銅	1023	北宋銭 篆書 無背	L 16区表土	
M49	嘉祐元寶	2.40	0.73	0.13	(2.30)	銅	1056	北宋銭 真書 無背	I 13f5区表土	
M50	熙寧元寶	2.33	0.75	0.10	2.28	銅	1068	北宋銭 真書 無背	L 16区表土	
M51	景定元寶	2.47	0.66	0.10	2.40	銅	1260	南宋銭 真書 背元	J 14区表土	
M52	永樂通寶	2.47	0.57	0.14	3.88	銅	1408	明銭 真書 無背	J 14区表土	PL49
M53	永樂通寶	2.47	0.57	0.17	5.15	銅	1408	明銭 真書 無背	J 14区表土	PL49

第4節 ま と め

今回の調査で、田島遺跡(三面寺地区)は古墳時代から中世にかけての複合遺跡であり、古墳時代から平安時代にかけては集落、中世には墓地であったことが確認できた。ここでは、当遺跡の中心となる古墳時代から平安時代にかけて、時期ごとに住居跡の在り方から集落の構造と変遷について若干の考察を行ないまとめとする。

なお、平成15・16年度に調査された田島遺跡(田島下地区)¹⁾、および平成18年度に調査された田島遺跡(南光院地区・南光院下地区)²⁾は本地区と同一遺跡として取り扱われているが、集落としては地形から今回の調査区と区別すべきものと判断したことから、今回の調査成果には加味していない。

1 住居跡の分布と変遷について

(1) 古墳時代

当時代の遺構は、竪穴住居跡52軒、土坑2基が確認された。これらの遺構は、標高15mの河岸段丘上位から標高7mの下位段丘にかけて位置している。住居跡は、出土土器の様相³⁾から以下の8時期に区分できる(第277図)。

第1期は第14・25・37・65・77号住居跡の5軒が該当し、出土土器から4世紀代に比定できる。いずれも調査区南東端の中位段丘に位置し、東西40mの範囲に4～12mの間隔で分布している。分布状況から一つのグループをなしているとみられるが、住居跡は調査区域外の南東側にも存在している可能性がある。

第2期は第17号住居跡の1軒が該当し、出土土器から5世紀後葉に比定できる。第17号住居跡は比較的規模が大きく、いわゆる初期竈を有し、当集落に竈が導入された時期のものであるが、今回の調査で確認できたのは1軒のみであり、集落の中心は調査区域外の南東部にあるものとみられる。

第3期は第15・24・29・43・44・47・103・111・112号住居跡の9軒が該当し、出土土器から6世紀前葉に比定できる。これらの住居跡は、いずれも中位段丘から下位段丘にかけて存在しているが、分布状況から調査区の南部に位置する第15・24・29号住居跡の3軒、中央部に位置する第43・44・47・103・112号住居跡の5軒、および北部に位置する第111号住居跡の3グループに分けることができる。南部の3軒は、2～13mの間隔で方向を同じくして分布しているが、分布状況から調査区域外の南東部にもこのグループに属する住居跡が存在しているものとみられる。中央部の5軒は、東西40m、南北34mの範囲に8～15mの間隔で、超大形の第103号住居跡を中心としてL字状に分布している。分布状況から調査区域外の北東部にもこのグループに属する住居跡が存在している可能性がある。北部の1軒は、中央部の北端に位置している第43号住居跡から25m北方に位置し、調査区域外の北東部に存在が想定できる住居跡とグループをなしているものとみられる。

この時期の住居跡は、確認できただけで3グループあり、前期にはみられなかった北部へ拡散し、集落が拡大している様相が看取できる。また、住居跡の方向は概ね同じであるが、竈が付設されている位置は北西壁、北東壁および南東壁で、竈の煙道部も壁外へ掘り込まれているものとそうでないものがあり、統一性がみられない。第103号住居跡は一边が約9mと超大形で、出土土器のなかに東海地方から搬入された須恵器坏身・坏蓋⁴がみられることから、当集落における中心的な人物の住居とみられる。

第4期は第2・8・20・22・30・42・48・63・106・109号住居跡の10軒が該当し、出土土器から6世紀中葉に比定できる。これらの住居跡は、分布状況から調査区の南部に位置する第42・63号住居跡の2軒、南東部に位置する第22・109号住居跡の2軒、中央部に位置する第30・48・106号住居跡の3軒および北部に位置する第2・8・20号住居跡の3軒の4グループに分けることができる。南部の2軒は約10mの間隔で存在し、分布状況から南東部の調査区域外に存在が想定される住居跡と数軒でグループをなしていた可能性がある。南東部に位置する2軒は4mの間隔で東西に存在し、分布状況から東部の調査区域外に存在が想定される住居跡と数軒でグループをなしていた可能性がある。中央部の3軒は10~24mの間隔でL字状に分布している。分布状況から東部の調査区域外に存在が想定される住居跡と数軒でグループをなしていた可能性がある。北部の3軒は、標高14mの等高線に沿って3~16mの間隔で分布している。このグループも、分布状況から北東部の調査区域外に存在が想定される住居跡と数軒でグループをなしていた可能性がある。

この時期の住居跡も、確認できただけで4グループあり、前期よりさらに北部へ拡大しているものとみられる。この時期から、竈の煙道部は壁外への掘り込みを有するものに統一される。また、前期までみられた貯蔵穴が設けられていない住居が増加している。

第5期は第6・32・34・55・71・76・95・100号住居跡の8軒が該当し、出土土器から6世紀後葉に比定できる。これらの住居跡は中位段丘から低位段丘にかけて存在し、分布状況から南部に位置する第55号住居跡、中央部に位置する第6・32・34・71・95号住居跡の5軒、および中央部と南部との中間に位置する第76・100号住居跡の2軒の3グループに分けることができる。南部の第55号住居跡は、当期の住居跡のなかでは最大規模で、その南側が調査区域外であるためグループ構成は不明であるが、数軒からなるグループの中核的な住居とみられる。南部と中央部との中間に位置する2軒は、第55号住居跡から30m、中央部のグループから40mに位置し、10mの間隔で2軒が東西に並んでいる。2軒のみの可能性もあるが、西側の調査区域外にグループをなす住居跡が存在する可能性がある。中央部の4軒は、東西20m、南北40mの範囲に2~17mの間隔で、大規模な第71号住居跡を中心として分布している。

この時期の住居跡も、確認できただけで3グループあるが、前期に存在した北部にはみられないことから、南部へ移動したか縮小したことが想定できる。竈の付設される位置は西ないし北西壁に統一され、貯蔵穴も第55号住居跡を除いて設けられていない。

第6期は第3・9・11・18・26・54・74・75号住居跡の8軒が該当し、出土土器から7世紀前葉に比定できる。これらの住居跡は、南部に位置する第26号住居跡、そこから30m北方に位置する第9・11号住居跡の2軒、その西方30mに位置する第74・75号住居跡の2軒、そこから58m北方の中央部に位置する第54号住居跡、さらに北方23mに位置する第3号住居跡、さらに北方35mの北部に位置する第18号住居跡の6グループに分けることができる。第9・11号住居跡は8m、第74・75号住居跡は3mの間隔をもってそれぞれ東西に並んでいるが、ほかはいずれも単独で、第54・6・18号住居跡はほぼ直線で南北に位置している。南部の第26号住居跡と北部の第18号住居跡は調査区域外に位置する住居跡とグループを形成している可能性もあるが、単独あるいは2軒からなるグループが散在している状況である。軒数は前期と同じであるが、前期まで

の住居跡の在り方とは状況を異にしている。調査区域外の台地上の様相が不明であるので断定はできないが、地形的に斜面に位置していることから集落の外周部にあたる可能性がある。

第7期は第10・16・51・78・113号住居跡の5軒が該当し、出土土器から7世紀中葉に比定できる。これらの住居跡は南部に位置する第16・78号住居跡、そこから40m北方に位置する第10・113号住居跡、中央部に位置する第51号住居跡の3グループに分けることができる。南部の2軒は17mの間隔、その北側の2軒は3mの間隔で、概ね南北に並んでいる。住居跡の在り方は前期を踏襲しているとみられるが、軒数は前期より減少していることから集落はやや衰退した可能性がある。

第8期は第28・38・49・68・97・98号住居跡の6軒が該当し、出土土器から7世紀後葉に比定できる。これらの住居跡は南部に位置する第28・68号住居跡の2軒、中央部に位置する第38・49・97・98号住居跡の4軒の2グループに分けることができる。南部の2軒は14mの間隔で、ほぼ東西に分布している。分布状況から南部の調査区域外に存在が想定される住居跡と数軒でグループをなしていた可能性がある。中央部の4軒は、東西30m、南北40mの範囲に10～15mの間隔で分布している。前期とは異なり、住居跡がまとまりをみせている。

当時代の住居跡の在り方は時期によって異なり、若干の盛衰があったようであるが、南部と中央部には各時期をとおして住居が営まれており、集落の中心的な位置であったことが窺える。

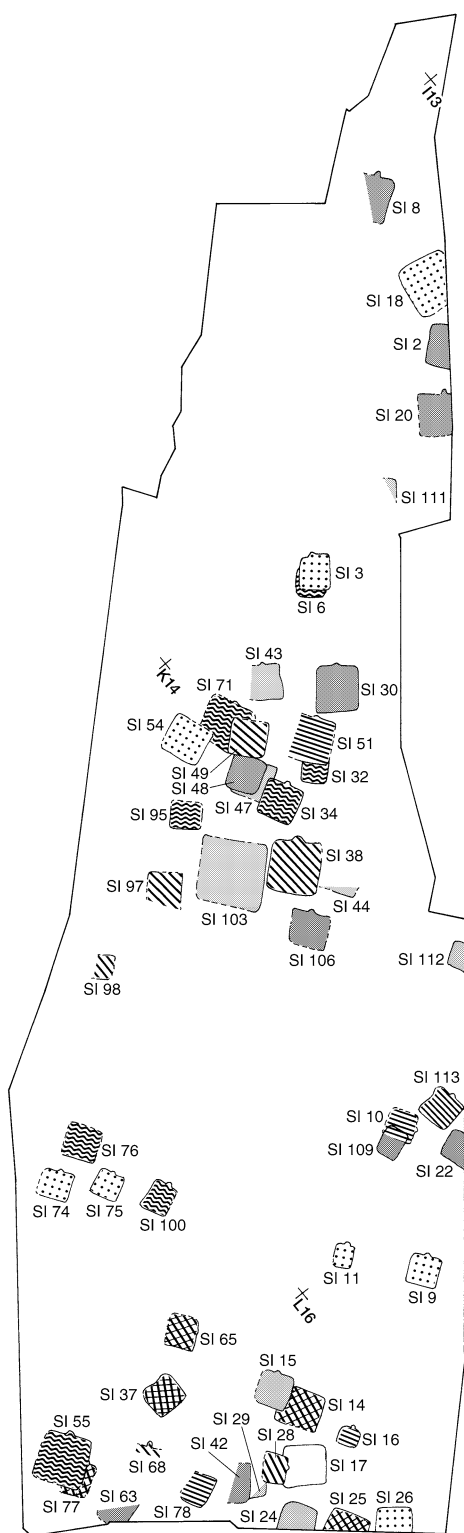
(2) 奈良時代

当時代の遺構は、竪穴住居跡32軒、掘立柱建物跡3棟、土坑2基が確認された。これらの遺構も前時代と同様に標高15mの河岸段丘上位から標高7mの下位段丘にかけて位置している。住居跡は、出土土器の様相⁵⁾から以下の3時期に区分でき、時期名は古墳時代から通して第9期からとする(第277図)。

第9期は第5・13・23・31・45・57・72・73・82・110号住居跡の10軒が該当し、出土土器から8世紀前葉に比定できる。これらの住居跡は南半部に22～35mの間隔で散在している第13・23・57・73・82・110号の各住居跡と、中央部のやや北側8～14mの間隔で3角形状のまとまりをみせている第31・45・72号住居跡、及び北部に単独存在する第5号住居跡の3グループに分けることができる。前者の5軒は、その在り方から単独で存在していたと考えられる。住居跡は、古墳時代の第8期より北側に移動している。

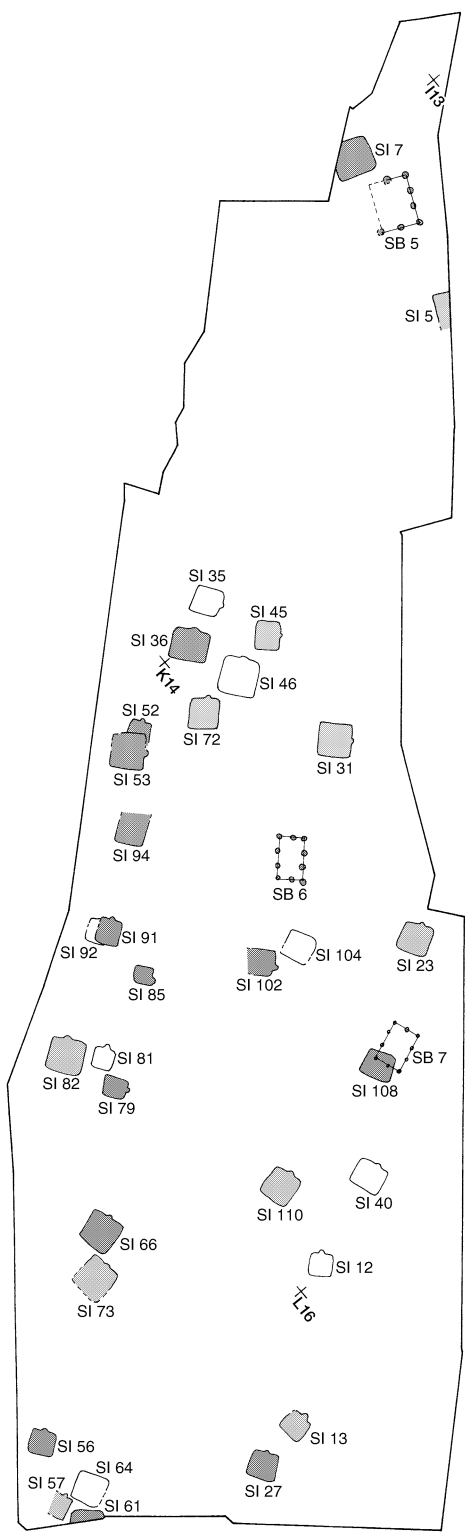
第10期は第12・35・40・46・64・81・92・104号住居跡の8軒が該当し、出土土器から8世紀中葉に比定できる。これらの住居跡は、南部に位置する第64号住居跡、その北方40mに位置する第12・40号住居跡、中央部のやや南側に位置する第81・92・104号住居跡の3軒、中央部のやや北側に位置する第35・46号住居跡の2軒の4グループに分けられる。南部に位置する第64号住居跡は、南側の調査区域外にグループをなす住居跡が存在する可能性がある。それ以外のグループは6～20mの間隔で存在し、その在り方から2、3軒でグループを形成していたものとみられる。

第11期は第7・27・36・52・53・56・61・66・79・85・91・94・102・108号住居跡の14軒と第5・6・7号掘立柱建物跡の3棟が該当し、出土土器から8世紀後葉に比定できる。これらの住居跡は、南部に8～22mの間隔で存在する第27・56・61号住居跡、中央部に4～12mと間隔をおいて存在する第36・52・53・85・91・94・102号住居跡の7軒と第6号掘立柱建物跡および北部に位置する第7号住居跡と第5号掘立柱建物跡は一定のまとまりをみせているが、南部と中央部の中間に位置する第66・79・108号住居跡は、それぞれが単独で散在している。北部に位置する住居跡と掘立柱建物跡は、東側の調査区域外に存在が想定される住居跡とグループを形成している可能性がある。このうち中央部の第36・53号住居跡と北部の第7号住居跡は、や



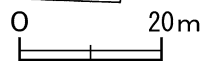
古墳時代

- | | | | |
|--|------------|--|------------|
| | 4世紀(第1期) | | 6世紀後葉(第5期) |
| | 5世紀後葉(第2期) | | 7世紀前葉(第6期) |
| | 6世紀前葉(第3期) | | 7世紀中葉(第7期) |
| | 6世紀中葉(第4期) | | 7世紀後葉(第8期) |



奈良時代

- | | |
|--|-------------|
| | 8世紀前葉(第9期) |
| | 8世紀中葉(第10期) |
| | 8世紀後葉(第11期) |



第277図 田島遺跡(三面寺地区)集落変遷図(古墳・奈良時代)

や大形である。なお、第52・53号住居跡は重複しており、短期間のうちに建て替えられた可能性がある。

この時期の住居跡は、軒数は前期より増加していることから集落としては拡大しているものとみられる。また、中央部に掘立柱建物跡を伴ったグループが存在し、集落の核にあたるものとみられる。第7号掘立柱建物跡は同時期の第108号住居跡と重複しており、前者が新しいことから時期が下る可能性がある。なお、第66号住居跡の貼床構築土内から、常陸国分寺Ⅰ期の素縁複弁十葉花文軒丸瓦(7104e型式)が出土しており、注目される。

当時代の住居跡は、軒数には差があるものの各期を通して散在形であることが特徴的で、第11期を除いて集落の核になる中心部が不明瞭である。

(3) 平安時代

当時代の遺構は、竪穴住居跡22軒、井戸跡2基、土坑2基が確認された。これらの遺構も前時代と同様に標高15mの河岸段丘上位から標高7mの下位段丘にかけて位置している。住居跡は、出土土器の様相⁷⁾から以下の5時期に区分でき、時期名は奈良時代から通して第12期からとする(第278図)。

第12期は第62・84・87・90号住居跡の4軒が該当し、出土土器から9世紀前葉に比定できる。これらの住居跡は、中央部に6mほどの間隔で三角形に分布する第84・87・90号住居跡の3軒からなるグループと、そこから30m北方に単独で位置する第62号住居跡に分けることができる。後者は、調査区域外の西側に存在する住居跡とグループをなしている可能性もあるが、単独の可能性もあり、詳細は不明である。当期の住居跡は中央部にまとまり、前期より大幅に減少しており、集落は縮小したものとみられる。なお、当期から第14期にかけて、灰釉陶器が出土する住居跡が存在している。

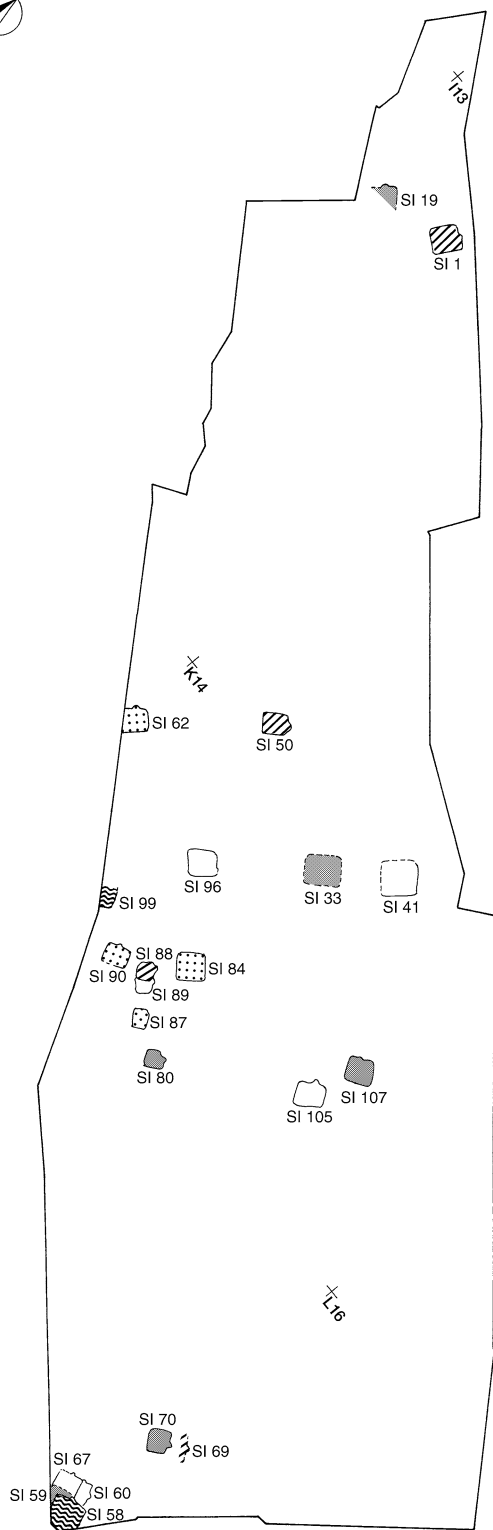
第13期は第19・33・59・70・80・107号住居跡の6軒が該当し、出土土器から9世紀中葉に比定できる。これらの住居跡は、南部に12mの間隔で南北に分布する第59・70号住居跡の2軒、中央部のやや南側に25～30mの間隔で散在する第33・80・107号住居跡の3軒、北部に単独で位置する第19号住居跡の3グループに大別できる。南部の2軒と北部の1軒は、調査区域外に存在が想定される住居跡と数軒でグループをなしていた可能性がある。当期の住居跡は前期より南部と北部へ拡散しているが、全体的に散在している。

第14期は第41・60・67・89・96・105号住居跡の6軒が該当し、出土土器から9世紀後葉に比定できる。これらの住居跡は、南部に位置する第60・67号住居跡の2軒と、中央部のやや南側に15～28mの間隔で散在する第41・89・96・105号住居跡の4軒に大別できる。前者は重複しており、短期間での建て替えが想定できる。当期の住居跡も、南部の2軒は調査区域外に存在が想定される住居跡とグループをなしていた可能性があるが、全体的に前期と同様に散在形である。

第15期は第1・50・69・88号住居跡の4軒が該当し、出土土器から10世紀前葉に比定できる。これらの住居跡は、南部に第69号住居跡、中央部のやや南側に第88号住居跡、中央部のやや北側に第50号住居跡、北部に第1号住居跡と、台地に沿ってほぼ直線に間隔をおいて存在している。いずれも単独で、前期よりさらに散在しており、集落としての体はなしていない。

第16期は第58・99号住居跡の2軒が該当し、出土土器から10世紀中葉に比定できる。2軒の住居跡は、南部に位置する58号住居跡と、中央部に位置する99号住居跡の2か所に分かれ、単独で存在している。いずれも一部が調査区域外にかかっており、調査区域外に同時期の住居が存在する可能性もあるが、集落としては前期よりさらに縮小しているものとみられ、本期をもって集落は終焉を迎えている。

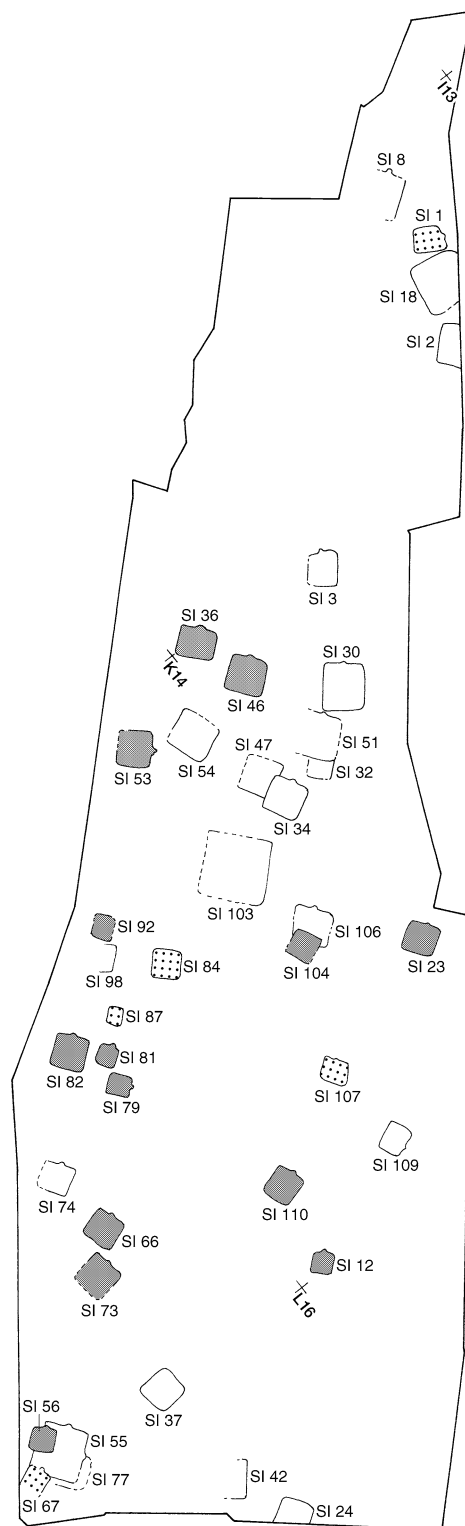
当時代の住居跡は、各時期を通して奈良時代の住居跡より軒数が減少している。住居跡の分布は、奈良時



平安時代

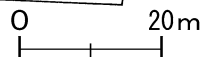
- | | | | |
|--|-------------|--|--------------|
| | 9世紀前葉(第12期) | | 10世紀前葉(第15期) |
| | 9世紀中葉(第13期) | | 10世紀中葉(第16期) |
| | 9世紀後葉(第14期) | | |

第278図 田島遺跡(三面寺地区)集落変遷図(平安時代)



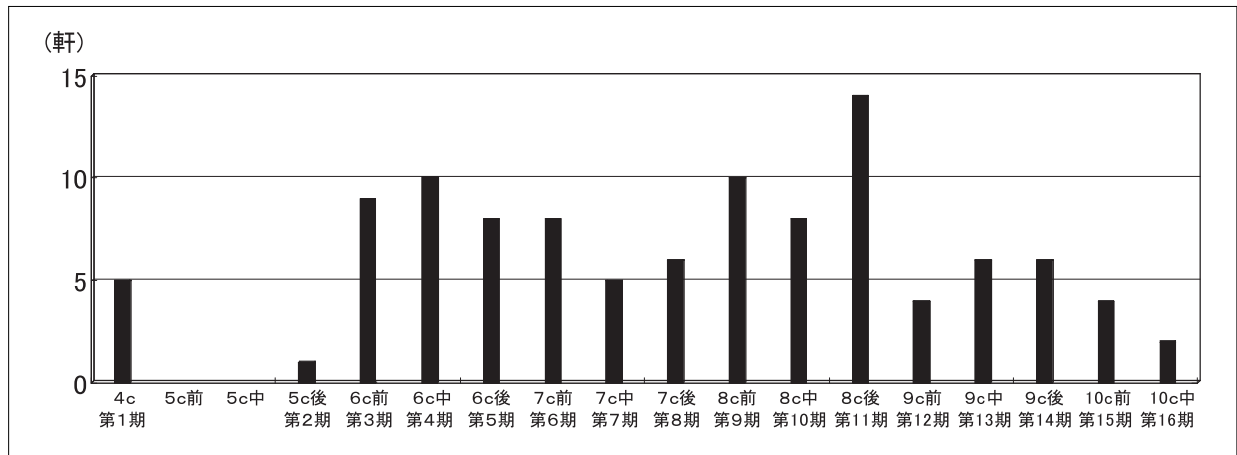
土玉・球状土錘，管状土錘出土状況図

- | | |
|--|---------------|
| | 古墳時代(第1~8期) |
| | 奈良時代(第9~11期) |
| | 平安時代(第12~16期) |



第279図 土玉・球状土錘，管状土錘出土住居位置図

第280図 田島遺跡竪穴住居跡時期別軒数



代よりさらに散在した状態で，集落の核となる部分はみられない。

以上のような田島遺跡の住居跡の分布と変遷について述べてみたが，これをグラフで表すと第280図のようになる。

2 土錘について

今回の調査で，各時期の住居跡から土玉（長さ・径が2 cm未満のもの）・球状土錘（長さ・径が2 cm以上のもの）および管状土錘が合わせて111点出土している（第279・281図）。これらは，一般的に網の錘と考えられているものである。しかし，小形のものは祭祀や首飾りなど，別の用途も想定されている。ここでは，形状や重量から網の錘とした。

時期別の出土数は第281図に示したとおりで，奈良時代の第9期が住居跡4軒から37点と最多で，次いで同時代の第11期が5軒で18点と群を抜いている。以下，古墳時代の第4期が住居跡6軒から13点，第6期が4軒から11点，第5期が3軒から6点と続き，一定量みられた古墳時代から奈良時代になると大幅に増加し，平安時代になると減少している。

第281図 田島遺跡竪穴住居跡土玉・球状土錘，管状土錘の形状別・時期別出土点数

個数	時期															
	前葉 第1期	5c後 第2期	6c前 第3期	6c中 第4期	6c後 第5期	7c前 第6期	7c中 第7期	7c後 第8期	8c前 第9期	8c中 第10期	8c後 第11期	9c前 第12期	9c中 第13期	9c後 第14期	10c前 第15期	10c中 第16期
土玉	2	0	3	6	3	4	1	1	4	5	5	2	1	1	1	0
球状土錘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管状土錘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住居跡数(軒)	5	1	9	10	8	8	5	6	10	8	14	4	6	6	4	2

○…土玉・球状土錘 ■…管状土錘

土錘の重量は、球状土錘と管状土錘では大差がある。前者は5～35gの範囲にあるが、古墳時代のものは10～20g、奈良時代のものは10～25gとやや重量を増し、平安時代のものは5～20gとやや軽量化している。この変化が何によるものかは明らかでないが、網の構造や使用方法の変化などが考えられる。後者は50～250gの範囲にあるが、100～200gのものが多い。球状土錘と管状土錘の重量差の要因も厳密には明らかでないが、用途・使用方法によるものと考えられる。

このように各時期を通して多数の土錘が出土していることは、それが主たる生業か否かは検討の余地があるが、当集落に居住していた人びとが漁労に携わっていたことは明らかである。

3 結語

以上、古墳時代から平安時代までの住居跡を16期に分けて概観してきた。最初の集落は古墳時代前期に形成されるが、1世代ほどで廃絶されている。次に集落が営まれるのは古墳時代中期の5世紀後葉で、以来奈良時代後半の8世紀後葉を盛期として、軒数に若干の変化はあるものの平安時代中期の10世紀中葉まで住居が設けられ、集落が継続して営まれていることが明らかになった。集落としての在り方は、大規模な住居を中心として住居がグループを形成している時期もあるが、住居が散在している時期が多くみられる。このことは、調査範囲が事業用地内に限られ、台地上の様相が不明であることから、地形が河岸段丘の上位段丘から下位段丘にかけての斜面部であることによるものか否かは明らかでない。ちなみに、平成18年度に調査が行われた田島遺跡（南光院地区・南光院下地区³⁾）においては、台地上からは若干の住居跡しか確認されていないことから、沖積地に面した斜面部から下位段丘面を占地した可能性もある。このことは、生活基盤である水田経営との関連性が考えられる。土錘は、時期によって出土住居跡の軒数や出土点数に差があるが、当集落に居住していた人びとが集落の南側を流れる信筑川（現恋瀬川）を利用して漁労を営んでいたことは明らかである。当遺跡は、水田経営以外に漁労にも携わった半農半漁の集落であったと想定できる。

なお、当地は、平安時代後期以降約500年の空白期を置いた後、中世後半の15～16世紀にかけて墓地として土地利用されている。

註

- 1) 飯泉達司「田島遺跡（田島下地区）一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第253集 2006年3月
- 2) 小野政美「田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第287集 2008年3月
- 3) ア 櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』第2号 茨城県教育財団 1993年7月
イ 櫻村宣行「和泉式土器編年考 - 茨城県を中心として -」『研究ノート』第5号 茨城県教育財団 1996年6月
ウ 古墳時代研究班（集落グループ）「茨城の『S字状口縁台付甕』について（3）」『研究ノート』第7号 茨城県教育財団 1997年6月
- 4) 大川清・鈴木公雄・工楽善通編『日本土器事典』雄山閣 2007年12月
- 5) ア 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ）」『研究ノート』創刊号 茨城県教育財団 1992年7月
イ 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート』第2号 茨城県教育財団 1993年7月
ウ 梶山雅彦「茨城県内の灰釉陶器」『研究ノート』第3号 茨城県教育財団 1994年6月
- 6) 瓦吹堅・佐藤正好・黒沢彰哉「茨城県における古代瓦の研究」(学術調査報告書4) 茨城県立歴史館 1994年3月
- 7) 註5に同じ
- 8) 註2に同じ

付 章

田島遺跡（三面寺地区）から出土した炭化材の樹種について

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

田島遺跡は、恋瀬川左岸の台地上から低地にかけて立地する。これまでの調査では、標高20～30mの台地上に位置する南光院地区で平安時代の集落跡や平安時代～近世の墓跡等、低地部に位置する南光院下地区で縄文時代前期および古墳時代後期の集落跡、中世の火葬土坑等が検出されている。今回発掘調査が行われた三面寺地区は標高7～19mの台地上に位置し、古墳時代から中世の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、方形竪穴遺構、地下式坑、火葬土坑等が検出されている。

本報告では、三面寺地区の8世紀前葉とされる竪穴住居跡（SI 5）から出土した住居構築材や木製品とされる炭化材と、中世とされる方形竪穴遺構（方形竪穴3）から出土した炭化材について樹種同定を実施する。また、SI 5から出土した紐状炭化物について、電子顕微鏡観察と薄片作製観察を実施し、材質や由来等について検討する。

I. 炭化材の樹種

1. 試料

試料は、SI 5から出土した炭化材5点（⑭，⑰，⑳，㉘，W 1）と方形竪穴3から出土した炭化材2点（①，②）の合計7点である。SI 5の5点の中で、W 1が木製品（木桶）、その他の4点が住居構築材とされている。また、方形竪穴3の2点は上屋構築材とされている。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人 森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の特徴や名称については、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、各分類群による木材組織の配列については、林（1991）や伊東（1995，1996，1997，1998，1999）を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、針葉樹1分類群（マツ属複雑管束亜属）、広葉樹2分類群（コナラ属コナラ亜属コナラ節・サクラ属）とイネ科タケ亜科、イネ科に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を以下に記す。

表1. 樹種同定結果

遺構	分析番号	取上番号	用途・部位	樹種
SI 5	炭化材 1	⑰	住居構築材(屋根材)	イネ科
	炭化材 2	⑳	住居構築材	イネ科
	炭化材 4	⑭	住居構築材?	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	炭化材 5	W 1	木製品(割物桶カ)	サクラ属
	炭化材 6	㉘	住居構築材(壁材)	イネ科タケ亜科
方形竪穴 3	炭化材 1	①	上屋構築材	マツ属複雑管束亜属
	炭化材 2	②	上屋構築材	イネ科タケ亜科

・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。放射組織は仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・サクラ属 (*Prunus*) バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または2～6個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～5細胞幅、1～30細胞高。

・イネ科タケ亜科 (*Gramineae* subfam. *Bambusoideae*)

原生木部には大小2対の道管があり、その外側に節部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成するが、繊維細胞は放射方向に広く、接線方向に狭いため、全体として放射方向に長い菱形となる。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。いわゆるタケ・ササ類である。組織構造から種類を細分することは困難であるが、試料の外観や節の形状から、稈鞘が伸長と共に節から脱落するタケ類の可能性はある。

・イネ科 (*Gramineae*)

上記タケ亜科によく似ているが、薄く脆い。また、組織をみても維管束の繊維細胞が狭く、円形となるなど、タケ亜科とした試料と特徴が異なる試料をイネ科とした。タケ亜科の他、ヨシ属、ススキ属などの可能性が考えられるが、分類には至らなかった。

4. 考察

(1) 住居跡出土炭化材

SI 5は、調査区西部の標高14～15m付近の台地上で検出されており、住居跡の北側半分が調査区外となっている。炭化材は、ほぼ床面全体から出土しており、W1が炭化した木製品(木桶)、他は住居構築材と考えられている。住居構築材と考えられる炭化材は、板状の破片である⑭にコナラ節が認められた他は、全てタケ亜科、あるいはイネ科であった。コナラ節は、重硬で強度が高い材質を有しており、垂木などの構築材として利用されていた可能性がある。一方、タケ亜科やイネ科は、屋根や壁の萱材として利用された可能性がある。このことは、発掘調査所見で⑰が屋根材、⑱が壁材とされていることとも調和的である。

本遺跡では、南光院下地区の6世紀後半とされる竪穴住居跡(SI11)から出土した炭化材について樹種同定が実施されており、2点ともクヌギ節に同定されている(パリノ・サーヴェイ株式会社、2008)。クヌギ節はコナラ節と共に二次林を形成する樹種であり、クヌギ節の方がより湿った土地に生育する傾向がある。そのため、樹種の違いは時期によるものではなく、標高約6mの低位段丘上に構築されたSI11と、標高14～15m付近に構築されたSI5との周辺植生の違いを反映している可能性がある。

一方、本地域では、古代の住居構築材に関する調査事例が少なく、特に8世紀代の資料は知られていないため、当該期の木材利用については不明である。そのため、本遺跡で認められたコナラ節が当該期に多く利用されていたかは、さらに資料を蓄積し検討することが望まれる。

木製品(木桶)とされる試料W1は、形状等の詳細が不明であるが、時期的な背景を考慮すると、刳物

桶の可能性がある。試料は、落葉広葉樹で、重硬・緻密で強度が高い材質を有するサクラ属に同定された。サクラ属は、その材質から彫刻、挽物、削物等に利用される樹種である。茨城県内では、本遺跡の他には古代の桶について樹種を明らかにした例は知られていない。関東地方全体でも、古代の桶について樹種を明らかにした例は少ない。浜野川遺跡（千葉市）では、9世紀以降とされる桶の部材1点がヒノキに同定されている（能城・鈴木，1988）。二之宮千足遺跡（前橋市）では、古代以前とされる桶底板1点がヒノキ属に同定されている（藤根，1992）。また、元総社寺田遺跡（前橋市）の平安時代とされる桶の底板？1点がモミ属に同定されている（藤根，1996）。いずれも針葉樹が利用されており、広葉樹が利用されている今回の結果とは木材利用が異なっている。また、弥生時代～古墳時代の資料も三ツ寺Ⅰ遺跡（高崎市）や高島平遺跡（板橋区）で出土しているが、いずれも古代の資料と同様に針葉樹のヒノキやスギが利用されている（群馬県教育委員会ほか，1988；高橋，1995）。なお、上述した検出例の中で、三ツ寺Ⅰ遺跡出土の試料は削物桶の側板であるが、他の試料については削物桶か、結物（籠物）桶であるか不明である。当該期の桶については、資料そのものが少ないことから、さらに資料を蓄積していくことが望まれる。

(2) 方形竪穴遺構出土炭化材

中世と考えられる方形竪穴3は、調査区西側の標高10m付近の平坦面から検出されている。土坑は長方形を呈し、床面には焼土範囲と炭化物範囲が確認されている。炭化材は、西側床面上から出土しており、上屋構築材と考えられている。この炭化材には、複維管束亜属とタケ亜科が認められ、少なくとも2種類の木材が利用されていたことが推定される。複維管束亜属にはアカマツやクロマツが含まれ、木材は針葉樹としては比較的硬で強度が高い。タケ亜科も比較的強度が高いが、韌性もある。複維管束亜属は、強度を必要とする部位等に利用された可能性がある。タケ亜科は、材質を考慮すると、複維管束亜属とは異なる部位に利用された可能性がある。茨城県内では、中世の建築部材を対象とした分析事例が少ない。島名前野東遺跡（つくば市）では、13世紀とされる柱が針葉樹のヒノキに同定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，2002）。また、村松白根遺跡（東海村）では、窯屋から出土した炭化材がイネ科に同定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，2005）。複維管束亜属やタケ亜科が確認された例は知られていないが、今後資料を蓄積し検討することが望まれる。

II. 紐状炭化物の分析

1. 試料

試料は、SI 5から出土した紐状炭化物1点^⑧である。試料を肉眼・実体顕微鏡で観察したところ、いくつかの細い紐を撚っている様子が確認できる。

2. 分析方法

(1) 電子顕微鏡観察

試料は脆く崩れやすく、横断面を観察することが難しいと判断されたことから、主に側面の観察を実施する。紐状炭化物の端部を約5～7mm切断し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。走査型電子顕微鏡で試料の側面にみられる組織などの特徴を観察する。

(2) 薄片作製・観察

紐状炭化物の端部を約1.5cm切断し、合成樹脂で包埋・固化させる。横断面が出るようにダイヤモンドカッターで切断し、切断面を研磨する。研磨した面をスライドガラスに接着し、反対側も切断と研磨を行ってプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡および落射蛍光顕微鏡で観察する。

3. 結果

(1) 電子顕微鏡観察

10本以上を一つの束として、2束を撚っている様子が確認できる。紐を構成する繊維は、断面形状が不規則であるが、ほぼ薄い平麵状を呈する。繊維の幅は、約20 μ m ~ 100 μ mでバラツキがある。側面には細胞壁が認められる。

(2) 薄片作製・観察

炭化が著しく、薄片作製の際に多くが破損した。繊維の横断面は長方形を呈しており、電子顕微鏡観察結果とも矛盾しない。所々に孔がみえるが、組織的な配列は認められない。

4. 考察

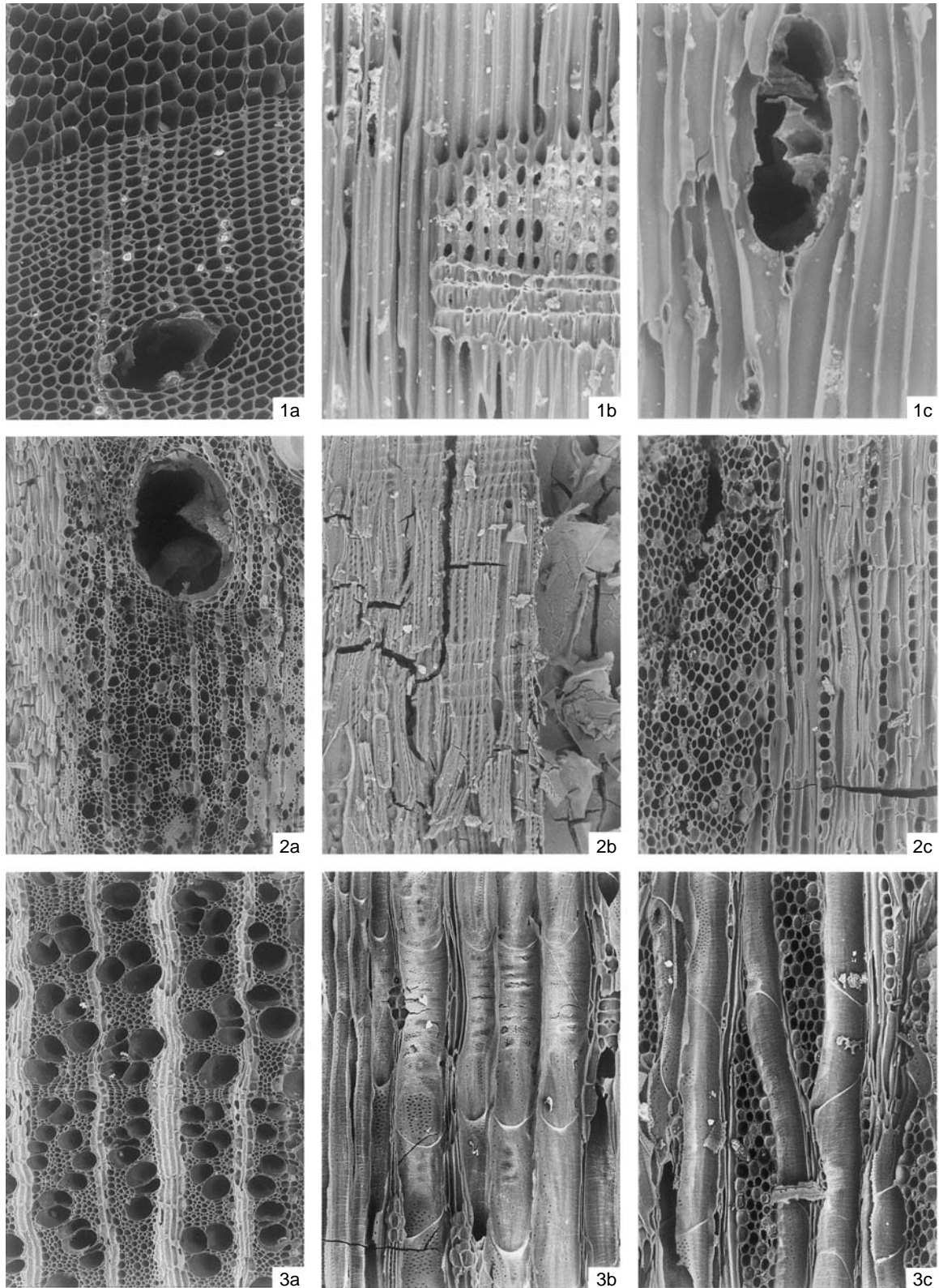
横断面で繊維に孔が認められること、薄い平麵状を呈し、細胞壁が認められること等から、紐状炭化物を構成する繊維は、何らかの植物繊維に由来すると考えられる。形状を考慮すれば、大きな植物体を裂いて作られたことが推定される。

遺跡から検出される主な植物繊維には、木綿、麻類、コウゾやシナノキ等の木皮等がある(布目, 1992)。このうち、木綿は裂いて作られることはなく、植物細胞も認められないことから除外される。麻類や木皮は裂いて作られることから、今回の紐状炭化物は麻類あるいは木皮を裂いた後に、10本以上を一つの束として2本を撚り合わせて作られた紐と考えられる。

引用文献

- 藤根 久, 1992, 二之宮千足遺跡出土材の樹種。「二之宮千足遺跡 一般国道17号線(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(自然科学・分析編)」, 群馬県埋蔵文化財調査事業団, 30 - 49.
- 藤根 久, 1996, 樹種同定。「元総社寺田遺跡Ⅲ(木器編) 一般河川牛池川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集」, 群馬県埋蔵文化財調査事業団, 65 - 91.
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団, 1988, 「三ツ寺 I 遺跡 古墳時代居館の調査(木器編) 上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第8集」, 129p.
- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81 - 181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66 - 176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83 - 201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30 - 166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47 - 216.
- 能城修一・鈴木三男, 1988, 浜野川遺跡群出土木材の樹種。「千葉市浜野川遺跡群(低湿地における遺跡確認調査) - 都市小河川改修事業(促進浜野川)及び都市計画道路3・4・42号線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 - 」, 千葉県文化財センター, 101 - 121.
- 布目順郎, 1992, 目で見る繊維の考古学 繊維遺物資料集成. 染織と生活社, 314p.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 2002, 島名前野東遺跡他から出土した炭化材の樹種。「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡」, 茨城県教育財団, 下巻1 - 9.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 2005, 村松白根遺跡出土遺物の自然科学分析。「村松白根遺跡1」, 茨城県教育財団, 579 - 586.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 2008, 田島遺跡から出土した炭化材の樹種。「田島遺跡(南光院地区・南光院下地区)」, 茨城県教育財団, 176 - 178.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.(編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.(2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 高橋 敦, 1995, 加工材の樹種からみた植物利用について。「高島平北」, 都立学校遺跡調査会, 169 - 172.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E.(編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 炭化材(1)






1. マツ属複維管束亜属(方形豎穴3;①)

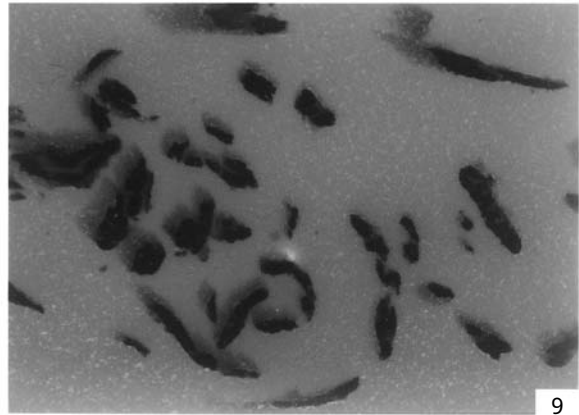
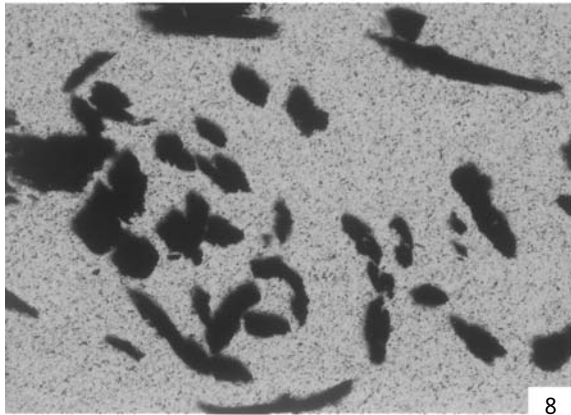
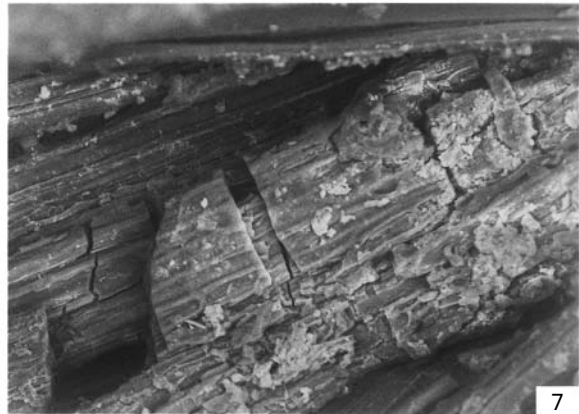
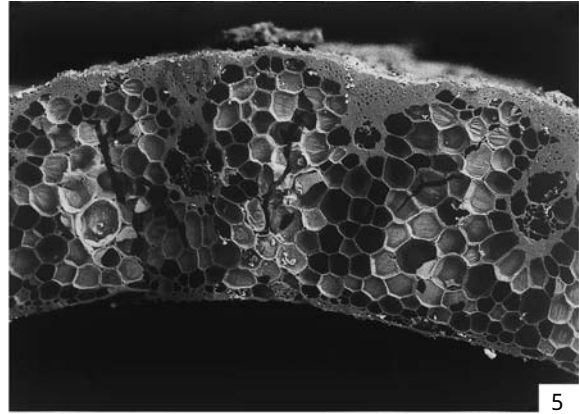
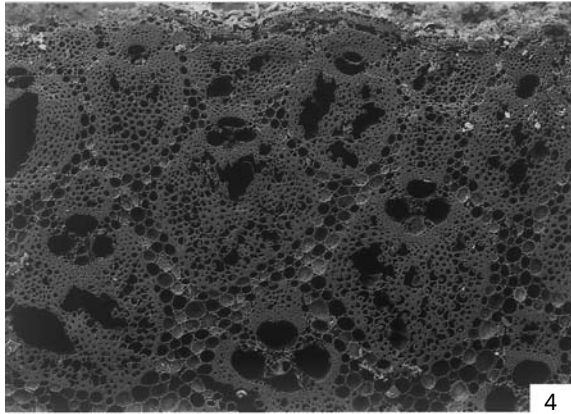
2. コナラ属コナラ亜属コナラ節(SI5;⑭)

3. サクラ属(SI5;W1)

a:木口, b:柁目, c:板目

 200 μm:2-3a
 200 μm:1a,2-3b,c
 100 μm:1b,c

図版2 炭化材(2)・紐状炭化物



- 4 . イネ科タケ亜科 (SI 5 ; ⑳) 横断面
- 5 . イネ科 (SI 5 ; ㉑) 横断面
- 6 . 紐状炭化物の電子顕微鏡写真 (SI 5 ; ㉒)
- 7 . 紐状炭化物の電子顕微鏡写真 (SI 5 ; ㉓)
- 8 . 紐状炭化物の薄片写真 (SI 5 ; ㉔) 透過光
- 9 . 紐状炭化物の薄片写真 (SI 5 ; ㉔) 落射蛍光

200 μ m:4,5
 500 μ m:6
 50 μ m:7
 100 μ m:8,9

写真図版

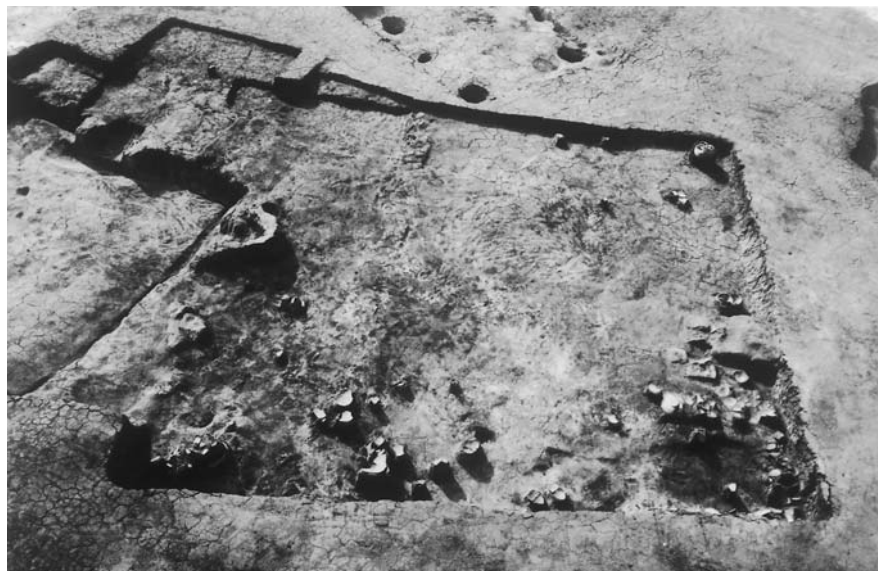


田島遺跡（三面寺地区）全景

第 2 号住居跡
貯蔵穴遺物出土狀況



第 17 号住居跡
遺物出土狀況



第 17 号住居跡
遺物出土狀況



PL 2



第 29 号住居跡
竈遺物出土狀況

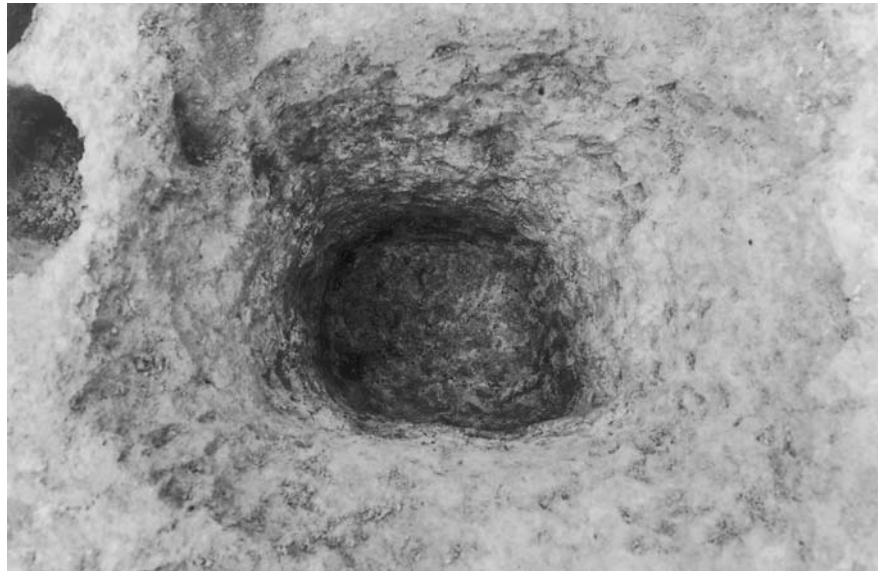


第 47 号住居跡
竈完掘狀況



第 47 号住居跡
竈遺物出土狀況

第 48 号 住居 跡
貯藏穴 完掘 狀況



第 48 号 住居 跡
竈 完掘 狀況



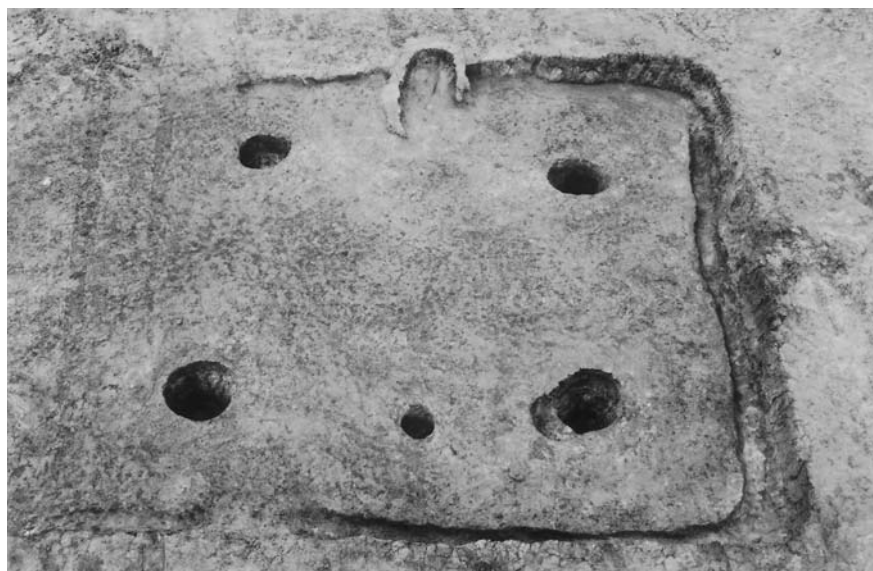
第 55 号 住居 跡
完掘 狀況



PL 4



第 55 号 住 居 跡
竈 1 完 掘 状 况



第 74 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 97 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况

第 100 号 住居 跡
完 掘 状 況



第 103 号 住居 跡
竈 完 掘 状 況



第 106 号 住居 跡
完 掘 状 況



PL 6



第 106 号住居跡
竈完掘狀況



第 112 号住居跡
竈完掘狀況



第 5・18 号住居跡
重複狀況



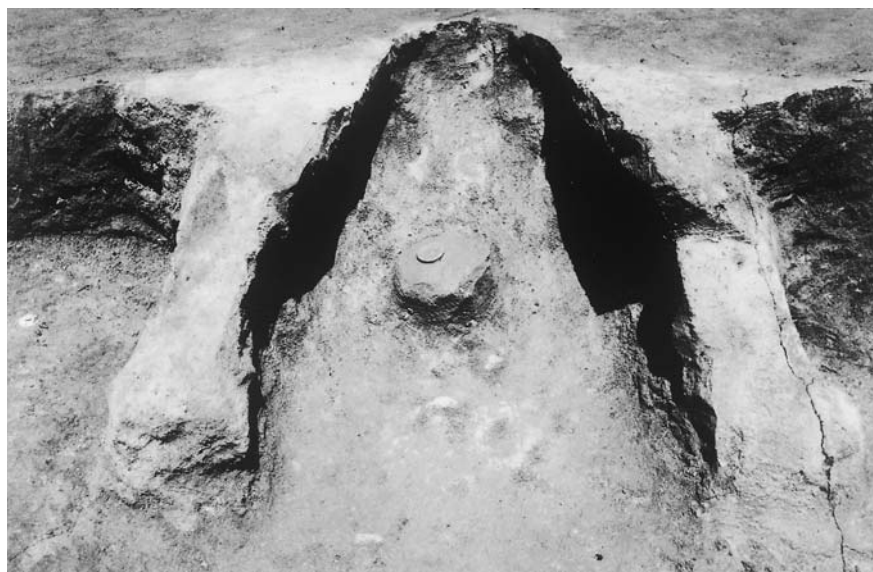
第 5 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 5 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 13 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 13 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 23 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 36 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 36 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 36 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 40 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況

PL 10



第 46 号住居跡
竈完掘狀況



第 53 号住居跡
竈 1 遺物出土狀況



第 53 号住居跡
竈 2 遺物出土狀況

第 56 号 住居 跡
遺物 出土 狀況



第 57 号 住居 跡
竈 完 掘 状 況



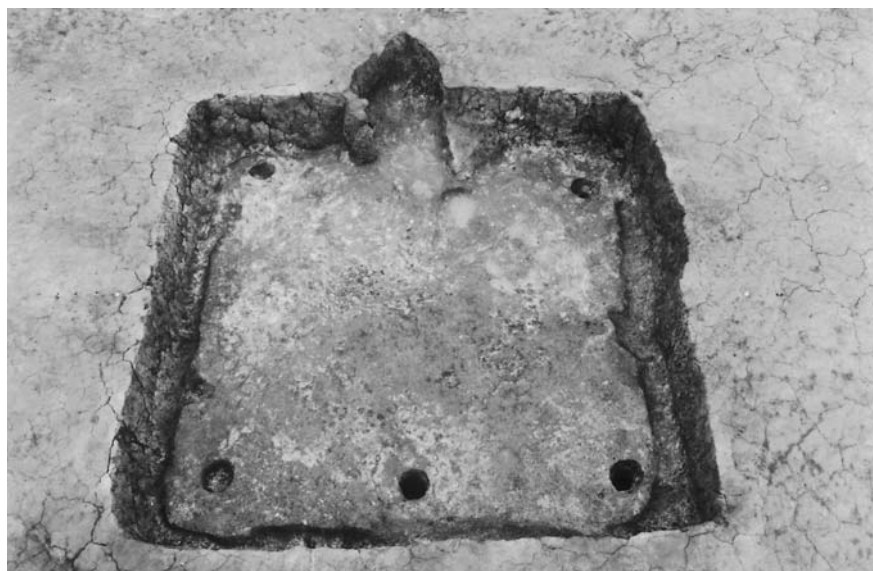
第 66 号 住居 跡
完 掘 状 況



PL 12



第 66 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 79 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 82 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 82 号 住居 跡
遺物 出土 狀況



第 82 号 住居 跡
遺物 出土 狀況



第 82 号 住居 跡
遺物 出土 狀況





第 85 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 104 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況



第 110 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第7号掘立柱建物跡
完掘狀況



第189号土坑
遺物出土狀況



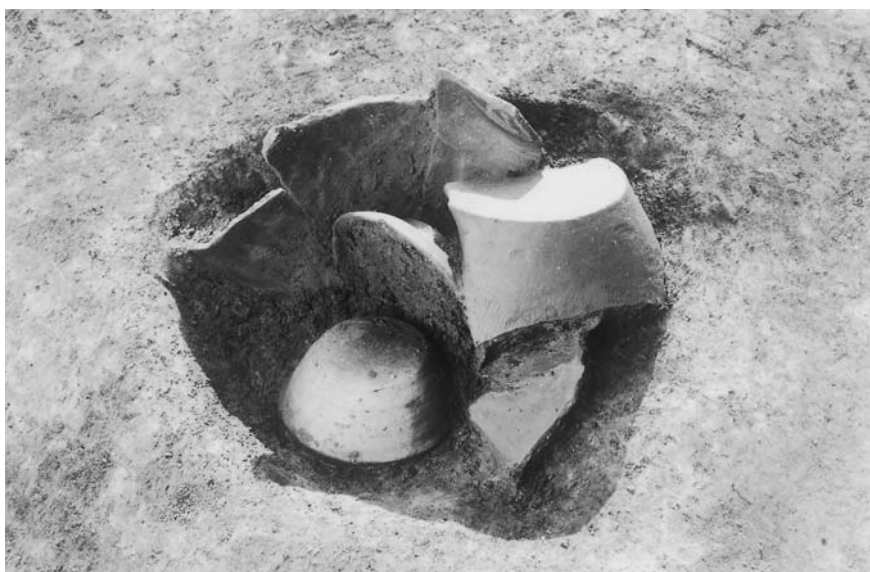
第19号住居跡
竈遺物出土狀況



第 50 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 84 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 87 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 105 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 105 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况



第 107 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 107 号住居跡
遺物出土狀況



第 2 号井戸跡
完掘狀況



第 1 号掘立柱建物跡
完掘狀況



第3号方形竖穴遺構
完掘狀況



第6・7号方形竖穴遺構
完掘狀況



第2号地下式坑
遺物出土狀況



第 2 号地下式坑
遺物出土狀況



第 5 号地下式坑
完 掘 状 况



第 8 号地下式坑
完 掘 状 况

第 9 号地下式坑
完 掘 状 况



第 9 号地下式坑
遺 物 出 土 状 况



第 2 号火葬土坑
遺 物 出 土 状 况





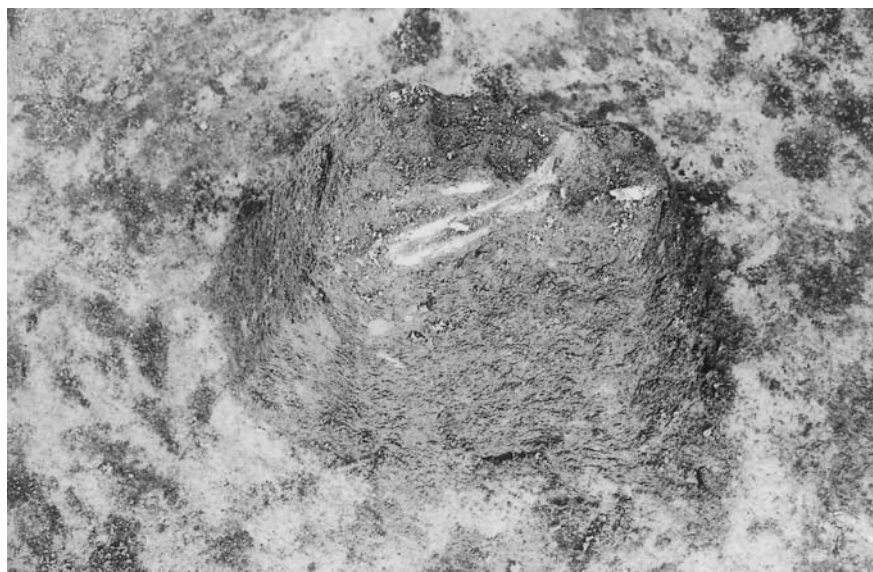
第 1 号粘土貼土坑
完 掘 状 况



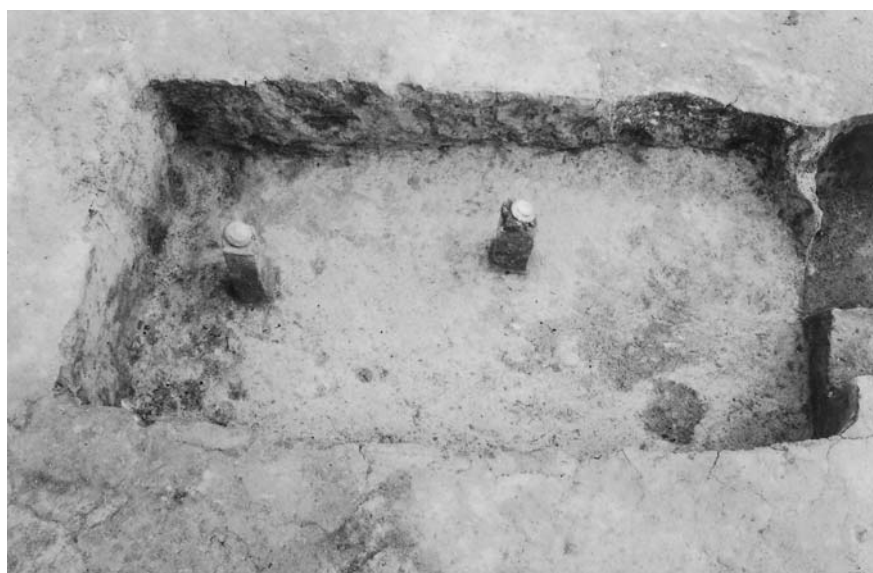
第 1 号 墓 坑
人 骨・遺 物 出 土 状 况



第 2 号 墓 坑
人 骨 出 土 状 况



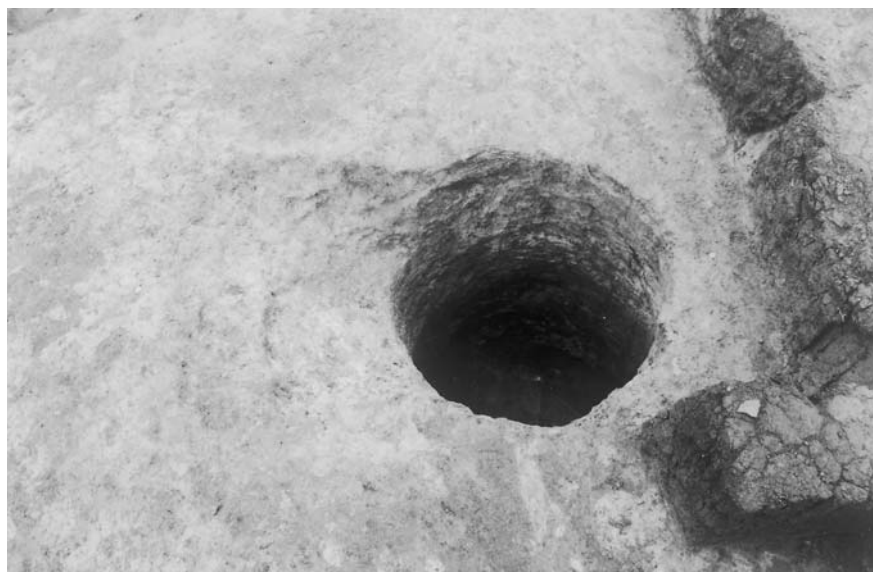
第 3 号 墓 坑
人 骨 出 土 状 况



第 108 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 243 号 土 坑
完 掘 状 况



第 3 号 井 戸 跡
完 掘 状 況



第 1 号 堀 跡
完 掘 状 況



第 9 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況

第 14 号 沟 迹
完 掘 状 况



第 16 号 沟 迹
完 掘 状 况



第 3 号 掘 立 柱 建 物 迹
完 掘 状 况







SI18-41



SI11-23



SI5-144



SK172-141



SI74-99



SI29-52



SI26-50



SI17-34



SI2-2



SI17-33

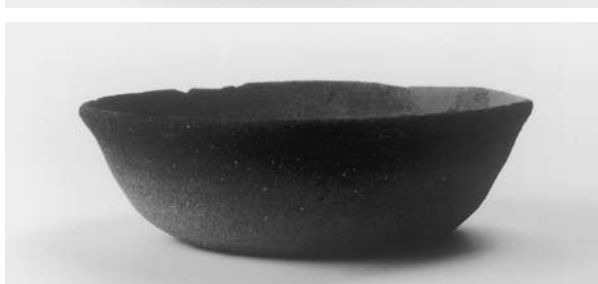


SI29-53



SI3-6



















SI5-178



SI62-379



SI5-177



SI77-110



SI46-359



SI8-17



第5・55・72・87号住居跡，第8号掘立柱建物跡，第2号地下式坑，遺構外出土遺物







SI17-40



SI2-5



SI103-126



遺構外-490



SI48・81



SI53・247



SI87・399

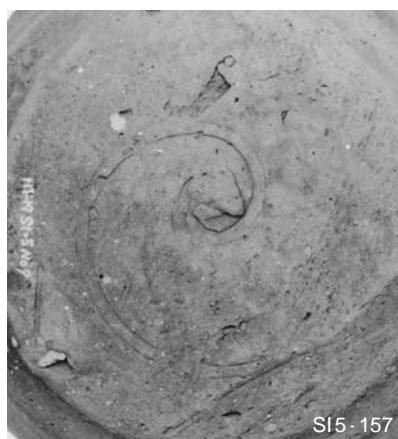


UP9・432



遺構外・487





SI5-157



SI5-158



SI5-159



SI5-160



SI5-161



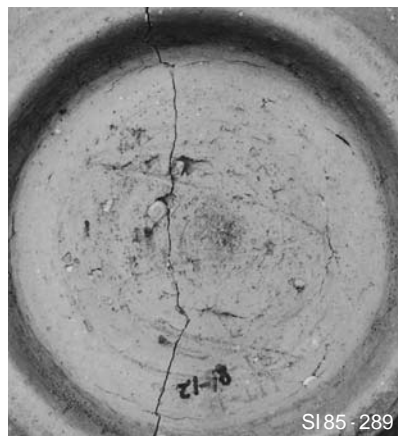
SI5-162



SI53-242



SI53-246



SI85-289



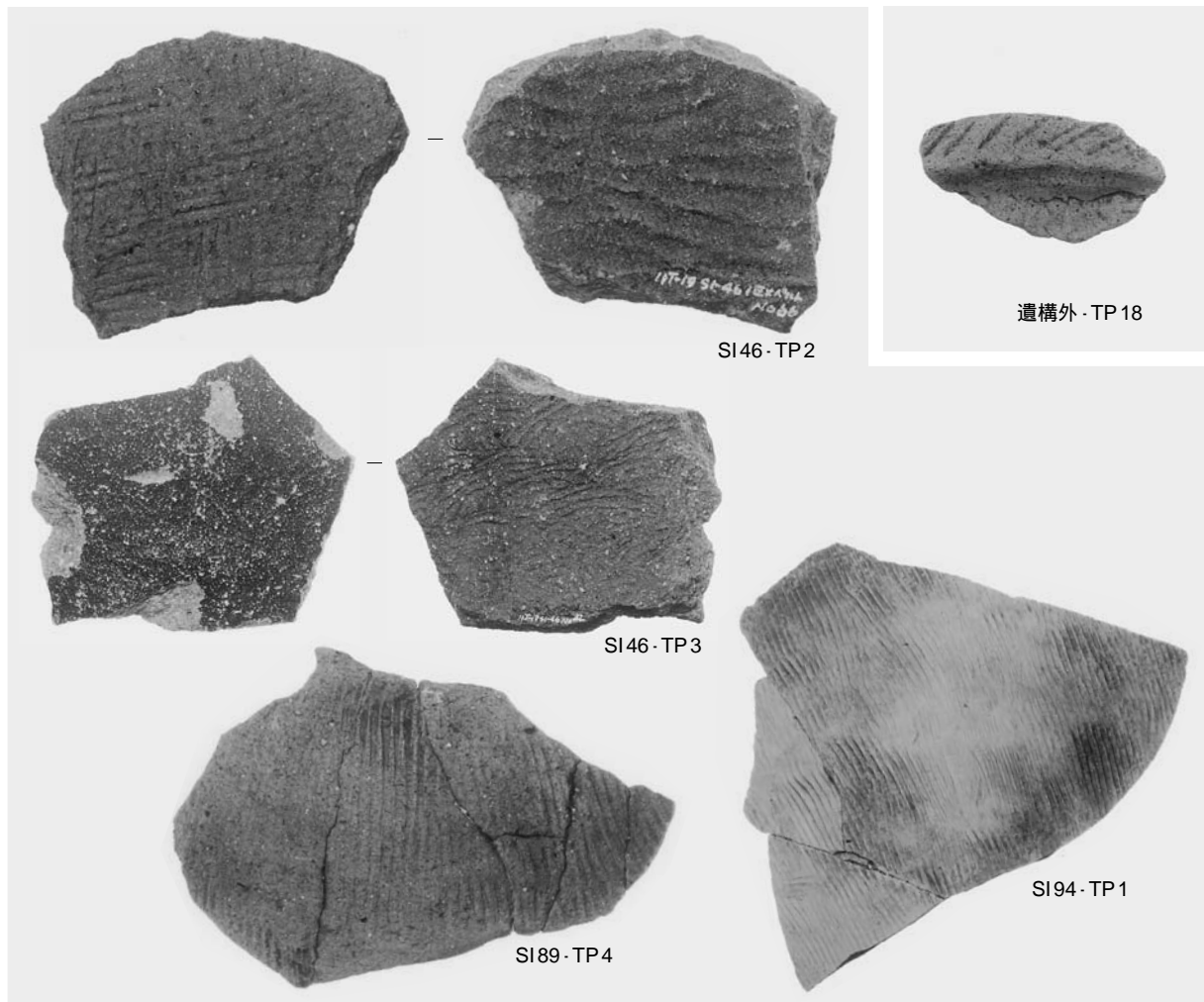
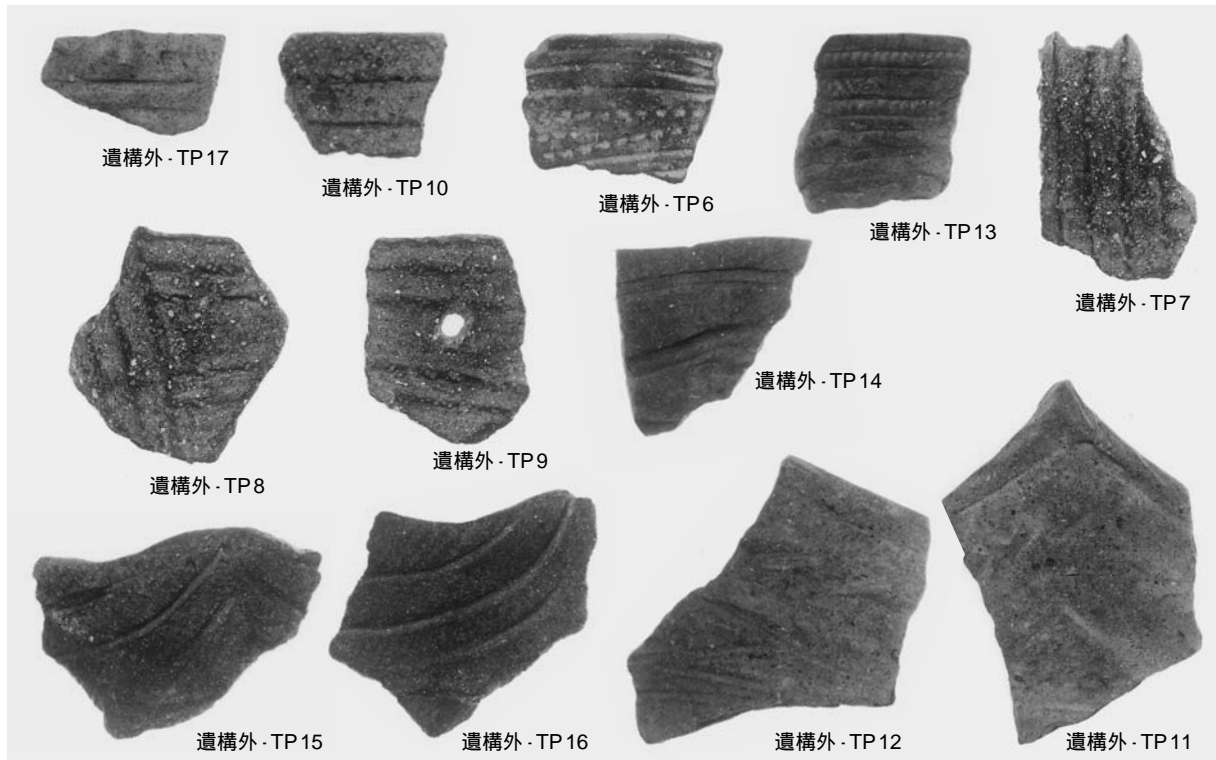
SI60-375

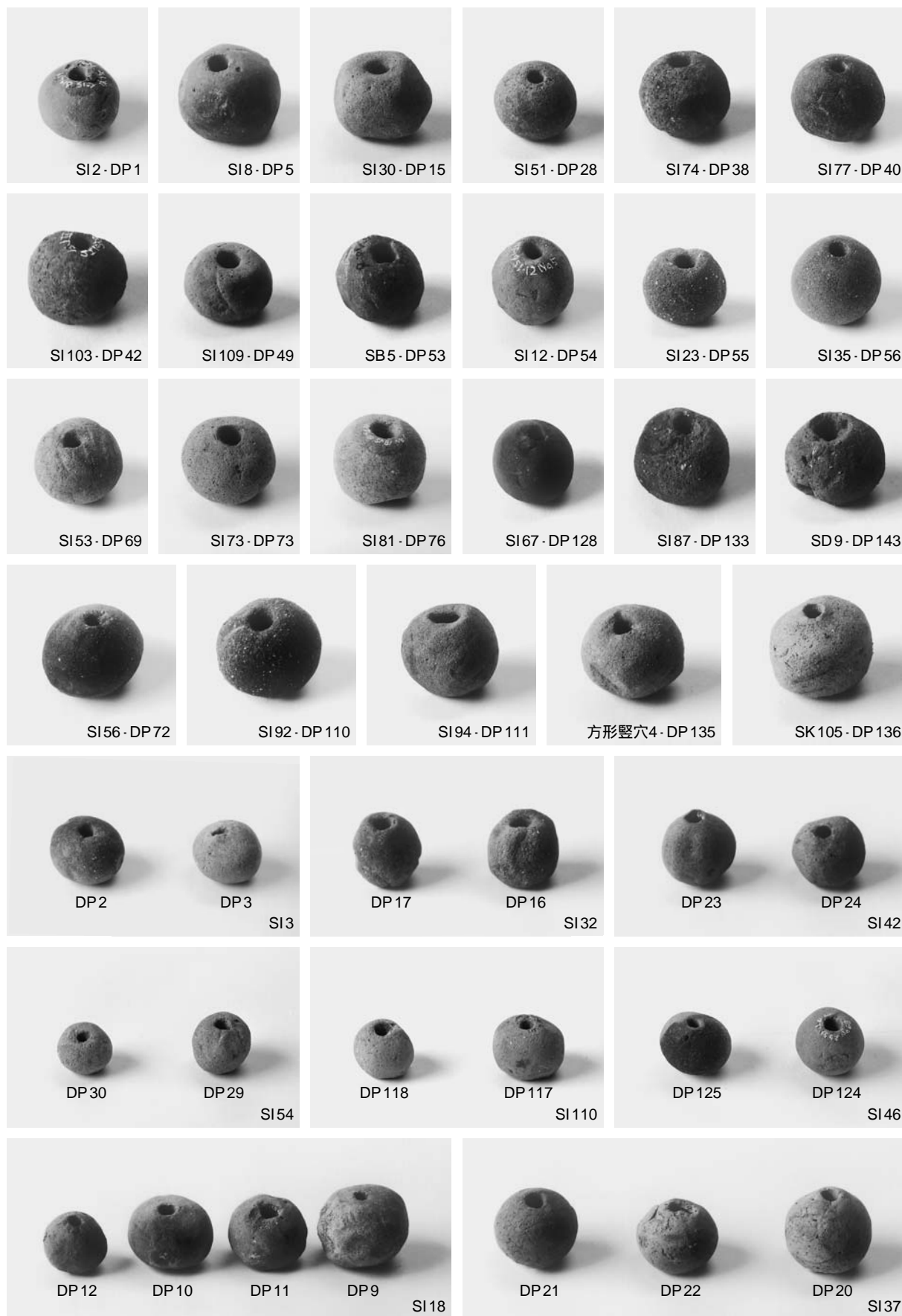


SI70-390

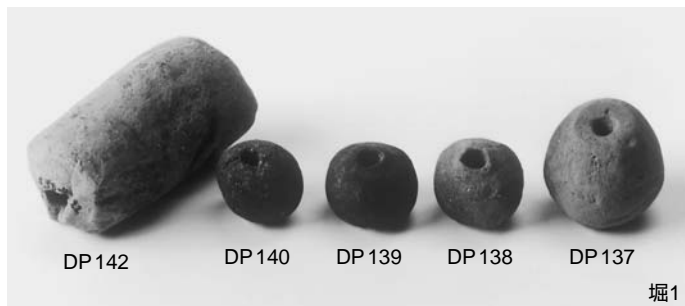
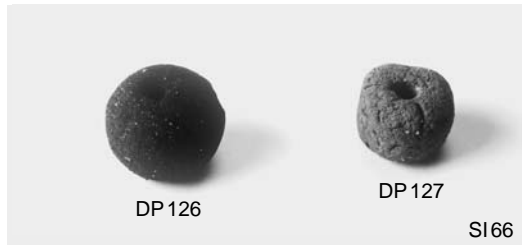
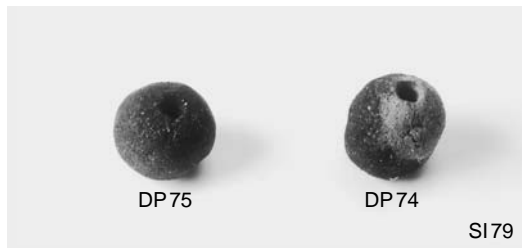
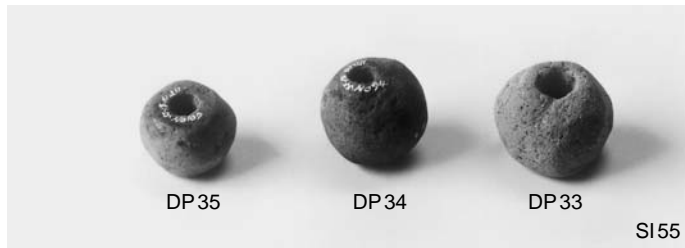


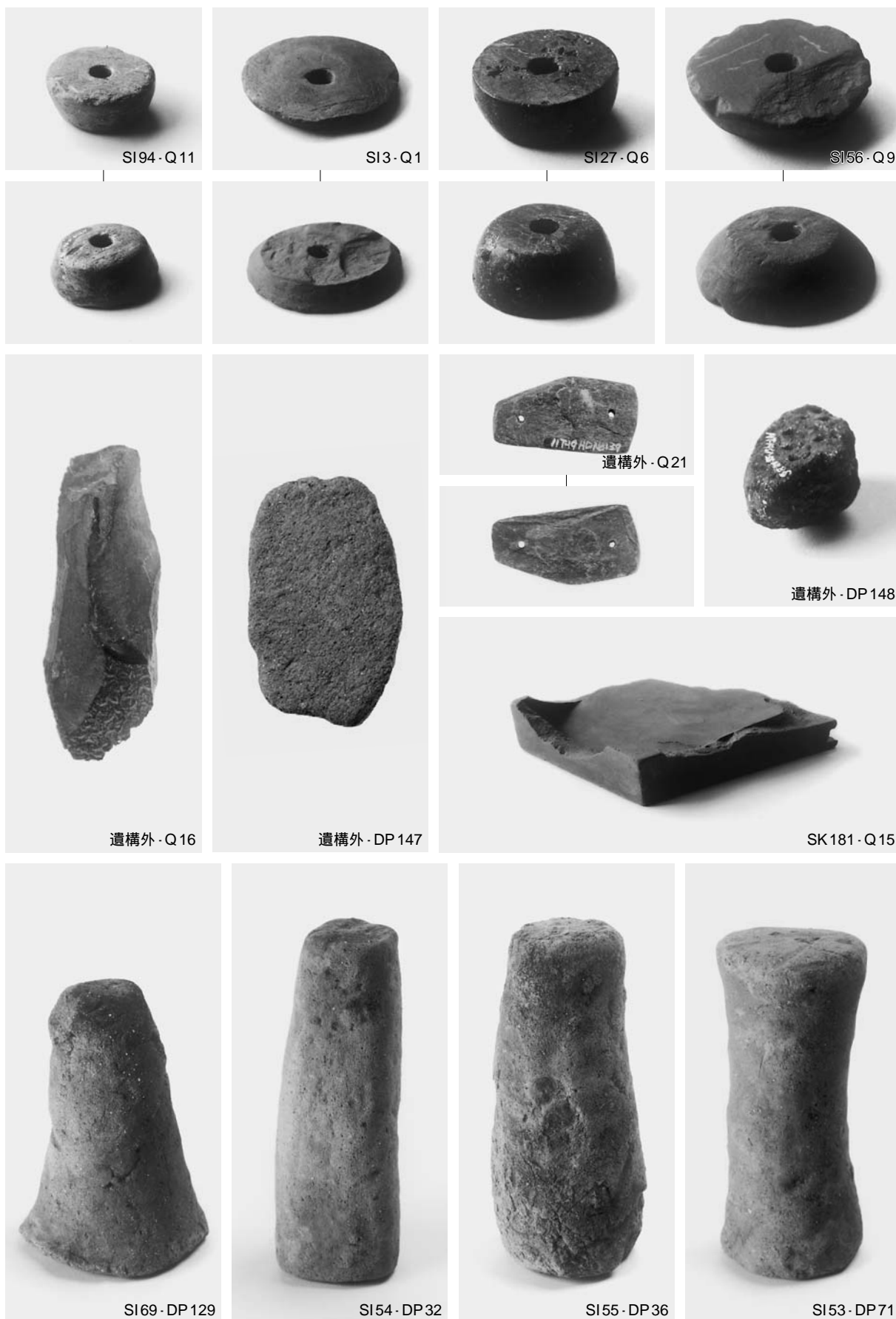
壺1-477「承」カ



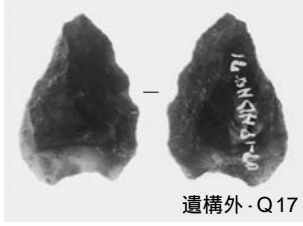
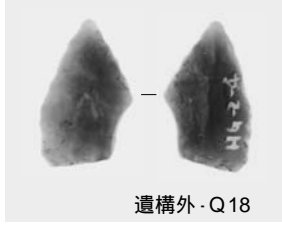
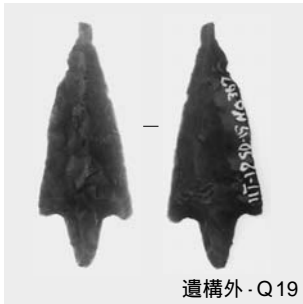
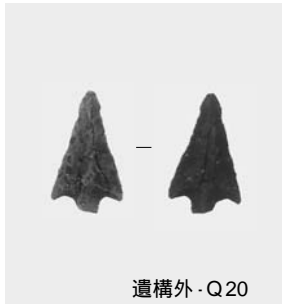


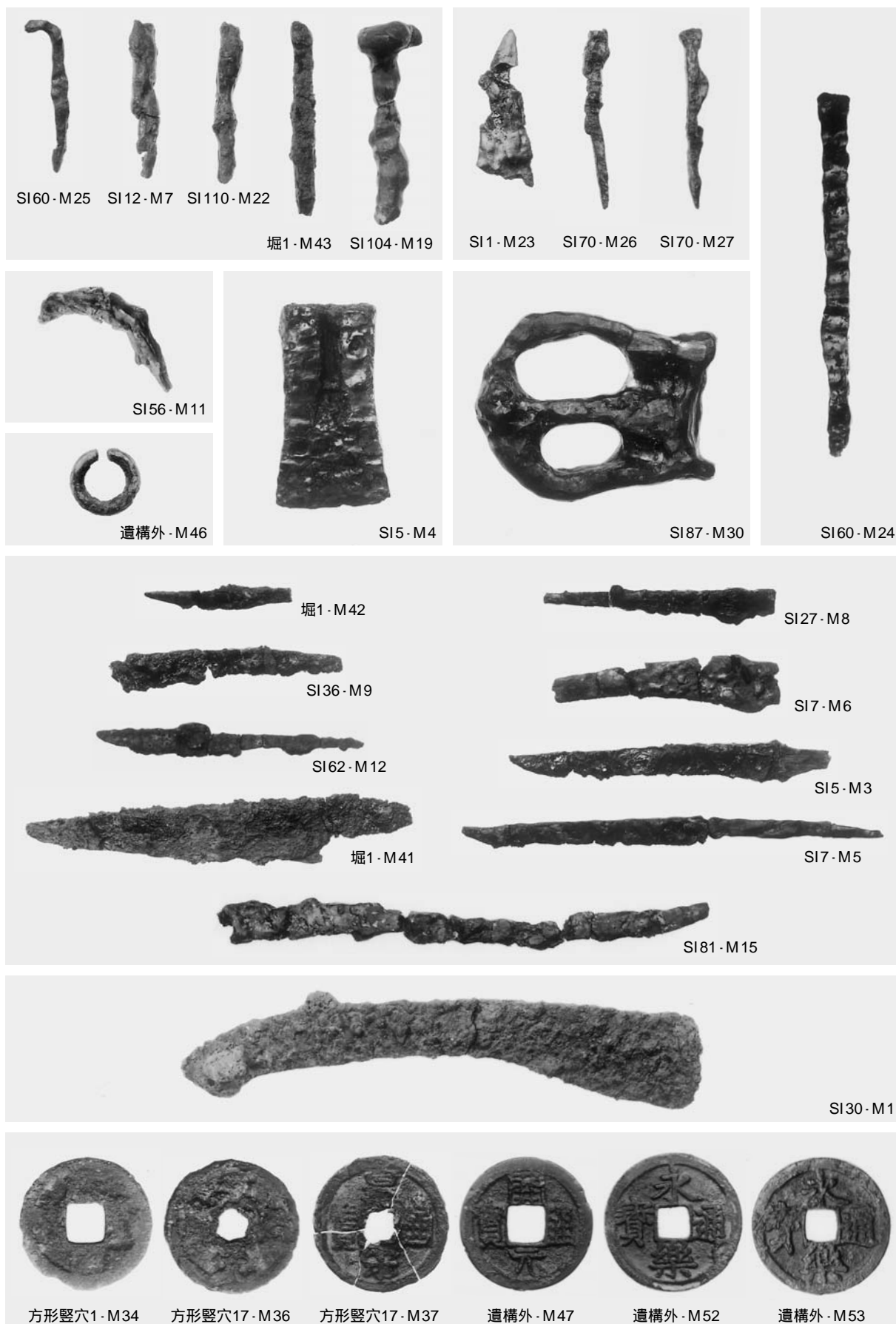
第2 · 3 · 8 · 12 · 18 · 23 · 30 · 32 · 35 · 37 · 42 · 46 · 51 · 53 · 54 · 56 · 67 · 73 · 74 · 77 · 81 · 87 · 92 · 94 · 103 · 109 · 110号住居跡，第5号掘立柱建物跡，第4号方形竖穴遺構，第105号土坑，第9号溝跡出土遺物



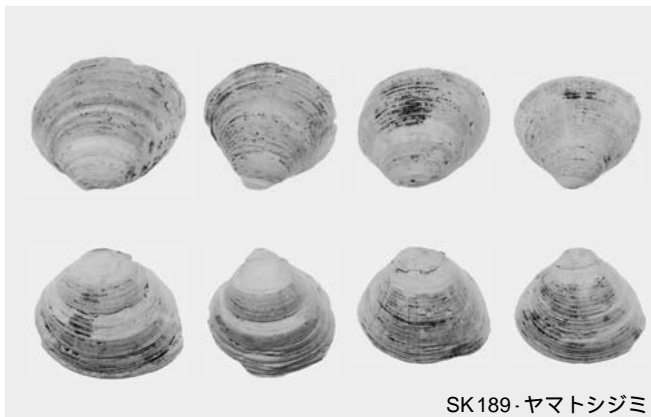
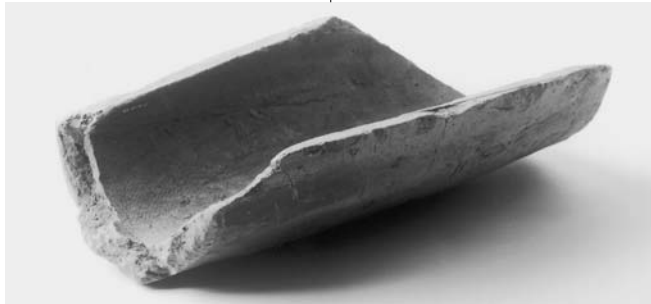


第3・27・53～56・69・94号住居跡，第181号土坑，遺構外出土遺物





第1・5・7・12・27・30・36・56・60・62・70・81・87・104・110号住居跡，第1・17号方形竪穴遺構，第1号堀跡，遺構外出土遺物



抄 録

ふりがな	たじまいせき さんめんじちく							
書名	田島遺跡（三面寺地区）							
副書名	一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	3							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第311集							
編著者名	飯田浩彦 大関 武 小野政美 齋藤和浩							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2009（平成21）年3月23日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
たじまいせき 田島遺跡 （さんめんじちく）	いばらきけんいしおかしたじまい 茨城県石岡市田島 5,554番地ほか	08205 146	36度 10分 30秒	140度 16分 56秒	7 ゝ 19m	20070402 ゝ 20080331	11,106㎡	一般国道6号千代田石岡B P（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）建設工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
田島遺跡 （三面寺地区）	集落跡	古墳	竪穴住居跡 土坑	52軒 2基	土師器（坏・椀・埴・甕・高坏・鉢・壺・短頸壺・甕・甑）、須恵器（坏身・坏蓋）、土製品（球状土錘・管状土錘・支脚・紡錘車）、金属製品（鎌）			
		奈良	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑	32軒 3棟 2基	土師器（坏・椀・皿・甕・甑・ミ二チュア土器・鉄鉢形土器）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・高盤・捏鉢・瓶・長頸瓶・短頸壺・横瓶・甕）、石製品（紡錘車）、土製品（土玉・球状土錘・管状土錘・支脚・紡錘車）、石器（砥石）、金属製品（刀子・鎌・釘）、木製品（剝物桶カ）、軒丸瓦			
		平安	竪穴住居跡 土坑 井戸跡	22軒 2基 2基	土師器（坏・椀・高台付椀・高台付皿・蓋・埴・甕・甑）、須恵器（坏・高台付坏・盤・鉢・捏鉢・甕・甑）、灰釉陶器（椀・高台付椀・長頸瓶）、金属製品（鎌・刀子・鎌・鉸具・釘）			
		中世	掘立柱建物跡 方形竪穴遺構 井戸跡 堀跡 溝跡	3棟 19基 8基 1条 3条	土師質土器（皿）、陶器（瓶子・天目茶椀・片口鉢・平椀・卸皿）、青磁（碗）			
		時期不明	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝跡	4軒 3棟 293基 16条				
	墓地跡	中世	地下式坑 火葬土坑 粘土貼土坑 墓坑 土坑	9基 3基 5基 5基 32基	土師質土器（皿・内耳鍋・茶釜）、石器（砥石）、石製品（硯）、陶器（瓶子・壺・直縁大皿・平椀・三耳壺）、古銭			
要約	当遺跡は古墳時代前期から中世までの複合遺跡である。調査の結果、この地の集落は古墳時代前期に始まり、古墳時代後期から平安時代にかけて栄えたことが判明した。古代の住居跡からは、漁網のおもりと考えられる多量の球状土錘や管状土錘の出土が確認されている。							

茨城県教育財団文化財調査報告第311集

田 島 遺 跡
(三 面 寺 地 区)

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書3

下 巻

平成21(2009)年3月18日 印刷
平成21(2009)年3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団
〒310 0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029 - 225 - 6587

印刷 (有)川田プリント
〒310 - 0041 水戸市上水戸4丁目6 - 53
TEL 029 - 253 - 5551

